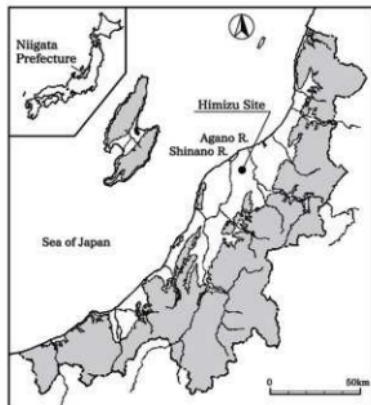


ひ　みす
日水遺跡Ⅱ 第6次調査

—市道亀田300号線道路改良工事に伴う日水遺跡第2次発掘調査報告書—



2013

新潟市教育委員会

例　　言

- 1 本書は新潟市江南区大学茅野山字日本浦 2696 番地ほかに所在する日本遺跡第 6 次発掘調査報告書である。第 5 次調査(試掘調査)は平成 22 年 10 月 14 日から 10 月 19 日、第 6 次調査(本発掘調査)は平成 24 年 8 月 21 日から 12 月 20 日に行った。
- 2 書名は既刊の発掘調査報告書「今井・相沢 2007」に続く 2 冊目の報告書であることから『日本遺跡Ⅱ』とした。
- 3 調査は市道亀田 300 号線道路改良工事に伴うもので、新潟市土木部東部地域土木事務所の依頼に基づき行った。
- 4 調査主体となり、新潟市文化観光・スポーツ部新潟市文化財センター(以下、「市文化財センター」という。)が補助執行した。
- 5 平成 24 年度に本発掘調査・整理作業、平成 25 年度に報告書刊行を行った。
- 6 执筆は第 1 章、第Ⅲ章、第Ⅳ章第 3 節 A、第 V 章第 1 節・第 2 節・第 3 節 B、第 VII 章第 1 節 A・第 2 節 A を立木が、第 II 章、第 IV 章第 1・2・3 節 B・C、第 VII 章第 1 節 B・第 2 節 B は細野が、第 VII 章第 3 節は立木・細野が行った。
- 7 自然科学分析(第 VI 章)は株式会社火山灰考古学研究所に執筆を含めて委託した。
- 8 本書で用いた写真は、遺跡写真是立木・細野が撮影し、遺物写真是大久保厚(株式会社シン技術コンサル)が撮影した。
- 9 道構図のトレースと遺物実測図の一部、各種図版作成・編集に関しては、有限会社不二出版がデジタルトレースと DTP ソフトによる編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。
- 10 今回の調査成果について、これまで現地説明会資料(平成 24 年 11 月 24 日実施)や『平成 24 年度新潟市遺跡発掘調査速報会』(立木 2013)で発表されている。本報告書と齟齬がある場合は、本報告書をもって正とする。
- 11 調査から本書の作成に至るまで下記の方々・機関より御指導・御協力を賜った。ここに記して厚く御礼申し上げる。

(所属・敬称略、五十音順)

青山博樹、伊藤秀和、小熊博史、尾崎高宏、小野本敦、金子拓男、鶴井幸彦、笠澤正史、佐藤祐樹、滝沢規朗、
田嶋明人、土橋由理子、中居和志、橋本博文、早野浩二、古澤義史、細井佳浩

凡　　例

- 1 本書は本文・別表と巻末図版（図面図版・写真図版）からなる。
- 2 本書で示す方位は全て真北である。磁北は真北から西偏約8度である。掲載図面のうち、既存の地形図等を使用したものは、原図の作成年を示した。
- 3 本文中の注は各章の末尾に記した。引用参考文献は著者と発行年（西暦）を〔 〕中に示し、巻末に一括して掲載した。
- 4 遺構番号は現場で付したもの用いた。番号は遺構の種別に関わらず、通し番号とした。
- 5 遺物番号は種別ごとに1からの通し番号を付した。本文及び観察表・図版の番号は同一番号とした。
- 6 土層の土色観察は『新版 標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局1967）2005年度版を用いて、その記号を本書に掲載した。
- 7 本文中の挿図に用いた地形図、遺構・遺物実測図の縮尺は各図に示した。
- 8 土器実測図で全周の1/12以下のような遺存率の低いものについては、誤差があるため中軸線の両側に空白を設けた。
- 9 遺物の注記は「目水」とし、出土年度・出土地点等を付した。

目 次

第Ⅰ章 序 説	1
第1節 遺跡概観	1
第2節 発掘調査に至る経緯	1
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 周辺の遺跡	3
第3節 歴史的環境	12
第Ⅲ章 調査の概要	14
第1節 試掘調査	14
第2節 発掘調査	14
A 調査方法	14
B 調査経過	17
C 調査体制	17
第3節 整理作業	18
A 整理方法	18
B 整理経過	18
第Ⅳ章 遺 跡	19
第1節 概 要	19
第2節 屈 序	19
第3節 遺構	19
A 古墳時代の遺構	19
B 古代の遺構	20
C 近世の遺構	36
第Ⅴ章 遺 物	37
第1節 遺物の概要	37
第2節 古墳時代の遺物	37
A 土器の分類と記述	37
B 出土土器各説	40
C 古墳時代の石製品	41
第3節 古代の遺物	42
A 土器の分類と記述	42
B 石製品・礫	49

第4節 中世の遺物	51
第5節 土 製 品	51
第6節 鍛冶関連遺物	51
第VI章 自然科学分析	53
第1節 植物珪酸体分析	53
A はじめ	53
B 試 料	53
C 分 析 法	53
D 分 析 結 果	53
E 植物珪酸体分析から推定される植生・環境・土地利用形態	55
第2節 花 粉 分 析	57
A はじめ	57
B 試 料	57
C 方 法	57
D 結 果	57
E 花粉分析から推定される植生と環境	58
第VII章 総 括	61
第1節 日水遺跡の遺物	61
A 古墳時代の土器	61
B 古代の土器	62
第2節 遺跡と遺構	62
A 日水遺跡周辺の古墳時代遺跡	62
B 古代の日水遺跡	64
第3節 日水遺跡の性格	67
引用・参考文献	69
別 表	73
報告書抄録・奥付	卷末

挿 図 目 次

第1図 日水遺跡周辺地形分類図 (1/150,000).....4	第6図 日水遺跡周辺の遺跡分布図 (中世) (1/125,000).....10
第2図 日水遺跡周辺の遺跡分布図(旧石器時代・縄文時代) (1/125,000).....6	第7図 日水遺跡試掘調査位置図 (1/1,000).....15
第3図 日水遺跡周辺の遺跡分布図 (弥生時代) (1/125,000).....7	第8図 日水遺跡試掘調査上層柱状図.....15
第4図 日水遺跡周辺の遺跡分布図 (古墳時代) (1/125,000).....8	第9図 日水遺跡グリッド設定図 (1/4,000).....16
第5図 日水遺跡周辺の遺跡分布図 (古代) (1/125,000).....9	第10図 古墳時代土器重量分布図.....38
	第11図 古墳時代土器分類図.....39
	第12図 古代・中世土器重量分布図.....43
	第13図 古代土器分類図.....44

第14図 石製品・鉄製品、鍛冶関連遺物重量分布図	50	第18図 日水遺跡の花粉	60
第15図 日水遺跡における植物珪酸体分析結果	54	第19図 日水遺跡周辺の地形と古墳時代遺跡	63
第16図 日水遺跡の植物珪酸体（プランツ・オ・パール）	56	第20図 日水遺跡周辺の地形	65
第17図 日水遺跡における花粉ダイアグラム	59	第21図 日水遺跡の調査区	67

表 目 次

第1表 日水遺跡調査履歴	2	第4表 日水遺跡における花粉分析結果	59
第2表 日水遺跡周辺の遺跡一覧表	11	第5表 日水遺跡周辺の古墳時代遺跡	63
第3表 日水遺跡における植物珪酸体分析結果	54		

別 表 目 次

別表1 遺構計測表	73	別表6 鍛冶関連遺物観察表	83
別表2 古墳時代土器観察表	77	別表7 古墳時代土器種構成率	84
別表3 古代・中世土器観察表	79	別表8 古代土器種構成率	85
別表4 石製品観察表	83	別表9 遺構別石製品・裸集計表	91
別表5 土製品観察表	83		

図 版 目 次

図版1 周辺の旧地形図 (1/25,000)	図版23 遺構実測図 7 (1/40)
図版2 周辺の旧地形図 (1/50,000)	図版24 遺構実測図 8 (1/40)
図版3 周辺の土地利用図 (1/4,000)	図版25 遺構実測図 9 (1/40)
図版4 周辺の遺跡 (1/25,000)	図版26 遺構実測図 10 (1/40)
図版5 日水遺跡試掘調査位置図 (1/4,000)	図版27 遺構実測図 11 (1/40)
図版6 グリッド設定図① (1/2,500)	図版28 遺構実測図 12 (1/40)
図版7 グリッド設定図② (1/1,000)	図版29 遺構実測図 13 (1/40)
図版8 古墳時代全体図(下層)(1/400)・遺構実測図(SX1) (1/20・1/50)	図版30 遺構実測図 14 (1/40)
図版9 古代以降全体図 (上層) (1/400)	図版31 遺構実測図 15 (1/40)
図版10 遺構平面部分図 1 (1/100)	図版32 遺構実測図 16 (1/40)
図版11 遺構平面部分図 2 (1/100)	図版33 古墳時代土器 (1)
図版12 遺構平面部分図 3 (1/100)	図版34 古墳時代土器 (2)
図版13 遺構平面部分図 4 (1/100)	図版35 古墳時代土器 (3)
図版14 遺構平面部分図 5 (1/100)	図版36 遺構出土土器 (1)
図版15 遺構平面部分図 6 (1/100)	図版37 遺構出土土器 (2)
図版16 基本順序実測図 (1/40)	図版38 遺構出土土器 (3) 包含層出土土器 (1)
図版17 遺構実測図 1 (1/40)	図版39 包含層出土土器 (2)
図版18 遺構実測図 2 (1/40)	図版40 包含層出土土器 (3)
図版19 遺構実測図 3 (1/40)	図版41 包含層出土土器 (4)
図版20 遺構実測図 4 (1/40)	図版42 古墳時代石製品 古代石製品 (1)
図版21 遺構実測図 5 (1/40)	図版43 古代石製品 (2)
図版22 遺構実測図 6 (1/40)	図版44 土製品 鍛冶関連遺物

写真図版 目次

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 写真図版 1 日木遺跡周辺空中写真 (1) | 写真図版 18 SK (4) |
| 写真図版 2 日木遺跡周辺空中写真 (2・3) | 写真図版 19 SN (1) |
| 写真図版 3 日木遺跡周辺空中写真 (4・5) | 写真図版 20 SN (2) |
| 写真図版 4 日木遺跡周辺空中写真 (6) | 写真図版 21 SN (3) |
| 写真図版 5 日木遺跡全景空中写真 (1) | 写真図版 22 SN (4) |
| 写真図版 6 日木遺跡全景空中写真 (2・3) | 写真図版 23 SX (1) |
| 写真図版 7 日木遺跡全景空中写真 (4・5) | 写真図版 24 SX (2) |
| 写真図版 8 基本層序 | 写真図版 25 SX (3)、Pit (1) |
| 写真図版 9 調査前現況、SX1 | 写真図版 26 Pit (2) |
| 写真図版 10 下層 (古墳時代) | 写真図版 27 出土土器 (1) |
| 写真図版 11 SD (1) | 写真図版 28 出土土器 (2) |
| 写真図版 12 SD (2) | 写真図版 29 出土土器 (3) |
| 写真図版 13 SD (3) | 写真図版 30 出土土器 (4) |
| 写真図版 14 SD (4) | 写真図版 31 出土土器 (5) |
| 写真図版 15 SK (1) | 写真図版 32 出土土器 (6) |
| 写真図版 16 SK (2) | 写真図版 33 出土石製品 |
| 写真図版 17 SK (3) | 写真図版 34 出土土製品、鍛冶関連遺物 |

第Ⅰ章 序 説

第1節 遺跡概観

日水遺跡（新潟市遺跡番号 No.398）は新潟市江南区大字茅野山字日水浦 2696 番地ほかに所在する。新潟県埋蔵文化財包蔵地カードによると、昭和 41（1966）年 6 月に防火井戸掘削の際に地表から 60cm 下の灰色粘土混じり砂層から須恵器・土師器が出土したことにより遺跡として認知されていた。この成果をもとに、昭和 48（1973）年に新潟県遺跡包蔵地カードに登録され、昭和 55（1980）年新潟県教育委員会（以下、「県教委」という。）発行の『昭和 54 年度 新潟県遺跡地図 史跡～名勝・天然記念物等所在地』に掲載されていた。昭和 60（1985）年に県教委による分布調査が行われた際にも土師器が採集され、砂丘北斜面の比較的水田に近い所に遺跡が見られると記されている。

平成 6（1994）年に日水遺跡範囲で 96,388m² を宅地造成する鍋田土地区画整理事業の計画が明らかとなり、当時の亀田町教育委員会と県教委および原作者である亀田町農業協同組合と協議を開始した。平成 10（1998）年に県教委が分布調査を実施し、梨蟹として利用されていた開発区域南東部において、奈良・平安時代の須恵器・土師器が採集され、広域にわたる遺跡の存在が予想された。平成 13（2001）年と平成 17（2005）年に 2 回の試掘・確認調査（第 1・2 次調査）を実施し、遺跡が広範に存在することが確認された（図版 5）。平成 13（2001）年の調査は休耕田と田部分を、平成 17（2005）年の調査は畑部分を行っている。平成 17（2005）年 3 月 21 日に亀田町と新潟市が合併し、協議は新潟市歴史文化課が引き継ぐこととなった。事業者との協議の結果、平成 17（2005）年 5 月 18 日～8 月 31 日に本発掘調査（第 3 次調査）を実施した（今井・相沢 2007）。調査の結果、古代・中世の遺構・遺物が検出され、井戸・土坑・竪穴遺構・掘立柱建物など集落跡の一部が検出された。古代の土器は土師器・須恵器が定量出土し、井戸内から遺存状態の良い木製品（曲物・井戸側）も検出された。また 1 点ではあるが縄文あるいは弥生時代の磨製石斧が出土しており、遺跡の存続時期の長さが推定された。平成 21（2009）年 11 月 19 日に第 3 次調査地東側の民家倉庫建築を原因とする確認調査（第 4 次調査）を行い、平安時代の土師器・須恵器を少量検出した。

その他の調査として、平成 9（1997）年に水道工事、平成 15（2003）年水道・下水道工事での工事立会が行われているが、遺物は出土していない。

平成 21（2009）年度までの調査成果から、遺跡東側の砂丘頂部からなだらかな北西向の斜面に古代から中世の遺跡が広がると考えられている。

第2節 発掘調査に至る経緯

「市道亀田 300 号線道路改良工事」は、平成 17 年の新潟市と旧亀田町の合併に伴う合併設計画として策定された。平成 19・20 年度に東部地域土木事務所建設課（平成 19 年度は亀田支所建設課）と歴史文化課が協議を行い、遺跡が確認された場合に事業計画の遅れが予想されるため、早めに試掘調査を行うよう依頼された。しかし、歴史文化課では用地買収未終了での試掘調査は耕作に影響がでるため、困難であるとの見解を示し、当該年度の調査を断念した。

平成 22 年度に用地買収完了を受け、再度試掘調査実施について協議の結果、東部地域土木事務所建設課市道整備係から試掘調査の依頼（平成 22 年 9 月 30 日付け新東土木建第 250 号）があり、それを受けた平成 22 年 10 月

14日から10月19日まで試掘調査(着手届平成22年10月14日付け新歴B第157号の2)を実施した(第5次調査)。試掘調査の結果(終了報告平成23年4月26日付け新歴F第13号)、17トレンチのうち5か所で、平安時代の土師器・須恵器、鉄滓などの遺物が出土し、土坑3基、溝1条、ピット1基の遺構を検出した。試掘調査の結果を受け、江南警察署長あて埋蔵文化財発見通知(平成23年4月26日付け新歴F第13号の3)と、新潟県教育委員会教育長あて埋蔵文化財保管書(平成23年4月26日付け新歴F第13号の4)を提出した。また、遺跡範囲が從来の遺跡範囲より西側に拡張したため、遺跡範囲変更通知(平成23年4月26日付け新歴F第13号の5)を提出した。

平成23年9月と平成24年3月の2回にわたり東部地域土木事務所建設課市道整備係と歴史文化課で協議を行い、平成24年度の4月以降に本発掘調査を行うことが決定された。

平成24年4月18日付け新東土木建第56号で、東部地域土木事務所建設課長より市歴史文化課長あてに埋蔵文化財包蔵地(遺跡)本発掘調査依頼書が提出された。さらに、新潟市長(担当新潟市東部地域土木事務所建設課市道整備係)より新潟県教育委員会教育長あてに、文化財保護法94条の通知(平成24年6月15日付け新東土木建第211号)が提出された。それを受けて、新潟県教育長から新潟市長あてに「工事を着手する前に発掘調査を実施する」旨の文化財保護法94条の指示文(平成24年7月4日付け教文第379号の2)が通知された。

以上のことから、平成24年8月21日付け新歴F第19号の10で新潟県教育委員会教育長あてに文化財保護法第99条の規定による埋蔵文化財の発掘通知を行い、8月21日から12月20日までの予定で本発掘調査を実施することとなった(第6次調査)。

第1表 日水遺跡調査履歴

回数	市道曳山H300 号線事業に伴う発 掘調査回数	調査年次	主な成果	調査種別	調査原因	調査主体	担当	調査区	調査面積	トレンチ番号	文献	備考
		S41年(1966)	褐色砂土層に鉢形から須恵器・土器等が出土	工事立ち	防水井戸掘削	鬼山町	酒井和男					遺跡の発見
		S48年(1973)	S41年(1966)の成果を踏まえ、 埋蔵文化財包蔵地として選択登録			新潟市						(新潟県教育厅 文化行政課 1980)
		S56年(1985) 8.4	土師器を発見	分布調査	新潟県道跡 分布分査	新潟市	新潟市行政課 地区野原之 辺					
		H10年(1998) 10.27	土師器・須恵器・近世陶器等	分布調査	新潟県道跡 分布分査	鬼山町	新潟市行政課 地区野原之 辺 津川 茂					
1次		H12年(2001) 11.5	平安時代の通路・植物を確認	確認調査	調査工事	鬼山町	今日さやか		312nf	1~4, 6~13, 15~29T		遺跡範囲の拡大 27トレンチ
2次		H17年(2006) 1.24	平安時代の通路・遺物を確認(本 発掘調査実施の認めたもの追 加確認)	確認調査	新潟県道跡 整理事業	鬼山町	今日さやか		225.36nf	1~12, 14~17, 19~23, 25~ 31, 33~35, 37~39, 40~ 42, 45~48T		遺跡範囲の拡大 40トレンチ
3次		H17年(2005) 5.18~8.31	平安時代・中世の通路・遺物を 検出した。また遺構は翌年確認。 掘立柱建物、井戸、土塁、溝など の遺構を確認。また、土塁の内側 から唐物の瓦片や瓦器(墨 物・戸戸物)が出土した。	発掘調査	調査工事	新潟市	今日さやか		2416.3nf		(今月・相沢 2007)	
4次		H21年(2009) 11.19	平安時代の土師器・武器器を確 認した。	確認調査	民間寄附金	新潟市	今日さやか		6nf			
5次 1次		H22年(2010) 10.14~10.19	平安時代の通路・遺物を確認し、 本発掘調査実施を認めた。	確認調査	市道曳山H300 号線道路改良 工事	新潟市	歴史研究		61.2nf	1~17T		遺跡範囲の拡大
6次 2次		H24年(2012) 8.21~12.20	上期に平安時代の通路を確認 され、下期から当季を含 むかづら人頭代役・中物の組 合織・土師器が出土した。	本発掘調査	市道曳山H300 号線道路改良 工事	新潟市	立木宏明		1.510nf		[本書]	

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境(第1図)

新潟市の地形は越後平野を中心に、南西の新津丘陵、西の角田山塊により形成されている。南北約100km、東西10～25km、面積約2,070m²と日本第二の平野面積を有する越後平野は、信濃川・阿賀野川をはじめとした大河川の運搬する土砂によって形成された沖積平野である。主に砂丘・潟・低湿地帯から成っており、河川周辺の低湿地帯には自然堤防も発達している。

日水遺跡のある新潟市江南区は越後平野のほぼ中央に位置し、西を信濃川、東を阿賀野川、南を小阿賀野川に囲まれた低湿地帯で、かつては横越島、近年においては亀田郷と呼ばれている。近世における横越島は7割が海面以下の低湿地であったことから、自然排水が困難であり河川や潟の増水や氾濫による水害が絶えない地帯であった。河川の氾濫によってもたらされた土砂により形成された自然堤防は現河道周辺以外にも広く認められ、河川の流路が頻繁に変動していた事が窺える。このような地理的条件から、近世以降には新田開発や灌漑水田の乾田化、水害の回避を図るため、放水路の開削が進められてきた。

遺跡は、現在の海岸線からおよそ10kmと最も内陸に位置する新砂丘I-1・2(亀田前畠砂丘)間の砂丘間低地および幅100～300mで南北に延びる自然堤防と考えられる微高地上に位置する。形成年代は、新砂丘I-1が約6,000年前、新砂丘I-2が6,000～5,500年前とされている〔新潟古砂丘グループ1974、鴨井ほか2006〕事から、本遺跡が位置する砂丘間低地は遺跡の営まれた時期には土砂の流入が進み比較的の地盤が安定していたと考えられる。しかし、低湿地は「草沼」と称される湛水田地帯であり、近世以降治水工事が継続して実施された。

大河津分水の開削、昭和23(1948)年の栗ノ木排水機場の稼働、昭和31(1956)年の耕地整理の完了といった一連の治水事業により、低湿地は現在美田となり稻作を基幹とした都市近郊型農業の中心を担っている。また、現在では農業や住宅地以外にも、北陸道・磐越道・日東道という3本の高速道路をはじめ国道49・403号や広域幹線道路、JR信越線など交通の利便性から、大型商業施設や工業団地も進出し大きく発展を遂げている。

第2節 周辺の遺跡

旧石器・縄文時代(第2図、第2表)

日水遺跡が位置する越後平野は完新世(沖積世)に形成された平野であり、旧石器時代の遺跡分布は第三紀に形成された弥彦・角田山塊、新津丘陵、五頭山塊、笠神丘陵に限定される。新潟市域においては、新津丘陵の草水町2丁目窓跡(253)と古津ハ幡山遺跡(300)〔渡邊朋・立木ほか2001・2004〕でナイフ形石器と石刃、角田山塊のケカチ堂遺跡で尖頭器や石刃〔小野ほか1994〕、というように断片的な資料が出土しているのみである。

縄文になると、丘陵上から砂丘上や沖積地に遺跡が進出する傾向が窺える。草創期では、神子柴型石斧が6点まとめて出土した新津丘陵の愛宕澤遺跡(254)〔立木ほか2004〕、石斧や尖頭器が単独出土した角田山麓の御手洗山遺跡や福井遺跡など旧石器時代と同様の遺跡分布を示す〔小野ほか1994〕。前期になると初頭の土器が出土した砂崩遺跡(154)〔酒井・廣野2002〕、前葉の土器が出土した笠山前遺跡(130)〔廣野1997〕、亀田城山A遺跡(188)や山ノ家遺跡(151)など、日水遺跡周辺の砂丘上にも遺跡が進出するようになる。以後、中期初頭の拠点的集落と考えられる砂崩遺跡(154)、後期前葉の上の山遺跡(142)、日水南遺跡(198)や西前郷遺跡(212)、晩期中～後葉の前郷遺跡(152)など多くの遺跡が砂丘上に立地する。晩期後半以降になると、沖積地下に埋没



第1図 日水遺跡周辺地形分類図

した砂丘上に占地する養海山遺跡（204）などに加え、西郷遺跡（206）や上田遺跡（169）など沖積地や低湿地へ進出する遺跡が見られるようになる。

弥生時代（第3図、第2表）

養海山遺跡〔新潟市 2007〕や西郷遺跡〔土橋ほか 2009〕は、縄文時代晚期から弥生時代中期まで集落が存続する。前期では、埋没砂丘上に立地する縒立B遺跡・縒立C遺跡が代表例である〔金子ほか 1983〕。中期後半になると山ノ家遺跡〔川上 1993、酒井 2000〕、前郷遺跡、上の山遺跡、小丸山遺跡（137）〔家田 1987、酒井 2000〕など砂丘上の遺跡が挙げられる。隣接するこれらの遺跡からは管玉未製品・石器・砥石などが出土しており、連鎖的に一つの玉造集団を構成していたものと考えられている。日水遺跡周辺では、武左衛門裏遺跡（202）、城山遺跡（129）、笠山前遺跡（130）、手代山遺跡（197）など砂丘上の遺跡から中期の土器が採集されている。また、新津丘陵北側の秋葉遺跡（260）、塩辛遺跡（291）からも中期の土器は発見されている〔渡邊朋・立木ほか 2004〕。後期の遺跡の代表として、新津丘陵北側の古津八幡山遺跡〔川上 1994、渡邊朋 1994〕や居村D遺跡〔川上 1996b、渡邊朋・立木ほか 2001〕が挙げられる。古津八幡山遺跡は拠点的な高地性環濠集落で、二重の環濠や竪穴住居、方形周溝墓などの遺構と、東北系と北陸系の遺物が出土しており、その重要性から史跡に指定されている。砂丘上の遺跡としては、六地山遺跡〔寺村 1960a・b、中村 1960〕や石動遺跡（112）〔廣野 1996〕がある。

古墳時代（第4図、第2表）

古津八幡山古墳（297）〔甘粕・川村ほか 1992〕や山谷古墳〔甘粕・小野ほか 1993〕、菖蒲塚古墳〔相田・前山 2003・2005〕など丘陵地に造営される古墳と、縒立八幡神社古墳（縒立A遺跡）〔吉田ほか 1982〕のように小砂丘上に位置する古墳があり、集落も平野部の砂丘上や自然堤防に占地するようになる。前期では東圓遺跡（138）〔朝岡・諫山 2003〕や正尺C遺跡（50）〔土橋ほか 2006〕、縒立遺跡〔渡邊ま 1998〕などで集落が調査されており、大量的出土遺物から武左衛門裏遺跡も拠点的集落と考えられる。中山遺跡（128）や城山遺跡、小丸山遺跡、山木戸遺跡（116）などでも前期の土器が出土している。中期では、本遺跡をはじめ、下西遺跡（208）や駒首湯遺跡（210）など低地の自然堤防上を中心に遺跡が拡大する傾向が窺えるが、集落の詳細は不明である。沖ノ羽遺跡（227）〔星野・石川ほか 1996〕、結七島遺跡（228）〔田中・丹下ほか 2004〕などからも、一定量の中期の土器が出土している。後期の集落では住居や土坑墓が検出された笠山前遺跡や竪穴状遺構等が検出された中田遺跡（229）があり、三王山遺跡（185）や中の山遺跡などでも土器が採集されている。

古代（第5図、第2表）

低地への進出が本格化し、自然堤防上に多くの遺跡が占地するようになる。7世紀後半代の遺跡として、九九木簡や律令祭祀具が出土した大沢谷内遺跡（321）〔細野・伊比山ほか 2012〕や長沼遺跡（236）〔渡邊朋 1991〕が挙げられるが、相対的に遺跡数は少ない。8世紀になると、遺跡数は徐々に増加する。円面鏡などが出土した上浦A遺跡（234）〔川上 1997、坂上 2003〕や火葬墓に伴い帶金具が出土した四十石遺跡〔渡邊ま・奈良 2012〕、的場遺跡〔小池・藤原 1993〕や縒立遺跡など官衙関連遺跡も多く出現し、また新津丘陵窯跡群（252・253、255～257）も8世紀半ばには操業を開始する。9世紀後半になると、亀田郷にも多くの遺跡が營まれるようになる。砂丘上に富裕層の居住域と想定される小丸山遺跡や荒木前遺跡（194）〔渡邊ま 1991、川上 1996a〕、自然堤防上には本遺跡に近接した手代山北遺跡（196）〔朝岡ほか 2009〕や鍛冶関連遺構が検出された中の山遺跡〔川上 1982〕、歎状遺構が検出された牛道遺跡（189）〔土橋ほか 1999〕、富豪層の集落と考えられる駒首湯遺跡〔渡邊まほか 2009〕、砂丘間低地や後背湿地に水田跡と歎状遺構が検出された上郷遺跡（179）〔上野・春日 1997〕など特徴的な遺跡が多く展開するが、ほとんどの遺跡は10世紀中頃までには途絶えるようである。

中世（第6図、第2表）

丘陵縁辺や低地の微高地に城館が築かれるようになり、集落遺跡の多くは自然堤防や砂丘上に立地する。亀田郷では14世紀以降に成立する遺跡がほとんどであり、他時期との複合や近世以降の集落と重複する事が多い。周辺の砂丘上では荒木前遺跡や三王山遺跡〔酒井 1980、朝岡ほか 2010〕、亀田城山B遺跡（186）、手代山遺跡、



第2図 日水遺跡周辺の遺跡分布図（旧石器時代・縄文時代）



第3図 日水遺跡周辺の遺跡分布図（弥生時代）



第4図 日水遺跡周辺の遺跡分布図（古墳時代）



第5図 日水遺跡周辺の遺跡分布図（古代）



第6図 日水遺跡周辺の遺跡分布図（中世）

第2表 日水遺跡周辺の遺跡一覧表

日水南遺跡があり、自然堤防上では中の山遺跡（195）や手代山北遺跡（196）がある。荒木前遺跡は、船載陶磁器などの出土遺物から在地領主層の居住域と想定される13世紀の遺跡である。竪穴状遺構や柱列遺構が検出された三王山遺跡からは青磁・白磁などの貿易陶磁器の他に青銅香炉や鉄鉢、硯、刀剣研磨用と考察される砥石のセットなど貴重な遺物が多数出土しており、富豪層や寺院との関係も予想されている。中の山遺跡からは鍛冶遺構や井戸が検出されており、船載陶磁器や瀬戸系の天目碗が出土している。

第3節 歴史的環境

律令以前、日本海側の地域は広く越国と称されていた。大化三（647）年に浮足柵・翌年に磐舟柵が相次いで設置され、漸次北方の整備が図られていたと考えられる。越後国は、当初これら二柵の位置する阿賀野川以北の沼垂郡・岩船郡より北を指していたようである。越後国の領域の確定は、大宝二（702）年に越中国4郡（頸城・古志・魚沼・蒲原）を割いて越後国に編入〔『統日本紀』〕し、和銅五（712）年にそれまで越後国に属していた出羽郡を分割して出羽国を建国したことによる。その後、天平十五（743）年に佐渡國を越後国に合併し、ほぼ現在の新潟県と同一の領域となった。しかし、天平勝宝四（752）年には、渤海朝貢使節の来島により、朝廷による直接把握を目的として佐渡國は復置されている。佐渡國3代国司穴人朝臣和麿の天平宝字五（761）年に造営が始まった佐渡國分寺には、小泊窯で製作された瓦が大量に運ばれており、古代越後国に膨大な須恵器の供給をもたらす小泊窯操業の契機としてとらえられよう。

日水遺跡のある亀田郷は、旧阿賀野川（現在の通船川）以西を蒲原郡とする一般的な説〔小林ほか1996〕に従えば蒲原郡に属していたことになるが、遺跡の多い亀田砂丘周辺が沼垂郡に属していた可能性も指摘されている〔坂井ほか1989、上野・春日1997〕。

古代の蒲原郡には宝亀十一（780）年の『西大寺資財流記帳』によって、鵜橋荘・槐田荘という荘園が施入されていた事が知られており、鵜橋荘は五泉市橋田、槐田荘は三条市周辺とされている。これらの西大寺領荘園は、神護景雲三（769）年の『越後国水田井鑿田帳』などから、8世紀中葉以降には確実に成立していたと考えられる。西大寺領荘園は早くに衰退したと思われるが、その理由として、東大寺領荘園に較べ進出が遅かったため、悪条件地に寺田を設定したためと考察されている〔木村1993〕。

中世の亀田郷は、新津地域を中心とした国衙領金津保の保城に含まれると考えられている。金津保の成立時期は、明確ではないが、他の公領と同様に11世紀後半～12世紀後半に至る院政期に考察されている。金津保の文献上の初見は、建武三（1336）年11月18日の『羽黒義成軍忠状写』に、足利（北朝）方の義成が9月2日に金津保新津城に引き籠もり、新田（南朝）方の小国政光らと戦ったと記載がある。しかし、これ以前にも室町期に成立した『義経記』では承安四（1174）年に金津庄の名が見られ、また寿永年間（1182～1183）には、鎌倉幕府成立後金津保の地頭職となり承久の乱（1221年）に際し鎌倉方の北条朝時に従軍し上洛した、平賀（金津）蔵人資義が金津に居館を構えている。日水遺跡に近い茅野山本慶寺「御裏書控」には、金津保という記載のある近世の裏書が4点あり、近世においてもこの地域は金津保と認識されていたと考察される。

蒲原郡における国衙領は、田畠などの生産域のみならず、河川流域や潟湖などを主要素として成立している。信濃川・阿賀野川の最下流域にあり、蒲原津という越後国を代表する港津の背後という立地や、国衙領の凌駕した頸城郡と、大規模な荘園群が在した阿賀野川以北の中間という地理的環境から、金津保の重要性が高かったことは想像できよう。現に、14世紀前半の南北朝の動乱に際しては、蒲原津を軍事的に占拠し中・下越地方を制圧しようとした南朝軍と、阿賀野川を挟んで対峙した北朝軍との蒲原津から新津丘陵周辺での攻防が前記の『羽黒義成軍忠状写』に記されている。この動乱を経て、越後国は守護上杉氏・守護代長尾氏により室町幕府の統治下によって領国支配が推進されることとなる。

『温古之栄』（明治20年代刊行）には「金津莊城所手代山に古城跡あり、孤立せし小山の頂上凡二千坪平坦にし

て井堀空塙の痕跡に見ゆ、元亨年中（1321～1323年）國の守護職北条家に於て蒲原冲日水手代山に柵を構ふと古書に見ゆるは此處なるべし。近辺に日本地名もあり永祿年中（1558～1569年）より上杉家の一将荒木五郎左衛門が久の居城とす。…略」との記述がある。現在、城所や手代山に古城跡は見当たらないが、手代山は「出城山」、養海山は「要害山」とする説もあり、また城所に「荒木浦」「荒木前」、手代山に「内荒木」「外荒木」という地字があることや、荒木前遺跡が在地領主層の居住域を想定させることから、14世紀には在地領主層の拠点が日水遺跡周辺にあったと考察される。

16世紀になると、守護上杉氏と守護代長尾氏の対立が激化し、越後国内での内乱が勃発するようになり、享禄・天文の乱（1530～1551年）の天文四（1535）年には、新津市周辺も戦場と化したようである。この時期の金津保の実態については不明な部分が多いが、後世の『上杉家御年譜』や『上杉史料集』の「北越軍談」には、金津伊豆守祐高や新津彦二郎など、金津や新津郷を領有した人物の名が見られる。

天文十九（1550）年には長尾景虎（上杉謙信）が越後国主となり、天正六（1578）年3月に上杉謙信が急逝すると養子である景勝・景虎の間で後継地位をめぐる「御館の乱」が起き国内領主層の分裂をもたらした。この間における亀田郷に関する直接的な史料はないが、天正年間に謙信方・景勝方として戦陣に参加した武将として亀田小三郎岳信、亀田小三郎長乗の名が見られる。しかし、史料上では彼らの越後国での活動は皆無である。

景勝の移封に伴い、慶長三（1598）年に加賀国大聖寺から新発田に溝口秀勝が入封し、亀田郷は新発田領となつた。関ヶ原の戦いの際に会津国境付近より起きた「越後一揆」が両期となり、新発田藩は徳川方の支配大名としての地位を確立し、兵農分離が推進された。新発田藩は堀田治水に力を注ぎ、秀勝入封時には慶長元（1596）年に開村したとされる袋津村以外は荒野沼沢地であった亀田地域を、慶長15（1610）年の茅野山村の開発から、長潟・丸潟各村の開発年代とされる寛文十（1670）年までの約60年間で各集落は成立をみている。

日水の地名が文献に登場するのは、横越島絵図である。同絵図は寛永十六（1639）年に作成された現存する最古の亀田郷絵図である。「ひみず」と地名のみの標記で、村・新田等の記載がないことから茅野山村の一部であった可能性が考えられる。

村の誕生により商品流通が盛んになり、元禄五（1692）年に交通の要所を占めていた中谷内新田から宿場町・六斎市の開設請願がなされた。元禄六（1693）年には中谷内新田から亀田町と改名し、同年10月に町屋敷の完成、翌七（1694）年には六斎市の開設に至った。

廢藩置県後、日水遺跡のある茅野山村は手代山村と合併し茅野山村となり、明治22（1889）年の町制施行により城所村を加えて茅野城村となつた。明治34（1901）年には早通村と合併し、大正14（1925）年には亀田町と合併した。平成17（2005）年には亀田町を含む13市町村が合併し、新しい新潟市となり現在にいたついている。
〔亀田町史編さん委員会 1988、南ほか2003〕

第III章 調査の概要

第1節 試掘調査(図版5、第7・8図)

市道亀田300号線道路改良工事に伴い、開発予定面積9,030m²(長さ=645m、幅=14m)を対象に平成22年10月14日から10月19日にわたり試掘調査を実施した(第5次調査)。試掘調査は重機(バックホウ)で表土から徐々に掘削した後、人力により精査を行い、遺構・遺物の有無、土層堆積状況を記録した。試掘調査面積は61.2m²(長さ=2.0m×幅=1.8m×17か所)である。調査の結果、開発予定地の北西側の、標高が1.3~1.5mを測る13~17Tの範囲で平安時代の遺構・遺物が確認され、現在梨畠および畠として利用されている微高地を中心に遺跡が広がることが判明した。概ね、現地表面から-0.4~-0.5mのIV層(にい黄褐色土層)が平安時代の遺物包含層で、V層上面が遺構確認面である。これらの結果を踏まえ、日本水跡の遺跡範囲変更の手続きをとった。

以上の結果を踏まえ、東部地域土木事務所建設課市道整備係と協議を行い、道路部分の約1,510m²について本発掘調査を実施することになった。

第2節 発掘調査

A 調査方法

1) 現況

現況は、標高1.3~1.5mの畠地である。古くから梨の果樹栽培が行われており、今でも大半は梨畠である。一部は春から晩秋まで畠として利用されていたところもある。また、調査区の北東は、平成17(2005)年から工事が行われた鍋田土地区画整理事業により宅地造成が終了し、住宅団地となっている。その先には、亀田排水路(旧栗ノ木川)が南東から北西に流れている。調査区の南側は水田が營まれており、標高も低くなる。

2) グリッドの設定(図版6・7、第9図)

グリッドを設定するにあたっては、新座標系(世界測地系)を用いた。平成24(2012)年度調査から日本水跡範囲の全域にグリッド設定を行い、その基点を1A-1A1杭とした。1A-1A1杭の座標はX座標206700.000、Y座標53000.000(平面直角座標系第VII系)、緯度37°51'40"33444、経度139°06'08"44431である。基点に対し国土地理院の第VII系座標軸を用いて10mの方眼を組み、これを大グリッドとした。大グリッドの名称は北西隅の杭を基点として短軸(南北)をアラビア数字、長軸(東西)をアルファベットとし、この組み合わせによって表示した。大グリッドをさらに2m方眼に区分して1から25の小グリッドに分割し、「5B15」のように呼称した。

発掘調査区3点の座標(新座標)は次の通りである。

1C-9A1杭(X座標206620.000、Y座標532000.000、杭頭高1.097m、緯度:37°51'37"69765、

経度:139°06'16"60551)

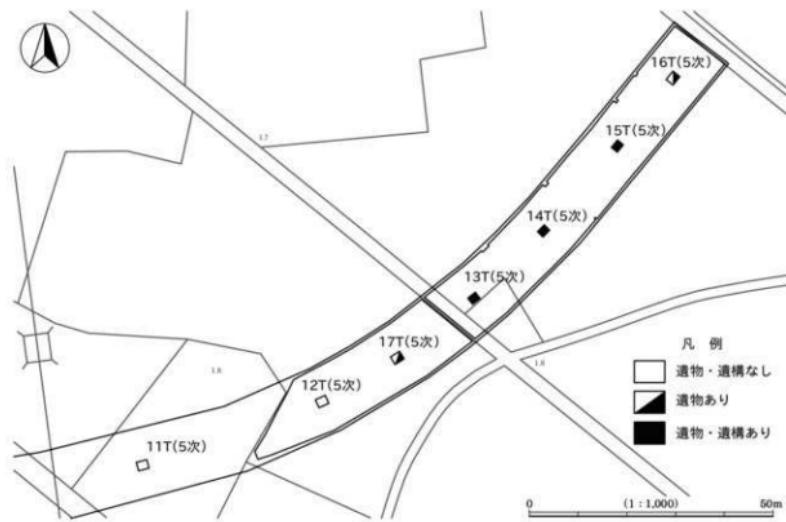
2B-3H1杭(X座標206580.000、Y座標531700.000、杭頭高1.204m、緯度:37°51'36"40652、

経度:139°06'15"36757)

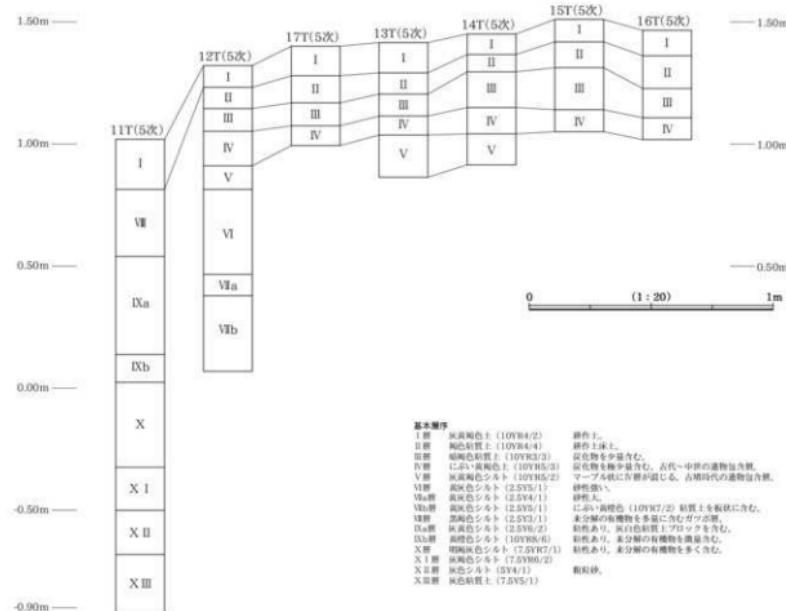
2B-5E1杭(X座標206560.000、Y座標531400.000、杭頭高1.049m、緯度:37°51'35"76411、

経度:139°06'14"13493)

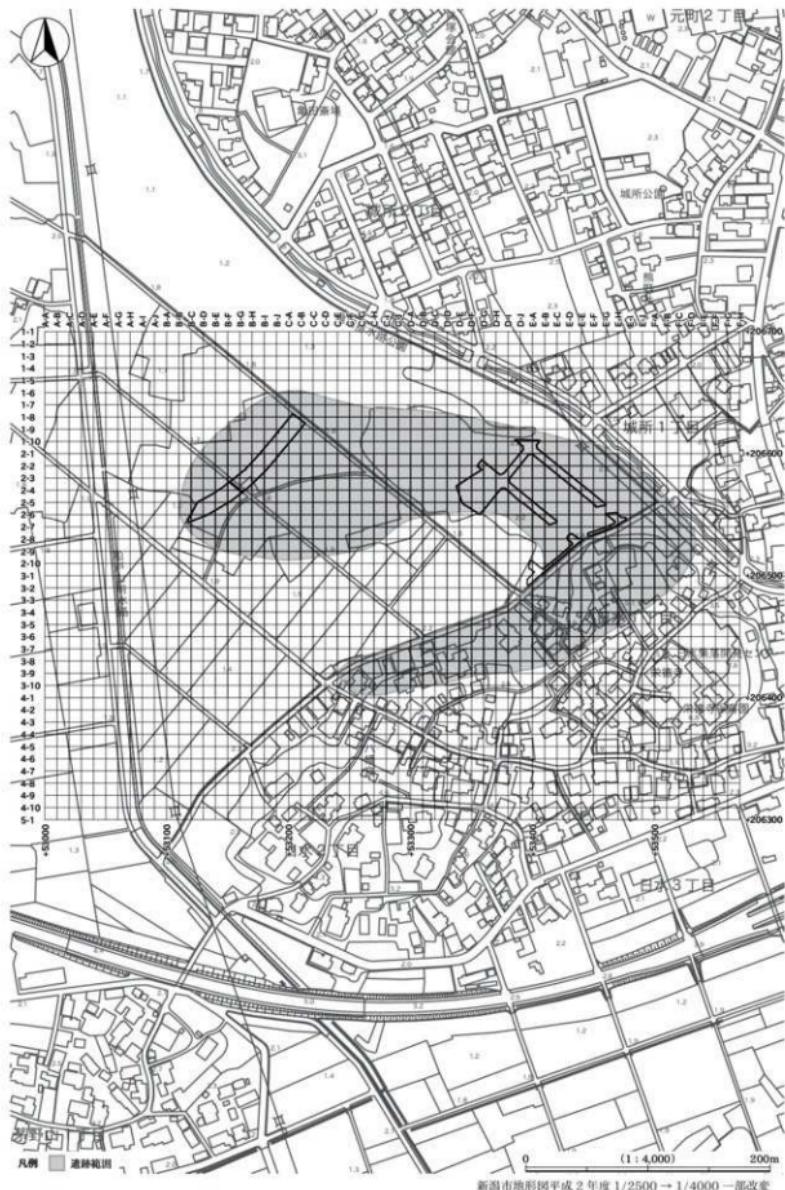
1C-9A1杭で長軸方向を座標北の0度0分0秒とし、座標北は真北に対し0度22分15秒東偏し、磁北は真



第7図 日水遺跡試掘調査位置図



第8図 日水遺跡試掘調査土層柱状図



第9図 日水遺跡グリッド設定図

北に対し 8 度 3 分西偏する。

3) 調査方法

① 表土剥ぎ 試掘調査によって遺物の出土が少量であると予想されたことから、遺物包含層（IV 層）上面まで遺物の出土に注意しながら重機（バックホウ）により除去した。排土は、道路法線上の調査区外の南西側に置いた。法面は安全面を考慮して一分の勾配とした。また湛水防止のために表土剥ぎと平行して調査区の周囲に土側溝を掘り、2 インチのポンプで強制排水を行った。土側溝は、幅 30cm、深さ 30cm 程度に人力で掘削した。壁面を垂直に掘ると崩壊する恐れがあるために緩く傾斜をつけた V 字の溝である。土側溝による遺構の破壊が考えられるが、湛水により調査が不能になることを防ぐ処置である。

② 包含層掘削・遺構検出・発掘 重機（バックホウ）で掘削後、人力で精査を行い、包含層の掘削・遺構の検出にあたった。排土は人力およびベルトコンベアで調査区外へ搬出した。

③ 実測・写真 実測図は断面を縮尺 20 分の 1 で作成した。平・断面図や各種測量点は、株式会社シン技術コンサルに委託してトータルステーションを用いて作成し、併せて俯瞰写真を撮影した。写真撮影はデジタル一眼レフカメラ、35mm 版・6 × 7 版の銀塩カメラを用い、白黒フィルム・カラーポジフィルムを適宜併用した。空中写真撮影は株式会社シン技術コンサルに委託した。

④ 遺物取り上げ 包含層出土遺物は小グリッド単位として取り上げた。遺構出土遺物は遺構単位・層単位で小グリッドごとに一括で取り上げた。

⑤ 自然科学分析 古環境復元のために、植物珪酸体分析・花粉分析を行った。

B 調査経過

平成 24 年 8 月 21 日から諸準備を開始し、9 月 3 日から 9 月 14 日まで重機により表土掘削を行った。その後、適宜追加で表土掘削を行った。表土掘削と並行して作業員 10 名程度で土側溝掘削・法面仕上げ・包含層掘削を行った。9 月 5 日からグリッド杭打ちを行った。9 月後半の長雨のため遺構精査が難しい状況が続いた。9 月 25 日より作業員全員での作業を開始し、10 月 1 日から本格的な遺構検出・掘削作業を実施した。10 月 4 日に V 層下面の遺構から、古墳時代の須恵器が確認され、古墳時代の包含層の存在が明らかになった。10 月 10 日に基本層序の自然科学分析サンプリングを行った。10 月 24 日に南西側の IV 層下面の調査区から小溝（SD）が密集して検出され、烟遣構（SN）が南西側に広がる可能性が出てきたため、10 月 30 日より当初予定していなかった 100m² 程度南西側に調査区の拡張を行った。11 月 15 日に上層遺構の精査をほぼ終了したためラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を行い、翌 16 日に高所作業車による写真撮影を行った。11 月 24 日に現地説明会が行われ、荒天の中 100 名の参加があった。その後下面の確認調査を行い、包含層中から古墳時代の遺物は確認できたが、SX1 以外の遺構は検出出来なかった。12 月 18 日に東部地城土木事務所と引き渡し協議を行った。20 日に機材撤収を含め全ての調査が終了した。

最終的な発掘調査面積は上端 1509.521m²、下端 1443.294m² である。

C 調査体制

【第 5 次調査（試掘調査）平成 22 年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 鈴木廣志）
所管課	新潟市歴史文化課（課長 倉地一則 課長補佐 頼所洋一 理蔵文化財係長 渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長 山田光行）
調査担当	廣野耕造（新潟市埋蔵文化財センター 主査）

【第6次調査（本発掘調査）平成24年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）
所管課・事務局	新潟市文化財センター（所長 高橋 保 所長補佐 丸山徳幸 主任 渡邊朋和）
調査担当	立木宏明（新潟市文化財センター 主査）
調査員	細野高伯（株式会社シン技術コンサル）

第3節 整理作業

A 整理方法

1) 遺物

遺物量はコンテナ(内寸54.5×33.6×10.0cm)にして65箱である。古墳時代・平安時代の土器を中心であるが、鉄製品、鉄滓などの鍛冶関連遺物、石製品など各種の遺物がある。

遺物の整理作業は次の手順で行った。①洗浄。②注記。③グリッド別、種別の重量計測。④遺構出土遺物の器種毎の重量・個体数計測。⑤接合。⑥報告書掲載遺物の抽出。⑦実測図、観察表作成。⑧トレース図作成。⑨版下作成。実測図は整理補助員が原寸で作成し、トレース図と版下作成は、業者に委託しデジタルトレースを行った。

2) 遺構

平面図を作成するにあたっては、縮尺40分の1の遺構平面図と手取り断面図との校正作業を行った。報告書の各種縮尺図の遺構平面図は業者が作成し、デジタルデータ化した。その他の図面は整理補助員が作成した。

B 整理経過

発掘調査作業中に、出土遺物の水洗・注記を行った。調査終了後出土遺物の計測・接合・実測と写真・図面整理を行い、併せて測量業者に委託した遺構平面図の校正作業を行った。遺構平・断面図はデジタルデータを用いた。この間職員および調査員は原稿執筆、遺物写真の撮影、図版のレイアウト・報告書の編集にあたった。平成24年度の調査終了後の整理体制については、第2節の調査体制に併せて記した。

平成25年度は報告書刊行のみ行った。

【報告書刊行 平成25年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）
所管課・事務局	新潟市文化財センター（所長 中野俊一 所長補佐 丸山徳幸 主任 渡邊朋和 遠藤恭雄 本間敏則）
調査担当	立木宏明（新潟市文化財センター 主査）

第IV章 遺 跡

第1節 概 要

日水遺跡は、新潟砂丘の新砂丘I-1列上の北斜面およびその北側に形成された自然堤防上に立地する（第1図、図版2）。遺構の検出は基本上層V層上面で実施したが、古墳時代の遺構や遺物の検出を目的としてVI層上面までトレンチ調査および面下げを実施した。

検出した遺構は、古墳時代の性格不明遺構（SX）1基、古代の溝（SD）83条、土坑（SK）18基、烟（SN）5枚、性格不明遺構（SX）9基、ピット（Pit）95基で、総数211遺構からなる。

出土遺物は古代～近世にわたっているが、ほとんどの遺物が平安時代（9世紀後半）のものであり、同時期の遺構が主体をなすと考えられる。

第2節 層 序（図版16）

基本層序は図版16に示した通り、6層に大別される。I・II層は耕作土であり、遺物の出土はほとんど見られない。III・IV層は中世～古代の遺物包含層、V層は古墳時代の遺物包含層で、VI層で遺跡限界となる。各層の概要は以下の通りである。

- I層 灰黄褐色土（10YR4/2）現在の耕作土。層厚6～12cm。
- II層 褐色粘質土（10YR4/4）現在の耕作土の床土。層厚8～18cm。
- III層 暗褐色粘質土（10YR3/3）炭化物を少量含む。僅かに中世～古代の遺物を含む。層厚9～22cm。
- IV層 にぶい黄褐色土（10YR5/3）炭化物を極少量含む。中世～古代の遺物包含層。層厚4～19cm。
- V層 灰黄褐色シルト（10YR5/2）マーブル状にIV層が混じる。古墳時代の遺物包含層。層厚8～16cm。
- VI層 黄灰色シルト（2.5Y5/1）砂質強い。層厚12～40cm。

第3節 遺 構

遺構番号は、遺構の種類に関わらず検出順に付した。説明は時代別に溝・土坑・烟・性格不明遺構・ピットの順に記す。

詳しい遺構の計測値等は別表1に示した。遺構の形態分類は、平面形は円形・楕円形・長楕円形・長方形・隅丸方形の5種類に、断面形は半円状・台形状・箱状・階段状・U字状・V字状・弧状の7種類に分類した。

遺構の所属時期は、IV層から掘り込まれている遺構から古代の土器が多く出土している。V層中には古墳時代の遺物が含まれ、V層下面に遺構確認面がある。中世土器は少量出土しているが、いずれも遺構上面に落ち込むように出土しており、中世遺構として確認されたものではない。その他に近世遺構として堀田の痕跡が確認された。性格不明遺構（SX）として掲載する。

A 古墳時代の遺構

古墳時代の遺構は唯一、1C-8A1・2グリッドで確認された性格不明遺構（SX1）である。古墳時代の包含層

であるV層の掘り下げを行ったが、それ以外の遺構は確認することは出来なかった。

SX1 (図版8、写真図版9)

1C-8A1・2グリッドに位置する。重機(バックホウ)で包含層(IV層)上面まで表土掘削を行った後、調査区内排水のための幅30cm、深さ30cm程度の土側溝を掘削中に須恵器直口壺が出土した。土側溝断面の精査を行ったところ、V層下面から掘り込まれる幅44cm、深さ16cm、底面標高0.73mの断面形が半円状、覆土は単層の遺構が確認された。横で検出された古代の溝(SD2)との切り合い関係は無いが、古代の遺構がV層上面からの掘り込みであるのに対し本遺構はV層下面からの掘り込みであるため、本遺構が古いことは明白である。平面形は、土側溝で切られた部分を補完すると稍円形になる。須恵器直口壺(図版33-1)は横倒しの状態で、口縁部と体部が若干ずれて確認された。土側溝掘削の際に発掘機器で損傷を受け口縁部は一部破損しているが、本来は完形であったと思われる。遺構中の覆土および須恵器内に詰まった土塙を1mmメッシュで篩ったが、細粒の砂は確認できたものの、炭化物や微細な遺物は確認できなかった。

B 古代の遺構

古代遺構の検出は、基本土層V層上面で実施した。

遺構種別は、溝(SD)83条、土坑(SK)18基、窯(SN)5枚、性格不明遺構(SX)9基、ピット(Pit)95基で、総数210遺構からなる。

出土遺物は古代～近世にわたっているが、ほとんどの遺構は平安時代の所産と考えられる。

1) 遺構各説

溝状遺構(SD)

本遺跡では83条の溝が検出された。このうち67条は烟に伴う一連の小溝であるため、実質は16条である。調査区北側では、道路状に2条一対の様相を呈しているものも確認されている。

SD3 (図版10・11・17、写真図版11)

1B-8J5・10・15・20・25、9J5・10・15・19・20・24・25、10J4・8・9・13・14・18、1C-8A1・6・11・16・21、9A1・6・11に位置する。SD2と凡そ1.8m幅で並走し、重複関係にあるSD9、SX37、Pit66の中で一番新しい。走行方向は北側ではN-5°-Wとほぼ南北方向を指し、南下するに従いN-13°～21°-Eとやや湾曲する。確認長は25.60mで、南北両端は調査区外へ延びる。最大幅0.49m、深度35cmを測り、断面形はU字状ないしは台形状を呈する。覆土は褐色土や灰黄褐色土が主体で6層もしくは8層に分層され、堆積状態はレンズ状である。

遺物は、古墳時代の土師器鉢(35)、平安時代の須恵器杯蓋(36)・無台杯(37～40)・短頸壺(41)・甕(42・43)、土師器長甕(44)・小甕(45～49)・鍋(50)、砥石(3)・敲石(4・5)・磨石(6)・軽石製石製品(7)、棒状鉄製品(14)を図示した。その他に古墳時代の土師器甕体部片、平安時代の土師器無台椀体部片が出土している。

SD2 (図版10・11・17、写真図版11)

1B-9J20・25、10J5・9・10・14、1C-7A21、8A1・6・11・12・16・17・21・22、9A1・2・6・11・16・21に位置する。SD3と並走し、重複するSD5・9・13・29、Pit53の中で一番新しい。走行方向は北側ではN-3°-Wとほぼ南北方向を指し、南下するに従いN-19°～26°-EとSD3に並行しながら湾曲する。確認長24.48m、最大幅0.52m、深度24cmを測る。覆土は褐色土および灰黄褐色土が主体で大略5層に分層でき、断面形態は台形状を呈する。本溝以南では遺構がまばらになる事からSD3と2条一対で道路などの区画となる機能を考えられるが、路面と推定される遺構間の硬度等の測定はしておらず断定はできない。

遺物は、古墳時代の土師器壺(51)、平安時代の須恵器無台杯(52・53)・有台杯(54)・甕(55・56)、土師器小甕(57・58)、敲石(8)、羽口(6)を図示した。その他に古墳時代の土師器甕体部片、平安時代の土師器無台椀体部片・長甕口縁部と体部片、軽石製石製品(21・22)が出土している。

SD13 (図版 10・17、写真図版 11・12)

1C-8A11～17、8B11・12に位置する。重複する Pit19・20より新しく、SD2、SK8・17、SX6より古い。SD5と並走してSD2に直行し、走行方向はN-85°-Eを指す。確認長11.76m、最大幅0.58m、深度20cmを測り、東端は調査区外へ延びる。覆土は6層に分層され、断面形は弧状を呈す。

遺物は土師器無台椀(59)を図示した。その他に土師器長甕部片が出土している。

SD5 (図版 10・17、写真図版 11・12)

1C-8A16～20・22・23に位置する。走行方向はN-85°-Eを指し、SD13と2.4m幅で並走する。重複するSK10～12より新しく、SD2、SX6より古い。規模は、全長8.36m、最大幅0.70m、深度60cmを測る。覆土は最大11層に分層でき、断面形は台形状を呈する。SD13と2条一対で道路状造構の側溝であったと推察され、東隣するSD18と同一溝の可能性も考えられる。

遺物は、須恵器長頸壺(60)、土師器無台椀(61)・長甕(62)、砥石(9)を図示した。その他に古墳時代の土師器甕・壺・高杯、平安時代の土師器鍋の体部片が出土している。

SD18 (図版 10・26、写真図版 12)

1C-8A20、8B16に位置する。重複するPit21より新しく、SK7、SX6より古い。走行方向はN-85°-Wを指し、確認長2.28m、最大幅0.44m、深度12cmを測り、東端は調査区外へ延びる。覆土は単層で、断面形は弧状を呈す。

遺物は古墳時代の土師器甕の細片が出土している。

SD9 (図版 10・17、写真図版 12)

1B-9J20、1C-9A16・17に位置し、重複するSD29、Pit66より新しく、SD2・3より古い。走行方向はN-80°-Wを指し、東端は調査区外へ延びる。確認長4.16m、最大幅0.39m、深度19cmを測り、断面形は弧状を呈す。覆土は4層に分層され、褐灰色粘質土が主体となっている。

遺物は、須恵器甕(63)、土師器無台椀(64)・長甕(65)を図示した。その他に古墳時代の土師器甕、平安時代の土師器小甕・鉢の体部片が出土している。

SD29 (図版 10・17、写真図版 12)

1C-9A16・17・21・22に位置し、重複するSD2・9より古い。走行方向はN-75°-E～N-72°Wとやや蛇行しており、東端は調査区外へ延びる。確認長2.47m、最大幅0.52m、深度22cmを測り、断面形は台形状を呈す。覆土は8層に分層でき、灰黄褐色土が主体である。

遺物は土師器鍋(66)が出土している。

SD62 (図版 11・17、写真図版 12)

1B-10I11～13・17～19・24・25、10J21、2B-115、1J1・2に位置する。重複するSK84より古く、両端は調査区外へ延びる。走行方向はN-60°-Wを指し、確認長12.76m、最大幅0.80m、深度24cmを測る。断面は強状を呈し、覆土は灰黄褐色土を主体に2～6層に分層される。

遺物は須恵器無台杯口縁部片、土師器無台椀体部・底部片が出土しており、他に古墳時代の土師器甕の細片が出土している。

SD86 (図版 11・12・18、写真図版 13)

2B-1G20・25、1H3・4・7・8・11・12・16・21に位置し、重複するSD55より古い。走行方向はN-39°-Eを指し、北端は調査区外へ延びる。確認長11.00m、最大幅0.39m、深度13cmを測り、断面は浅い弧状を呈す。覆土は、にぶい黄褐色土と灰黄褐色粘質土の2層に分層される。

遺物は土師器長甕部片、軽石製石製品(24)が出土しており、他に古墳時代土師器甕の細片がある。

SD81 (図版 11・18、写真図版 13)

2B-1H8～10に位置し、重複するSD55より古い。走行方向はN-82°-Eを指し、全長5.22m、幅最大幅

0.20m、深度 16cm を測り、断面は半円状を呈す。覆土は灰黄褐色土と褐灰色土の 2 層に分層される。

遺物は土師器無台椀体部片が出土しており、他に古墳時代土師器壺の細片がある。

SD55 (図版 11・18、写真図版 13・14)

2B-1H9・10・12～14、1I6～10、1J6 に位置する。重複する SD81、SK82 より新しく、SD54 より古い。走行方向は調査区西側では N-83°-E を指す東西溝であるが、一旦 N-37°-E と屈曲し、調査区東側では N-87°-E と再び東西溝に戻る。両端は調査区外へ延び、確認長 10.08m、最大幅 0.76m、深度 27cm を測る。断面は台形状もしくは U 字状を呈し、覆土は褐灰色土を主体に 2～6 層に分層される。

遺物は土師器無台椀 (67)、珠洲焼壺 R 種 (68) を図示した。その他に須恵器短頸壺体部片、土師器無台椀体部・底部片・長壺体部片・小壺体部片、古墳時代土師器壺の体部片、軽石製石製品 (23) が出土している。

SD59 (図版 11・18、写真図版 14)

2B-11T～9 に位置する。重複する Pit58 より古い。走行方向は調査区西側では N-87°-E を指す東西溝である。確認長 4.42m、最大幅 0.40m、深度 14cm を測る。断面は台形状を呈し、覆土は褐灰色土を主体に 2～3 層に分層される。

遺物は古墳時代の土師器壺細片、平安時代の土師器無台椀体部片・鍋体部片が出土している。

SD54 (図版 11・18、写真図版 13)

1B-10I25、2B-11S・10、1J6 に位置し、重複する SD55 より新しい。走行方向は N-24°-E を指し、東端は調査区外へ延びる。確認長 4.22m、最大幅 0.26m、深度 8cm を測る。断面は弧状を呈し、覆土は单層である。遺物は出土していない。

SD148 (図版 14・15・18、写真図版 14)

2B-5C20・25、5D16・21・22、6D1・2 に位置し、重複する SD149、SK198、SN150、Pit210～212 より新しい。走行方向は N-45°-W を指し、東端は調査区外へ延びる。確認長 4.96m、最大幅 0.64m、深度 10cm を測り、断面は浅い弧状を呈する。覆土は、褐色シルトの单層である。

遺物は出土していない。

SD183 (図版 14・15・18、写真図版 14)

2B-5C20・25 に位置し、重複する SN150、Pit184 より新しく、SD149、Pit182 より古い。走行方向は N-40°-W を指し、全長 1.58m、最大幅 0.16m、深度 6cm を測る。断面は浅い弧状を呈し、覆土は 2 層に分層される。規模や形態、覆土などから畑に伴う小溝と考えられるが、隣接する SN150 より 1 本のみはみ出すため、溝とした。遺物は出土していない。

SD149 (図版 14・15・18、写真図版 14)

2B-5C15・20・24・25、5D11・16、6C3・4・8・9 に位置する。重複する SD153・157・183、SN150 より新しく、SD148、SX147 より古い。走行方向は N-38°-E を指し、北端は先細りし、南端は調査区外へ延びる。確認長 9.96m、最大幅 0.48m、深度 10cm を測り、断面は浅い弧状を呈す。覆土は、黒褐色シルトとにびい黄褐色シルトの 2 層に分層される。本溝は SN150 耕作範囲の東際に位置しており、SN150 の区画を成していた可能性が推察される。

遺物は土師器無台椀・鍋の体部片が出土している。

土 坑 (SK)

土坑は 18 基検出された。この内には、形態的には SX や Pit と考えられるものも含まれるが、調査時の所見に基づき土坑とした。また、本遺跡の特徴の一つとして、長楕円形（小判形）の 7 基の土坑が挙げられる。

SK4 (図版 10・19、写真図版 15)

1C-7A23 に位置する。平面は円形で、断面形は弧状を呈する。規模は長軸 0.67m、短軸 0.65m を測り、確認面からの深度は 15cm である。覆土は 6 層に分層され、ブロック状の堆積状況を示す。

遺物は土師器鍋体部片が出土している。その他に古墳時代の土師器甕底部片（69）が出土している。

SK36 (図版 10・19、写真図版 15)

1C-8A7・12 に位置する。主軸方向は N-3°-W を指し、平面は長楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.98m、短軸 0.52m を測り、確認面からの深度は 62cm で底面標高は 0.40m を測る。覆土は、灰黄褐色粘質土を主体に 15 層に分層される。

遺物は土師器無台椀体部片、敲石（10）が出土している。

SK15 (図版 10・19、写真図版 15)

1C-8A7・8・12・13 に位置する。主軸方向は N-3°-E を指し、平面は楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 1.11m、短軸 0.92m を測り、確認面からの深度は 64cm で底面標高は 0.37m を測る。覆土は 7 層に分層され、ほぼレンズ状の堆積状況を示す。

遺物は須恵器長頸壺高台片（70）を図示した。その他に土師器長甕体部片、古墳時代土師器甕細片が出土している。

SK17 (図版 10・19、写真図版 15)

1C-8A12・17 に位置し、重複する SD13 より新しい。主軸方向は N-18°-W を指し、平面は楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 1.14m、短軸 0.69m、確認面からの深度は 33cm で底面標高は 0.68m を測る。覆土は灰黄褐色シルトブロックを含む土が主体で、7 層に分層される。

遺物は土師器無台椀体部片が出土している。

SK8 (図版 10・19、写真図版 16)

1C-8A13 に位置し、重複する SD13 より新しい。主軸方向は N-0° を指し、平面は楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 1.13m、短軸 0.78m を測り、確認面からの深度は 64cm で底面標高は 0.44m を測る。覆土は 13 層に分層され、底面付近はブロック状の堆積状況を示す。

遺物は土師器無台椀体部片が出土している。その他に珠洲焼壺 R 種底部片（71）がある。

SK7 (図版 10・19、写真図版 16)

1C-8A15・20 に位置し、重複する SD18 より新しく、SX6 より古い。主軸方向は N-60°-W を指し、平面は楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 1.20m、短軸 0.96m を測り、確認面からの深度は 49cm で底面標高は 0.48m を測る。覆土は 5 層に分層され、褐灰色粘質土が主体である。

遺物は須恵器無台杯底部片（72）、土師器長甕口縁部片（73）、軽石製石製品（11）を図示した。その他に土師器無台椀体部片が出土している。

SK10 (図版 10・20、写真図版 17)

1C-8A17 に位置し、重複する SD5 より古い。主軸方向は N-2°-W を指し、平面は楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.94m、短軸 0.65m を測り、確認面からの深度は 42cm で底面標高は 0.78m を測る。覆土は粘質シルトを主体とし、6 層に分層される。

遺物は土師器無台椀体部片が出土している。

SK32 (図版 10・20、写真図版 17)

1C-8A19・20 に位置し、重複する SK12 に南壁を切られる。平面は円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸確認長 0.34m、短軸 0.43m を測り、確認面からの深度は 17cm である。覆土は、にぶい黄褐色土を主体に 3 層に分層される。

遺物は出土していない。

SK11 (図版 10・20、写真図版 12・17)

1C-8A19・20・25 に位置し、重複する SD5、SX6 より古い。平面は楕円形で、断面形は弧状を呈すると推察される。規模は推定で長軸 0.54m、短軸 0.38m 程度と考えられ、確認面からの深度は 22cm を測る。覆土

は4層に分層され、レンズ状の堆積状況を示す。

遺物は出土していない。

SK12 (図版10・20、写真図版12・17)

1C-8A19・20に位置し、重複するSK32より新しく、SD5により南半を切られる。平面は円形と推察され、断面形は台形状を呈す。規模は長軸0.66m、短軸は確認長で0.30mを測り、確認面からの深度は18cmを測る。覆土は2層に分層され、共にびい黄褐色土ブロックを多く含む。覆土や形態から、SK11と同一造構の可能性も考えられる。

遺物は出土していない。

SK31 (図版10・20、写真図版17)

1C-9A4に位置し、重複するSK30に西壁を切られる。平面は円形で、断面形は弧状を呈す。規模は推定で直径0.32mほどであり、確認面からの深度は16cmを測る。覆土は3層に分層される。平断面の規模からはピットとも考えられるが、埋土がレンズ状の堆積であるため土坑とした。

遺物は出土していない。

SK30 (図版10・20、写真図版17)

1C-9A4・9に位置し、重複するSK31より新しい。平面は円形と推定され、断面形は弧状を呈す。規模は長軸推定で0.60m程度、短軸0.57mを測り、確認面からの深度は11cmを測る。覆土は、にびい黄褐色土の含有状況により4層に分層される。

遺物は出土していない。

SK28 (図版10・20、写真図版17・18)

1C-9A7に位置する。平面は長楕円形で、断面形は弧状を呈す。規模は長軸0.59m、短軸0.34mを測り、確認面からの深度は18cmを測る。覆土は5層に分層される。

遺物は出土していない。

SK57 (図版10・20、写真図版18)

1C-9A12・13・17・18に位置し、北壁を重複するPit52に切られ東半は調査区外へ延びる。平面は円形もしくは隅丸方形になると推定され、断面形は階段状を呈す。規模は長軸1.28m、短軸は確認長0.57mを測り、確認面からの深度は32cmを測る。覆土は、上段は黒褐色土、下段は褐灰色粘質土主体で8層に分層されるが、堆積状況からは2つの造構とも考えられる。形態的には、井戸の可能性もある。

遺物は土師器小甕体部片が出土している。その他に古墳時代土師器甕の細片がある。

SK84 (図版11・20、写真図版18)

1B-10I11に位置し、重複するSD62より新しく、西半は調査区外へ延びる。平面は楕円形で、断面形は弧状を呈す。規模は長軸確認長で0.46m、短軸は確認長で0.35mを測り、確認面からの深度は19cmを測る。覆土は3層に分層され、褐灰色砂質土ブロックを含む粘質土が主体である。

遺物は土師器長甕体部片が出土している。

SK42 (図版11・20、写真図版18)

1B-10J21・22に位置する。平面は長楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸1.67m、短軸0.55mを測り、確認面からの深度は16cmを測る。覆土は4層に分層され、褐灰色粘質土が底面付近に認められる。

遺物は出土していない。

SK82 (図版11・20、写真図版18)

2B-1H10に位置し、北半を重複するSD55に切られる。平面は円形と推察され、断面形は弧状を呈す。規模は長軸0.62m、短軸は現況で0.26mを測り、確認面からの深度は8cmを測る。覆土は2層に分かれ、褐灰色土が主体である。

遺物は古墳時代の土師器壺体部片が出土している。

SK198 (図版 14・15・20、写真図版 18)

2B-5D21、6D1 に位置し、重複する SD148、Pit189～191 に切られる。平面は梢円形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸確認長で 0.94m、短軸 0.91m を測り、確認面からの深度は 18cm を測る。覆土は 2 層に分層されるが、いずれも褐灰色粘質土である。

遺物は須恵器無台杯体部片、土師器鍋体部片が出土している。

烟 (SN)

調査区南端において、烟が 5 枚検出された。小溝からなる陸田（耕地）と考えられ、平安時代以前には烟という字は使用されていないため本来ならば「畠」と表記すべきであるが、「発掘調査の手引き」（文化庁文化財部記念物課監修 2010）に従い烟とした。5 枚の烟は、等高線に沿った東西の無造構帶の南北に配置される。1 枚の烟の規模は長辺 8.04～17.58m とまちまちであるが、作り替えや重複を考慮すれば 1 枚当たりの長辺は 8～9m 程度であったと推察される。

SN130 (図版 13～15・21、写真図版 19)

2B-4C25、4D5・9・10・12～24、4E1・2・6・7・11・12・16、5C4・5・9・10・15、5D1～4・6・7・11 に位置する。SD131～137・139～146 の 15 条の小溝からなり、残存する畠の高さは調査区西壁の上層観察から 20cm 程度である。耕作によると考えられる土壤の変質部（以下、「耕作土」とする）は長辺 17.58m、短辺確認長 5.58m の範囲で認められ、西側は調査区外へ延びる。耕作土の層厚は 10～15cm 程度である。SD131～137 の畠間は 1.10m もしくは 1.20m とほぼ等間であるが、SD137～146 においては 0.20～1.60m と規格性が窺えない。これは、畠替えによるもの、2 枚の烟に分別される、などの可能性が考えられるが、耕作土の検出状況から 1 枚の烟として扱った。広い畠間は、防湿効果を高めるために高畠にしたなどの理由も考察できる。

他遺跡の調査事例から畠間の広い烟は陸稻栽培が指摘されているが、自然科学分析により本烟からもイネ科の花粉が検出されており（第VI章参照）、稲作をしていた可能性が高いと考えられる。

遺物は SD136 出土の土師器無台椀（74）、SD139 出土の土師器鍋（75）、SD141 出土の須恵器横瓶（76）、SD144 出土の須恵器甕（77）、耕作土出土の須恵器無台杯（78）、土師器無台椀（79）・小甕（80）が出土している。

SD146 (図版 13・14・21、写真図版 19) 2B-4E1・2 に位置する SN130 北端の溝で、北端は調査区外へ延びる。走行方向は N-41°-W を指し、確認長 1.08m、最大幅 0.28m、深度 8cm を測る。断面形は半円状で、SD145 との条間は 0.52m を測る。覆土はにぶい黄褐色シルトと黒褐色シルトに分層され、烟に伴う小溝はすべて同一である。

遺物は出土していない。

SD145 (図版 13・14・21、写真図版 19) 2B-4E1・2・6～8・12・13 に位置し、西端は調査区外へ延びる。走行方向は N-40°-W を指し、確認長 4.04m、最大幅 0.42m、深度 11cm を測る。断面形は台形状で、SD144 との条間は 1.04m である。

遺物は土師器無台椀体部片が出土している。

SD144 (図版 13・14・21、写真図版 19) 2B-4E1・6・7・12 に位置し、西端は調査区外へ延びる。走行方向は N-45°-W を指し、確認長 3.64m、最大幅 0.36m、深度 8cm を測る。断面形は台形状で、SD143 との条間は 0.90m を測る。

遺物は須恵器甕（77）を図示した。その他に土師器無台椀体部片が出土している。

SD143 (図版 13・14・21、写真図版 19) 2B-4D5・10、4E1・6・11・12 に位置し、西端は調査区外へ延びる。走行方向は N-41°-W を指し、確認長 3.96m、最大幅 0.24m、深度 10cm を測る。断面形は半円状で、SD142 との条間は 1.30m を測る。

遺物は出土していない。

SD142 (図版 13・14・21、写真図版 19) 2B-4D10・15、4E11 に位置し、西端は調査区外へ延びる。走行方向は N-39°-W を指し、確認長 3.84m、最大幅 0.28m、深度 9cm を測る。断面は浅い弧状で、SD141 との条間は 0.90m を測る。

遺物は出土していない。

SD141 (図版 13・14・21、写真図版 19) 2B-4D9・10・15、4E11・16 に位置し、西端は調査区外へ延びる。走行方向は N-44°-W を指し、確認長 3.98m、最大幅 0.28m、深度 19cm を測る。断面形は U 字状で、SD140 との条間は 0.80m を測る。

遺物は須恵器横瓶 (76) を図示した。その他に須恵器甕、土師器無台椀体部片が出土している。

SD140 (図版 13・14・21、写真図版 19) 2B-4D9・14・15・20 に位置し、西端は調査区外へ延びる。走行方向は N-42°-W を指し、確認長 4.12m、最大幅 0.36m、深度 11cm を測る。断面形は浅い弧状で、SD139 との条間は 1.30m を測る。

遺物は土師器無台椀体部片が出土している。

SD139 (図版 13・14・21、写真図版 19) 2B-4D13・14・19・20 に位置し、西端は調査区外へ延びる。走行方向は N-42°-W を指し、確認長 4.04m、最大幅 0.32m、深度 8cm を測る。断面形は弧状で、SD137 との条間は 1.20m を測る。

遺物は土師器鍋 (75) が出土している。

SD137 (図版 14・21、写真図版 19) 2B-4D13・18・19・24 に位置し、西端は調査区外へ延びる。走行方向は N-44°-W を指し、確認長 4.68m、最大幅 0.28m、深度 11cm を測る。断面形は台形状で、SD136 との条間は 1.30m を測る。

遺物は出土していない。

SD136 (図版 14・21、写真図版 19) 2B-4D12・17・18・23・24 に位置し、西端は調査区外へ延びる。走行方向は N-42°-W を指し、確認長 4.88m、最大幅 0.24m、深度 10cm を測る。断面形は半円状で、SD135 との条間は 1.34m を測る。

遺物は、土師器無台椀 (74) を図示した。

SD135 (図版 14・21、写真図版 19) 2B-4D17・22・23、5D3 に位置し、西端は調査区外へ延びる。走行方向は N-43°-W を指し、確認長 4.94m、最大幅 0.32m、深度 8cm を測る。断面形は台形状で、SD134 との条間は 2.65m を測るが、中間に SX177 があるため、本来は 1.3m 程度の条間であったと考察される。

遺物は土師器無台椀体部片が出土している。

SD134 (図版 14・15・21、写真図版 19) 2B-4D21、5D1・2 に位置する。走行方向は N-43°-W を指し、全長 3.60m、最大幅 0.24m、深度 6cm を測る。断面形は弧状で、SD133 との条間は 1.34m を測る。

遺物は出土していない。

SD133 (図版 14・15・21、写真図版 19) 2B-4C25、4D21、5C5、5D1・2・6・7 に位置し、東端は試掘坑 (12T) によって切られる。走行方向は N-41°-W を指し、確認長 4.46m、最大幅 0.26m、深度 14cm を測る。断面は箱状で、SD132 との条間は 1.34m を測る。

遺物は土師器無台椀体部片が出土している。

SD132 (図版 14・15・21、写真図版 19) 2B-5C5・10、5D1・6 に位置し、東端は試掘坑 (12T) によって切られる。走行方向は N-42°-W を指し、確認長 3.24m、最大幅 0.32m、深度 4cm を測る。断面は浅い弧状で、SD131 との条間は 1.28m を測る。

遺物は出土していない。

SD131 (図版 14・15・21、写真図版 19) 2B-5C4・5・10・15、5D6・11 に位置し、東端は試掘坑 (12T)

によって切られる。走行方向はN-43°-Wを指し、確認長3.32m、最大幅0.24m、深度8cmを測る。断面は弧状で、SN130最南の溝である。

遺物は出土していない。

SN209 (図版13・14・22、写真図版19)

2B-4D9・10・13～15・19・20、4E1・2・6・7・11・12・16に位置する。SN130北部と完全に重複し、SN130の下から検出された。耕作土は削平され残存しないため耕作範囲は不明であるが、小溝の残存部であるSD138・202～208の8条が検出された。西側は調査区外へ延びている。SN130以前の畠跡であり、SN130とは畠間が異なるため耕作物の変更に伴う畠の作り替えの可能性がある。

SD208 (図版13・14・22、写真図版19) 2B-4E1・6・7に位置するSN209最北の溝である。西端は調査区外へ延び、一部はSN130のSD144に切られる。走行方向はN-41°-Wを指し、確認長3.08m、最大幅0.20m、深度5cmを測る。断面形は台形状で、SD207との条間は0.28mを測る。

遺物は土師器無台椀体部が出土している。

SD207 (図版13・14・22、写真図版19) 2B-4E1・6に位置し、西端は調査区外へ延びる。SN130のSD144に切られている。走行方向はN-41°-Wを指し、確認長2.28m、最大幅0.25m、深度8cmを測る。断面形は台形状で、SD206との条間は0.42mを測る。

遺物は出土していない。

SD206 (図版13・14・22、写真図版19) 2B-4D5・10、4E6に位置し、大半が調査区外へ延び、端のみの検出である。走行方向はN-39°-Wを指し、確認長0.82m、最大幅0.24m、深度2cmを測る。断面形は弧状で、SD205との条間は0.12mを測る。

遺物は出土していない。

SD205 (図版13・14・22、写真図版19) 2B-4D10、4E6・11に位置し、西端は調査区外へ延びる。走行方向はN-41°-Wを指し、確認長3.40m、最大幅0.20m、深度8cmを測る。断面形は台形状で、SD204との条間は0.14mを測る。

遺物は土師器無台椀体部が出土している。

SD204 (図版13・14・22、写真図版19) 2B-4D10に位置し、本体は調査区外へ延びる。走行方向はN-39°-Wを指し、確認長0.44m、最大幅0.24m、深度10cmを測る。断面形は台形状で、SD203との条間は1.06mを測る。

遺物は出土していない。

SD203 (図版13・14・22、写真図版19) 2B-4D9・10・15に位置し、西端は調査区外へ延びる。SN130のSD141に大部分が切られている。走行方向はN-46°-Wを指し、確認長2.64m、最大幅0.24m、深度12cmを測る。断面形は台形状で、SD202との条間は0.70mを測る。

遺物は出土していない。

SD202 (図版13・14・22、写真図版19) 2B-4D9に位置し、東端のみの検出である。走行方向はN-38°-Wを指し、確認長0.12m、最大幅0.20m、深度12cmを測る。断面形はU字状で、SD138との条間は1.68mを測る。

遺物は出土していない。

SD138 (図版14・22、写真図版19) 2B-4D13・14・19に位置するSN209最南端の溝である。西端は調査区外へ延びる。SN130のSD139に一部切られる。走行方向はN-43°-Wを指し、確認長3.30m、最大幅0.28m、深度8cmを測る。断面形は半円状である。

遺物は出土していない。

SN112 (図版13・14・23、写真図版20)

2B-4E18・19・22～24、5E1～4・6～8・11・12に位置する。SD113～118の6条の小溝からなり、残

存する歓の高さは28cmほどである。耕作土範囲は長辺8.04m、短辺確認長4.56mを測り、西側は調査区外へ延びる。耕作土は層厚8cm程度確認された。SD113~117の歓間は1.0mほどでほぼ等間であるが、SD117・118間が0.4cmと規格からははずれている。SD118はその南に位置するSN129内のSD119と規格・断面形状が一致しており、両者が対となり細間の道路状遺構である可能性が考えられる。

遺物はSD115出土の須恵器無台杯(81)、土師器長甕(82)、SD116出土の土師器無台椀(83・84)、耕作土出土の須恵器無台杯(85~90)、土師器無台皿(91)・長甕(92)・鍋(93)を図示した。その他に耕作土からは土師器無台椀体部片が出土している。

SD113(図版13・14・23、写真図版20) 2B-4E23・24、5E4に位置するSN112最北の溝である。端は調査区外へ延びる。走行方向はN-28°-Wを指し、確認長4.20m、最大幅0.32m、深度20cmを測る。断面形は台形状で、SD114との条間は1.00mを測る。

遺物は出土していない。

SD114(図版13・14・23、写真図版20) 2B-4E23、5E3に位置し、端は調査区外へ延びる。Pit201を切っている。走行方向はN-28°-Wを指し、確認長3.52m、最大幅0.28m、深度9cmを測る。断面形は弧状で、SD115との条間は0.90mを測る。

遺物は須恵器無台杯体部片が出土している。

SD115(図版13・14・23、写真図版20) 2B-4E22、5E2・3・8に位置し、端は調査区外へ延びる。走行方向はN-28°-Wを指し、確認長3.48m、最大幅0.40m、深度9cmを測る。断面形は弧状で、SD116との条間は1.10mを測る。

遺物は須恵器無台杯(81)、土師器長甕(82)を図示した。その他に須恵器長頸壺口縁部細片が出土している。

SD116(図版13・14・23、写真図版20) 2B-5E1・2・7・8に位置し、端は調査区外へ延びる。走行方向はN-27°-Wを指し、確認長3.84m、最大幅0.48m、深度21cmを測る。断面形は半円状で、SD117との条間は0.92mを測る。

遺物は土師器無台椀(83・84)が出土している。

SD117(図版13・14・23、写真図版20) 2B-5E1・6・7・11・12に位置し、端は調査区外へ延びる。走行方向はN-29°-Wを指し、確認長3.56m、最大幅0.38m、深度22cmを測る。断面形は台形状で、SD118との条間は0.40mを測る。

遺物は土師器無台椀体部片が出土している。

SD118(図版14・23、写真図版20) 2B-5E6・11・12に位置するSN112最南の溝である。西端は調査区外へ延びる。走行方向はN-28°-Wを指し、確認長2.32m、最大幅0.20m、深度17cmを測る。断面形は箱形に近い台形状である。

遺物は出土していない。

SN129(図版14・15・24、写真図版21)

2B-5D9・10・13~15・17~20・22~24、5E6・11・16に位置する。SD119~128・199の11条の小溝からなり、残存する歓の高さは36cm程度である。耕作土範囲は長辺8.04m、短辺確認長3.24mを測り、東側は調査区外へ延びる。耕作土は層厚10cm程度確認された。歓間は0.40~0.60mに取まるが、小溝の幅を見ると若干幅広のもの(SD120・122・124・126・128)と幅狭のもの(SD119・121・123・125・127)が交互に配置されているのが分かる。幅広の小溝間の歓間は1.00~1.20m、幅狭の小溝による歓間1.20~1.40mを測る。両者は歓替えによる2枚の重複する畝跡の可能性が考えられるが、耕作土の検出状況から1枚の畝として扱った。SD119については上述のようにSN112のSD118との関連性が考えられる。

遺物はSD120出土の土師器鍋(94)、SD124出土の軽石製石製品(25)、耕作土出土の須恵器長頸甕(95)、土師器無台椀(96~99)・小甕(100~102)・長甕(103~106)・鍋(107)を図示した。その他に耕作土からは須

恵器全体部片が出土している。

SD119 (図版 14・24、写真図版 21) 2B-5E6・11 に位置する SN129 最北の溝である。Pit178・179 に切れられ、端が開渠により切られている。走行方向は N-30°-W を指し、確認長 1.80m、最大幅 0.12m、深度 8cm を測る。断面形は台形状で、SD119 との条間は 0.48m を測る。

遺物は出土していない。

SD119 (図版 14・24、写真図版 21) 2B-5D10・15、5E11 に位置し、端は調査区外へ延びる。走行方向は N-34°-W を指し、確認長 2.52m、最大幅 0.24m、深度 22cm を測る。断面形は U 字状で、SD120 との条間は 0.64m を測る。

遺物は出土していない。

SD120 (図版 14・24、写真図版 21) 2B-5D10・15・20、5E11・16 に位置し、端は調査区外へ延びる。走行方向は N-35°-W を指し、確認長 2.92m、最大幅 0.36m、深度 12cm を測る。断面形は半円状で、SD121 との条間は 0.34m を測る。

遺物は土師器鍋 (94) が出土している。

SD121 (図版 14・24、写真図版 21) 2B-5D15・20 に位置し、端は調査区外へ延びる。走行方向は N-35°-W を指し、確認長 2.74m、最大幅 0.16m、深度 12cm を測る。断面形は半円状で、SD122 との条間は 0.60m を測る。

遺物は土師器無台椀部片が出土している。

SD122 (図版 14・24、写真図版 21) 2B-5D14・15・19・20 に位置し、端は調査区外へ延びる。走行方向は N-46°～22°-W を指し、若干湾曲している。確認長 2.80m、最大幅 0.38m、深度 13cm を測る。断面形は台形状で、SD123 との条間は 0.34m を測る。

遺物は出土していない。

SD123 (図版 14・24、写真図版 21) 2B-5D14・19・20 に位置し、端は調査区外へ延びる。走行方向は N-30°-W を指し、確認長 2.44m、最大幅 0.24m、深度 13cm を測る。断面形は台形状で、SD124 との条間は 0.42m を測る。

遺物は土師器無台椀・鍋体部片が出土している。

SD124 (図版 14・24、写真図版 21) 2B-5D13・14・19 に位置し、端は調査区外へ延びる。走行方向は N-31°-W を指し、確認長 2.88m、最大幅 0.32m、深度 17cm を測る。断面形は U 字状で、SD125 との条間は 0.40m を測る。

遺物は須恵器無台杯体部片、軽石製石製品 (25) が出土している。

SD125 (図版 14・15・24、写真図版 21) 2B-5D13・18・19 に位置し、端は調査区外へ延びる。走行方向は N-32°-W を指し、確認長 2.60m、最大幅 0.22m、深度 12cm を測る。断面形は台形状で、SD126 との条間は 0.60m を測る。

遺物は出土していない。

SD126 (図版 14・15・24、写真図版 21) 2B-5D18・19・23・24 に位置し、端は調査区外へ延びる。走行方向は N-32°-W を指し、確認長 2.56m、最大幅 0.28m、深度 16cm を測る。断面形は U 字状で、SD127 との条間は 0.40m を測る。

遺物は出土していない。

SD127 (図版 14・15・24、写真図版 21) 2B-5D18・23 に位置し、端は調査区外へ延びる。走行方向は N-25°-W を指し、確認長 2.23m、最大幅 0.16m、深度 13cm を測る。断面形は U 字状で、SD128 との条間は 0.30m を測る。

遺物は出土していない。

SD128 (図版 14・15・24、写真図版 21) 2B-5D17・18・23 に位置する SN129 最南の溝である。西端は調

査区外へ延びる。走行方向はN-30°-Wを指し、確認長2.32m、最大幅0.36m、深度13cmを測る。断面形はU字状である。

遺物は須恵器無台杯体部片、土師器無台椀体部片が出土している。

SN150 (図版14・15・25、写真図版22)

2B-5C8・9・13~15・17~25、6B10・14・15、6C1~4・6~8・11・12に位置する。SD151~176・185の27条の小溝からなり、残存する畝の高さは29cm程である。耕作土範囲は長辺14.76m、短辺は確認長4.88mを測り、西側は近世の地業による盛土（以下、「地業盛土」という。）により切られている。耕作土は層厚8cm程度確認された。耕作範囲東際に位置するSD149は本遺構の区画の可能性が考えられる。畝間は0.10mほどの狭いものから0.70mほどの広いものまであり、さらには小溝が重複するものもある。小溝の長さも長短様々であるため、畝替え、もしくは何枚かの畑が重複している可能性が考えられるが、耕作土の検出状況から1枚の畑として扱った。

遺物はSD156出土の土師器小甕（108）、SD158出土の土師器無台椀（109）、SD163出土の土師器鍋（110）、耕作土出土の須恵器甕（111~113）、土師器無台椀（114・115）、小甕（116・117）、鍋（118）を図示した。耕作土からはその他に土師器長甕体部片が出土している。

SD185 (図版14・15・25、写真図版22) 2B-5C14に位置するSN150最北の溝である。走行方向はN-46°-Wを指し、確認長は0.68mと短い。最大幅0.16m、深度4cmを測る。断面形は弧状で、SD151との条間は0.30mを測る。

遺物は出土していない。

SD151 (図版14・15・25、写真図版22) 2B-5C8・9・13~15・19・20に位置し、東端をSD148、西端を搅乱と近世の地業盛土に切られる。走行方向はN-48°-Wを指し、確認長4.78m、最大幅0.28m、深度8cmを測る。断面形は弧状で、SD152との条間は0.22mを測る。

遺物は土師器鍋底部片が出土している。

SD152 (図版14・15・25、写真図版22) 2B-5C13に位置する。確認長は0.28mと短く、西側大半を近世の地業盛土に切られる。走行方向はN-51°-Wを指し、最大幅0.16m、深度8cmを測る。断面形は弧状で、SD153との条間は0.66mを測る。

遺物は出土していない。

SD153 (図版14・15・25、写真図版22) 2B-5C13・14・19・20・24・25に位置し、東端をSD149、西端を近世の地業盛土に切られている。走行方向はN-44°-Wを指し、確認長4.44m、最大幅0.34m、深度10cmを測る。断面形は弧状で、SD154との条間は0.44mを測る。

遺物は土師器鍋体部片が出土している。

SD154 (図版14・15・25、写真図版22) 2B-5C13・18・19に位置する。走行方向はN-46°-Wを指し、確認長1.84m、最大幅0.16m、深度8cmを測る。断面形はU字状で、SD155との条間は0.40mを測る。

遺物は出土していない。

SD155 (図版14・15・25、写真図版22) 2B-5C13・18・19・24に位置し、西端を近世の地業盛土に切られる。走行方向はN-44°-Wを指し、確認長4.16m、最大幅0.28m、深度8cmを測る。断面形は台形状で、SD156との条間は0.34mを測る。

遺物は出土していない。

SD156 (図版14・15・25、写真図版22) 2B-5C17・18に位置し、西端を近世の地業盛土に切られる。走行方向はN-50°-Wを指し、確認長2.04m、最大幅0.28m、深度5cmを測る。断面形は弧状で、SD157との条間は0.32mを測る。

遺物は土師器小甕（108）が出土している。

SD157 (図版 14・15・25、写真図版 22) 2B-5C17・18・23・24、6C4 に位置し、東端を SD149、西端を近世の地業盛土に切られている。走行方向は N-45°-W を指し、確認長 4.44m、最大幅 0.40m、深度 8cm を測る。断面形は台形状で、SD158 との条間は 0.30m を測る。

遺物は土師器鍋底部片が出土している。

SD158 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-5C17・22・23 に位置する。走行方向は N-44°-W を指し、確認長 3.28m、最大幅 0.32m、深度 8cm を測る。断面形は台形状で、SD159 との条間は 0.40m を測る。

遺物は土師器無台椀 (109) が出土している。

SD159 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-5C22・23、6C3 に位置し、西端を近世の地業盛土に切られる。走行方向は N-46°-W を指し、確認長 4.04m、最大幅 0.40m、深度 8cm を測る。断面形は台形状で、SD160 との条間は 0.40m を測る。

遺物は出土していない。

SD160 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-5C22 に位置する。走行方向は N-54°-W を指し、確認長は 0.92m と短い。最大幅 0.16m、深度 7cm を測る。断面形は台形状で、SD161 との条間は 0.10m を測る。

遺物は出土していない。

SD161 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-5C21・22、6C2・3 に位置し、西端を近世の地業盛土に切られる。走行方向は N-51°-W を指し、確認長は 3.36m、最大幅 0.26m、深度 8cm を測る。断面形は台形状で、SD161 との条間は 0.10m を測る。

遺物は須恵器無台碗底部片が出土している。

SD162 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-5C21・22 に位置する。走行方向は N-50°-W を指し、確認長は 0.72m と短い。最大幅 0.20m、深度 10cm を測る。断面形は弧状で、SD162 との条間は 0.10m を測る。

遺物は出土していない。

SD163 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-5C21・22、6C2・3 に位置する。走行方向は N-51°-W を指し、確認長は 3.96m、最大幅 0.20m、深度 9cm を測る。断面形は弧状で、SD164 との条間は 0.50m を測る。

遺物は土師器鍋 (110) を図示した。その他に黒色土器無台椀体部片が出土している。

SD164 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-5C21、6C1・2 に位置し、西端を近世の地業盛土に僅かに切られる。走行方向は N-55°-W を指し、確認長は 0.96m と短い。最大幅 0.24m、深度 8cm を測る。断面形は弧状で、SD165 との条間は 0.30m を測る。

遺物は出土していない。

SD165 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-6C1・2・7 に位置する。走行方向は N-52°-W を指し、確認長は 2.76m、最大幅 0.20m、深度 4cm を測る。断面形は弧状で、SD166 との条間は 0.58m を測る。

遺物は出土していない。

SD166 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-6C1・2・6・7 に位置する。走行方向は N-47°-W を指し、確認長は 2.12m、最大幅 0.20m、深度 8cm を測る。断面形は弧状で、SD167 との条間は 0.12m を測る。

遺物は出土していない。

SD167 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-6C1・6・7 に位置する。走行方向は N-56°-W を指し、確認長は 3.88m、最大幅 0.28m、深度 10cm を測る。断面形は弧状で、SD168 との条間は 0.38m を測る。

遺物は出土していない。

SD168 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-6C1・6 に位置する。走行方向は N-55°-W を指し、確認長は 2.12m、最大幅 0.22m、深度 11cm を測る。断面形は弧状で、SD169 の西半部と接している。

遺物は出土していない。

SD169 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-6C6・7・12 に位置し、東端は調査区外へ延びる。走行方向は

N-46°-W を指し、途中で途切れるが全体の確認長は 2.20m、最大幅 0.20m、深度 8cm を測る。断面形は弧状で、SD170 との条間は 0.10m を測る。

遺物は出土していない。

SD170 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-6B10、6C6・11・12 に位置する。東端は調査区外へ延び、西端は近世の地業盛土に僅かに切られる。走行方向は N-57°-W を指し、確認長は 3.12m、最大幅 0.20m、深度 14cm を測る。断面形は半円状で、SD171 との条間は 0.10m を測る。

遺物は出土していない。

SD171 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-6B10、6C6 に位置する。走行方向は N-52°-W を指し、確認長は 0.80m と短い。最大幅 0.16m、深度 7cm を測る。断面形は弧状で、SD172 との条間は 0.06m を測る。

遺物は出土していない。

SD172 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-6B10、6C6・11 に位置する。走行方向は N-50°-W を指し、確認長は 1.24m とやや短い。最大幅 0.24m、深度 5cm を測る。断面形は弧状で、SD173 との条間は狭く 0.02m を測る。

遺物は出土していない。

SD173 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-6B10、6C6 に位置する。走行方向は N-48°-W を指し、確認長は 1.04m とやや短い。最大幅 0.16m、深度 8cm を測る。断面形は弧状で、SD174 との条間は狭く 0.28m を測る。

遺物は出土していない。

SD174 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-6B10・15、6C11 に位置する。東半部は調査区外へ延びる。走行方向は N-58°-W を指し、確認長は 2.04m、最大幅 0.40m、深度 17cm を測る。断面形は U 字状で、SD175 との条間は 0.68m を測る。

遺物は出土していない。

SD175 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-6B15 に位置する。東半部は調査区外へ延び、西端は近世の地業盛土に僅かに切られる。走行方向は N-57°-W を指し、確認長は 1.32m、最大幅 0.24m、深度 12cm を測る。断面形は U 字状で、SD176 との条間は狭く 0.12m を測る。

遺物は出土していない。

SD176 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-6B15 に位置する SN150 最南の溝である。東半部は調査区外へ延び、西端は近世の地業盛土に僅かに切られる。走行方向は N-56°-W を指し、確認長は 1.04m、最大幅 0.14m、深度 10cm を測る。断面形は U 字状である。

遺物は出土していない。

性格不明遺構 (SX)

本遺跡で検出された性格不明遺構は 9 基ある。形態としては土坑に分類すべき遺構でも、覆土の堆積状況などから不明遺構としたものもある。

SX27 (図版 10・26、写真図版 23)

1C-8A2・7 に位置する。平面形は長楕円形、断面形は浅い弧状を呈す。規模は長軸 0.96m、短軸 0.56m を測り、確認面からの深度は 11cm を測る。覆土は 5 層に分層され、灰黄褐色土とにぶい黄褐色土が主体である。規模や視覚的には土坑と考察されるが、埋土がブロック状の堆積であり確認面からの深度も浅いことから SX とした。

遺物は出土していない。

SX40 (図版 10・27、写真図版 23)

1B-8J18・19・24 に位置し、西端は調査区外へ延びる。規模は確認長 3.34m、最大幅 0.16m、確認面からの深度は 21cm で底面座標は 0.86m を測る。U 字状の断面形で、覆土が粗粒の灰黄褐色砂単層であることから、

地割れ痕と考察される。

遺物は出土していない。

SX37 (図版 10・27、写真図版 24)

1B-8J25、9J5、1C-8A21、9A1 に位置し、重複する SD3 に東壁を切られる。平面形は梢円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 1.64m、短軸 1.18m、確認面からの深度は 27cm を測る。覆土は黒褐色粘質土を主体に 7 層に分層され、黒色粘質土が帯状に入る特徴がある。規模や形態からは土坑の一形態と考察されるが、帯状に入る黒色粘質土の堆積状況から不明遺構として扱った。

遺物は須恵器無台杯 (119)・甕 (120)、土師器小甕 (121・122)、土製円盤 (1) を図示した。その他に須恵器杯蓋天井部片、土師器無台楕円縁部片・長甕体部片・鍋体部片が出土している。

SX14 (図版 10・27、写真図版 24)

1C-8A24・25、9A4・5 に位置し、重複する Pit26 より新しい。平面形は梢円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 1.79m、短軸 1.36m、確認面からの深度は 22cm を測る。覆土は褐灰色粘質土を主体に 6 層に分層され、底面付近はブロック状の堆積状況を示す。

遺物は出土していない。

SX83 (図版 12・27、写真図版 24)

2B-1H21・22 に位置する。平面形は長梢円形、断面形は階段状を呈し、主軸方向は N-64°-E を指す。規模は長軸 1.56m、短軸 0.69m を測り、確認面からの深度は 49cm で底面座標は 0.48m を測る。覆土は灰黄褐色粘質土と褐灰色粘質土を主体に、9 層に分層される。形態や土層の堆積状況から、土坑とピットの 2 遺構に分離される可能性や倒木痕の可能性も考察される。

遺物は古墳時代土師器甕 (123) が出土している。

SX107 (図版 13・27、写真図版 24)

2B-4F7・8・11~13・16・17・21 に位置し、重複する Pit111 より新しい。平面形は長梢円形、断面形は浅い弧状を呈す。規模は長軸 5.84m、短軸 1.22m、確認面からの深度は 16cm を測る。覆土は 4 层に分層され、灰黄褐色粘質土が主体となる。形態から溝状の搅乱とも考えたが、覆土および堆積状況から遺構とした。

遺物は土師器長甕体部片が出土している。

SX177 (図版 14・15・28、写真図版 25)

2B-4D16・17・21~23、5D2・3 に位置し、重複する SN130 を切る。溝状を呈し、断面形は弧状で、西端は調査区外へ延びる。規模は確認長 5.92m、最大幅 1.12m、確認面からの深度は 21cm を測る。西壁の土層観察によれば本遺構は近世水田遺構転作時のものと考えられる盛土下での検出であり、実際の深度は 40cm 程度と推察される。覆土は 3 層に分層され、褐灰色粘質土が主体である。走行方向は N-43°-W を指し SN130 の小溝群と類似するが、形態や覆土から SN130 には伴わないと考察される。

遺物は土師器無台楕 (124・125) が出土している。

ピット (Pit)

ピットは 95 基検出した。深度が浅く小規模なものが大半であるが、柱穴規模のものも存在する。まず、建物跡の可能性があるものを記す。

Pit35 (図版 10・29)

1C-8A22 に位置する。平面形は円形、断面形は U 字状を呈す。規模は長軸 0.28m、短軸 0.24m を測り、確認面からの深度は 44cm を測る。覆土は单層である。

遺物は出土していない。

Pit72 (図版 10・29、写真図版 25)

1C-8A23、9A3 に位置する。平面形は円形、断面形は U 字状を呈す。規模は直径 0.32m ほどであり、確認

面からの深度は35cmを測る。覆土は8層に分けられ、1・3・4層が柱痕と考えられる堆積状況である。

遺物は出土していない。

Pit23 (図版 10・29、写真図版 26)

1C-9A3に位置する。平面形は円形、断面形はU字状を呈す。規模は直径0.50mほどであり、確認面からの深度は38cmを測る。覆土は8層に分けられ、3・4・6層の粘質土が柱痕と考えられる。

遺物は出土していない。

Pit24 (図版 10・29、写真図版 26)

1C-9A7に位置する。平面形は円形、断面形はU字状を呈す。規模は長軸0.32m、短軸0.28m、確認面からの深度は40cmを測る。覆土は7層に分けられ、1・2層の粘質土が柱痕と考えられる。

遺物は土師器長甕口縁部片が出土している。

Pit25 (図版 10・29、写真図版 26)

1C-9A8に位置する。平面形は隅丸方形、断面形はU字状を呈す。規模は直徑0.24mほどであり、確認面からの深度は33cmを測る。覆土は単層である。

遺物は出土していない。

上記のPit23~25・35・72は覆土に柱痕状の堆積が見られるもの、柱穴状の規模を有するものである。これら5基のピットはいずれも調査区北東部のSD2・3とSD5・13による道路状遺構の可能性を含む群の交点付近に位置している(図版10)。他の遺構群の在り方から集落本体側に含まれる。これら5基の深度は近似しており、さらにPit24・25・35・72の配置を見ると、南北方向に軸をもつ桁行1間×梁行1間の掘立柱建物の可能性が考えられる。その場合棟方向はN-6°-Eを指し、柱間寸法は梁間長2.10m(7尺)、桁行長2.70m(9尺)を測る。Pit23はこれら4基のPit群の対角線交点上に位置している。規格性が窺えるため建物の施設と考えられるが、構造上の役割は不明である。

以下では特徴的なものの、遺物が出土したピットについて記す。

Pit21 (図版 10・29)

1C-8B16に位置し、SX6とSD18に切られる。平面形は梢円形、断面形は浅い弧状を呈す。規模は長軸0.35m、短軸確認長は0.22m、確認面からの深度は4cmを測る。覆土は単層である。

遺物は土師器無台椀口縁部片が出土している。

Pit41 (図版 10・29、写真図版 25)

1B-8J24、9J4に位置する。平面形は円形、断面形は台形状であり小規模な土坑状を呈す。規模は長軸0.48m、短軸0.43m、確認面からの深度は19cmを測る。覆土は2層のレンズ状堆積であり、黒褐色と褐灰色の砂質土からなる。他のピットの覆土は大半がシルト・粘質土であるに対し特異な状況である。

Pit26 (図版 10・29)

1C-8A24・25に位置し、SX14に切られる。平面形は円形、断面形は浅い台形状を呈す。規模は長軸0.38m、短軸0.33m、確認面からの深度は11cmを測る。覆土は単層である。

遺物は土師器無台椀体部片が出土している。

Pit43 (図版 10・29)

1B-9I15、9J11・16に位置する。平面形は円形、断面形は台形状を呈す。規模は直径0.28mほどであり、確認面からの深度は19cmを測る。覆土は単層である。

遺物は土師器長甕体部片が出土している。

Pit69 (図版 10・29)

1C-9A12に位置する。平面形は円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸0.40m、短軸0.37m、確認面からの深度は14cmを測る。覆土は単層である。

遺物は土師器長甕体部片が出土している。

Pit50 (図版 11・30)

1B-10I13 に位置する。平面形は円形、断面形は箱状を呈す。規模は直径 0.32m、確認面からの深度は 23cm を測る。覆土は単層である。

遺物は土師器小甕体部片が出土している。

Pit101 (図版 11・30)

2B-1H14・19 に位置する。平面形は円形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 0.25m、短軸 0.22m、確認面からの深度は 8cm を測る。覆土は単層である。

遺物は土師器小甕体部片が出土している。

Pit75 (図版 11・31)

2B-1I13 に位置する。平面形は円形、断面形は台形状を呈す。規模は直径 0.20m ほどであり、確認面からの深度は 7cm を測る。覆土は単層である。

遺物は土師器無台椀 (126) が出土している。その他に古墳時代土師器甕細片がある。

Pit94 (図版 12・31)

2B-1H17 に位置する。平面形は円形、断面形は U 字状を呈す。規模は直径 0.25m ほどであり、確認面からの深度は 24cm を測る。覆土は単層である。

遺物は須恵器無台杯 (127) が出土している。その他に土師器長甕体部片がある。

Pit77 (図版 11・31、写真図版 26)

2B-1H19・24 に位置する。平面形は円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.44m、短軸 0.37m、確認面からの深度は 21cm を測る。覆土は 4 層のレンズ状堆積であるが、遺構底面直上に灰黄褐色粘質土 (4 層) が薄く堆積し、その上に褐色粘質土 (1・3 層) に黒褐色粘質土 (2 層) が挟まれる状況で堆積しており、他とは異なる状況であった。

遺物は土師器小甕体部片が出土している。

Pit105 (図版 11・12・31)

2B-2H5 に位置する。平面形は楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.32m、短軸 0.24m、確認面からの深度は 14cm を測る。覆土は単層である。

遺物は土師器長甕体部片が出土している。

Pit89 (図版 11・12・31)

2B-2H10 に位置する。平面形は円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.33m、短軸 0.29m、確認面からの深度は 11cm を測る。覆土は単層である。

遺物は土師器鍋 (128) が出土している。

Pit184 (図版 14・15・32)

2B-5C25 に位置し、SD183 に切られる。平面形は楕円形と推定され、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.22m、短軸確認長は 0.08m、確認面からの深度は 7cm を測る。覆土は単層である。

遺物は土師器無台椀体部片が出土している。

Pit182 (図版 14・15・32)

2B-5C25 に位置し、SD183 を切っている。平面形は円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.29m、短軸 0.28m、確認面からの深度は 6cm を測る。覆土は単層である。

遺物は土師器無台椀体部片が出土している。

C 近世の遺構

近世の遺構としたものは、II層もしくはIII層から掘り込まれている。以下の2遺構のみである。

SX6 (図版10・26、写真図版16・23)

1C-8A15・20・25、8B6・11・12・16・17・21に位置する。重複するSD5・13・18、SK7・11、Pit20・21より新しく、北側および東側は調査区外へ延びる。平面は長方形、断面形は台形状を呈す。現況での規模は、確認長で長軸5.40m、短軸2.48mを測り、確認面からの深度は28cmを測る。覆土は暗褐色土および褐灰色土を主体に8層に分層され、堆積状況は水平である。基本土層I層下からの構築であり、近世以降の所産と考えられる。日水遺跡第3次調査において近世水田遺構とされている遺構〔今井・相沢2007〕と形態が類似することから、本遺構も畑に転作された際の地業と考察される。

遺物は出土していない。

SX147 (図版14・15・28、写真図版14・25)

2B-5C15・20、5D11・16・17・21・22、6D2に位置し、重複するSD149、SN150より新しい。溝状を呈し、断面形は深い弧状で、東端は調査区外へ延びる。規模は確認長6.56m、最大幅1.08m、確認面からの深度は13cmを測る。東壁の土層観察によれば本遺構は基本土層II層下からの掘り込みであり、実際の深度は43cm程度である。覆土は4層に分層され、炭化物を極少量含む黒褐色および暗褐色シルトが主体となる。掘り込み面および覆土から近世の遺構と考察される。

遺物は出土していない。

第V章 遺物

第1節 遺物の概要

出土遺物総量はコンテナ（内寸 54.5 × 33.6 × 10.0cm）にして 65 箱出土した。内訳は古墳時代の土器 11 箱、古代の土器 44 箱、中世陶磁器 1 箱、鉄製品・鍛冶関連遺物 3 箱、石製品 6 箱である。基本層 IV 層中からは主に古代・中世（室町時代）の土器・陶磁器が、V 層からは古墳時代の土器が出土している。ただし、古墳時代の土器は後世の搅乱等の影響で V 層以外の上層から出土した点数が多い。

各遺物の出土位置・種別・器種・胎土・法量・色調・焼成・調整・遺存率等については、別表 2~6 に示した。土器については遺在率が高くななくても、口縁部・底部などが把握できるものは可能な限り抽出し図化した。

第2節 古墳時代の遺物

古墳時代の土器類は、須恵器と土師器がある。SX1 出土の須恵器直口壺 1 点以外全て、包含層あるいは古代以降の遺構覆土内から出土の土師器である。土師器は 1,282 点、8,865.01g 出土している。全体の点数（比率）は壺 1,128 点（88.0%）、壺 93 点（7.3%）、鉢 14 点（1.1%）、高杯 35 点（2.7%）、器台 12 点（0.9%）である。全体の重量比率は壺 7,003.98g（79.0%）、壺 1,209.29g（13.7%）、鉢 96.57g（1.1%）、高杯 499.68g（5.6%）、器台 55.49g（0.6%）である。壺類の出土が多く、次に壺類が多く出土した。高杯・器台・鉢などは少量が出土した。壺・壺の分類に迷った体部片も多いが、それを差し引いても壺の率が高い。

包含層の出土状況（第 10 図）を見ると、調査区北東部の 1C-7A・8A グリッド周辺および調査区中央部の 2B-1H・1I グリッド周辺、調査区の南西側の 2B-3F グリッド周辺に比較的多く出土しているが、破片は小さい。包含層出土土器のうち、完形土器に復元できる土器は皆無である。その状況から、古墳時代遺跡本体から若干外れた位置にあったと考えられる。

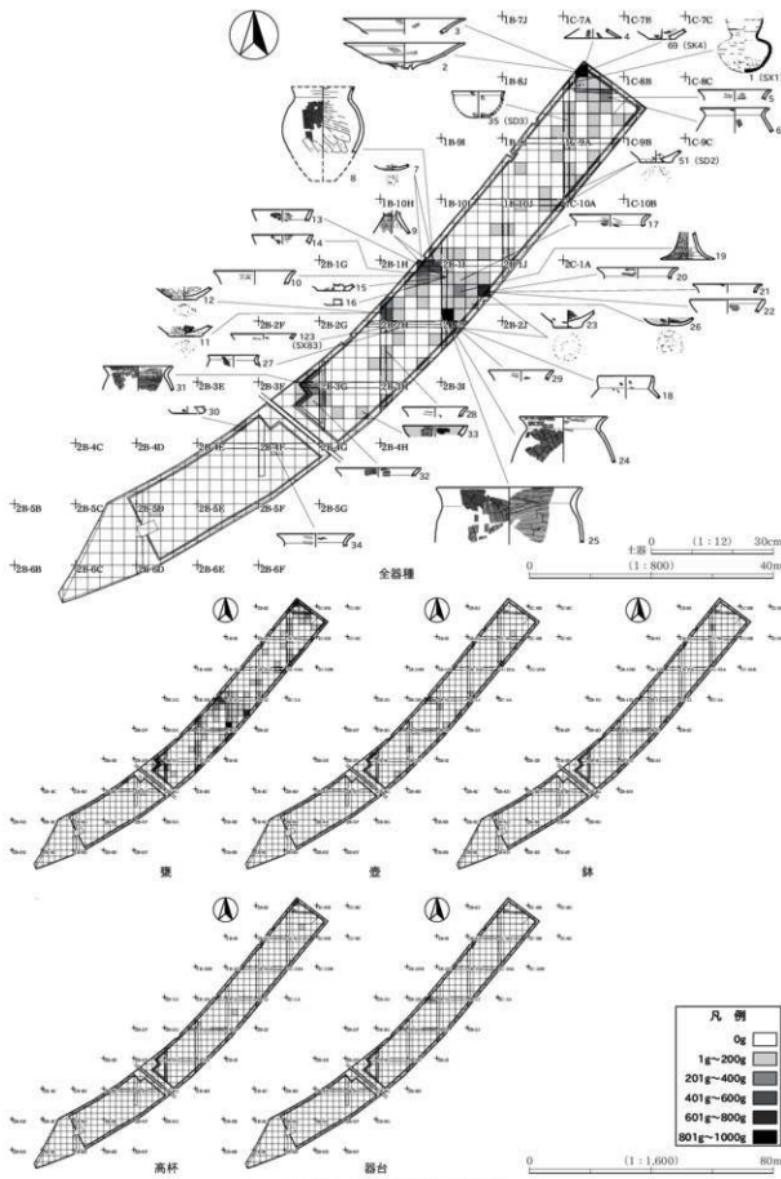
A 土器の分類と記述

記述は最初に土器分類を行い、次に下層遺構・下層包含層・上層遺構出土土器の順で記した。なお、上層遺構中から出土した遺物は古墳時代の遺物の中で記述を行った。

使用する用語は上大川遺跡（渡邊・池田 2009）にならう、成形・調整の名称は次のように記述した。

- 1 ハケメ：板の木口面を用い、土器の表面を調整するもので、器面には平行する条線が残される。
- 2 ヘラナデ：ハケメと同様の工具で、調整の際に残る木目の凹凸が明瞭でないもの。
- 3 ケズリ：板状の工具で器面を削るもので、砂礫の移動痕が明瞭に残るもの。
- 4 ミガキ：幅の狭い工具で器面を磨いているもので、工具痕が明瞭に残るもの。
- 5 ナデ：不定方向のナデ。回転を用いてなでるもので、工具痕が明瞭に残るものと残らないものがある。
- 6 指頭圧痕：指による強い圧痕。

胎土については、資料的な制約があり分類を行っていない。土器は、壺・壺・鉢・高杯・器台の 5 器種である（第 11 図）。器種ごとに細分しアルファベット（A・B……）とし、さらに細分する場合は数字を用いた。土師器の分類は川村浩司氏による分類（川村 2000）、上大川遺跡（渡邊・池田 2009）などを参考にし、高杯のみ杯部と脚部



第10図 古墳時代土器重量分布図

を分けて分類した。土師器壺類の中には「小型壺」とみられる体部破片もあったが、口縁部および底部資料が確認できなかつたので壺で一括した。

1) 須恵器

直口壺 体部が球胴形で口縁部が体部から直口して立ち上がる小形の壺である。

2) 土師器

壺

壺 A 類：口縁部が「く」字状または「コ」字状に屈曲するもの。

壺 A1 類：口端部が丸く収まり、さらに口縁部がある程度の長さを持ち、45 度程度屈曲するもの。

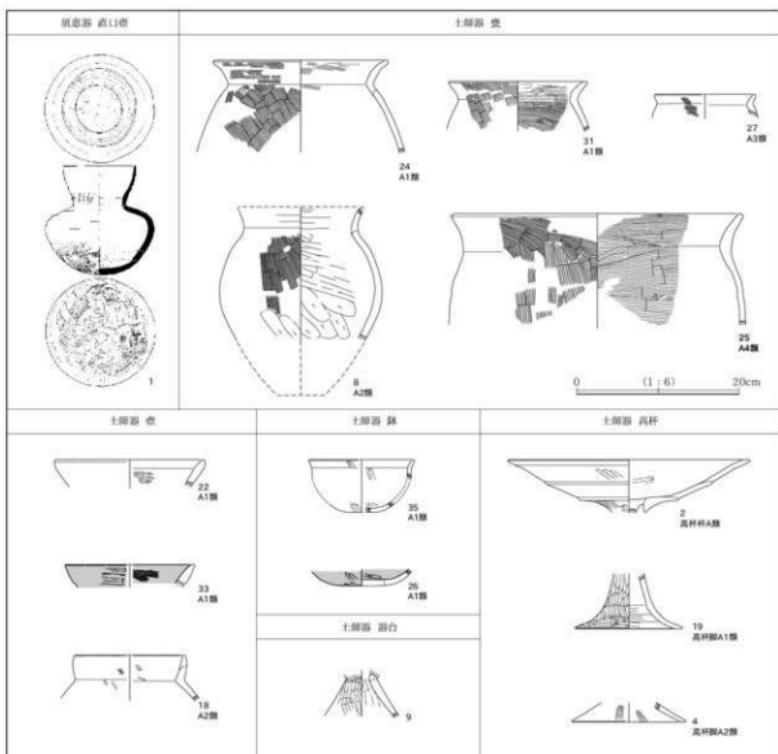
壺 A2 類：口端部が丸く収まり、さらに口縁部がある程度の長さを持ち、60 度程度屈曲するもの。

壺 A3 類：口端部が丸く収まり、さらに口縁部が短く、60 度程度屈曲するもので、比較的小形のもの。

壺 A4 類：口縁部に面を持ち、さらに口縁部がある程度の長さを持つ、比較的大形のもの。

壺

壺 A 類：口縁部が「く」字状に屈曲するもの



第 11 図 古墳時代土器分類図 (S=1/6)

壺 A1 類：口縁部が「く」字状に屈曲し、45度程度外反するもの。

壺 A2 類：口縁部が「く」字状に屈曲し、口縁部が直立気味に立ち上がるもの。

鉢

鉢 A 類：椀形の体部に「く」字状に屈曲する口縁部をもつもの。

高杯

高杯杯 A 類：杯部に段を持つもの（有段高杯）。

高杯脚 A 類：脚部に屈折を持たない脚を持つもの。

高杯脚 A1 類：脚部が緩やかなカーブで口端部にいたるもの。

高杯脚 A2 類：脚部が直線的に口端部にいたるもの。

器台

器台：受部が内湾気味に立ち上がるもの。

B 出土土器各説

掲載遺物は造構出土、次に包含層出土を掲載した。

1) 古墳時代造構出土土器

性格不明遺構（SX）

SX1（図版 33、写真図版 27）

須恵器直口壺（1）が出土している。口縁部が一部欠けているが、ほぼ完形である。口縁部の破損は調査時の発掘機器での破損である。口径 9.0cm、底径 12.0cm、器高 13.4cm、重量 507.6g である。器壁は口縁部近くで 2~3mm、体部の頭部近くで 4~5mm で、非常に薄手の造りである。体部は球胴形で外面の底部近くには平行タタキが底部全体に行われている。底部下底から 4cm 程度の位置でタタキが器面に対して平行して行われた後にナデられている。口縁部中ほどには断面三角形の隆帯が並行して 2 条廻る。その下には細密な波状文が全周し、11~14 単位確認できる。体部と口縁部の縦目にはケズリ痕が残る。内面の底部近くには指頭圧痕が残る。胎土は精良で焼きは緻密である。底部の中心に使用による擦れ痕が残る。

2) 古墳時代包含層出土土器（図版 34・35、写真図版 28）

1C-7A グリッド（図版 34、写真図版 28）

22 グリッドの高杯（2~4）を図示した。2 は屈曲段を 2 段持つ高杯杯 A 類である。3 は同じく高杯杯 A 類である。胎土や焼成から別個体としたが、同一個体の可能性もある。4 は小形の高杯の脚部である。高杯脚 A2 類である。

1C-8A グリッド（図版 34、写真図版 28）

9 グリッドの甕（5・6）を図示した。5 は A1 類の甕、6 も同様に A1 類の甕である。6 は、胎土が粗く、砂粒が多い。

2B-1H グリッド（図版 34、写真図版 28）

4 グリッドの甕（7）、5 グリッドの甕（8）・器台（9）、9 グリッドの甕（10）、21 グリッドの甕（11・12）を図示した。7 は甕の底部資料である。底部に指頭圧痕が残る。8 は A2 類の甕である。口縁部が僅かに欠損する。外面体部に細かいハケメが入る。長胴化した甕として復元した。9 は器台である。外面にミガキがある。10 は復元口径が 20cm の中形の甕である。A1 類に分類される。11・12 は甕の底部資料である。

2B-11 グリッド（図版 34・35、写真図版 28）

6 グリッドの甕（13~16）、7 グリッドの甕（17）、12 グリッドの高杯（19）、14 グリッドの甕（20・21）、甕（22）、18 グリッドの鉢（26）、21 グリッドの甕（24・25）、22 グリッドの甕（23）を図示した。13・14 は A1 類の口縁部が直口する甕である。15・16 は甕の底部資料である。17 は A1 類の甕である。19 は高杯の脚部である。脚部屈曲部が低位置にあり、緩やかなカーブで口端部にいたる。器面の剥落が激しいが、外面にはミガキがある。20・21 は A1 類の甕である。22 は A1 類の甕口縁部資料、23 は甕底部資料で、底部中央が凹む。24

はA1類の甕である。外面にハケメが残る。25はA4類の甕である。復元口径は36cmで比較的大形である。26はA類の鉢である。外面に赤彩がわずかに残る。器面の剥落が著しいが内外面ともに本来赤彩されていたものと考えられる。

2B-2H グリッド（図版35、写真図版28）

2グリッドの甕（27）、11グリッドの甕（28）を図示した。27は甕A3類で小形の口縁部資料である。28はA1類の甕である。

2B-2I グリッド（図版34・35、写真図版28）

1グリッドの甕（29）・2グリッドの甕（18）を図示した。29は甕A1類である。18は口縁部が直口気味に立ち上がる壺でA2類である。

2B-3E グリッド（図版35、写真図版28）

19グリッドの甕（30）を図示した。30は甕の底部資料である。

2B-3F グリッド（図版35、写真図版28）

5グリッドの甕（31）、10グリッドの甕（32）を図示した。31・32ともにA1類の甕である。

2B-3G グリッド（図版35、写真図版28）

14グリッドの甕（33）である。33の甕は内外面に赤彩されている。

2B-4F グリッド（図版35、写真図版28）

2グリッドの甕（34）である。34の甕はA1類に分類される。

3) 平安時代遺構出土土器（図版36・37・38、写真図版29・30）

本来の原位置を離れて平安時代の遺構中に包含された古墳時代土器の一部を提示する。以下の4遺構のみを取り上げたが、その他にも少量の出土がある。出土点数は別表7に示した。

SD3（図版36、写真図版29）

鉢（35）を図示した。その他に甕の細片が出土している。35の鉢は口径13cm、器高6.5cmで復元された。外面は良くミガキが施されている。口縁部が外反する。

SD2（図版36、写真図版29）

甕（51）を図示した。その他に甕が少量出土している。51の甕は底部が凹み、内外面は指頭圧痕が強く残る。

SK4（図版36、写真図版29）

甕（69）のみが出土している。底部片で内外面にハケメが残る。

SX83（図版38、写真図版30）

甕（123）が出土している。口縁部片で甕A1類に分類される。

C 古墳時代の石製品（図版42、写真図版27・33）

古墳時代の石製品は石製紡錘車（1）・敲石（2）の2点出土している。少量のため分類は行わない。出土状況は第14図に示した。

1は滑石製の石製紡錘車である。2B-2G18グリッドⅢ層から出土している。形態上の特徴から古墳時代の石製品と判断した。単独出土で、同グリッドから古墳時代の土器は出土していない。約半分で古く欠損する。茶灰色を呈する滑石を石材としており、糸魚川方面からの搬入品である。直径42.2mm、高さ15.9mm程度で断面形は片そろぼん玉状で、中心に直径6mmの穴を開けている。器面全面を研磨されており、表面は放射状の研磨痕が観察できる。2は安山岩製の敲石である。1C-8A25グリッドのV層から出土している。古墳時代包含層出土のため、古墳時代遺物と認定した。楕円形の自然石を素材として、長軸の両端に敲打痕が残る。

第3節 古代の遺物

古代の土器は、土師器・須恵器などコンテナにして44箱が出土している。土器以外では、石製品・土製品・鉄製品・鍛冶関連遺物がある。

土器の大半は包含層からの出土であるが、第12図で示したように調査区全域から出土している。

A 土器の分類と記述

1) 用語の説明

記述は最初に土器分類を行い、次に遺構別・包含層出土の須恵器・土師器・黒色土器の順に記した。形態や手法による分類はアルファベット(A・B……)で表記し、法量による分類はローマ数字(I・II……)で表した。

土器分類および成形・調整技法の表現は、駒首渦遺跡第3・4次調査報告書(渡邊ほか2009)などの記載を参考に、以下のとおりとした。

1. 「ロクロナデ」—ロクロ・回転台使用、「ナデ」—ロクロ・回転台未使用。
2. 「ロクロケズリ」—ロクロ・回転台使用、「ケズリ」—ロクロ・回転台未使用。
3. 「カキメ」—ロクロ・回転台使用、「ハケメ」—ロクロ—回転台未使用。
4. 「ミガキ」—ロクロ・回転台未使用。
5. 「タタキメ」—外面成形痕、「あて具痕」—内面成形痕。
6. 底部の「ヘラ切り」・「糸切り」は、いずれもロクロの回転を利用したものである。本来ならば「回転ヘラ切り」・「回転糸切り」とすべきものであるが、「回転」は省略した。
7. 「無調整」は切り離し後に調整を行わず、「再調整」はロクロナデ・ナデ・ロクロケズリ・ケズリ・ハケメなどの調整を行う。
8. 非ロクロ成形による小甕底部の「無調整」は切り離し技法の認められないもの。
9. 須恵器・土師器の区別は、基本的に形態による区分を重視した。

2) 分類(第13図)

I 須恵器

食膳具と貯蔵具がある。食膳具には杯蓋・無台杯・有台杯があり、貯蔵具には長頸壺(瓶)・横瓶・甕がある。須恵器の分類は、器形の判明する無台杯についてのみ行い、他の器種については行っていない。

杯蓋 杯に伴う蓋で、本来は有台杯に伴うと考えられる。

無台杯 杯のうち高台を持たないもの。器形の判るものが少なく器高指標による分類は出来なかつたため、口縁部の形状により2類に分類し、口径により6類に細別した。

A類：口縁部が直立もしくは外反するもの。

B類：口縁部が内湾するもの。

法量は、I：口径10cm以下、II：口径11cm前後、III：口径12cm前後、IV：口径13cm前後、V：口径14cm前後、VI：口径15cm前後、の6類に細別した。B類は法量III～Vのものしか確認されていない。

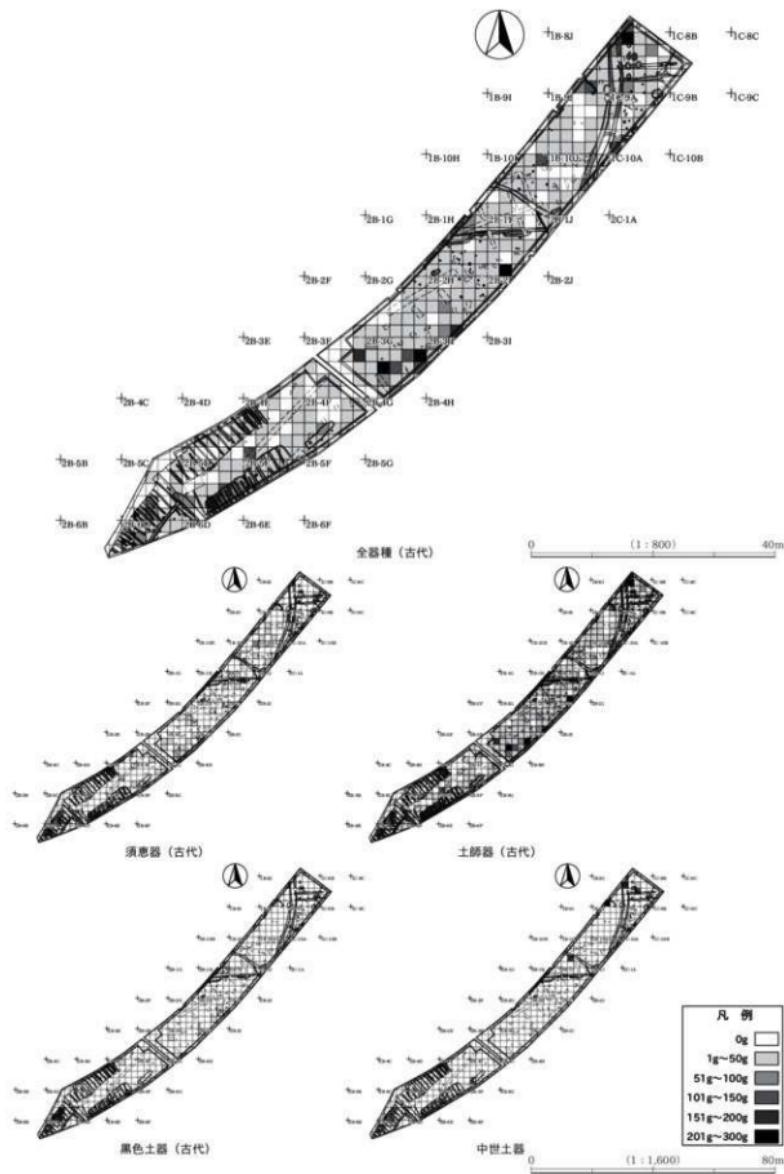
有台杯 杯のうち高台を持つもの。54・150の2点のみであり、分類は行っていない。

長頸壺 長い頸部を持つ壺・瓶。9点図示したが、分類は行っていない。

横瓶 依形の体部に、「く」字状の短い口縁部がつくもの。2点(76・179)を図示した。

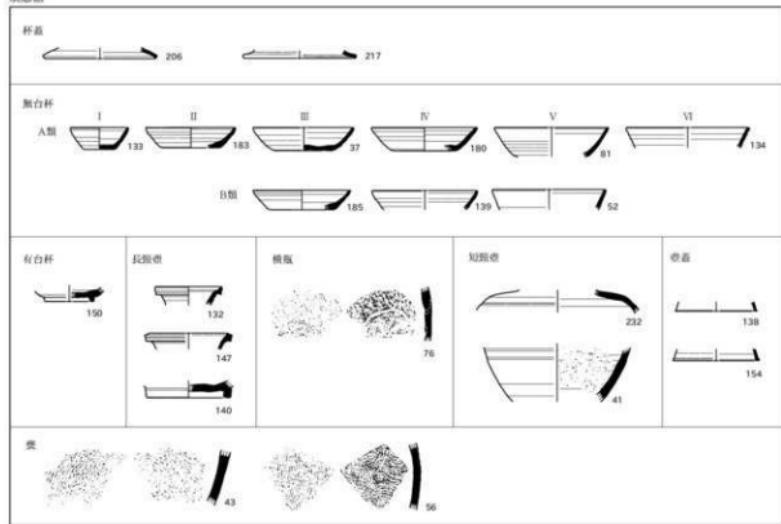
短頸壺 球形に近い体部に、短く直立した口部が付く壺。器形の判るものはないが、形状から2点(41・232)を短頸壺とした。

甕蓋 短頸壺に伴うと考えられる蓋。2点(138・154)が出土している。

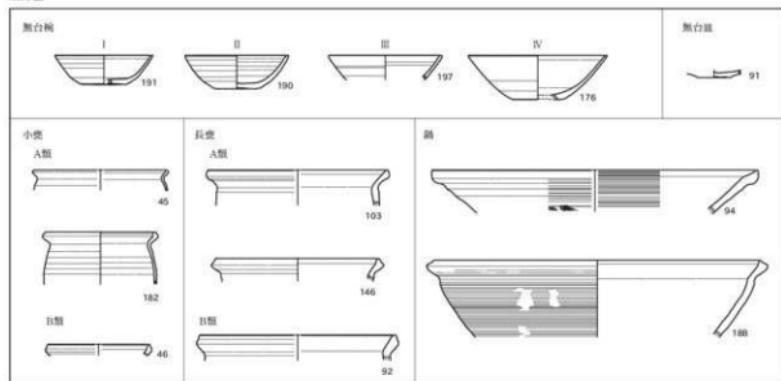


第12図 古代・中世土器重量分布図

須恵器



土師器



黒色土器



0 (1 : 6) 20cm

第13図 古代土器分類図

甕 大きな体部を持ち、貯蔵を目的としたもの。所謂大甕であるが、器形全体が把握できるものは少ない。また口縁部の形状が判る資料も少ないため分類は行っていない。

II 土師器

食膳具は無台椀、煮炊具は長甕、小甕、鍋の3種が出土している。

無台椀 ロクロ成形のもののみである。51点を図示したが、法量が判る資料が少ないので口径により、I：口径12cm前後、II：口径13cm前後、III：口径14cm前後、IV：口径15cm以上の4種に細分した。

無台皿 ロクロ成形のものが1点(91)出土している。

小甕 小形の甕で、おおむね器高が18cm未満のもの。ロクロ成形のもののみであり、口縁部形状により分類した。

A類：口縁部が「く」字状に屈曲し、口縁端部は丸みを帯びるもの。

B類：口縁部がほぼ直立もしくは内湾するもの。

長甕 長胴の甕。付着物はほとんど確認できなかった。ロクロ成形のもののみであるため、口縁部形状により分類した。

A類：外傾もしくは外反する口縁部をもち、口縁端部が丸みを帯びるもの。

B類：僅かに外傾もしくは外反する短い口縁部をもち、口縁端部が肥厚するもの。

鍋 ロクロ成形のものを14点図示したが、分類はしていない。

III 黒色土器

食膳具の無台椀と有台皿が、少量出土している。

無台椀 ロクロ成形のものが、4点(130・153・167・173)出土している。

有台皿 ロクロ成形のものが、1点(235)出土している。

3) 遺構出土遺物

SD3 (図版36、写真図版29)

須恵器杯蓋(36)・無台杯(37~40)、短頸壺(41)・甕(42・43)、土師器長甕(44)・小甕(45~49)・鍋(50)の15点を図示した。36の返りは不明であるが、深めの法量になると考えられる。37は黒斑が顕著な器高指数23.0のA III類、38は口縁部が玉縁状になるA III類である。41は外面に自然軸が付着する。36~43は、いずれも佐渡小泊窯産と考察される。44はタキメの体部片である。45はA類、46はB類と考えられ、47~49はいずれも底部片である。50は、口径40cm前後と考えられる。

SD2 (図版36、写真図版29)

須恵器無台杯(52・53)・有台杯(54)・甕の体部片(55・56)、土師器小甕(57・58)を図示した。52は玉縁状の口縁部が僅かに内湾するB V類、53はA III類である。52~56は、いずれも佐渡小泊窯産と考察される。57は口縁端部が摘み上げられたA類である。

SD13 (図版36、写真図版29)

土師器無台椀(59)を図示した。底部は糸切りである。

SD5 (図版36、写真図版29)

須恵器長頸壺(60)、土師器無台椀(61)・長甕(62)を図示した。60の底部内面には自然軸が付着する。62はA類で、口縁端部が摘み上がる。

SD9 (図版36、写真図版29)

須恵器甕片(63)、土師器無台椀(64)・長甕(65)を図示した。63は小泊窯産、64は糸切りの底部である。65はA類で、受け口状の口縁部である。

SD29 (図版36、写真図版29)

土師器鍋(66)を図示した。ロクロ成形で、口縁端部に面を持つ。

SD55 (図版 36、写真図版 29)

土師器無台椀 (67) を図示した。糸切りの底部片である。

SK15 (図版 36、写真図版 29)

須恵器長頸壺 (70) を図示した。高台片で、小泊窯産と考察される。

SK7 (図版 37、写真図版 29)

須恵器無台杯 (72)、土師器長甕 (73) を図示した。72 は小泊窯産と考察されるが、胎土に焼土粒が混じる。73 は、口縁端部が摘み上げられる A 類である。

SN130 (図版 37、写真図版 29)

SD136 出土の土師器無台椀 (74)、SD139 出土の土師器鍋 (75)、SD141 出土の須恵器横瓶 (76)、SD144 出土の須恵器甕 (77)、耕作土出土の須恵器無台杯 (78)、土師器無台椀 (79)・小甕 (80) を図示した。75 は口径 40cm 程度で、口縁端部が摘み上がる。76 は閉塞板で、小泊窯産と考察される。78 は A V 類で、小泊窯産。79 は糸切りの底部と考えられるが、摩耗により不明瞭であり、焼成が硬質であることから酸化焰焼成須恵器の可能性もある。

SN112 (図版 37、写真図版 29)

SD115 出土の須恵器無台杯 (81)、土師器長甕 (82)、SD116 出土の土師器無台椀 (83・84)、耕作土出土の須恵器無台杯 (85~90)、土師器無台皿 (91)・長甕 (92)・鍋 (93) を図示した。81 は A V 類であるが、口縁端部が僅かに内傾する。82 は A 類。83 は II 類、84 は III 類である。85 は A III 類、86 は B III 類、87 は A IV 類、88~90 は底部片である。88 は胎土が粗く、焼成不良もしくは笠神丘陵窯跡群など阿賀北産の可能性がある。それ以外は小泊窯産と考察される。91 は、底部を疑高台状に調整する。92 は B 類である。

SN129 (図版 37・38、写真図版 29・30)

SD120 出土の土師器鍋 (94)、耕作土出土の須恵器長頸壺 (95)、土師器無台椀 (96~99)・小甕 (100~102)・長甕 (103~106)・鍋 (107) を図示した。94 は口縁部で、内外面共にカキメ調整が施される。95 は高台で、小泊窯産と考察され外面に自然軸が付着する。96 は口縁端部がやや外反する III 類、97 は大振りの椀、98・99 は共に底径 6.0cm である。100~102 は、いずれも糸切りの底部である。103・104 は A 類、105 は外面カキメ調整される B 類、106 はタタキメが顕著である。107 は、口縁端部に面を持つ。

SN150 (図版 38、写真図版 30)

SD156 出土の土師器小甕 (108)、SD158 出土の土師器無台椀 (109)、SD163 出土の土師器鍋 (110)、耕作土出土の須恵器甕 (111~113)、土師器無台椀 (114~115)・小甕 (116~117)・鍋 (118) を図示した。108 は A 類、109 は I 類である。111・112 は、外面を砥石に 2 次利用される。114 は II 類、115 は IV 類の大形の椀と考察される。116 は A 類、117 は B 類と考えられる。

SX37 (図版 38、写真図版 30)

須恵器無台杯 (119)・甕 (120)、土師器小甕 (121・122) を図示した。119 は玉縁状の口縁を有する A III 類で、120 と共に小泊窯産である。121 は A 類、122 は口縁端部を受け口状に摘み上げた A 類と考えられる。

SX177 (図版 38、写真図版 30)

土師器無台椀 (124・125) を図示した。124 は I 類、125 は糸切りの底部である。

Pit75 (図版 38、写真図版 30)

土師器無台椀 (126) を図示した。口縁部がやや外反する I 類である。

Pit94 (図版 38、写真図版 30)

須恵器無台杯 (127) を図示した。A IV 類で、口縁端部はやや玉縁状を呈す。

Pit89 (図版 38、写真図版 30)

土師器鍋 (128) を図示した。やや受け口状の口縁部で、口径は 41.0cm である。

4) 包含層出土遺物

1B-8J グリッド (図版 38、写真図版 30)

23 グリッド出土の須恵器杯蓋 (129) を図示した。小泊窯産で、内外面ともにロクロナデ調整される。

1B-9I グリッド (図版 38、写真図版 30)

20 グリッド出土の黒色土器無台椀 (130) を図示した。ミガキを施した後に、内面黒色処理される。法量は無台椀のⅢ類に比定される。

1B-9J グリッド (図版 38・39、写真図版 30)

5 グリッド出土の須恵器無台杯 (131)、10 グリッド出土の須恵器長頸壺 (132)、14・17・23 グリッド出土の須恵器無台杯 (133)、17 グリッド出土の須恵器無台杯 (134・135)、21 グリッド出土の須恵器無台杯 (136)、土師器小甕 (137)、23 グリッド出土の須恵器壺蓋 (138) を図示した。131は糸切り後ケズリをした底部片、132は口縁部片である。133は A I 類で、口径 7.0cm・器高指数 38.6・底径指数 57.1 と小形である。134は A VI 類、135・136 は糸切りの底部片である。138 は薄手の壺蓋である。131～136・138 はいずれも小泊窯産と考えられる。

1B-10I グリッド (図版 39、写真図版 30)

5 グリッド出土の須恵器長頸壺 (140)、土師器小甕 (141)、15 グリッド出土の須恵器無台杯 (139) を図示した。139は口唇部が僅かに内湾する B IV 類、140 は高台付の底部である。いずれも小泊窯産と考えられる。141 は A 類である。

1B-10J グリッド (図版 39、写真図版 30)

1 グリッド出土の須恵器無台杯 (142)、2 グリッド出土の須恵器無台杯 (143)、13 グリッド出土の須恵器無台杯 (144)、17 グリッド出土の須恵器長頸壺 (145) を図示した。142 は A III 類、143 は A IV 類、144 は A V 類である。142～145 はいずれも小泊窯産と考えられる。

1C-8A グリッド (図版 39、写真図版 30)

1 グリッド出土の土師器長甕 (146)、17 グリッド出土の須恵器長頸壺 (147) を図示した。146 は A 類、147 は小泊窯産の口縁部片である。

1C-9A グリッド (図版 39、写真図版 30)

6 グリッド出土の須恵器無台杯 (148)、13 グリッド出土の須恵器無台杯 (149)、21 グリッド出土の須恵器有台杯 (150)・甕 (151) を図示した。148 は口唇部が僅かに内湾する B III 類、149 は B IV 類である。150 は底部片、151 は体部片である。148～151 は、いずれも小泊窯産と考えられる。

2B-1G グリッド (図版 39、写真図版 30)

25 グリッド出土の須恵器無台杯 (152) を図示した。小泊窯産と考えられる。

2B-1H グリッド (図版 39、写真図版 30)

4・5 グリッド出土の黒色土器無台椀 (153)、9 グリッド出土の須恵器壺蓋 (154)、19 グリッド出土の土師器無台椀 (155)、須恵器甕 (156)、23 グリッド出土の土師器無台椀 (157) を図示した。153 は体部を縱方向にミガキされた後に内面黒色処理される。154 は薄手、155 は硬質で酸化焰焼成須恵器の可能性もある。156 は、外表面を砥石に転用されている。157 は、外表面が摩耗する。

2B-1I グリッド (図版 39、写真図版 30・31)

1 グリッド出土の土師器小甕 (158)、3 グリッド出土の須恵器無台杯 (159)、8 グリッド出土の土師器小甕 (160)、16 グリッド出土の須恵器無台杯 (161) を図示した。158 は糸切り、160 はヘラ切りの底部である。159 は A V 類、161 は A IV 類で、ともに小泊窯産と考えられる。

2B-2G グリッド (図版 39、写真図版 31)

5 グリッドと 15 グリッド出土の土師器無台椀 (162・163) を図示した。ともに糸切りの底部である。

2B-2H グリッド (図版 39、写真図版 31)

6 グリッド出土の須恵器無台杯 (164)、7 グリッド出土の須恵器無台杯 (165)・甕 (166)、9 グリッド出土の黒色土器無台椀 (167)、土師器小甕 (168)、11・12・14 グリッド出土の土師器無台椀 (169~171)、15 グリッド出土の土師器無台椀 (172)、黒色土器無台椀 (173)、19 グリッド出土の土師器無台椀 (174)、22 グリッド出土の土師器鍋 (175)、23 グリッド出土の土師器無台椀 (176・177) を図示した。164 は器高指数が 25.0 の A III類、165 は口唇部が僅かに内湾する B IV類、166 は外面に自然軸が付着しており砾石として転用された可能性もある。167 は器高指数 36.0 とやや深めで、内面黒色処理される。168 は、摩耗が著しいが A 類と考えられる。169 は III類、170~172 は底部片である。173 は、内面黒色処理された後に縦位のミガキが丁寧に施される。174 は底部片、175 は短く僅かに外反する口縁部をもつ。176 は口径 17.0cm、器高指数 32.1 と大振りの IV類、177 は糸切りの底部片である。

2B-3E グリッド (図版 39、写真図版 31)

20 グリッド出土の須恵器無台杯 (178)、23 グリッド出土の須恵器横瓶 (179) を図示した。178 は A VI類、179 は閉塞板で内面を砾石に転用される。ともに小泊窯産と考えられる。

2B-3F グリッド (図版 39、写真図版 31)

10 グリッド出土の須恵器無台杯 (180)、土師器無台椀 (181) を図示した。180 は小泊窯産の A IV類、181 は器高指数 30.8 の II類である。

2B-3G グリッド (図版 39・40、写真図版 31・32)

1 グリッド出土の土師器小甕 (182)、4・5・9 グリッド出土の須恵器無台杯 (183~185)、10 グリッド出土の土師器無台椀 (186)・小甕 (187)・鍋 (188)、12 グリッド出土の須恵器無台杯 (189)、土師器無台椀 (190~193)、13 グリッド出土の須恵器甕 (194)、土師器小甕 (195・196)、14 グリッド出土の土師器無台椀 (197~200)、15 グリッド出土の土師器小甕 (201)・鍋 (202)、16 グリッド出土の土師器無台椀 (203)、19 グリッド出土の須恵器無台杯 (204・205)、23 グリッド出土の須恵器杯蓋 (206) を図示した。182 は A 類、183 は器高指数 22.7 の A II類、184~185 は口唇部が僅かに内湾する B III類で 185 は玉縁状となる。186 は糸切りの底部、187 は A 類、188 は口縁端部に面を持つ。189 は底部片、190 は器高指数 32.3 の II類、191 は I 類、192 は II類と考えられる。193 は底部片、194 は体部片、195・196 はともに糸切りの底部片である。197 は III類、198・199 は I 類、200 は底径が 6.5cm と大きい。201 は糸切りの底部、202 は口縁端部が摘み上げられる。203・205 は底部片、204 は A V類、206 は口径 13.4cm で返りは浅い。須恵器はいずれも小泊窯産と考えられる。

2B-3H グリッド (図版 40、写真図版 32)

1 グリッド出土の須恵器無台杯 (207)、土師器無台椀 (208)、2 グリッド出土の土師器無台椀 (209・210)、6 グリッド出土の須恵器無台杯 (211)、7 グリッド出土の土師器無台椀 (212・213) を図示した。207・208・210 は底部片、209 は III類、211 は口唇部が僅かに内湾し玉縁状となる B III類である。212・213 は底部片である。

2B-4E グリッド (図版 40・41、写真図版 32)

2・10 グリッド出土の土師器無台椀 (214・215)、13 グリッド出土の須恵器甕 (216)、20 グリッド出土の須恵器杯蓋 (217)、21 グリッド出土の土師器無台椀 (218)、22 グリッド出土の土師器鍋 (219) を図示した。214 は小振りと推察され、215 は底部片である。216 は外面を砾石に転用した可能性が考えられ、217 の口縁端部には、丸みを帯びた返りが付く。218 は III類、219 は短口縁である。

2B-4F グリッド (図版 41、写真図版 32)

4 グリッド出土の土師器無台椀 (220)、6 グリッド出土の須恵器無台杯 (221)、土師器無台椀 (222)、10 グリッド出土の須恵器無台杯 (223)、12 グリッド出土の土師器小甕 (224)・鍋 (225)、16 グリッド出土の土師器小甕 (226・227)、17 グリッド出土の須恵器無台杯 (228) を図示した。220・222 は底部片、221 は A II類、223 は A IV類である。224 は底部片、225 は短口縁で端部に面を持つ。226 は B 類、227 は A 類、228 は A IV類

である。

2B-5D グリッド (図版 41、写真図版 32)

12 グリッド出土の土師器無台榤 (229) を図示した。底径 4.5cm の底部片である。

2B-6C グリッド (図版 41、写真図版 32)

5 グリッド出土の須恵器長頸壺 (230) を図示した。口縁部片で、内面に薄く自然釉が付着する。小泊窯産と考えられる。

5) 捜乱出土遺物 (図版 41、写真図版 32)

2B-119 グリッド出土の須恵器無台杯 (231)、2H2 グリッド出土の須恵器短頸壺 (232)、2H7 グリッド出土の須恵器無台杯 (233)、5D2 グリッド出土の須恵器長頸壺 (234)、5D17 グリッド出土の黒色土器有台皿 (235)、5E8 グリッド出土の土師器無台榤 (236) を図示した。231・233 は底部片、232 は肩部、234 は高台部で、すべて小泊窯産と考えられる。235 は内面黒色処理が施され、高台の接地部はアーチ状の瘤みを持つ。236 は、糸切りの底部片である。

B 石製品・礫 (図版 42・43、写真図版 33)

古墳時代の石製品 2 点を除くその他 28 点の石製品は、包含層Ⅲ・Ⅳ層あるいは平安時代の遺構覆土中から出土している。わずかに中世の陶磁器が包含層中から出土しているが絶対量が少なく、石製品の帰属時期は大多数の平安時代土器と同時期として提示する。出土した石製品種別は、砥石・台石・敲石・磨石・軽石製石製品などがある。石材は安山岩・花崗岩・チャート・凝灰岩などを用いており、阿賀野川流域などの近隣河川などからの入手が考えられる。出土状況は第 14 図に示したとおりである。観察表は別表 4 に示した。資料数が少数のため、器種ごとに示した。また、細分類は行っていない。遺跡内から出土した礫の総数は 53 点 (5645.17g) であり、阿賀野川流域の安山岩などの石材を搬入して利用している。

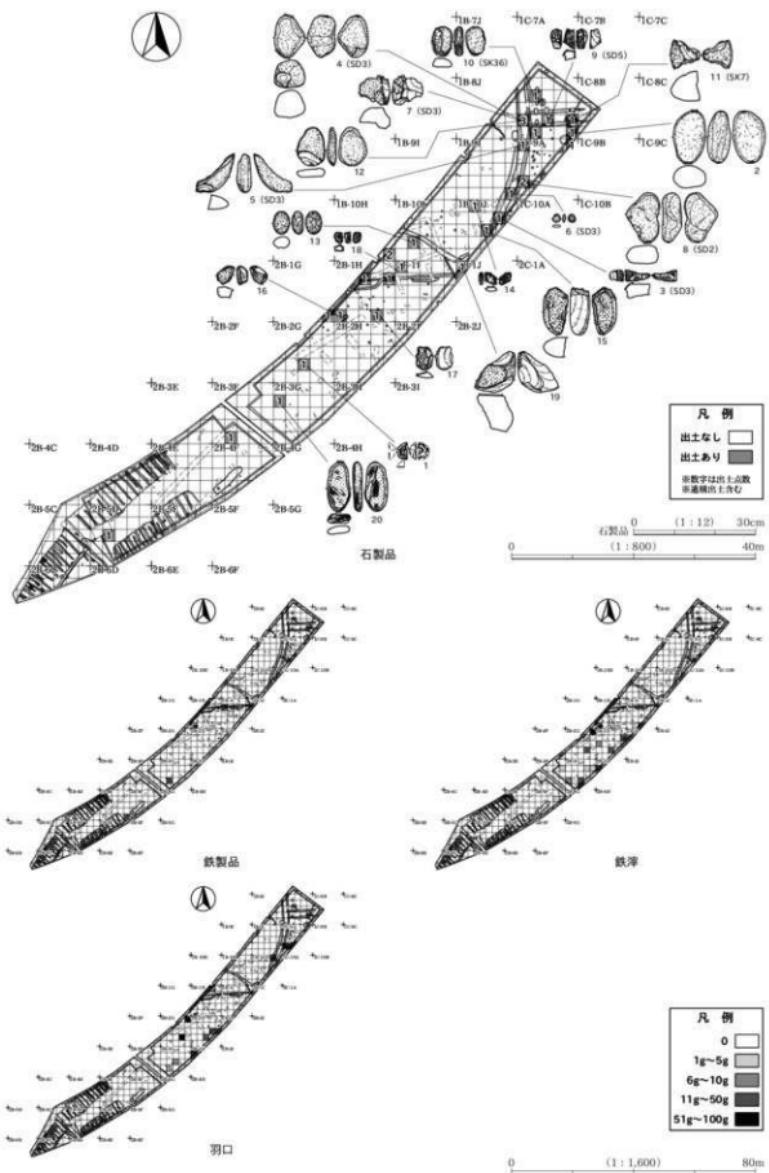
砥石 5 点 (3・9・14・17・18) 出土している。3 は凝灰岩製の砥石の破損資料である。上下端を欠損している。形状から手持ち砥石と考えられる。1 面に砥面を持つ。9 は凝灰岩製の砥石である。3 面に砥面が確認できる。断面形が四角になる典型的な手持ち砥石と考えられるが、上下端が欠損している。14 は凝灰岩製の砥石である。砥面が表・裏・側面の 3 面に確認できる。砥石破損品の再加工品と考えられる。17 は、緑色凝灰岩製の砥石破片である。砥石の再加工の際の剥片と考えられる。18 は、砂岩製の棒状の砥石である。砥面が 4 面確認できる。

台石 2 点 (15・19) 出土している。15 は花崗岩製の台石片である。わずかに表裏面に磨痕が確認できる。19 は安山岩製の台石破損片である。

敲石 6 点 (4・5・8・10・12・20) 出土している。4 は凝灰岩製の両端に敲痕が残る資料である。5 は花崗岩製の敲石である。上端が破損している。8 はチャート製の敲石である。端部に敲痕が残る。10 は花崗岩製の敲石である。風化が激しく、側面が崩れている。下端部に敲跡が残る。12 は凝灰岩製の敲石である。敲痕が下端に残る。20 はホルンフェルス製の敲石である。両端に敲痕が残る。表裏面に砥面が残り、手持ち砥石として転用されている。

磨石 1 点 (6) 出土している。小形の円形自然石を用いており、凝灰岩製である。表裏面に弱い磨痕が残る。

軽石製石製品 14 点出土している。破片の 10 点を除き、4 点 (7・11・13・16) 出土している。軽石は阿賀野川流域で産出し、福島県沼沢の绳文時代前中期(約 5,000 年前)に起きた火山活動により噴出した軽石が、阿賀野川によって下流域に運ばれたものである。現在でも、阿賀野川流域で行われている砂利取り場で確認できる。軽石製石製品は、明らかに遺跡内に使用を目的に搬入されている。何かを擦るような作業が行われたと考えられるが、表面の加工や使用痕が分かりにくいため分類せず一括して報告する。資料の増加によっては、将来細分類されるものと考える。7 は大形の楕円形資料の破片である。11 も楕円礫の破片である。使用痕等は不明瞭



第14図 石製品・鐵製品、鍛冶関連遺物重量分布図

である。13は梢円形の軽石製品である。16は不正形の平面形を持つ。

第4節 中世の遺物

珠洲焼片口鉢類・壺・甕、青磁が数点出土しているが、出土量が少なく分類は行っていない。また、口縁部片がないため明確な時期は不明であるが、珠洲焼片口鉢類の形状から吉岡編年（吉岡 1994）のIV期頃（14世紀、室町時代）と考察される。出土状況を第12図に示した。

1) 遺構出土遺物

SD55（図版36、写真図版29）

珠洲焼壺（68）を図示した。紐口クロ成形によるR種の体部片である。

SK8（図版37、写真図版29）

珠洲焼甕（71）を図示した。紐口クロ成形によるR種の底部片である。底部近くの体部外面には指頭圧痕が見られ、立ち上がり角度からF類と考察される。

2) 包含層出土遺物

1B-8J グリッド（図版41、写真図版32）

23 グリッド出土の珠洲焼片口鉢（237）を図示した。内面の卸目は幅2.1cmの8本一単位である。

1B-10I グリッド（図版41、写真図版32）

17 グリッド出土の珠洲焼片口鉢（238）を図示した。内面が摩耗しており、卸目、調整等は不明である。

1C-8A グリッド（図版41、写真図版32）

6・8 グリッド出土の珠洲焼甕（239・240）を図示した。239は大甕の体部片で、外面はタタキメ、内面はあて具痕による調整で、内外面および1側縁の3面を砥石に転用している。240は体部片で、外面をタタキメ、内面をあて具痕による調整である。

2B-11 グリッド（図版41、写真図版32）

6 グリッド出土の青磁（241）を図示した。楕の体部片と思われるが、小片であり外面文様も確認できないため、詳細は不明である。

2B-4F グリッド（図版41、写真図版32）

16 グリッド出土の珠洲焼甕（242）を図示した。外面をタタキメ、内面をあて具痕により調整される。

第5節 土製品（図版44、写真図版34）

土製円板（1）・転用砥石（2～5）を図示した。1はSX37出土で、須恵器甕の体部を素材とする。側縁を両面からの敲打により成形し、長軸2.30cm、短軸1.95cmを測る。2・3はSN150耕作土出土の須恵器甕で、体部外面を砥石に転用する。4は2B-3E23グリッド出土の須恵器横瓶で、閉塞板の内面を砥石に二次利用する。5は1C-8A6グリッド出土の珠洲焼大甕で、内・外表面および1側縁の3面を砥石に二次利用する。

第6節 鍛冶関連遺物（図版44、写真図版34）

輪の羽口8点（6～13）、棒状製品（14）、板状製品（15）、釘類（16～18）、鍛冶滓（19～26）を図示した。出土状況は第14図に示した。

6は1B-10J10グリッド出土で、外径8.0cm、孔径3.6cmと大形の羽口で、長さは8.4cmである。断面は六角形で、外面には粘土質溶解物が厚く付着する。7は1C-9A16グリッド出土で、外径は7.6cmと推定され

る。8は2B-2G5 グリッド出土で、外径 6.6cm、孔径 3.0cm で外面の溶解が進んでいる。9は2B-2G19 グリッド出土で、外径 5.0cm、孔径 2.2cm、長さ 5.7cm を測る。10は2B-2H15 グリッド出土で、外径 5.5cm、孔径 2.8cm、長さ 2.9cm である。11は2B-2H18 グリッド出土で、外径 6.8cm、孔径 2.8cm を測り、外面の面取り状態から断面は8角形になると考察される。12・13は2B-3H1 グリッド出土で、12は外径 5.4cm、孔径 3.2cm、長さ 2.7cm、13は外径 6.0cm、孔径 3.1cm、長さ 5.4cm を測る。

14はSD3出土で、長さ 3.35cm で端部がほぼ直角に折れ曲がる断面円形の製品である。15は2B-1H21 グリッド出土の厚さ 0.55cm の薄板で、刃部の可能性もあるが区などが無いため板状製品とした。16は2B-116 グリッド出土の頭部を一部欠損した環頭釘で、幅 0.5cm、厚さ 0.7cm を測る。長さは 7.2cm であるが、先端を欠損しており 3寸釘であると推察される。17は2B-3G17 グリッド出土で環頭釘状を呈するが、身の断面が円形であり留金具の可能性が高い。幅 2.0cm、厚さ 1.9cm、長さ 3.5cm で先端は欠損する。18は2B-4E25 グリッド出土の釘と考えられるが、両端を欠損するため形状は不明である。幅 0.95cm、厚さ 0.80cm、長さ 4.4cm。

19はSD3出土の鉄滓で、重さ 98.92g を測る。20・21はSD5出土の鉄滓で、20は重さ 54.26g、21は長さ 8.3cm、幅 8.2cm、厚さ 2.5cm の椀形滓である。22はPit104出土の鉄滓で、重さ 22.62g で僅かに発泡する。23は2B-1123 グリッド出土で、重さ 42.93g の椀形滓と考えられる。24は2B-2G5 グリッド出土の重さ 41.10g の鉄滓、25は2B-2G19 グリッド出土の重さ 29.11g の椀形滓と考えられる。26は2B-3G17 グリッド出土で、重量 8.0g の鉄滓である。

第VI章 自然科学分析

第1節 植物珪酸体分析

A はじめに

植物珪酸体は植物の細胞内に珪酸 (SiO_2) が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壤などから検出して同定・定量する方法で、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山 2000）。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山 1984）。

B 試 料

分析試料は、基本層序のIV層（古代～中世）とV層（古墳時代）から採取された2点、および畠状遺構（平安時代）の溝部（3層）と畠部（4層）から採取された6点の計8点である。試料採取箇所を分析結果図に示す。

C 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスピース法（藤原 1976）を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を 105°C で 24 時間乾燥（絶乾）。
- 2) 試料約 1g に対し直徑約 $40 \mu\text{m}$ のガラスピースを約 0.02g 添加（ 0.1mg の精度で秤量）。
- 3) 電気炉灰化法 (550°C ・6時間) による脱有機物処理。
- 4) 超音波水中照射 (300W ・ 42kHz ・10分間) による分散。
- 5) 沈底法による $20 \mu\text{m}$ 以下の微粒子除去。
- 6) 封入剤（オイキット）中に分散してプレバラート作成。
- 7) 検鏡・計数。

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスピース個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレバラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスピース個数に、計数された植物珪酸体とガラスピース個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重）をかけて、単位面積で厚層1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる（杉山 2000）。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

D 分析結果

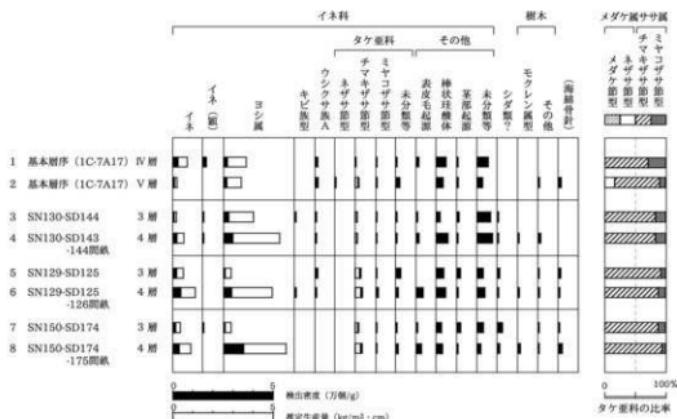
1) 分類群

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第3表および第15図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真（第16図）を示す。

第3表 日水遺跡における植物珪酸体分析結果

検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群	学名	地点・試料							
		1	2	3	4	5	6	7	8
イネ科	Gramineae								
イネ	<i>Oryza sativa</i>	25	7	6	19	18	39	13	31
イネ属(穀の表皮細胞)	<i>Oryza sativa</i> (husk Phytolith)	18		6	6			6	
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	18	14	24	45	6	39	6	50
キビ族型	Panicaceae type			6			7		
ウシクサ族A	Andropogoneae A type	12	14	6	6	12	7		
タケ亜科	Bambusoideae								
ネササ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nesasa</i>		7						
チマキサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	6	20	12	13	31	39	19	37
ミヤコサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	6	7	6	6	6	13	6	6
未分類等	Others	6	20	6	6	25	13	6	12
その他のイネ科	Others								
表皮毛起源	Husk hair origin	12		6	13		33	6	25
種状丘體	Rodshaped	49	34	18	58	37	46	26	31
茎部起源	Stem origin	6	7	12	6	18	7	19	6
未分類等	Others	55	27	67	77	31	39	32	19
シダ類	Fern			6	6	12	7	26	12
樹木起源	Arboreal								
モクレン属型	<i>Meganelia</i> type				6		7		12
その他	Others		7		13	6	7	6	6
(海綿骨針)	Sponge spicules		14			12	7	6	19
植物珪酸体総数	Total	215	163	183	283	203	300	174	248
おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m ² ・cm): 試料の仮比重を1.0と仮定して算出									
イネ	<i>Oryza sativa</i>	0.72	0.20	0.18	0.57	0.54	1.15	0.38	0.91
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	1.16	0.85	1.54	2.84	0.39	2.47	0.41	3.12
ネササ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nesasa</i>		0.03						
チマキサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	0.05	0.15	0.09	0.01	0.23	0.29	0.15	0.28
ミヤコサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.04	0.02	0.02
タケ亜科の比率 (%)									
ネササ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nesasa</i>		16						
チマキサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	71	74	83	83	93	88	88	94
ミヤコサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	29	10	17	17	7	12	12	6
メダケ率	Medake ratio	0	16	0	0	0	0	0	0



第15図 日水遺跡における植物珪酸体分析結果

〔イネ科〕

イネ、イネ（穂の表皮細胞由来）、ヨシ属、キビ族型、ウシクサ族A（チガヤ属など）

〔イネ科-タケ亜科〕

ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など）、ミヤコザサ節型（ササ属ミヤコザサ節など）、未分類等

〔イネ科-その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、茎部起源、未分類等

〔シダ類〕

〔樹木〕

モクレン属型、その他

2) 植物珪酸体の検出状況

① 基本層序

V層（試料1）では、イネ、ヨシ属、ウシクサ族A、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型、樹木（その他）などが検出されたが、いずれも比較的少量である。イネの密度は700個/gと低い値であり、稻作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている5,000個/g（状況により3,000個/gとする場合もある）を下回っている。なお、畑耕作（除草栽培）の場合は、連作障害や地力の低下を避けるために輪作を行ったり休耕期間をおく必要があることから、イネの密度は水田よりもかなり低くなり、1,000～2,000個/g程度である場合が多い（杉山2000）。

IV層（試料2）では、イネがやや増加し、イネの粉穀（穂の表皮細胞）に由来する植物珪酸体も認められた。イネの密度は2,500個/gと比較的低い値である。なお、イネ以外のイネ科栽培植物（ムギ類、ヒエ属、キビ属など）に由来する植物珪酸体はいずれの試料からも検出されなかった。おもな分類群の推定生産量によると、おおむねヨシ属が優勢となっている。

② 番状遺構の溝部と歯部

番状遺構の歯部（4層：試料4、6、8）では、ヨシ属が比較的多く検出され、イネ、ウシクサ族A、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型、およびモクレン属型などの樹木も認められた。イネの密度は、試料6と試料8では3,900個/gおよび3,100個/gと比較的高い値であり、試料4では1,900個/gと比較的低い値である。また、試料4ではイネの粉穀（穂の表皮細胞）に由来する植物珪酸体も認められた。

溝部（3層：試料3、5、7）でも、おおむね同様の分類群が検出されたが、イネやヨシ属は減少しており、イネの密度は1,300～1,900個/gと比較的低い値である。なお、イネ以外のイネ科栽培植物に由来する植物珪酸体はいずれの試料からも検出されなかった。おもな分類群の推定生産量によると、おおむねヨシ属が優勢であり、とくに歯部（4層）で比較的多くなっている。

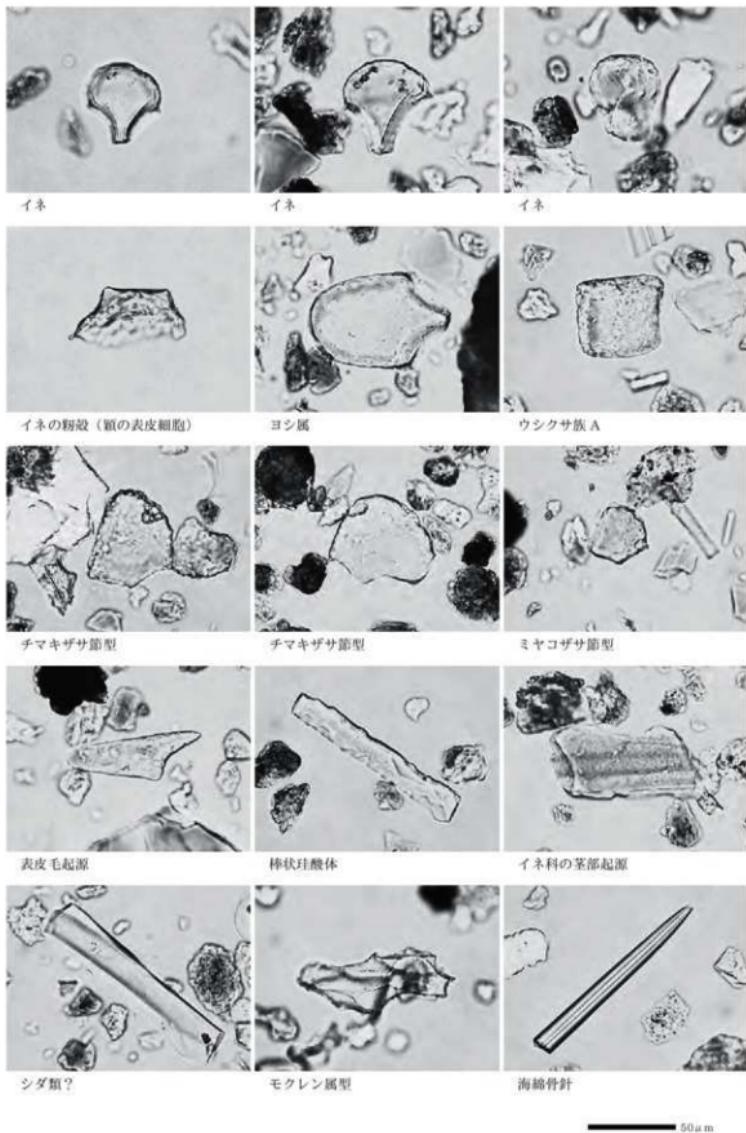
E 植物珪酸体分析から推定される植生・環境・土地利用形態

1) 基本層序

V層（古墳時代）からIV層（古代～中世）にかけては、ヨシ属が生育するような湿潤な環境であったと考えられ、調査地点もしくはその近辺で稻作が行われていたと推定される。また、周辺の比較的乾燥したところにはササ属（チマキザサ節やミヤコザサ節など）やウシクサ族などが生育していたと考えられる。

2) 番状遺構

平安時代とされる番状遺構の歯部（4層）および溝部（3層）の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿潤な環境であったと考えられ、調査地点もしくはその近辺で稻作が行われていたと推定される。また、周辺の比較的乾燥したところにはササ属（チマキザサ節やミヤコザサ節など）やウシクサ族などが生育していたと考えられ、遺跡周辺にはモクレン属など何らかの樹木が分布していたと推定される。



第16図 日水遺跡の植物珪酸体（プラント・オパール）

第2節 花粉分析

A はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

B 試料

分析試料は、植物珪酸体分析に用いられたものと同一の計8点である。

C 方法

花粉の分離抽出は、中村(1967)の方法をもとに、以下の手順で行った。

- 1) 試料から1cm³を秤量。
- 2) 0.5% リン酸三ナトリウム(12水)溶液を加えて15分間湯煎。
- 3) 水洗処理の後、0.5mmの筋で礫などの大きな粒子を取り除き、沈殿法で砂粒を除去。
- 4) 25% フッ化水素酸溶液を加えて30分放置。
- 5) 水洗処理の後、冰酼酸によって脱水し、アセトトリシス処理(無水酼酸9:濃硫酸1のエルドマン氏液を加え1分間湯煎)を施す。
- 6) 再び冰酼酸を加えて水洗処理。
- 7) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成。
- 8) 検鏡・計数。

検鏡は、生物顕微鏡によって300~1000倍で行った。花粉の同定は、島倉(1973)および中村(1980)をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン(ー)で結んで示した。イネ属については、中村(1974, 1977)を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属とした。

D 結果

1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉13、樹木花粉と草本花粉を含むもの1、草本花粉13、シダ植物胞子2形態の計29である。分析結果を第4表に示し、花粉数が100個以上計数された試料については花粉总数を基準とする花粉ダイアグラム(第17図)を示した。主要な分類群について顕微鏡写真(第18図)を示す。以下に出現した分類群を記載する。

[樹木花粉]

マツ属複雜管束亞属、スギ、ヤナギ属、サワグルミ、ハンノキ属、クマシテ属ーアサダ、クリ、ブナ属、コナラ属コナラ亞属、ニレ属ーケヤキ、エノキ属ークノキ、トチノキ、ツツジ科

[樹木花粉と草本花粉を含むもの]

クワ科ーイラクサ科

〔草本花粉〕

サジオモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、タデ属サナエタデ節、ソバ属、アカザ科—ヒユ科、ナデシコ科、アブラナ科、セリ亞科、タンボボ亜科、キク亜科、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

单条溝胞子、三条溝胞子

2) 花粉群集の特徴

① 基本層序

IV層(試料1)とV層(試料2)では、イネ科、ヨモギ属、シダ植物胞子などが検出されたが、いずれもわずかである。

② 番状遺構

番状遺構の歯部(4層: 試料4, 6, 8)では、マツ属複雑管束亜属、スギ、ハンノキ属、クリ、コナラ属コナラ亜属、イネ科、ナデシコ科、タンボボ亜科、ヨモギ属などが検出され、試料8ではさらにソバ属も認められた。ただし、いずれも少量である。

溝部(3層: 試料3, 5, 7)のうち、試料3では樹木花粉よりも草本花粉の占める割合が高い。草本花粉ではイネ属型を含むイネ科が優勢で、ヨモギ属、アブラナ科、タンボボ亜科、ナデシコ科、サジオモダカ属、アカザ科—ヒユ科などが伴われる。樹木花粉ではハンノキ属が優勢で、コナラ属コナラ亜属、サワグルミなどが伴われ、樹木および草本花粉のクワ科—イラクサ科も認められた。試料7でも、おおむね同様の結果であるが、花粉密度が比較的低く、樹木花粉のスギ、マツ属複雑管束亜属なども認められた。試料5では、花粉がほとんど検出されなかった。

E 花粉分析から推定される植生と環境

1) 基本層序

V層(古墳時代)とIV層(古代～中世)では、花粉がほとんど検出されないことから植生や環境の推定は困難である。花粉が検出されない原因としては、1) 乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたこと、2) 土層の堆積速度が速かったこと、3) 水流や粒径による淘汰・選別を受けたことなどが考えられるが、土層の堆積状況や植物珪酸体分析結果などから、ここでは1)の要因が大きいと考えられる。

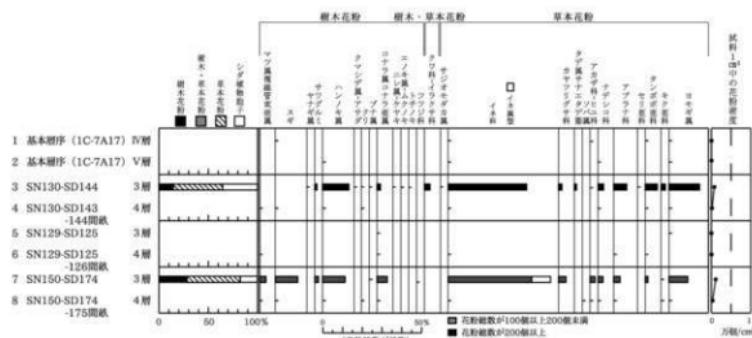
2) 番状遺構

平安時代とされる番状遺構の歯部(4層)では、花粉があまり検出されないことから植生や環境の推定は困難であるが、部分的に少量ながらソバ属が認められることから、周辺でソバの栽培が行われていた可能性が考えられる。ソバ属は虫媒花であり、風媒花と比較して現地性が高く花粉の生産量も少ないと想定される。他の分類群と比較して過大に評価する必要がある。

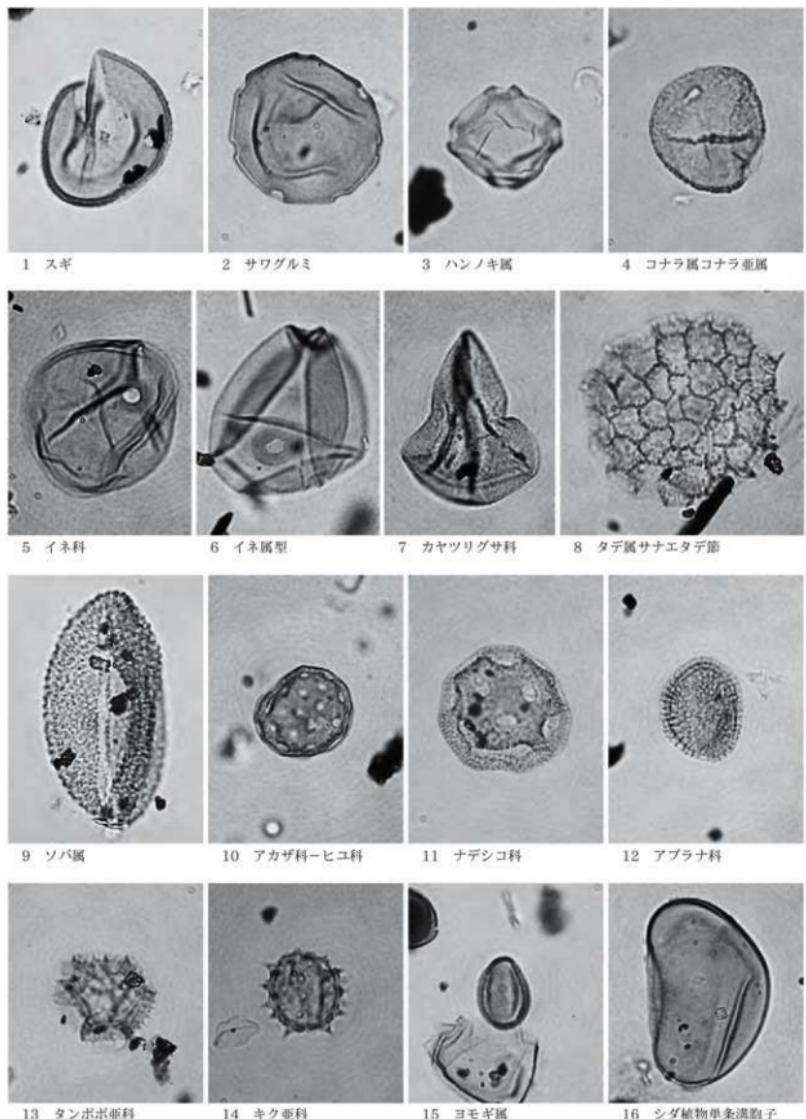
溝部(3層)では、イネ科(イネ属型を含む)が優勢で、アブラナ科が伴われることから、調査地点もしくはその周辺で稲作が行われていたと考えられ、アブラナ科が栽培されていた可能性も認められた。アブラナ科には、アブラナ(ナタネ)、ダイコン、ハクサイ、タカナ、カブなど多くの栽培植物が含まれている。また、周囲の比較的乾燥したところにはイネ科、ヨモギ属、タンボボ亜科、ナデシコ科、キク亜科、アカザ科—ヒユ科などの草本類が生育していたと考えられ。周辺の湿地や河辺にはハンノキが生育し、遺跡周辺にはコナラ属コナラ亜属、ブナ属などの落葉広葉樹林およびスギ林が分布していたと推定される。

第4表 日水道跡における花粉分析結果

学名	和名	試料							
		1	2	3	4	5	6	7	8
Arboreal pollen	樹木花粉								
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複葉系				1	1	5	1	
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	1			1		18	3	
<i>Salix</i>	ヤナギ属			1					
<i>Paracarya rhoifolia</i>	サワグルミ			2			3		
<i>Aleurites</i>	ハシノキ属		1	24	3		18	8	
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシマ属アザダ			1					
<i>Castanea crenata</i>	クリ			1	2			1	
<i>Fagopyrum</i>	ブタノキ			1					
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ苞属			3		1	1	8	2
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属・ケヤキ			1					
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エノキ属・ムクノキ			1					
<i>Acacia arbutifolia</i>	トチノキ			1					
Ericaceae	ツツジ科						1		
Arboreal · Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉								
Moraceae-Urticaceae	ウツボ科・イクラサ科			5					
Nonarboreal pollen	草本花粉								
<i>Alisma</i>	セイヨモダカ属			1					
Gramineae	イネ科	1	1	71	6	1	67	10	
<i>Oryza</i> type	イネ属型			1					4
Cyperaceae	カヤツリグサ科			3				6	
<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria</i>	タデ属サナエタデ属			2					
<i>Fagopyrum</i>	ソバ属								2
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科ヒユ科	2		1			4	2	
Caryophyllaceae	ナデシコ科		1	5	2		4	1	
Cruciferaceae	アブラナ科			12		1	5	1	
Apiaceae	セリ属科			1					
Lactucoideae	タンポポ科	1		11	1	1	2		
Asteroidae	キク属科			4			1	1	
<i>Artemisia</i>	ミモザ属	1	4	28	3	1	15	6	
Fern spore	シダ植物胞子								
Monocolate type spore	单孔孢子	5	5	98	15	3	8	33	32
Trilate type spore	三孔孢子			2			1	1	
Arboreal pollen	樹木花粉	1	1	36	7	1	2	54	15
Arboreal · Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	0	0	5	0	0	0	0	0
Nonarboreal pollen	草本花粉	5	6	140	12	1	3	104	27
Total pollen	花粉總数	6	7	181	19	2	5	158	42
Pollen frequencies of 1cm ³	試料1cm ³ 中の花粉密度	4.8	5.6	7.5	1.4	1.4	4.0	1.1	3.0
	×10	×10	×10 ²	×10 ²	×10	×10	×10	×10 ³	×10 ²
Unknown pollen	未同定花粉			7	1			6	1
Fern spore	シダ植物胞子	5	5	100	15	3	8	34	33
Helmith eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Stone cell	石细胞	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Digestion rhimes	明らかな消化洗浄	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Charcoal fragments	微細炭化物	<(+)	<(+)	(+)	(+)	<(+)	(+)	<(+)	(+)



第17図 日水道跡における花粉ダイアグラム



第18図 日水遺跡の花粉

— 10 μm —

第VII章 総括

第1節 日水遺跡の遺物

A 古墳時代の土器

日水遺跡の古墳時代土器については、前述したとおり須恵器直口壺以外は全て包含層出土である。須恵器直口壺は、田辺昭三氏の示した「須恵器各器形の消長」の模式図〔田辺 1981〕によると田辺編年Ⅰ期の前半から中葉に多くあり、後半には細々と存続する状況が図で読み取れる。実際、類似した形態の壺は、小型の製品はⅡ期の終末まであり、一部Ⅲ期前半まで続く器種である。それに対して直口壺は存続時期が短いのが特徴である。田辺氏の『須恵器大成』の中にも、この須恵器の特徴である頸部に2条の断面三角形状になる稜線を持ち、その下に波状文を持つ資料の類例は少なく、島根県金崎古墳例や、稜線は1本であるが底部外面のタタキ痕跡が類似する長野県島羽山洞窟遺跡例がある程度である。また、新潟県内においても古墳時代中～後期の須恵器壺の出土は僅少である〔細井 2012〕。編年的所属時期については、類似器種の壺であれば時代が下るに従い頸部が長頸化する傾向が認められる。直口壺は、長頸化などの傾向は確認できない。产地が明確であれば粗雑化することによって傾向が窺える可能性もあるが、現状では不明である。敢えて示せば、田辺編年Ⅰ期の幅の中でTK208型式併行期あるいはその後のTK216、TK23型式併行期に相当すると考えておきたい〔註1〕。また、実年代についてはこの資料に付随する自然科学分析などの情報を得られなかつたが、この土器をTK208型式併行期と仮定すると、5世紀中頃（AD450年前後）の資料と考えられる〔酒井 2004、宮崎ほか 2006〕。

次に須恵器直口壺の産地についてであるが、新潟県内においては古墳時代の須恵器窯の発見例は無い。近隣の北陸では田辺編年Ⅱ期のTK47型式併行期において須恵器生産が開始し、能登羽咋窯跡群の一支群である柳田ウワノ1号窯が最古資料である〔望月 2004〕。TK208型式前後の須恵器の焼成は、北陸では開始されていない。この状況から、本資料が薄手で精緻な造りで胎土も水挽された精良なものを利用されていることから、大阪府泉州丘陵周辺地域の古墳時代の中心的な窯跡群である陶邑古窯跡群産の可能性が高いと考えている。今後の科学分析や類例の増加に期待したい。

いずれにしろ新潟市を含む新潟県下越地方においてTK208型式併行期に前後する須恵器は、現状では胎内市天野遺跡〔水澤 2009〕の杯身・杯蓋や阿賀野市腰廻遺跡〔川上・中山 2002〕の杯身・杯蓋、新潟市西蒲区御井戸B遺跡〔前山・相田 2003・2004〕の高杯杯部と杯身など数えるほどしか無い。本資料は初期須恵器の移入形態を考えるうえで貴重な資料である。

次に包含層出土の土師器について触れたい。土師器は遺構に伴わず、出土状況も散発的で、一括性は高くない。しかし、古墳時代包含層中の出土高低差はそれほどないことから、時期的には近接した一群と考えている。指標となる土器としては、有段杯高杯（図版34-2・3）がある。脚部の様相が不明であるが、杯部が2段の段を持つのが特徴的である。新潟県上越地方の資料に基づき古墳時代編年を構築した川村浩司氏の編年（以下、「川村編年」という。）〔川村 2000〕に従えば、10段階に相当する。上越市中嶋廻り遺跡SX18〔小島 1991、金子ほか 2003〕出土の有段脚高杯に、日水遺跡出土例は類似する。川村編年10段階は須恵器TK208型式に並行すると捉えられ、県外では塗町13群と並行する。これは、前述の須恵器の年代観に合致する。但し、中嶋廻り遺跡例は段が不明瞭化していることがこの段階での位置付けの根拠とし、段の明瞭なものを川村編年9段階に置いた胎内市六斗蔵遺跡の例〔岡安ほか 2005〕もある。いずれにしろ川村編年9～10段階の位置づけである。その他に下方でのわずかな屈曲が見られる脚（図版34-19）や比較的直線的な脚（図版34-4）も川村編年10段階に見られる。壺・壺は全体形が分かる資料が無いが、長胴化した壺（図版34-8）の存在や口唇部に面を持たない資料が多いことか

らも中期的な様相が窺える。鉢とした資料の中に内外面に赤彩した資料（図版35-26）などがあるが、若干、古い様相と考える。また、器台が1点（図版34-9）出土している。漆町11群、川村編年7段階では器台は激減する（滝沢2012）ことからこの段階以前の資料と考えられ、古墳時代前期に遡る可能性もある。

以上のことから、日水遺跡出土古墳時代土器は中期中葉の川村編年9～10段階が主体で、一部前期に遡る資料があると考えられる。また、土器ではないが、1点出土した石製紡錘車（図版42-1）は、新潟県上越地方の糸魚川市周辺から産出する滑石を石材としている。糸魚川市六反田南遺跡では、古墳時代後期を中心に紡錘車を含む滑石製品製作を行っている（細井ほか2010）。日水遺跡は、若干時期が遡る古墳時代中期の消費地遺跡例である。

B 古代の土器

日水遺跡で出土した古代の土器は、コンテナ（内寸54.5×33.6×10.0cm）にして44箱ある。しかしその大部分は小破片であり、また遺構出土遺物よりも包含層出土遺物が多いのが現状である。

本来であれば、遺構出土の一括資料の器種構成比率や組成比率などを基に遺物を論すべきであるが、一括資料もなく遺構出土遺物も乏しいため、総体的に概観し土器の位置付けを考えたい。考察にあたっては、春日真実氏によって詳細にまとめられている（春日1991・1997・1999・春日ほか2004他）。日水遺跡が所在する信濃川・阿賀野川下流域における土器編年（以下、「春日編年」という。）に従う。

須恵器について見てみると、その生産地が佐渡小泊窯跡群に限定されている。越後国内では9世紀に入ると佐渡小泊窯跡群の須恵器が大量に流入し、在地の須恵器窯跡群は衰退し始め、9世紀後半になると須恵器は佐渡小泊窯跡群にほぼ限定されるようになる。10世紀に入ると須恵器は大幅に減少するため、須恵器からすれば本遺跡の出土遺物は9世紀後半、春日編年のVI期に比定できる。

食膳具の構成を見ると、須恵器無台杯と土師器無台椀を一定量組成し、僅かではあるが黒色土器も確認できる。中でも土師器無台椀は器高指数（器高+口径×100）が全て30以上あり、黒色土器ではあるが167のように35以上のものや口径が15cmを超える115・176も存在している。このように器高指数が35以上となるものは、9世紀第4四半世紀から10世紀初頭にのみ存在するという指摘もあり、春日編年VI2期にあたると考えられる。また、須恵器無台杯について見てみると、器高指数が20～38.6、底径指数（底径+口径×100）が56.5～66.7と法量にばらつきが見られる。佐渡小泊窯跡群の須恵器杯類は時期が新しくなるにつれ法量のばらつきが顕著になる傾向にあり（坂井1991）、このばらつきにあたる遺物と考えられる。また1点ずつではあるが、土師器無台皿（91）と黒色土器有台皿（235）が出土しており、土師器皿の組成や黒色土器を含む食膳具の構成などからもVI期とするのが妥当である。貯蔵具において、横瓶に比べ長頸壺が多くなることもVI期の裏付けと考えられる。

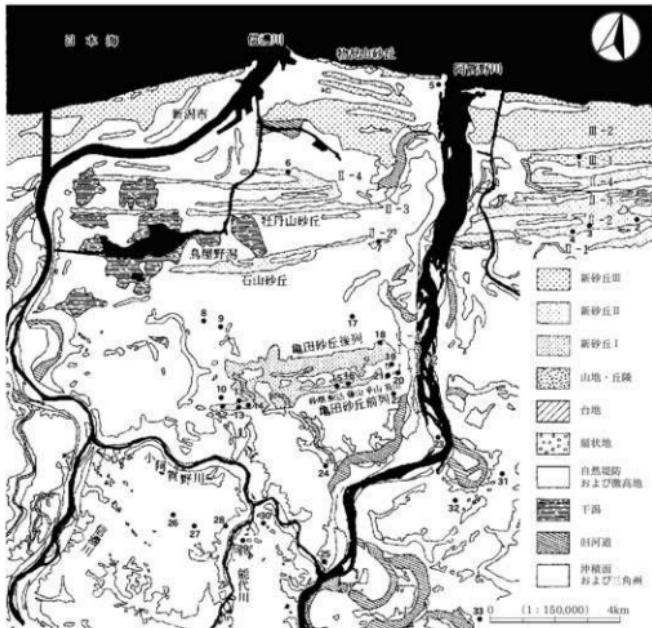
以上のように、本遺跡の出土遺物は春日編年VI期の範疇に比定され、土師器無台椀の法量からVI2期（9世紀第4四半世紀）が主体と考えられる。

第2節 遺跡と遺構

A 日水遺跡周辺の古墳時代遺跡

日水遺跡周辺の地形分類と古墳時代遺跡分布図を第19図に示し、一覧表を第5表に示した。また、遺跡ごとに立地と大まかな時期を示した。以下、便宜的に図・表に付した番号で阿賀野川以西の遺跡を中心に説明する。砂丘形成年代は鶴井幸彦氏ほかの研究成果（鶴井ほか2006）による。

日水遺跡（11）周辺は新砂丘Iの前にあたり、新砂丘I-1列（約6,000年前形成）に相当する^{注2)}。砂丘列周辺には、古墳時代の遺跡が密集する。新砂丘I-1列に立地する遺跡は、9遺跡を数える。その中でも武左衛門裏遺跡（13）は、県教委が平成18（2006）年に行った本発掘調査範囲では古墳時代前期の土器の出土は少量



第19図 日水遺跡周辺の地形と古墳時代遺跡
(新潟県「土地分類基本調査新潟・新津」1972・1974)【酒井2000】一部改変

第5表 日水遺跡周辺の古墳時代遺跡

No.	遺跡No.	遺跡名	立地	古墳時代			備考	参考文献
				前期	中期	後期		
1	23	柳山	新砂丘Ⅰ		1		採集資料	[日野ほか1994]
2	253	内見人	新砂丘Ⅱ-2				採集資料	[同上1988]
3	254	内見人	新砂丘Ⅱ-3				採集資料	[同上1988]
4	273	柳山A	新砂丘Ⅱ-2				採集資料	[同上1988]
5	123	阿賀野川河口	新砂丘Ⅱ-3(新砂丘Ⅲ)				採集資料	[加藤・尾崎2002]
6	112	山本23	新砂丘Ⅱ-2				採集資料	[小池1999]
7	85	石船	新砂丘Ⅱ-2				採集資料・本発掘調査	[日野ほか1994・塙野1996]
8	723	鶴山西	自然環境		1		本発掘調査	[西田ほか2009]
9	397	下西	自然環境				採集資料	[塙野史記さん会員会1988]
10	426	西野	自然環境	1			本発掘調査	[上嶋ほか2009]
11	427	西野	自然環境		1		本発掘調査	[本西]
12	430	西山	新砂丘Ⅰ-1				平成15年日野町立会議会	
13	396	武田門遺跡	新砂丘Ⅰ-3, 自然環境				採集資料	[塙野史記さん会員会1988・上嶋ほか2007]
14	391	日本塙	新砂丘Ⅰ-3				採集資料	[日野ほか1994]
15	395	山ノ瀬	新砂丘Ⅰ-1		1		本発掘調査	[川上1993・酒井2000]
16	359	鶴山丸山	新砂丘Ⅰ-1				本発掘調査	[川上1986・酒井2000]
17	134	鶴山丸山	自然環境(砂丘開拓地)				本発掘調査	[小池・本西2002]
18	88	小丸山	新砂丘Ⅰ-4				採集資料	[小池・本西1995]
19	21	中山	新砂丘Ⅰ-1		1		採集資料	[日野ほか1994・塙野1994]
20	29	鶴山	新砂丘Ⅰ-1				採集資料・本発掘調査	[日野ほか1994・塙野1997]
21	7	鶴山南	新砂丘Ⅰ-1				本発掘調査	[塙野1997]
22	366	京町塙	自然環境				採集資料	[酒井2000]
23	387	小村中州	不明				採集資料	[日野ほか1994・同上1994・酒井2000]
24	383	土郷A	自然環境				本発掘調査	[上嶋・舟引1997]
25	07	大字中洲	自然環境	1			本発掘調査	[塙野2000]
26	143	絆	自然環境		1		採集資料	[川上1993]
27	739	中野	自然環境				本発掘調査	[塙野2009]
28	209	鶴丘	自然環境	1			本発掘調査	[川中・舟引ほか2004]
29	149	津ノ原	自然環境				2005年度本発掘調査で古墳時代後期土器群が出土していき	[星野・石川ほか1996・日本・塙野2005・立木・津野・八幡ほか2008]
30	200	495内	自然環境				本発掘調査	[北川・鶴井2004]
31	201	495外	自然環境				本発掘調査・阿賀野市	[同上]
32	127	糸手	自然環境				本発掘調査・阿賀野市	[古澤ほか2004]
33	401	埋蔵	自然環境				本発掘調査・阿賀野市	[古澤ほか2011]

凡例 [■] 物量の多いもの [■■] 物量が少なもの [■■■] 物量が一ごとに少ないもの [■■■■] なし

2. 遺跡区分の前段は、純粋複数形の表現(河井2012)に従い、物量の多寡による区分を略す。川村吉氏の編著(川村2008)川村2段設置、藤町11群までを前期とする。中期は川村11～17段設置。後期は川村20段設置の例がある。後期は川村20段設置の例がある。

3. 採集の遺物の判別は筆者らが行った。実見していないものが多く、痕跡、記述に従つた。不確かながござる限り。

であったが〔土橋ほか2007〕、北側の砂丘地斜面からは大量の古墳時代前期の土器が採集されており^{注3)}、拠点的な集落の存在が窺える。隣接した日水遺跡とは、何らかの関係があると思われる。笠山前遺跡（21）は、古墳時代後期の集落跡である〔廣野1997〕。古墳時代前期から後期にかけて砂丘上に集落を構え、周辺での生業活動が窺える。砂丘列から外れる西郷遺跡（10）〔土橋ほか2009〕は、砂丘からほど近い自然堤防上に立地している。古墳時代前期の土器が、隣接した河川跡から出土している。遺跡の時期は縄文時代晚期～弥生時代中期が主体で、弥生時代後期には集落が移動している。弥生時代の炭化米も大量に出土しており、稻作を生活の中心とし、大量の動物骨の出土から、狩猟・漁労の両面の生活が古墳時代の前代に行われていた様相が明らかである。

新砂丘I-2～4には遺跡は少なく、新砂丘I-4（約4500年前形成）の小丸山遺跡（18）〔小池・本間1995〕で多少の前期土器が出土している。新砂丘IとIIの間の東囲遺跡（17）〔朝岡・諒山2003〕は、砂丘間低地の自然堤防上にあり古墳時代前期の集落の一部と考えられる。炭化米が多量に出土しており、農業を基盤とした集落を営んでいたようである。

新砂丘II-2（約3500年前形成）の石動遺跡（7）〔廣野1996〕と新砂丘II-4（約2,000～1,700年前形成）の山木戸遺跡（6）〔小池1999〕では、古墳時代前期の土器が出土している。石動遺跡は出土量も比較的多い。海岸や阿賀野川に近いことから、生業形態が他の集落と異なる可能性もある。

新砂丘III-2（約1100年前以前）の阿賀野川河口遺跡（5）〔加藤・尾崎2002〕では、古墳時代前期土器が僅かに出土している。この事例の場合は新砂丘III-2の下に新砂丘IIがあり、海岸での浸食で下の地層の遺物が露出したことが考慮されている。

砂丘の形成年代から見ていくと、砂丘形成の古い新砂丘I-1周辺に遺跡が密集していることが見て取れ、新砂丘II・IIIには遺跡数が少ない。形成年代の新しい砂丘周辺は、地形が一定せず新砂丘III周辺の砂丘間低地は水田耕作など農業経営には不利な条件であったのではと推測する。

日水遺跡より南側には砂丘は確認されておらず、小阿賀野川以南の自然堤防上に古墳時代の前期から後期の遺跡が集中する。結七島遺跡（28）〔田中・丹下ほか2004〕では古墳時代中期が主体で有段杯高杯も出土しており、日水遺跡と隣接した時期の集落である。南側の新津丘陵には古墳時代前期の古津八幡山古墳〔甘粕・川村ほか1992〕や弥生時代後期が主体の古津八幡山遺跡〔渡邊朋・立木ほか2001・2004〕が所在し、周辺地域に多くの遺跡が確認できる〔「シンポジウム新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現」実行委員会2005〕。

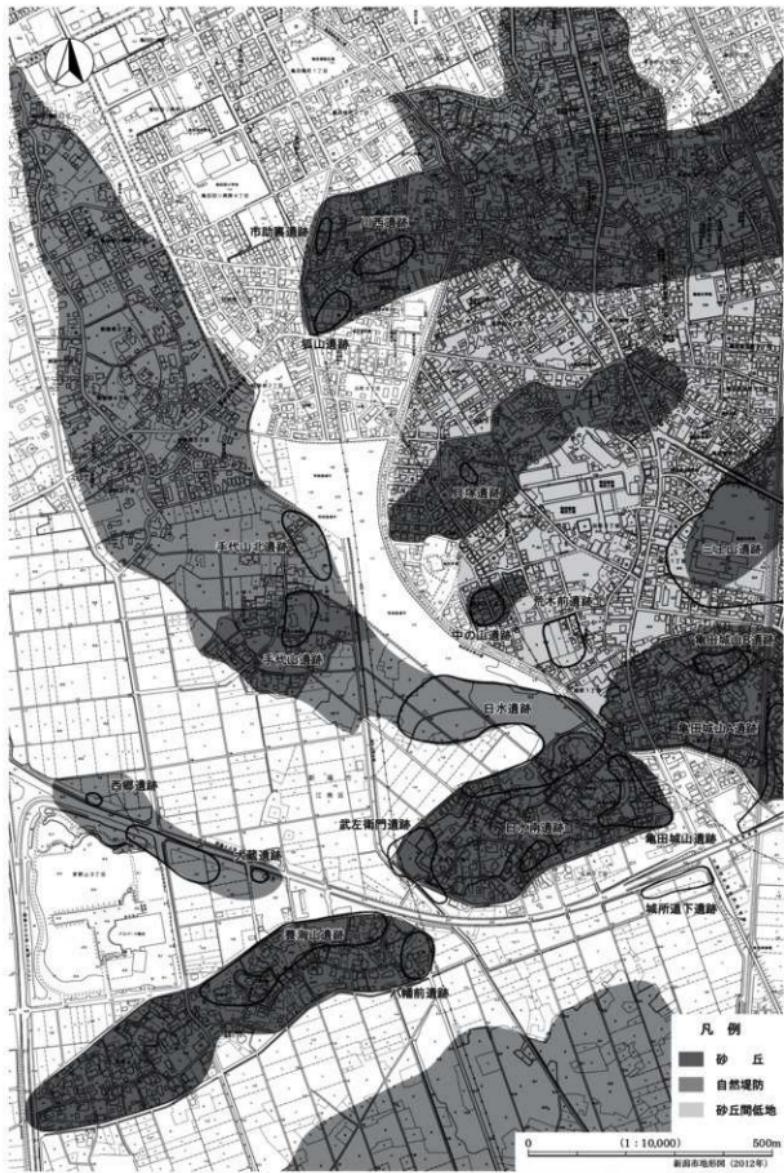
このように立地と遺跡の関係を見ていくと、古墳時代には新砂丘II-2周辺から北側の日本海に至る地域は集落形成に不利な状況が窺える。また、日水遺跡周辺では弥生時代後期の遺跡は少なく意味付けは難しいが、古墳時代の初めには日水遺跡周辺で新津丘陵部と新砂丘I周辺から低地にかけての進出と拡大が窺われる。その遺地には、当時の河川が密接に関わっていると思われる。居住地は洪水被害の少ない新砂丘I-1上に住み、周辺低地で耕作を行っていた姿が垣間見える。周辺の微地形については後述するが、日水遺跡なども洪水の少ない適地だったのであろう。

B 古代の日水遺跡

1) 遺跡周辺の地形（第20図）

新潟砂丘と呼ばれる砂丘列は、内陸側から新砂丘I・新砂丘II・新砂丘IIIの3群が識別されており、それぞれに枝番が付され10列に細別されている。その形成年代は海側から新しいとされており、新砂丘I-1が約6,000年前、新砂丘I-2が6,000～5,500年前、新砂丘I-3が5,000年前、新砂丘I-4が約4,500年前、新砂丘II-1が約4,000年前、新砂丘II-2が約3,500年前、新砂丘II-3が約3,000年前、新砂丘II-4が2,000～1,700年前、新砂丘III-1が1,700～1,100年前、新砂丘III-2が約1,100年前以降とされている〔新潟古砂丘グループ1974、仲川1987、鶴井ほか2006〕。

日水遺跡は現在の海岸線からおよそ10kmと最も内陸に位置する、新砂丘I-1の北斜面および連続して南北



第20図 日水遺跡周辺の地形

に延びる自然堤防上に位置する。自然堤防の分布状況から、当初河川は新砂丘I-1の南側に流路をとっていたと推察されるが、度重なる氾濫により砂丘の所々を浸食し変流したと考察される。本遺跡の占地する砂丘も東西両側に浸食の痕跡が見られ、東側の浸食は現在も河道（亀田排水路）となっている。このような流路変更により、本遺跡の主体部が位置する自然堤防は形成されたと考察出来る。河川の氾濫は砂丘間低地にも大量の土砂をもたらし、湖沼地を残しつつも安定した土壤を形成していったと考えられる。

亀田排水路は下流では栗ノ木川と呼ばれるが、7本もの砂丘を直角に横断する不自然な流路を取っている。本河川は人工の開墾による排水路「削り抜き」川（植村ほか1978）と考えられており、砂丘間低湿地の排水を目的として律令期に開墾されたと考察されている（金子1986、1996）。前述のように、排水路の開墾された場所は安定化した砂丘間低地と自然堤防と考えられる微高地に挟まれている。古代には浅い谷状の窪地であったと推察され、開墾地となった理由の一つとも考えられる。

新砂丘の形成については前記の年代が与えられており、形成直後の绳文時代から遺跡として利用されている。本遺跡の占地する自然堤防は、今回の調査成果から古墳時代中期には形成されていた事が判明したが、遺跡としての利用は平安時代になってから盛行する。砂丘間低地については、荒木前遺跡や中の山遺跡など中世になってから積極的に利用される傾向が窺えるが、これは敷地面積の確保や水利などの利便性によるものと推察される。また中世の集落である中の山遺跡や三王山遺跡は、残丘状の砂丘に位置しており、「山」などの地名をもって砂丘間低地内には多くの小砂丘が残存するものと考えられる。

2) 遺構について

日本遺跡では、溝・土坑・烟などの遺構が検出された。一部切り合い関係は認められるが、出土遺物から大きな時期差はなく、概ね9世紀後半の遺構である。掘立柱建物や井戸など集落を構成する遺構が検出されていない事から、本調査区は集落の縁辺から生産域に至る地点と推察される。以下、今回検出した特徴的な遺構について触れてみたい。

溝

調査区北側で、視覚的に2条一対をなす溝が検出された。SD2・3は湾曲するものの南北に、SD5・13は直線的に東西に、それぞれ約2mの間隔を保ちながら走行する。これらは地形に沿って造られておらず、方向を重視して構築された溝と考察される。SD3以南では遺構がまばらになる事から、SD2・3は集落の西辺を区画する溝とも考えられる。SD2・3に直行するSD5・13の10m南には東西溝のSD29が走行しており、これらも屋敷跡など一連の区画をなす溝の可能性があるが、区画内に明確な掘立柱建物などは確認されていない。生産域という概念からすれば牧などの区画も想定されるが、関連する遺構は検出されていない。2条一対であることから道路状遺構の側溝もしくは土留め施設の布掘り溝とも考えられるが、道路面の硬度などの計測は行っていない。

土坑群

1C-8Aグリッドで、平面長楕円形（小判形）の土坑が6基検出された。これらは平面形以外にも、南北に主軸を持つことや規模、土層堆積状況など類似点が多い。形態からは陥穴と思われるが、逆茂木などの底面設備も伴わず、また一か所に集中する配列も通常の陥穴とは異なる。埋土に見られる粘質土層や貼壁したかのような堆積状況から、防湿効果を高めた貯蔵穴などの可能性も考えられる。しかし底面標高が湧水レベルに達しており、また蓋などの上部構造も確認されていないため用途は不明である。今後、類例の増加に伴いより明確な機能が論じられると考えられる。

烟

調査区南側で、煙が5枚検出された。この内SN112・129・130の3枚の煙は、幅4mの帯（道路）状の間隔を挟んで整然と区画され、南端にSN150が広がる。

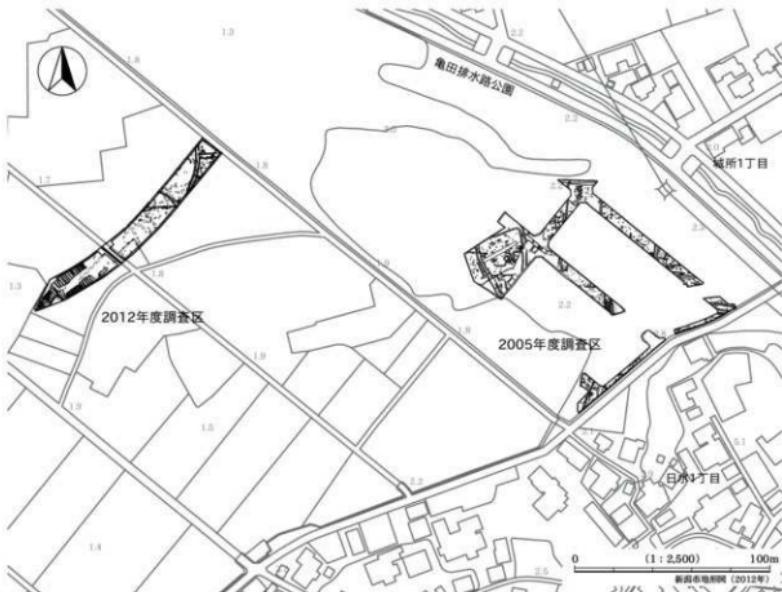
SN112とSN129は隣接し、小溝の走行方向はN-28°～30°-W前後を指す。歓間はSN112で約1.0m等間、

SN129は幅広と幅狭の溝が1条置きにあり畝間は0.40～0.60mを測るが、同幅の小溝で考えると約1.20m等間となる。SN129の自然科学分析により、畝部から3,900個/gと高い密度のイネの植物珪酸体やイネ科の花粉が認められ稻作主体であったと考察され、規模や方向など類似点が多いSN112も稻作主体であったと推察される。また両畑の畑境には幅1.4mで並走するSD118・119が位置し、この2条の溝は断面が台形状を呈すなど他の小溝と差異が見られ、農道の側溝である可能性も考察される。SN130の畝間も1.10～1.20mでほぼ等間であり、自然科学分析によって確認された畝部のイネの密度は1,900個/gと比較的低い値であるが、溝部ではイネの粉粒由来する植物珪酸体も確認されており、稻作主体の畑であったと考察される。他遺跡の調査事例でも畝間の広い畑での陸稲栽培が指摘されており、本遺跡でも同様の結果が得られている。

一方、27条の小溝からなるSN150は小溝の長さも様々であり、畝間も0.10～0.70mと規格性がない。本畑は自然堤防の東端に営まれており、乾湿を繰り返す環境下であったと考えられるため、何枚かの畑が重複している可能性が高い。自然科学分析の結果、本畑からはイネ以外にソバ属が確認されている。ソバ属は虫媒花であるため本畑もしくは周辺でソバの栽培が行われていた可能性が高い。

第3節 日水遺跡の性格

最後に日水遺跡の性格について述べる。今回の調査で、日水遺跡は古墳時代から中世（室町時代）まで存続する遺跡であることが確認された。特に古墳時代では、遠隔地産と考えられる須恵器TK208型式併行期の直口壺が発見され、遺跡の時期的位置づけが可能となった。検出した造構はこの須恵器が埋納された性格不明造構（SX1）のみであったが、古墳時代の壺・壺・高杯・器台・鉢などの土器が出土しており、周辺域に集落がある



第21図 日水遺跡の調査区

ことが想定される。また、古墳時代包含層（V層）のプラントオパール分析（第VI章参照）では、少量イネ科が検出されているが周辺はヨシの繁茂する低湿な環境が推定されている。イネ科の出現率が低いので断定的には言えないが、周辺で農耕を行った可能性もある。

古代における日水遺跡は、出土遺物から9世紀後半で営まれた遺跡で、検出した遺構から集落縁辺にあたる畑を主体とした生産域と考えられる。9世紀後半の集落は住耕一体型が通常と考えられており（坂井1999）、本遺跡を「耕」とした場合、本遺跡の約200m東に位置し平成17（2005）年に発掘調査された日水遺跡第3次調査区（第21図）が「住」になる可能性が高いと考察される。第3次調査区は、出土遺物から本遺跡と同様9世紀後半でが主体であり、掘立柱建物や井戸など集落を構成する遺構が検出されているが、2条一対の東西溝をはじめ溝の走行方向など本遺跡との類似性が高い。第3次調査区は出土遺物から10世紀初頭まで存続すると考えられており、10世紀代には本遺跡から「耕」の場所は変遷したと推察され、今後本調査区周辺の調査において本遺跡に後続する生産域が検出される可能性が高いと考えられる。

本遺跡で検出された畑における自然科学分析において（第VI章）、イネ以外のイネ科栽培植物に由来する植物珪酸体は確認されておらず、逆に古代の包含層である基本土層IV層からはイネやイネの糊殼に由来する植物珪酸体が認められているため、当時の遺跡周辺は稻作地帯が広がっていたものと考察される。

また、調査区中央部の2B-2G・Hグリッドを中心に、鍛冶関連遺物が出土している。周辺は梨畠による擾乱が激しく、遺構はほとんど検出されていないため詳細は不明である。須恵器の甕や瓶の小破片を2次利用した転用砥石が本遺跡から一定量出土しており、簡易な刃研ぎは日常的に行われていたと推察される。しかし、台石や大型の置き砥石などは出土しておらず、本調査区周辺で集落内鍛冶が行われていたかは言及しかねる。

このように、日水遺跡は古墳時代・平安時代ともに集落の縁辺部に当たり、平安時代においては低湿地帯を臨む生産域であったと考察される。

古墳時代の集落は砂丘上が中心と推察されるが、古墳時代中期には低地に遺跡が拡大する傾向が窺えるため、本遺跡の占地する自然堤防上や埋没砂丘上に集落が展開する可能性も高い。

平安時代の集落についても、9世紀後半代は遺跡が激増する時期に当たるため、第3次調査区周辺以外に別集落がある可能性も考察される。平安時代の生産域である畑では、自然科学分析によってイネを主体にアブラナ・ダイコン・ハクサイなどのアブラナ科、ソバなどの植物が栽培されていた可能性が認められている。

注

注1) 例言で上げさせて頂いた多くの研究者にご教示を頂いたが、TK208型式かもしれないが、TK216型式の可能性もあるとの意見と、TK208型式が妥当でTK23型式の可能性もあるとの二者のご意見を頂いた。さらに、器壁の薄さや精緻な胎土などは古い様相の可能性があり、さらにTK73まで遡る可能性もあるとの意見もある。器種類別の過少さという特殊性もあり、結論は下せない。

注2) 砂丘列を扱った論考の中には亀田砂丘前列を新砂丘Iの細分を明確に示されていない（新潟古砂丘グループ1974、田中ほか1996、鶴井ほか2006）。砂丘前列に位置する砂崩遺跡（旗野・酒井2002）や蟹山前遺跡（廣野1997）からの縄文時代前期前葉から前半の土器が出土している状況から本稿では（酒井2000）に従い新砂丘I-1列に相当すると判断した。さらに、鶴井幸彦氏から新砂丘I-1列相当との御教示を頂いた。

注3) 酒井氏所蔵資料による。

引用・参考文献

- ア 相田泰臣 2004 「越後ににおける古墳時代後期を中心とした土器の一種相一頸域・魚沼流域の土器類を中心としてー」『新潟考古』第15号 新潟県考古学会
- 相田泰臣・前山精明 2003 『菖蒲塚古墳・隼人塚古墳』 卷町教育委員会
- 相田泰臣・前山精明 2005 『菖蒲塚古墳・隼人塚古墳II』 卷町教育委員会
- 赤羽正春・高橋知之 1994 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第62集 横雲バイパス関係発掘調査報告書 上郷遺跡I』 新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 朝岡政康・諫山えりか 2003 『東開遺跡 郡亮市場建設に伴う市道東8-273建設事業発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 朝岡政康ほか 2009 『手代山北遺跡 第2・3次調査 一市道亀田南建設事業に伴う手代山北遺跡第2・3次発掘調査報告書ー』 新潟市教育委員会
- 朝岡政康ほか 2010 『三王山遺跡II第4・7次調査 一新潟市立亀田中学校校舎・体育館改築工事に伴う三王山遺跡第2・4次発掘調査報告書ー』 新潟市教育委員会
- 甘船 健・小野 昭 1983 「六地山遺跡発掘調査の概要」『昭和57年度新潟市文化財調査概要』 新潟市教育委員会
- 甘船 健・小野 昭ほか 1986 「六地山遺跡ー1982年発掘調査を中心にー」 新潟市教育委員会
- 甘船 健・小野 昭ほか 1993 「越後山谷古墳」 卷町教育委員会・新潟大学考古学研究室
- 甘船 健・川村浩司ほか 1992 『古津八幡山古墳I』 新潟市教育委員会
- 甘船 健ほか 1994 『新潟市史』資料編1 原始古代中世 新潟市
- イ 飯坂盛泰 2005 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第139集 一般国道17号六日町バイパス発掘調査報告書I 余川中道遺跡I』 新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 家田順一郎 1987 『小丸山遺跡』 横越村教育委員会
- 五十嵐太郎 1996 『亀田郷 一信濃川・阿賀野川の下流低湿地における治水』『第四紀研究』第35巻第3号 日本第四紀学会
- 諫山えりか 2007 『居屋敷跡第3次調査 一県営地盤沈下対策事業新潟南部5期地区沢海揚水機場建設事業に伴う居屋敷跡第3次発掘調査報告書ー』 新潟市教育委員会
- 諫山えりか 2009 『中田遺跡第2次調査 一市道荻川新津線道路改良事業に伴う中田遺跡第2次発掘調査報告書ー』 新潟市教育委員会
- 今井さやか・相沢 央 2007 『日木遺跡第3次調査 一鍋田土地区画整理事業に伴う日木遺跡発掘調査報告書ー』 新潟市教育委員会
- 今井さやか 2008 『下大口遺跡 第2次調査 一宅地造成に伴う下大口遺跡第2次発掘調査報告書ー』 新潟市教育委員会
- ウ 上野一久・春日真実 1997 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第87集 横雲バイパス関係発掘調査報告書 上郷遺跡II』 新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 植村敏秀・中村豊次郎・近 武郎・青森泰俊 1978 「蒲原低湿地帯における集落立地 亀田郷の場合」『亀田郷』新潟県文化財調査年報第17 新潟県教育委員会
- エ 江口友子 2001 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第102集 国道49号横雲バイパス関係発掘調査報告書IV 川根谷内墓造跡』 新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団
- オ 岡安光彦ほか 2005 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第143集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅳ 六斗荷遺跡』 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小熊博史 1996 『新潟平野における旧石器・縄文時代の遺跡の立地とその変遷』『第四紀研究』第35巻第3号 日本第四紀学会
- 尾崎高宏 2001 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第107集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書II 正尺A遺跡』 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小野 昭ほか 1994 『巻町史』資料編1 考古 卷町
- 小村 弘 1959 『亀田町史』 亀田町公民館
- カ 春日真実 1991 『古代佐渡小泊窯における須恵器の生産と流通』『新潟考古学談話会』第8号 新潟考古学談話会
- 春日真実 1997 『越後・佐渡における9世紀中葉の兩期』『北陸古代土器研究』第6号 北陸古代土器研究会
- 春日真実 1999 『第4章 古代 第2節 土器編年と地域性』『新潟県の考古学』 高志書院

- 春日真実^{はる} 2004 「越後阿賀北地域の古代土器様相」 新潟古代土器研究会
- 加藤 学・尾崎高宏 2002「阿賀野川河口採集の遺物 一採集地点をめぐる二、三の問題」『新潟考古』第13号 新潟県考古学会
- 加藤 学 2008 「阿賀野川河口採集の遺物」『新潟考古』第19号 新潟県考古学会
- 金子拓男編 1983 『精立遺跡発掘調査報告書』 黒崎町教育委員会
- 金子拓男 1986 「大化元年における越國の奏上について」『研究集録』第14号 新潟県立新潟江南高等学校
- 金子拓男 1987 「古代における信濃川・阿賀野川の河口と渡路について」『研究集録』第15号 新潟県立新潟江南高等学校
- 金子拓男 1996 「大化元年「越國奏上」についての検討」「越と古代の北陸」名著出版
- 金子拓男 2007 「沼垂耕地の沿垂「王瀬田地」説への疑問」『新潟考古』第18号 新潟県考古学会
- 金子拓男^{はる} 2003 『上越市史』資料編2 考古 上越市
- 亀田町史編さん委員会 1988 『亀田の歴史』通史編上巻 亀田町
- 亀田町史編さん委員会 1990 『亀田の歴史』資料編 亀田町
- 鶴井幸彦・田中里志・安井賢 2006 「新潟平野における砂丘列の形成年代と発達史」『第四紀研究』第45卷第2号 日本第四紀学会
- 川上貞雄 1982 『中の山遺跡発掘調査報告書』 亀田町教育委員会
- 川上貞雄 1986 『小丸山遺跡緊急発掘調査報告書』 横越村教育委員会
- 川上貞雄 1991 『六地山遺跡 - 1985年度の調査』『1989年度埋蔵文化祭発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 川上貞雄 1993 『横越村文化財調査報告2 山ん家遺跡緊急発掘調査報告書』 横越村教育委員会
- 川上貞雄 1994 『八幡山遺跡I 道構編』 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1996a 『荒木前遺跡第2次調査』 新潟県中蒲原郡亀田町・荒木前遺跡発掘調査報告書 亀田町教育委員会
- 川上貞雄 1996b 『金津丘陵製鉄遺跡群 居村B・D地区』 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1997 『上浦A遺跡 新津市工業団地第2期工事内発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 川上貞雄・木村宗文・鈴木郁夫 1989 『新津市史』資料編第1巻 原始・古代・中世 新津市
- 川上貞雄・中山後道 2002 『笛神村文化財調査報告13 主要地方道新潟五泉間湖線地方特定道路整備費(改築)工事 折居川災害復旧助成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 屢々遺跡』 笛神村教育委員会
- 川村浩司 2000 「上越市の古墳時代の土器様相 一関川右岸下流域を中心に」『上越市史研究』第5号 上越市
- キ 北村 淳・菊池康一郎 2004 「中谷内遺跡Ⅲ・沖ノ羽遺跡Ⅱ・細池寺道上遺跡発掘調査報告書」 新津市教育委員会
- 木村茂光 1996 『ハタケと日本人』 中公新書
- 木村宗文 1993 「初期莊園の成立」『新津市史』通史編上巻 新津市史編纂委員会
- 小池邦明・藤塚明・渡邊朋和 1987 「新潟市小丸山遺跡発掘調査概報」 新潟市教育委員会
- 小池邦明・木間圭吉 1995 「小丸山遺跡 直り山閉地建設事業用地内発掘調査報告書」 新潟市教育委員会
- 小池邦明・藤塚明^{はる} 1993 『新潟市の堀遺跡 的場土地区画整理事業用地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 小池邦明 1999 『山木戸遺跡第2次発掘調査概報』 新潟市教育委員会
- 小島幸雄 1991 『中島廻り遺跡発掘調査報告書』 上越市教育委員会
- 小林昌二 1996 「越地域における部民分布の再検討」「越と古代の北陸」名著出版
- 小林昌二編 1996 『越と古代の北陸』 名著出版
- サ 酒井和男 1966 「亀田町周辺の遺跡調査について - 第1線砂丘を中心に-」『明窓』第4号 新潟東工業高校生徒会
- 酒井和男^{はる} 1987 『大江山地区的遺跡』 新潟市教育委員会
- 酒井和男 1980 『三王山遺跡』 亀田町教育委員会
- 酒井和男 2000 「第2章 考古資料」『横越町史』 資料編 横越町
- 酒井和男・鹿野耕造 2002 「新潟砂丘における居住の初源」『新潟考古』第13号 新潟県考古学会
- 酒井清治 2004 「須恵器生産のはじまり」『国立歴史民俗博物館研究報告』第110号 国立歴史民俗博物館
- 坂井秀弥^{ひろ} 1989 「新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡」 新潟県教育委員会・建設省北陸地方建設局 新潟県国道工事事務所
- 坂井秀弥^{ひろ} 1991 「佐渡の須恵器」『新潟考古』第2号 新潟県考古学会
- 坂井秀弥 1999 「第4章 古代 第1節 総論」『新潟県の考古学』 高志書院
- 坂上有紀 2003 「磐越自動車道関係発掘調査報告書 上浦遺跡」 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

- セ 間 雅之ほか 1988 「豊栄市史 資料編1 考古」 豊栄市
- タ 滝沢規朗 2012 「越後ににおける古墳時代中期の土器編年」『新潟県考古学談話会発表要旨』 新潟県考古学談話会
- 田嶋明人 1986 「漆町遺跡出土土器の編年の考察」『漆町遺跡』I 石川県埋蔵文化財センター
- 田辺昭三 1981 「須恵器大成」角川書店
- 田中一廣・丹下昌之ほか 2004 『結石島遺跡発掘調査報告書III』 新津市教育委員会
- 田中久夫 1978 「蒲原低湿地帯の微地形と表層地質」『亀田郡』新潟県文化財調査年報第17 新潟県教育委員会
- 田中久夫・長谷川正・木村澄江・岡本都榮・坂井陽一 1996 「新潟砂丘の形成史」『第四紀研究』第35巻第3号 日本国第四紀学会
- ツ 立木宏明ほか 2004 「愛宕津遺跡発掘調査報告書」 新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子ほか 2005 『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書III』 新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子・八藤後智人ほか 2008 『沖ノ羽遺跡IV第15次調査 -県営圃場整備事業(担い手育成型)満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第8次発掘調査報告書一』 新潟市教育委員会
- 立木宏明 2013 『日木道路』平成24年度新潟市道跡発掘調査速報会 新潟市文化財センター
- チ 寺崎裕助ほか 2004 「新潟県埋蔵文化財調査報告書第135集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書VI 反賀日遺跡」 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 寺村光晴 1960a 「越後六山遺跡」『上代文化』30 國學院大学考古学会
- 寺村光晴 1960b 「新潟県西蒲原郡六山遺跡」『日本考古学年報』9 日本国考古学協会
- ト 土橋由理子ほか 1999 「新潟県埋蔵文化財調査報告書第91集 国道49号横雲バイパス関係発掘調査報告書III 牛道遺跡」 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 土橋由理子ほか 2006 「新潟県埋蔵文化財調査報告書第166集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XVII 馬見坂遺跡 正尺A遺跡 正尺C遺跡」 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 土橋由理子ほか 2007 「新潟県埋蔵文化財調査報告書第177集 一般国道49号亀田バイパス関係発掘調査報告書I 城所道下遺跡 武佐衛門東遺跡」 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 土橋由理子ほか 2009 「新潟県埋蔵文化財調査報告書第200集 一般国道49号亀田バイパス関係発掘調査報告書II 西郷遺跡 大藏遺跡」 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ナ 仲川隆夫 1987 「新潟平野の形成史」『地質学雑誌』第93巻第8号 日本地質学会
- 中村孝三郎 1960 「西蒲原郡中野小屋村曾和生式六地山遺跡」『NHK』Vol.3 長岡市立科学博物館友の会
- ニ 新潟古砂丘グループ 1974 「新潟古砂丘と人類遺跡 -新潟古砂丘の形成史-」『第四紀研究』第13巻第2号 日本国第四紀学会
- 新潟古砂丘グループ 1979 「新潟平野をめぐる地形と地質-5 砂丘と平野」『アーバンクボタ』17 久保田鉄工㈱
- 新潟県教育庁文化行政課 1980 「昭和54年度新潟県遺跡地図」 新潟県教育委員会
- 「シンボジウム新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現」実行委員会 2005 「新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現」新潟県考古学学会
- 新潟市 2007 「新潟市の遺跡」 新潟市
- 日本考古学協会 2000 年度鹿児島大会実行委員会 2000 「はたけの考古学」 日本考古学協会 2000 年度鹿児島大会実行委員会
- ハ 橋本博文 2001 「六日町飯綱山古墳群の調査が提起する二、三の問題」『新潟県考古学会第13回大会発表要旨』 新潟県考古学会
- ヒ 広野耕造 1996 「石動遺跡 平成7年度発掘調査概報」 新潟市教育委員会
- 廣野耕造 1997 「箕前遺跡・神明社裏遺跡・城山遺跡」 新潟市教育委員会
- フ 古澤妥史ほか 2004 「県営灌水防除事業関連遺跡発掘調査報告書II 村下遺跡」京ヶ瀬村教育委員会
- 古澤妥史ほか 2011 「県営灌水防除事業関連遺跡発掘調査報告書III 墓塚遺跡・山口野中遺跡・三辺稻荷遺跡」阿賀野市教育委員会
- 文化庁文化財部記念物課監修 2010 『発掘調査のてびき』 文化庁文化財部記念物課
- 木 星野信明・石川智記ほか 1996 「新潟県埋蔵文化財調査報告書第80集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡II (B地区)」 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 細井住浩ほか 2010 「新潟県埋蔵文化財調査報告書第211集 北陸新幹線関係発掘調査報告書XVI 一般国道8号糸魚川東バイパス関係発掘調査報告書VI 六反田南遺跡II」 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

- 細井佳浩 2012 「新潟県における古墳時代中・後期の須恵器について（序）」『三面川流域の考古学』第10号 奥三
面を考える会
- 細野高伯・伊比博和ほか 2012 『大沢谷内遺跡II 第7・9・11・12・14次調査――般国道403号小須戸戸上バイパス
整備工事に伴う大沢谷内遺跡第2・4・6・7・9次発掘調査報告書―』 新潟市教育委員会
- △ 前山精明・相田泰臣 2002 『南赤坂遺跡－縄文時代前期～中期・古墳時代前期を主とする集落跡の調査－』 卷町教育
委員会
- 前山精明・相田泰臣 2003 『御井戸遺跡I～2002年度確認調査の概要－』 卷町教育委員会
- 前山精明・相田泰臣 2004 『御井戸遺跡II～2002年度確認調査の概要－』 卷町教育委員会
- △ 水澤幸一 2009 『胎内市埋蔵文化財調査報告第16集 新潟県胎内市天野遺跡3・4次 豚喰塚整備事業に伴う発掘
調査報告書11』 胎内市教育委員会
- 南 恵一 2002 『阿賀野川河口の変化について』『新潟史学』第49号 新潟史学会
- 南 恵一ほか 2003 『横越町史 通史編』 横越町
- 宮崎泰史ほか 2006 『大阪府立近づ飛鳥博物館図録40 年代のものさし－陶色－』 大阪府立近づ飛鳥博物館
- モ 望月精司 2004 『北陸地域における飛鳥時代須恵器の様相－飛鳥I～田原併行の北陸諸窯の様相差を中心として－』
『白門考古論叢 稲生典太郎先生追悼考古学論集』 中央考古会・中央大学考古学研究会
- △ 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』 吉岡弘文館
- 吉田恵二編 1982 『縦立八幡神社遺跡』 黒埼町教育委員会
- ワ 渡邊朋和 1991 『長沼遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和 1994 『八幡山遺跡発掘調査報告書－平成5年度範囲確認調査－』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和ほか 1997 『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書II 因村遺跡E・A・C地点、大入遺跡A地点』 新津市教育
委員会
- 渡邊朋和・立木宏明ほか 2001 『八幡山遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和・立木宏明ほか 2004 『八幡山遺跡群発掘調査報告書－第11・12・13・14次調査』 新津市教育委員会
- 渡邊ますみ 1991 『荒木前遺跡』 亀田町教育委員会
- 渡邊ますみ 1998 『第2章 原始・古代・一御立遺跡－』 黒埼町史資料編1 原始・古代・中世 黒埼町
- 渡邊ますみほか 2009 『駒首湯遺跡 第3・4次調査－大型小売店舗建設に伴う駒首湯遺跡第3・4次発掘調査報告書－』
新潟市教育委員会
- 渡邊ますみ・池田ひろ子 2009 『上大川遺跡 第2次調査－市道正尺・早通線道路改良工事に伴う上大川遺跡第2次調
査報告書－』 新潟市教育委員会
- 渡邊ますみ・奈良貴史 2012 『四十石遺跡 第2次調査－（仮称）新赤塚埋立処分地整備工事に伴う四十石遺跡第2次
発掘調査報告書』 新潟市教育委員会

第VI章 自然科学分析参考文献

(第1節)

- 杉山真二・藤原宏志 1986 「機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定－古環境推定の基礎資料として－」『考
古学と自然科学』19 p.69-84.
- 杉山真二 2000 「植物珪酸体（プラント・オパール）」『考古学と植物学』同成社 p.189-213.
- 藤原宏志 1976 「プランツ・オパール分析法の基礎的研究（1）－数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法－」『考
古学と自然科学』9 p.15-29.
- 藤原宏志・杉山真二 1984 「プランツ・オパール分析法の基礎的研究（5）－プランツ・オパール分析による水田址の
探し－」『考古学と自然科学』17 p.73-85.

(第2節)

- 金原正明 1993 「花粉分析法による古環境復原」『新版古代の日本 第10巻 古代資料研究の方法』 角川書店
p.248-262.
- 島倉巳三郎 1973 『日本植物の花粉形態』『大阪市立自然科学博物館収蔵目録』第5集 p.60
- 中村 純 1967 『花粉分析』 古今書院 p.82-102.
- 中村 純 1974 『イネ科花粉について、とくにイネ（*Oryza sativa*）を中心として』『第四紀研究』13 p.187-193.
- 中村 純 1977 『稻作とイネ花粉』『考古学と自然科学』10 p.21-30.
- 中村 純 1980 『日本産花粉の標識』『大阪自然史博物館収蔵目録』第13集 p.91

分類 分類 No.	種類 種類 No.	写真 写真 No.	通 標 通 標 名	グリット グリット %	時代 時代 名	標示面 標示面 主観方向	規 格 (m)				地盤 地盤 名	地盤 地盤 性質	地盤 地盤 状態	表面状況 表面状況	地盤 地盤 性質	出土地物 出土地物 名	備考	
							上 壁	中 壁	下 壁	底								
10	29	25	Pt 41	IB-8224, 934	古代	V壁上部	—	0.48	0.43	0.38	0.26	0.19	0.82	円形	白形状	2	レンズ状	
11	20	18	SX 42	IB-1021-22	古代	V壁上部	N69°-E	1.67	0.55	1.47	0.41	0.16	0.87	丸形	白形状	4	ブロック状	
10	29	—	Pt 43	IB-9115, 9311-16	古代	V壁上部	—	0.28	0.27	0.20	0.19	0.19	0.83	円形	白形状	1	単層	土壁器長便小片
10	30	—	Pt 44	IB-9316	古代	V壁上部	—	0.14	0.13	0.07	0.06	0.21	0.72	円形	U字形	1	単層	
10	30	—	Pt 45	IB-10210	古代	V壁上部	N48°-W	0.36	0.18	0.17	0.16	0.19	0.84	円形	直形状	1	単層	
10	30	—	Pt 46	IB-1025-10	古代	V壁上部	N12°-E	0.39	0.16	0.24	0.07	0.22	0.77	円形	半円状	1	単層	>Pt47
10	30	—	Pt 47	IB-1025	古代	V壁上部	N42°-E	0.14	0.14	0.12	0.10	0.08	0.92	円形	直形状	1	単層	<Pt46, >SD12
11	30	—	Pt 48	IB-1029	古代	V壁上部	N44°-E	0.29	0.23	0.18	0.12	0.30	0.79	円形	U字形	1	単層	
11	30	—	Pt 49	IB-1034	古代	V壁上部	N89°-W	0.24	0.21	0.14	0.12	0.24	0.84	円形	U字形	1	単層	
11	30	—	Pt 50	IB-1033	古代	V壁上部	—	0.32	0.32	0.26	0.19	0.23	0.83	円形	直形状	1	単層	土壁器小箇小片
11	30	—	Pt 51	IB-1015	古代	V壁上部	—	0.31	0.31	0.19	0.15	0.31	0.76	円形	U字形	1	単層	
10	30	—	Pt 52	IC-0413	古代	V壁上部	N45°-W	0.50	0.28	0.29	0.19	0.12	0.83	円形	直形状	1	単層	>SK57
10	29	—	Pt 53	IC-042	古代	V壁上部	N90°-W	0.24	0.12	0.14	0.07	0.12	0.88	円形	半円状	1	単層	>SD2
11	18	13	SD 54	IB-1025, 2B-115-10, L6	古代	V壁上部	N24°-E	(4.22)	0.26	(4.08)	0.14	0.08	0.98	—	直形状	1	単層	>SD55
11	18	13-14	SD 55	2B-1H9-10・12・13～14, 116	古代	V壁上部	N83°-37～87°-E	(10.08)	0.76	(10.08)	0.16	0.27	0.88	—	台形状	6	ブロック状	>SD81, SK82, >SD54
10	29	—	Pt 56	IC-8A7	古代	V壁上部	N90°-E	0.24	0.12	0.16	0.14	0.14	0.87	円形	台形状	1	単層	
10	20	18	SX 57	IC-9A12-13・17・18	古代	V壁上部	N47°-W	1.28	0.37	0.52	(0.21)	0.32	0.61	円形	複数段	8	レンズブロック	>PD52
11	30	—	Pt 58	BB-119	古代	V壁上部	N84°-W	0.20	0.10	0.13	0.12	0.08	0.92	円形	半円状	1	単層	>SD59
11	18	14	SD 59	BB-1H7～9	古代	V壁上部	N87°-E	(4.42)	0.40	(4.28)	0.14	0.14	0.90	—	台形状	3	レンズブロック	>PD58
11	30	—	Pt 60	BB-1H83	古代	V壁上部	—	0.25	0.24	0.14	0.13	0.08	1.03	円形	直形状	1	単層	
11	30	—	Pt 61	BB-1H83	古代	V壁上部	N29°-E	0.22	0.20	0.12	0.09	0.10	1.09	円形	直形状	1	単層	
11	17	12	SD 62	24・25, 1021, 2B-1H5,	古代	V壁上部	N46°-W	(2.76)	0.80	(12.76)	0.40	0.24	0.84	—	弧状	6	ブロック状	>SK84
11	30	—	Pt 63	BB-1H97	古代	V壁上部	N52°-W	0.21	0.19	0.10	0.09	0.14	0.97	円形	直形状	1	単層	
11	30	—	Pt 64	BB-1H17	古代	V壁上部	N49°-E	0.20	0.20	0.09	0.09	0.14	0.90	円形	U字形	1	単層	
11	30	—	Pt 65	BB-1H8	古代	V壁上部	—	0.24	0.24	0.15	0.12	0.11	0.96	円形	直形状	1	単層	
10	30	—	Pt 66	BB-1H20	古代	V壁上部	—	0.16	0.07	0.06	0.03	0.10	0.87	円形	直形状	1	単層	<SD3-9
10	30	—	Pt 67	IC-9A21	古代	V壁上部	N43°-E	0.27	0.11	0.14	0.14	0.15	0.82	円形	U字形	1	単層	
10	29	—	Pt 68	IC-0412	古代	V壁上部	N5°-S	0.24	0.18	0.14	0.14	0.22	0.77	円形	直形状	1	単層	
10	29	—	Pt 69	IC-0412	古代	V壁上部	N5°-W	(1.49)	0.37	(2.0)	0.22	0.14	0.80	円形	台形状	1	単層	
10	29	—	Pt 70	IC-0412	古代	V壁上部	N77°-W	0.03	0.18	0.12	0.09	0.14	0.83	円形	U字形	1	単層	
10	29	—	Pt 71	IC-0417	古代	V壁上部	N62°-W	0.18	0.38	0.05	0.07	0.17	0.81	円形	U字形	1	単層	
10	29	—	Pt 72	IC-0423, 9A3	古代	V壁上部	N80°-W	0.32	0.31	0.09	0.09	0.30	0.86	円形	直形状	8	ブロック状	
10	29	—	Pt 73	IC-0423	古代	V壁上部	N11°-E	0.22	0.22	0.07	0.06	0.21	0.81	円形	直形状	1	単層	
10	29	—	Pt 74	IC-0418	古代	V壁上部	N47°-E	0.20	0.16	0.02	0.03	0.19	0.70	円形	U字形	1	単層	
11	31	—	Pt 75	BB-1H13	古代	V壁上部	N60°-E	0.20	0.19	0.11	0.08	0.07	0.90	円形	直形状	1	単層	
11	31	—	Pt 76	BB-1H18	古代	V壁上部	N62°-W	0.21	0.20	0.07	0.07	0.12	0.84	円形	U字形	1	単層	
11	31	—	Pt 77	BB-1H19-24	古代	V壁上部	N17°-W	0.44	0.37	0.29	0.19	0.21	0.78	円形	直形状	4	レンズ状	
11	31	—	Pt 78	BB-1H14	古代	V壁上部	N41°-E	0.18	0.17	0.08	0.09	0.11	0.80	円形	直形状	1	単層	
11	31	—	Pt 79	BB-1H15	古代	V壁上部	N80°-W	0.35	0.30	0.25	0.17	0.12	0.83	円形	直形状	1	単層	
11	18	13	SD 81	BB-1H6-10	古代	V壁上部	N82°-E	5.22	0.30	5.22	0.10	0.16	0.92	—	平緩	2	水平	>SD55
11	20	13-18	SX 82	BB-1H10	古代	V壁上部	N80°-E	0.62	0.26	0.49	(0.20)	0.06	0.93	円形	直形状	2	ブロック状	>SD55
12	27	24	SX 83	BB-1H21-22	古代	V壁上部	N64°-E	1.56	0.49	0.41	0.40	0.45	0.89	円形	明瞭	9	ブロック状	>SD55
11	20	18	SX 84	BB-1H11	古代	V壁上部	N75°-E	(0.46)	(0.35)	(0.39)	(0.25)	0.19	0.85	円形	直形状	3	ブロック状	>SD62
11	30	—	Pt 85	BB-1H8-13	古代	V壁上部	N56°-E	0.42	0.32	0.31	0.25	0.07	0.99	円形	直形状	1	単層	
11-12	18	13	SD 86	BB-1G20-25, 1H3-4-7-8-11-12-16-21	古代	V壁上部	N35°-E	(1.06)	0.39	(16.9)	0.27	0.13	0.92	—	弧状	2	レンズ状	>SD55
11	30	—	Pt 87	BB-1H19-20	古代	V壁上部	N32°-W	0.32	0.24	0.20	0.21	0.19	0.90	円形	直形状	1	単層	
11	30	—	Pt 88	BB-1H13	古代	V壁上部	N40°-E	0.20	0.18	0.10	0.07	0.12	0.90	円形	U字形	1	単層	
11-12	31	—	Pt 89	BB-2H10	古代	V壁上部	N44°-E	0.33	0.29	0.22	0.19	0.11	0.24	円形	直形状	1	単層	
11	30	—	Pt 90	BB-1H12	古代	V壁上部	N5°-E	0.22	0.18	0.12	0.12	0.11	0.89	円形	直形状	1	単層	
11	30	—	Pt 91	BB-1H12	古代	V壁上部	N35°-E	0.22	0.19	0.09	0.09	0.10	0.89	円形	直形状	1	単層	
11	30	—	Pt 92	BB-1H13-18	古代	V壁上部	N5°-E	0.27	0.24	0.19	0.18	0.06	0.89	円形	直形状	1	単層	
11-12	31	—	Pt 93	BB-1H18	古代	V壁上部	—	0.15	0.15	0.06	0.04	0.11	0.85	円形	U字形	1	単層	

北緯 度数 No.	経度 度数 No.	写真 番号 No.	通　号	グリッド	時代	標高	主風向	風 (m)				風速 (m/s)	形態	地盤状況	表面地質	透視 地図	出土遺物	備考		
								上　風	中　風	下　風	深風									
12	31	-	PB 94	2B-1H17	古代	V壁上部	N55° E	0.26	0.14	0.13	0.24	0.73	円形	U字状	1 単層		38	瓦器無台輪 (127), 土器長縫小片		
11	30	-	PB 95	2B-1H15	古代	V壁上部	-	0.27	0.25	0.19	0.27	0.73	円形	直角状	1 単層					
12	31	-	PB 96	2B-2G5	古代	V壁上部	N43° W	0.26	0.25	0.10	0.09	0.12	0.82	楕円方形状	直角状	1 単層				
12	31	-	PB 97	2B-2G5	古代	V壁上部	N45° W	0.25	0.24	0.12	0.12	0.79	円形	U字状	1 単層					
11 - 12	31	-	PB 98	2B-1H18 + 23 - 24	古代	V壁上部	N37° W	0.20	0.26	0.12	0.14	0.20	0.76	円形	U字状	1 単層				
11 - 12	31	-	PB 99	2B-1H18	古代	V壁上部	N10° W	0.21	0.18	0.09	0.08	0.11	0.85	円形	直角状	1 単層				
11	31	-	PB 100	2B-1H18	古代	V壁上部	N32° W	0.20	0.18	0.10	0.08	0.08	0.80	円形	直角状	1 単層				
11	30	-	PB 101	2B-1H14 + 19	古代	V壁上部	N82° E	0.25	0.22	0.12	0.12	0.08	0.92	円形	直角状	1 単層			土器器底小片	
11	31	-	PB 102	2B-1H20	古代	V壁上部	N15° W	0.18	0.18	0.12	0.12	0.22	0.82	円形	U字状	1 単層				
11	31	-	PB 103	2B-2H1 - 2	古代	V壁上部	N12° E	0.18	0.16	0.05	0.04	0.14	0.96	楕円方形状	U字状	1 単層				
11 - 12	31	-	PB 104	2B-2H5	古代	V壁上部	-	0.30	0.28	0.15	0.12	0.16	0.88	楕円方形状	円形状	1 単層	44	鉢形 (22)		
11 - 12	31	-	PB 105	2B-2H5	古代	V壁上部	N41° W	0.32	0.24	0.15	0.12	0.14	0.92	楕円形	直角状	1 単層			土器器底小片	
12	31	-	PB 106	2B-2H5	古代	V壁上部	N35° E	0.40	0.36	0.32	0.28	0.12	0.85	円形	直角状	1 単層				
13	27	24	SN 107	2B-4F7 - 8 - 11 - 13 - 16	古代	V壁上部	N48° E	0.84	1.22	0.61	1.03	0.16	0.89	鉢形	直角状	4 プロック状	>PB111		土器器底小片	
13	31	-	PB 108	2B-4F13	古代	V壁上部	-	0.22	0.20	0.14	0.14	0.10	0.98	円形	平行状	1 単層				
13	31	-	PB 109	2B-4F17	古代	V壁上部	N74° W	0.20	0.18	0.12	0.10	0.12	0.90	円形	平行状	1 単層				
13	31	-	PB 110	2B-4F21	古代	V壁上部	N40° W	0.20	0.18	0.08	0.08	0.10	0.89	楕円方形状	U字状	1 単層				
13	31	-	PB 111	2B-4F16	古代	V壁上部	N53° W	0.45	0.36	0.30	0.20	0.12	1.02	円形	直角状	4 プロック状	>-SX107			
13 - 14	23	20	SN 112	2B-4F18 - 19 - 22 - 24, 5A1 - 4 - 5 - 8 - 11 - 12	古代	V壁上部	-	0.04	(4.46)	7.84	(4.42)	0.26	0.92	-	-	N		>PV200 - 201 - SN129 PB178 - 180 - 181	37	瓦器無台輪 (81 - 85 ~ 90), 土器長縫 (82 - 92), 台輪 (83 - 84) + 台輪前 (91) + 盆 (92), 1脚器底台輪小片
13 - 14	23	20	SD 113	2B-4E23 - 24, 5E4	古代	V壁上部	N28° W	(4.20)	0.22	(4.16)	0.16	0.20	0.90	-	台形状	3 レンズ状				
13 - 14	23	20	SD 114	2B-4E23, 5E3	古代	V壁上部	N28° W	(3.62)	0.28	(3.42)	0.20	0.09	0.89	-	直角状	3 レンズ状		>PB101		瓦器無台輪小片
13 - 14	23	20	SD 115	2B-4E22, 5E2 - 3 - 8	古代	V壁上部	N28° W	(3.46)	0.40	(3.38)	0.26	0.09	0.88	-	直角状	3 レンズ状				
13 - 14	23	20	SD 116	2B-4E11 - 2 - 7 - 8	古代	V壁上部	N27° W	(3.64)	0.48	(3.80)	0.24	0.21	0.84	-	円形	3 レンズ状				
13 - 14	23	20	SD 117	2B-5A1 - 2 - 7 - 11 - 12	古代	V壁上部	N29° W	(3.96)	0.36	(3.82)	0.22	0.22	0.87	-	円形	3 レンズ状				
14	23	20	SD 118	2B-5A8 - 11 - 12	古代	V壁上部	N28° W	(3.12)	0.20	(2.86)	0.12	0.17	0.91	-	円形	3 レンズ状				
14	24	21	SD 119	2B-5D10 - 15, 5E1	古代	V壁上部	N34° W	(3.52)	0.24	(2.48)	0.14	0.22	0.88	-	U字状	3 水平				
14	24	21	SD 120	2B-5D10 - 15 - 20, 5E11	古代	V壁上部	N35° W	(2.92)	0.26	(2.84)	0.20	0.12	0.88	-	円形	3 水平				
14	24	21	SD 121	2B-5D10 - 20	古代	V壁上部	N35° W	(2.75)	0.16	(2.72)	0.12	0.12	0.90	-	円形	3 水平				
14	24	21	SD 122	2B-5D10 - 14 - 15 - 20	古代	V壁上部	N46° - 22° - 28°	(2.89)	0.26	(2.76)	0.24	0.13	0.84	-	円形	3 レンズ状				
14	24	21	SD 123	2B-5D10 - 19 - 20	古代	V壁上部	N35° W	(2.44)	0.28	(2.36)	0.12	0.12	0.88	-	円形	3 レンズ状				
14	24	21	SD 124	2B-5D13 - 4 - 19	古代	V壁上部	N31° W	(2.86)	0.32	(2.60)	0.16	0.17	0.86	-	U字状	3 レンズ状				
14 - 15	24	21	SD 125	2B-5D13 - 19	古代	V壁上部	N32° W	(2.69)	0.22	(2.52)	0.09	0.12	0.84	-	円形	3 水平				
14 - 15	24	21	SD 126	2B-5D18 - 19 - 23 - 24	古代	V壁上部	N34° W	(2.56)	0.20	(2.52)	0.14	0.16	0.85	-	U字状	3 水平				
14 - 15	24	21	SD 127	2B-5D18 - 20 - 23	古代	V壁上部	N25° W	(2.23)	0.16	(2.28)	0.09	0.12	0.85	-	U字状	3 レンズ状				
14 - 15	24	21	SD 128	2B-6H17 - 18 - 23	古代	V壁上部	N39° W	(2.32)	0.36	(2.26)	0.16	0.13	0.89	-	U字状	3 水平				
14 - 15	24	21	SD 129	2B-5H9 - 10 - 13 - 15 - 17 - 20 - 22 - 24, 5H6 - 11	古代	V壁上部	-	0.04	(3.38)	7.72	(3.00)	0.27	0.84	-	-	N	水平	>SN112, PB178 - 179	37 - 38	瓦器無台輪小片, 土器無台輪小片 瓦器無台輪 (99), 1脚器底 (36 ~ 38), 台輪前 (91) + 盆 (92), 1脚器底台輪小片
13~15	21	19	SN 130	2B-4C5 - 4D9 - 9 - 10 - 12 - 24, 4E1 - 2 - 6, 5C4 - 8 - 9 - 10 - 15, 5D1 - 4 - 6 - 7 - 11	古代	V壁上部	-	17.58	(5.58)	-	-	0.28	0.90	-	-	N	水平	>SN209, PB213 >SX177	37	瓦器無台輪 (76) + 小鼎 (77) + 鉢台輪 (78), 土器無台輪 (74 - 79), 盆 (75) + 小鼎 (80) 瓦器無台輪
14 - 15	21	19	SD 131	2B-5C4 - 5 - 10 - 15, 5D6 - 11	古代	V壁上部	N43° W	(3.32)	0.24	(3.24)	0.16	0.08	0.70	-	直角状	3 レンズ状				
14 - 15	21	19	SD 132	2B-5C5 - 10, 5D1 - 6	古代	V壁上部	N42° W	(3.24)	0.32	(3.21)	0.28	0.04	0.82	-	直角状	3 レンズ状				
14 - 15	21	19	SD 133	2B-5C5 - 10, 5D1 - 6, 5C5	古代	V壁上部	N41° W	(4.46)	0.28	(4.40)	0.12	0.14	0.68	-	直角状	3 レンズ状				
14 - 15	21	19	SD 134	2B-4H21, 5D1 - 2	古代	V壁上部	N43 - 2	3.60	0.24	3.44	0.12	0.06	0.76	-	直角状	3 レンズ状				
14 - 15	21	19	SD 135	2B-4H21 - 22 - 23, 5D3	古代	V壁上部	N43 - 2	(4.94)	0.22	(4.85)	0.24	0.08	0.80	-	円形	3 レンズ状				
14 - 15	21	19	SD 136	2B-4H21 - 17 - 18 - 23 - 24	古代	V壁上部	N42 - 2	(4.68)	0.24	(4.82)	0.16	0.10	0.80	-	円形	3 レンズ状				
14 - 15	21	19	SD 137	2B-4H21 - 18 - 19 - 24	古代	V壁上部	N44 - 2	(4.66)	0.28	(4.64)	0.16	0.11	0.80	-	円形	3 レンズ状				
14 - 15	21	19	SD 138	2B-4H21 - 19 - 19	古代	V壁上部	N43 - 2	(3.20)	0.26	(3.24)	0.16	0.06	0.80	-	円形	5 水平		>SN130B129		
13 - 14	21	19	SD 139	2B-4D13 - 14 - 19 - 20	古代	V壁上部	N42 - W	(4.04)	0.22	(3.96)	0.16	0.08	0.82	-	直角状	3 レンズ状		>SN209D126	37	土器器底
13 - 14	21	19	SD 140	2B-4D19 - 14 - 15 - 20	古代	V壁上部	N42 - W	(4.12)	0.36	(4.02)	0.24	0.11	0.83	-	直角状	3 レンズ状				

分類 測量 番号 No.	測量 用具 No.	写真 No.	基 盤	グリッド No.	時代 代	標記面 面積	主風向	規 格 (cm)				地盤 名	形 態	覆土 厚	地盤状況	表面地盤 性状	地盤 強度 指標	出上通物	備考
								上 面	中 間	下 面	側面								
14 - 15 - 32	-	PW 189	2B-6D1	-	古代	V壁上部	N37° - W	0.26	0.26	0.11	0.10	0.20	0.78	円形	V字底	1 単層	>SK198		
14 - 15 - 32	-	PW 190	2B-6D1	-	古代	V壁上部	-	0.26	0.25	0.12	0.12	0.12	0.80	円形	U字底	1 単層	>SK198		
14 - 15 - 32	-	PW 191	2B-6D1	-	古代	V壁上部	-	0.25	0.24	0.12	0.12	0.10	0.80	円形	U字底	1 単層	>SK198		
15 - 32	-	PW 192	2B-6C7 - 8	-	古代	V壁上部	N23° - W	0.18	0.18	0.10	0.09	0.12	0.77	円形	白粘土状	1 単層	>SN150		
15 - 32	-	PW 193	2B-6C3	-	古代	V壁上部	-	0.25	0.25	0.14	0.11	0.11	0.78	圓弧形	白粘土状	1 単層	>SN150		
15 - 32	-	PW 194	2B-6C3	-	古代	V壁上部	-	0.17	0.17	0.09	0.07	0.07	0.81	圓弧形	白粘土状	1 単層	>SN150		
14 - 15 - 32	-	PW 195	2B-5C24	-	古代	V壁上部	-	0.15	0.15	0.09	0.08	0.15	0.73	円形	U字底	1 単層	>SN150		
15 - 32	-	PW 196	2B-6C3	-	古代	V壁上部	-	0.15	0.13	0.07	0.06	0.10	0.79	圓弧形	U字底	1 単層	>SN150		
15 - 32	-	PW 197	2B-6C4 - 9	-	古代	V壁上部	N90° - E	0.15	0.17	0.07	0.04	0.12	0.83	圓弧形	U字底	1 単層	>SN150		
14 - 15 - 20	18	SK 198	2B-SD21, 6D1	-	古代	V壁上部	N19° - E	(0.94)	0.91	(0.82)	0.64	0.18	0.81	橢円形	弧状	2 レンズ状	<SD148, PW189 ~	風生無白粘土片、土解崩断片	
14 - 24 - 21	SD 199	2B-SD6 - 11	-	古代	V壁上部	N30° - W	(1.80)	0.12	(1.76)	0.08	0.08	0.87	-	白粘土状	3 単層	>PW178 - 179	SN129		
13 - 34 - 31	-	PW 200	2B-5E1	-	古代	V壁上部	N43° - E	0.29	0.25	0.15	0.19	0.07	0.80	円形	弧状	1 単層	>SN112		
13 - 34 - 32	-	PW 201	2B-5E2 - 4	-	古代	V壁上部	N32° - E	0.31	0.29	0.19	0.18	0.05	0.83	圓弧形	白粘土状	1 単層	>SN125D14		
13 - 14 - 22	19	SD 202	2B-4D9	-	古代	V壁上部	N38° - W	(0.12)	0.20	(0.06)	0.16	0.12	0.86	-	U字底	5 単層	>SN130		
13 - 14 - 22	19	SD 203	2B-4D9 - 10 - 15	-	古代	V壁上部	N46° - W	(0.64)	0.24	(0.22)	0.08	0.12	0.94	-	白粘土状	5 単層	>SN130D141		
13 - 14 - 22	19	SD 204	2B-4D10	-	古代	V壁上部	N39° - W	(0.44)	0.24	(0.44)	0.12	0.10	0.90	-	白粘土状	5 単層	>SN130		
13 - 14 - 22	19	SD 205	2B-4D10 - 4B6 - 11	-	古代	V壁上部	N41° - W	(0.40)	0.20	(0.28)	0.08	0.08	1.04	-	白粘土状	5 単層	>SN130	土解崩無白粘土片	
13 - 14 - 22	19	SD 207	2B-4E3 - 6	-	古代	V壁上部	N41° - W	(0.26)	0.25	(0.24)	0.19	0.08	1.04	-	白粘土状	5 単層	>SN130D143		
13 - 14 - 22	19	SD 208	2B-4E3 - 6 - 7	-	古代	V壁上部	N41° - W	(0.08)	0.20	(0.04)	0.12	0.05	1.05	-	白粘土状	5 単層	>SN130D144	土解崩無白粘土片	
13 - 14 - 22	19	SD 209	2B-4E9 - 10 - 13 - 15 - 17 - 18 - 19 - 20 - 21 - 22 - 23 - 24 - 25 - 26 - 27 - 28	-	古代	V壁上部	-	-	-	-	-	-	-	V	水平	<SN130	土解崩無白粘土片		
14 - 15 - 32	-	PW 210	2B-SD21	-	古代	V壁上部	N47° - E	0.33	0.28	0.22	0.19	0.09	0.71	円形	台形状	1 単層	>PW211 - 212 - SD148		
14 - 15 - 32	-	PW 211	2B-SD21	-	古代	V壁上部	N42° - W	0.30	0.20	0.16	0.14	0.09	0.71	圓弧形	風化	1 単層	>SD148, PW210		
14 - 15 - 32	-	PW 212	2B-SD21	-	古代	V壁上部	N45° - E	0.30	0.20	0.17	0.15	0.12	0.69	円形	U字底	1 単層	>SD148, PW210		
13 - 14 - 31	31	PW 213	2B-4E7	-	古代	V壁上部	N52° - E	0.17	0.15	0.07	0.06	0.14	0.54	円形	U字底	1 単層	>SN125D144		
13 - 14 - 31	31	PW 214	2B-4E31 - 16	-	古代	V壁上部	-	0.20	0.20	0.16	0.09	0.12	0.71	円形	台形状	1 単層			

別表2 古墳時代土器觀察表

測量 番号 No.	報告書 No.	基 礎	王 土 基 礎	腰 壁	蓋 板	分類	新 王 法 量 (cm)	色 調	地 盤	調 査			進 歩 率	付 着 物・使用鉛錠等	備 考			
										内 面	外 面	底 面						
33 - 27	1	SK1	IC-8A1	I	直筒形	直白漆	石・テ・白	9.0	12.0	13.4	IR. (N4/4)	IR. (N4/4)	溝	クロロナメル	口クロロナメル 体・白ナメル 脊・留め柱 留子	35/36	36/36	重量: 507.2kg
34 - 28	2	直筒形 IC-7A22	V	土解崩	高所	高所	高所 高所	A	石・長・テ・白	相	30.0	-	-	口クロロナメル 体・白ナメル 脊・留め柱 留子	3/36	10/36		
34 - 28	3	直筒形 IC-7A22	V	土解崩	高所	高所	高所 高所	A	石・長・テ・白	相	30.0	-	-	口クロロナメル 体・白ナメル 脊・留め柱 留子	4/36	1/36		
34 - 28	4	直筒形 IC-7A22	V	土解崩	高所	高所	高所 高所	A	石・長・テ・白	相	(14.0)	壁 (SYR 6/6)	壁 (SYR 6/6)	口クロロナメル 体・白ナメル 脊・留め柱 留子	2/36	1/36		
34 - 28	5	直筒形 IC-8A9	IV	土解崩	垂	A1	石・長・テ・白	相	(17.8)	留	(10YR 6/6)	留	留	口クロロナメル 体・白ナメル 脊・留め柱 留子	2/36	1/36		
34 - 28	6	直筒形 IC-8A9	五	土解崩	垂	A1	石・長・テ・白	相	16.5	壁 (SYR 6/6)	壁 (SYR 6/6)	留	口クロロナメル 体・白ナメル 脊・留め柱 留子	4/36	1/36	コゾ (口解崩)		
34 - 28	7	直筒形 IC-11B5	三	土解崩	垂	A1	石・長・テ・白	相	4.2	留	(10YR 6/1)	留	留	口クロロナメル 体・白ナメル 脊・留め柱 留子	9/36	1/36	スス	
34 - 28	8	直筒形 IC-11B5	三	土解崩	垂	A2	石・長・テ・白	相	(29.4)	口・内・直壁	(10YR 7/4)	口・内・直壁	口・内・直壁	口・内・直壁 体・ヨコナメル 体・ヨコナメル 脊・ケズリ 体・ハナメ・ケズリ	9/36	コゾ (スス)		
34 - 28	9	直筒形 IC-11B5	三	土解崩	垂	A1	石・長・テ・白	相	(7.5M)	壁 (SYR 6/4)	壁 (SYR 6/4)	留	口・内・直壁 体・ヨコナメル 体・ヨコナメル 脊・ケズリ 体・ハナメ・ケズリ	3/36				
34 - 28	10	直筒形 IC-11B5	三	土解崩	垂	A1	石・長・テ・白	相	(20.0)	壁 (SYR 7/6)	壁 (SYR 7/6)	留	口・内・直壁 体・ヨコナメル 体・ヨコナメル 脊・ケズリ 体・ハナメ・ケズリ	2/36	1/36			
34 - 28	11	直筒形 IC-12H2	V	土解崩	垂	石	石・長・テ・白	相	8.0	口・内・直壁	(10YR 7/3)	口・内・直壁	口・内・直壁	口・内・直壁 体・ハナメ・ケズリ 体・ハナメ・ケズリ	10/36	1/36		
34 - 28	12	直筒形 IC-12H2	V	土解崩	垂	石	石・長・テ・白	相	6.0	口・内・直壁	(10YR 7/2)	口・内・直壁	口・内・直壁	口・内・直壁 体・ヨコナメル 体・ヨコナメル 脊・ケズリ 体・ハナメ・ケズリ	14/36	1/36		
34 - 28	13	直筒形 IC-11B5	V	土解崩	垂	A1	石・長・テ・白	相	(14.6)	留	(10YR 8/2)	留	留	口・内・直壁 体・ヨコナメル 体・ヨコナメル 脊・ケズリ 体・ハナメ・ケズリ	2/36	1/36		

規格 No.	規格番 No.	品 名	土 質	質 地	種 類	分類	形 状	直 径	高 度	外 面	色 調	規格		適合率	付着物・生糞の跡等	備 考		
												有 機 物	無 機 物	内 面	外 面	底 部	全体	
34	28	14	混合種	2B-116	Ⅲ	土解離	砂	A1	石・長・チ・白・海	普通	(14.6)	△△・△・△	(10YR 7/4) (10W 4/3)	△△・△・△	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△
34	28	15	混合種	2B-116	Ⅲ	土解離	砂	A1	石・長・チ・白・海	普通	8.0	△△・△・△	(10YR 7/3)	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△
34	28	16	混合種	2B-116	V	土解離	砂	A1	石・長・チ・白・海	普通	4.0	△△・△	(SYR 6/8)	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△
34	28	17	混合種	2B-117	Ⅲ	土解離	砂	A1	石・長・チ・白・海	普通	(20.0)	△△・△	(SYR 7/6)	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△
34	28	18	混合種	2B-212	Ⅲ	土解離	砂	A2	石・長・白・海	粗	(13.4)	△△・△	(10YR 7/4)	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△
35	28	19	混合種	2B-1112	Ⅴ	土解離	砾	高林耐A1	石・長・チ・白・海	普通	13.2	△△・△	(10YR 8/4)	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△
35	28	20	混合種	2B-1114	Ⅴ	土解離	砾	A1	石・長・チ・白・海	普通	(20.0)	△△・△	(10YR 7/3)	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△
35	28	21	混合種	2B-1114	Ⅴ	土解離	砾	A1	石・長・チ・白・海	普通	(17.0)	△△・△	(SYR 7/6)	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△
35	28	22	混合種	2B-1114	Ⅲ	土解離	砾	A1	石・長・白・海	粗	(18.0)	△△・△	(SYR 8/6)	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△
35	28	23	混合種	2B-1122	Ⅴ	土解離	砾	A1	石・長・チ・白・海	普通	7.0	△△・△	(10YR 8/3)	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△
35	28	24	混合種	2B-1121	Ⅲ	土解離	砂	A1	石・長・チ・白・海	普通	21.5	△△・△	(SYR 6/8)	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△
35	28	25	混合種	2B-1121	Ⅲ	土解離	砂	A4	石・長・白・海	普通	35.0	△△・△	(10YR 7/4)	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△
35	28	26	混合種	2B-1118	Ⅲ	土解離	砾	A	石・長・チ・白・海	普通	6.4	△△・△	(SYR 7/6)	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△
35	28	27	混合種	2B-2H2	Ⅲ	土解離	砂	A3	石・長・チ・白・海	普通	(12.0)	△△・△	(10YR 7/6)	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△
35	28	28	混合種	2B-2H11	Ⅲ	土解離	砂	A1	石・長・チ・白・海	普通	(16.0)	△△・△	(SYR 8/4)	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△
35	28	29	混合種	2B-2H11	Ⅲ	土解離	砂	A1	石・長・チ・白・海	普通	(16.0)	△△・△	(SYR 7/6)	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△
35	28	30	混合種	2B-3E19	Ⅴ	土解離	砂	A1	石・長・チ・白・海	普通	8.0	△△・△	(SYR 7/6)	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△
35	28	31	混合種	2B-3F1	V	土解離	砂	A1	石・長・チ・白・海	普通	17.0	△△・△	(10YR 7/3)	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△
35	28	32	混合種	2B-3F10	V	土解離	砂	A1	石・長・チ・白・海	普通	(21.0)	△△・△	(10YR 8/4)	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△
35	28	33	混合種	2B-3G14	Ⅴ	土解離	砂	A1	石・長・チ・白・海	普通	(16.0)	△△・△	(10YR 7/4)	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△
35	28	34	混合種	2B-4F2	Ⅲ	土解離	砂	A1	石・長・チ・白・海	普通	(18.9)	△△・△	(SYR 6/6)	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△
35	SD3	IC-S8A10	4	1.0mm	砾	A	石・白・海			普通	(3.0)	4.0	(6.5)	△△・△	(SYR 6/6)	△△・△	△△・△	△△・△
36	29	51	SD2	IC-9A21	4	1.0mm	砂		石・長・チ・白・海	普通	8.0	△△・△	(10YR 5/1)	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△
36	29	69	SK4	IC-TA23	1	1.0mm	砂		石・長・チ・白・海	普通	7.0	△△・△	(10YR 8/3)	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△
38	30	123	SK83	2B-2H1	3	1.0mm	砂	A1	石・長・チ・白・海	普通	(16.0)	△△・△	(10YR 7/4)	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△	△△・△

別表3 古代・中世土器觀察表

測量 No. 測定 No.	測定 No.	出土地位置		種類	分類	法 量 (cm)	測高 度範 囲	測高 度誤 差	測高 度誤 差	地 上		地 下		手 法		達成率 全休	備 考				
		通幅	グリッド 位置							底面	側面	外 面	内 面	底面	外 面						
36	29	36	SD3	IC-BA21	4	直底盤	柱蓋	-	(1.76)	-	白陶	小鉢	GY5/1 黒	GY5/1 黒	選元	クロロナ	-	3/36			
36	29	37	SD3	IC-BA1	3	直底盤	無柱蓋	A 田	12.4	7.0	2.85	23.0	5.65	セマ・白陶	小鉢	GY5/1 黒	GY5/1 黒	選元	クロロナ	ヘラ切	2/36 21:36/10:36
36	29	38	SD3	IC-BA16+21	4	直底盤	無柱蓋	A 田	(12.4)	-	(2.6)	-	白陶	小鉢	GY6/1 黒	GY6/1 黒	選元	クロロナ	-	3/36	
36	29	39	SD3	IC-BA16	4	直底盤	無柱蓋	-	-	(8.2)	(1.5)	-	セマ・白陶	小鉢	GY6/1 黒	GY6/1 黒	選元	クロロナ	ヘラ切	7/36 5/36	
36	29	40	SD3	IC-BA21	2	直底盤	無柱蓋	-	(5.4)	(0.75)	-	白陶	小鉢	GY6/1 黒	GY6/1 黒	選元	クロロナ	クロロナ	2/36 3/36		
36	29	41	SD3	IB-039	4	直底盤	知合市	-	-	(6.7)	-	灰・白陶	小鉢	GJ3/1 オーリーブ黒	N7/1 黒	選元	クロロナ	ヘラ切	-	3/36	
36	29	42	SD3	IB-B25	2	直底盤	健	-	-	(7.1)	-	白陶	小鉢	GY6/1 黒	GY6/1 黒	選元	クロロナ	-	1/36		
36	29	43	SD3	IC-BA11	2	直底盤	健	-	-	(6.8)	-	石・長・白陶	小鉢	10Y6/1 黑	10Y6/1 黑	選元	タタキメ	-	1/36		
36	29	44	SD3	IC-BA16	2	上縁部	具形	-	-	(4.0)	-	灰・サ	小鉢	10Y6/7/6 明治期	10Y6/7/6 明治期	選元	タタキメ	-	1/36		
36	29	45	SD3	IC-BA21	4	上縁部	小瓶	A	(16.0)	-	(2.6)	-	長・サ	小鉢	GY7/4/2 に赤い縁	7.5Y8/4/2 既存	選元	クロロナ	クロロナ	3/36	
36	29	46	SD3	IC-BA21	2	上縁部	小瓶	B	(12.4)	-	(1.4)	-	G・長・チサ	小鉢	2.5Y8/4/2 既存	2.5Y8/4/2 既存	選元	クロロナ	クロロナ	2/36	
36	29	47	SD3	IC-BA21	4	上縁部	小瓶	-	-	(7.0)	(2.6)	-	長・チサ	小鉢	10Y6/3/3 に赤い縁	10Y6/3/3 既存	選元	クロロナ	クロロナ	14/36 3/36	
36	29	48	SD3	IC-BA21	2	上縁部	小瓶	-	(7.8)	(1.9)	-	石・長・健・土器・白陶	小鉢	GY7/6 既	7.5Y8/6 既存	選元	セロロナ	セロロナ	-	5/36 5/36	
36	29	49	SD3	IC-BA6	2	上縁部	小瓶	-	(8.6)	(1.2)	-	石・長・サ	小鉢	7.5Y8/6 既存	7.5Y8/6 既存	選元	クロロナ	ヘラ切	-	9/36 1/36	
36	29	50	SD3	IC-BA21	2	上縁部	湖	(39.0)	-	(2.5)	-	石・サ	小鉢	7.5Y8/6/2 浅瀬端	7.5Y8/6/2 浅瀬端	選元	セロロナ	セロロナ	1/36		
36	29	52	SD2	IC-BA22	3	直底盤	無柱蓋	B 田	(13.0)	-	(2.5)	-	石・長	小鉢	10Y6/1 黒	10Y6/1 黒	選元	クロロナ	-	1/36	
36	29	53	SD2	IC-BA22	3	直底盤	無柱蓋	A 田	(12.0)	-	(1.9)	-	灰・サ	小鉢	GY6/1 黒	GY6/1 黒	選元	クロロナ	クロロナ	-	1/36
36	29	54	SD2	IC-BA11	1	直底盤	有柱蓋	-	-	(7.4)	(1.05)	-	白陶	小鉢	GY6/1 黑	GY6/1 黑	選元	タタキメ	-	1/36	
36	29	55	SD2	IC-BA11	1	直底盤	健	-	-	(2.7)	-	セマ	小鉢	GY6/1 黑	GY6/1 黑	選元	タタキメ	-	1/36		
36	29	56	SD2	IC-BA11	3	直底盤	健	-	-	(8.2)	-	白陶	小鉢	GY6/1 黑	GY6/1 黑	選元	タタキメ	-	1/36		
36	29	57	SD2	IC-BA1	3	上縁部	小瓶	A	(13.2)	-	(1.6)	-	セマ・白陶	小鉢	GY8/4 既存	GY8/4 既存	選元	クロロナ	クロロナ	1/36	
36	29	58	SD2	IC-BA17	1	上縁部	小瓶	-	(9.3)	(1.9)	-	石・長・サ	小鉢	7.5Y8/6 既	10Y6/7/6 明治期	選元	タタキメ	タタキメ	-	5/36 1/36	
36	29	59	SD13	IC-BA13	1	上縁部	無柱蓋	-	(5.0)	(1.7)	-	石・長・白陶	小鉢	7.5Y8/4/2 浅瀬端	7.5Y8/6 既	選元	クロロナ	クロロナ	2/36 2/36		
36	29	60	SD5	IC-BA18	2	直底盤	具形	-	(7.0)	(1.0)	-	石・白陶	小鉢	GY6/1 黑	GY6/1 黑	選元	クロロナ	ヘラ切	-	3/36 1/36	
36	29	61	SD5	IC-BA20	3	上縁部	無柱蓋	-	(6.0)	(0.9)	-	石・白陶	小鉢	10Y8/2/2 既存	10Y8/2/2 既存	選元	セロロナ	セロロナ	3/36 1/36		
36	29	62	SD5	IC-BA23	3	上縁部	長腹	A	(24.0)	-	(2.1)	-	石・直腹・白陶	小鉢	10Y8/3/2 浅瀬端	10Y8/6/2 浅瀬端	選元	クロロナ	クロロナ	1/36	
36	29	63	SD9	IC-BA16	1	直底盤	健	-	-	(2.6)	-	石・長	小鉢	GY4/1 黑	GY4/1 黑	選元	タタキメ	-	1/36		
36	29	64	SD9	IC-BA17	1	直底盤	無柱蓋	-	(7.2)	(1.05)	-	石・長・サ	小鉢	7.5Y8/6/2 浅瀬端	7.5Y8/6/2 浅瀬端	選元	クロロナ	クロロナ	-	3/36 1/36	
36	29	65	SD9	IC-BA16	1	上縁部	長腹	-	(22.6)	-	(3.0)	-	石・直腹・白陶	小鉢	7.5Y8/6/2 浅瀬端	10Y8/6/2 既存	選元	タタキメ	タタキメ	3/36	
36	29	66	SD9	IC-BA21	3	上縁部	湖	(38.4)	-	(3.8)	-	石・直・質	小鉢	10Y8/3/2 浅瀬端	10Y8/6/2 浅瀬端	選元	クロロナ	クロロナ	1/36		
36	29	67	SD55	2B-189	1	上縁部	無柱蓋	-	(8.0)	(1.2)	-	セマ	小鉢	7.5Y8/6/2 浅瀬端	7.5Y8/6/2 浅瀬端	選元	クロロナ	クロロナ	3/36		
36	29	68	SD55	2B-177	1	上縁部	直柱蓋	-	-	(5.7)	-	石・白陶	小鉢	GY5/1 黑	GY5/1 黑	選元	クロロナ	クロロナ	-	1/36	
36	29	69	2B-15	IC-BA13	6	直底盤	直柱蓋	-	(10.8)	(1.4)	-	石・白陶	小鉢	GY5/1 黑	GY5/1 黑	選元	クロロナ	クロロナ	-	1/36 1/36	
37	29	70	2B-17	IC-BA13	6	直底盤	直柱蓋	-	(8.6)	(0.5)	-	石・直・質	小鉢	GY6/1 黑	GY6/1 黑	選元	クロロナ	クロロナ	-	7/36 5/36	
37	29	71	SKR	IC-BA13	3	直底盤	直柱蓋	-	(7.2)	(1.0)	-	直・白陶	小鉢	GY5/1 黑	GY5/1 黑	選元	クロロナ	クロロナ	-	7/36 5/36	
37	29	72	SKT	IC-BA20	9	直底盤	無柱蓋	-	(7.2)	(1.0)	-	直・土器・白陶	小鉢	GY5/1 黑	GY5/1 黑	選元	クロロナ	ヘラ切	-	14/36 9/36	
37	29	73	SKT	IC-BA20	9	直底盤	長腹	A	(19.0)	-	(2.8)	-	セマ	小鉢	10Y8/5/6 黄	10Y8/5/6 黄	選元	クロロナ	クロロナ	2/36	
37	29	74	SD126	2B-032	1	上縁部	無柱蓋	-	(8.3)	(0.9)	-	石・カッセ・直腹・白陶	小鉢	10Y8/5/6/2 浅瀬端	10Y8/5/6/2 浅瀬端	選元	セロロナ	セロロナ	-	3/36 1/36	
37	29	75	SD130	2B-4019	1	上縁部	湖	(46.0)	-	(2.1)	-	石・長・白陶	小鉢	7.5Y8/2/2 に A/B 深瀬端	7.5Y8/2/2 に A/B 深瀬端	選元	クロロナ	クロロナ	2/36		
37	29	76	SD130	SD141	2B-4015	1	直底盤	楕瓶	-	-	(6.7)	-	石・セマ・白陶	小鉢	10Y6/1 黑	2.5Y7/1/3 白	選元	クロロナ	-	2/36	
37	29	77	SD130	SD144	2B-485	1	直底盤	瓶	-	-	(5.25)	-	石・白陶	小鉢	GY3/1 オーリーブ黒	N5/1 黑	選元	タタキメ	-	1/36	
37	29	78	SD130	2B-4021	4	直底盤	無柱蓋	A V	(14.0)	-	(2.8)	-	白陶	小鉢	GY6/1 黑	GY6/1 黑	選元	クロロナ	クロロナ	1/36	
37	29	79	SD130	2B-4018	5	上縁部	無柱蓋	-	-	(5.5)	(1.4)	-	石・白陶	小鉢	10Y8/5/6/2 浅瀬端	10Y8/5/6/2 浅瀬端	選元	塞戻により不明瞭	塞戻により不明瞭	-	19/36 4/36
37	29	80	SD130	2B-5C10	4	上縁部	小瓶	-	-	(6.0)	(2.4)	-	石・長・チサ	小鉢	2.5Y8/5/6 黒	2.5Y8/5/6 黒	選元	クロロナ	クロロナ	9/36 2/36	
37	29	81	SD112	2B-3E2	3	直底盤	無柱蓋	A V	(14.0)	-	(3.6)	-	石・白陶	小鉢	GY6/1 黑	GY6/1 黑	選元	クロロナ	クロロナ	3/36	
37	29	82	SD112	2B-3E2	3	上縁部	長腹	A	(20.0)	-	(2.2)	-	石・長・白陶	小鉢	7.5Y8/5/6 既	7.5Y8/5/6 既	選元	タタキメ	タタキメ	1/36	
37	29	83	SD112	2B-5E7	1	上縁部	無柱蓋	B II	(13.0)	-	(3.2)	-	セマ	小鉢	7.5Y8/6/2 浅瀬端	7.5Y8/6/2 浅瀬端	選元	クロロナ	クロロナ	5/36	
37	29	84	SD112	2B-5E7	3	上縁部	無柱蓋	B III	(14.4)	-	(2.3)	-	石・長・サ	小鉢	GY8/8/3 深瀬	GY8/8/3 深瀬	選元	クロロナ	クロロナ	2/36	
37	29	85	SD112	2B-4E23	3	直底盤	無柱蓋	A 田	(12.0)	-	(2.75)	-	石・長・白陶	小鉢	GY7/1 黒	GY7/1 黒	選元	クロロナ	クロロナ	1/36	
37	29	86	SD112	2B-5E3	4	直底盤	無柱蓋	B III	(12.4)	-	(1.8)	-	石・長・白陶	小鉢	2.5Y7/1 黒	2.5Y7/1 黒	選元	クロロナ	クロロナ	3/36	

回数 No.	写真 No.	通欄 番号	出力経路			送信 距離 km	送信 時間 分	送信 高さ m	送信 角度 度	送信 波数	射 束	色 調	手 法	測定 基準		
			送信 グリッド	送信 位置	送信 時間						内面	外面	内面	外面	基準	
37	29	87 SN129	2B-6C8	4 組合せ	角合せ A	(12.0)	-	(3.6)	-	-	石・白駆	小田 GY6/1 黒	透丸 ロクロナデ	ロクロナデ	2/36 - 1/36	
37	29	88 SN129	2B-6C3	4 組合せ	角合せ	-	(7.0)	(2.0)	-	-	石・黒土・白駆	小田 GY6/1 黒	透丸 ロクロナデ	ロクロナデ	- 6/36 3/36	
37	29	89 SN129	2B-6C7	4 組合せ	角合せ	-	(6.0)	(1.0)	-	-	チャ	小田 GY6/1 黒	透丸 ロクロナデ	ロクロナデ	- 8/36 3/36	
37	29	90 SN129	2B-6C2	4 組合せ	角合せ	-	(7.0)	(0.7)	-	-	石・白駆	小田 GY6/1 黒	透丸 ロクロナデ	ロクロナデ	- 5/36 1/36	
37	29	91 SN129	2B-6C2	3 上部側	角合せ	-	4.1	(0.9)	-	-	石・チャ・白駆	10YR8/4 浅黄	透丸 7.5YR8/3 浅黄	透丸 ロクロナデ	ロクロナデ	- 10/36 4/36
37	29	92 SN129	2B-6B6	3 上部側	長方形	B	(24.0)	-	(3.2)	-	石・白駆	10YR8/3 C にかべ・黒駆	透丸 ロクロナデ	ロクロナデ	- 2/36 - 1/36	
37	29	93 SN129	2B-6C3	3 上部側	長方形	(38.0)	-	(1.72)	-	-	石・長・チャ・白駆・角	10YR8/4 浅黄	透丸 10YR8/3 C にかべ・黒駆	透丸 ロクロナデ	- 1/36	
37	29	94 SN129	SD-120	2 土壁	層	(40.0)	-	(5.4)	-	-	石・チャ	10YR8/2 黒白	透丸 10YR8/6 白駆	透丸 ロクロナデ カキ	ロクロナデ カキ	- 3/36 - 3/36
37	30	95 SN129	2B-6D19	4 水蒸気	長方形	(10.0)	(1.65)	-	-	-	石・長・チャ・白駆	小田 GY5/1 黒	透丸 ロクロナデ	ロクロナデ	- 7/36 1/36	
37	30	96 SN129	2B-6D19	4 上部側	層	(13.9)	-	(3.5)	-	-	石・黒土・白駆	7.5YR8/4 浅黄	透丸 ロクロナデ	ロクロナデ	- 2/36 - 1/36	
37	30	97 SN129	2B-6D15	4 上部側	層	-	(4.5)	(4.9)	-	-	石・チャ・焼土・白駆	7.5YR8/6 浅黄	透丸 ロクロナデ	ロクロナデ	- 15/36 10/36	
37	30	98 SN129	2B-6D19	4 上部側	層	-	(6.0)	(2.5)	-	-	石・黒土・白駆	2.5YR8/3 浅黄	透丸 ロクロナデ	ロクロナデ	- 6/36 2/36	
37	30	99 SN129	2B-6D20	3 上部側	層	-	(6.0)	(1.6)	-	-	石・長・チャ	7.5YR8/4 浅黄	透丸 ロクロナデ	ロクロナデ	- 8/36 2/36	
37	30	100 SN129	2B-6D18	3 上部側	小便	-	4.9	(1.7)	-	-	石・焼土・白駆	10YR8/4 浅黄	透丸 ロクロナデ	ロクロナデ	- 35/36 10/36	
37	30	101 SN129	2B-6D18	2 上部側	小便	-	6.0	(2.1)	-	-	チャ・白駆	7.5YR8/2 黒白	透丸 7.5YR8/4 C にかべ	透丸 ロクロナデ	- 23/36 2/36	
37	30	102 SN129	2B-6D18	4 上部側	小便	-	(5.4)	(2.4)	-	-	石・長・白駆	10YR8/3 C 浅黄	透丸 10YR8/4 C にかべ	透丸 ロクロナデ	- 15/36 9/36	
37	30	103 SN129	2B-6D19	4 土壁	A	(22.0)	-	(4.4)	-	-	長・白駆	7.5YR7/3 C にかべ	透丸 ロクロナデ	カキ	- 3/36 - 1/36	
38	30	104 SN129	2B-6D14	3 上部側	具合	A	(26.0)	-	(4.5)	-	石・白駆	10YR8/2 黒白	透丸 ロクロナデ	ロクロナデ	- 3/36 - 1/36	
38	30	105 SN129	2B-6D15	4 上部側	具合	B	-	(5.6)	-	-	石・長・チャ・白駆	10YR7/4 C にかべ・黒駆	透丸 10YR6/3 C にかべ・白駆	透丸 ロクロナデ カキ	- 1/36 - 1/36	
38	30	106 SN129	2B-6D15	4 上部側	長方形	-	-	(7.8)	-	-	石・長・チャ・白駆	2.5YR8/3 黑白	透丸 10YR6/3 C にかべ・白駆	透丸 タキシキ	- あ見キ	
38	30	107 SN129	2B-6D19	4 上部側	層	(26.0)	-	(2.0)	-	-	石・長・チャ・白駆	7.5YR8/4 浅黄	透丸 7.5YR8/6 浅黄	透丸 ロクロナデ	透丸により不明瞭	- 2/36 - 1/36
38	30	108 SN150	2B-5C18	2 上部側	小便	A	(11.0)	-	(1.45)	-	石・長・チャ	10YR8/3 C 浅黄	透丸 10YR8/4 浅黄	透丸 ロクロナデ	透丸により不明瞭	- 1/36 - 1/36
38	30	109 SN150	2B-5C22	2 土壁	層	(11.0)	-	(1.85)	-	-	石・チャ・白駆	7.5YR8/4 浅黄	透丸 7.5YR7/6 灰	透丸 ロクロナデ	- 1/36 - 1/36	
38	30	110 SN150	2B-6C3	1 土壁	層	(40.0)	-	(3.8)	-	-	石・長・白駆	10YR7/3 C にかべ・黒駆	透丸 10YR7/6 浅黄	透丸 ロクロナデ カキ	ロクロナデ カキ	- 1/36 - 1/36
38	30	111 SN150	2B-6C7	4 組合せ	黒	-	-	(4.7)	-	-	白駆	10YR7/3 C にかべ・黒駆	透丸 10YR6/3 C にかべ・白駆	透丸 タキシキ	- あ見キ	
38	30	112 SN150	2B-6C8	4 組合せ	黒	-	-	(2.9)	-	-	石・長・白駆	小田 10YR7/1 黒	透丸 10YR4/1 黒	透丸 タキシキ	- あ見既	
38	30	113 SN150	2B-6C7	4 組合せ	黒	-	-	(5.9)	-	-	石・長・チャ・白駆	7.5YR7/1 黑	透丸 10YR1/1 黑	透丸 タキシキ	- あ見既	
38	30	114 SN150	2B-6D21	4 土壁	層	(12.9)	-	(5.4)	-	-	石・焼土・白駆	10YR8/6 C にかべ・黒駆	透丸 10YR8/6 C にかべ・黒駆	透丸 タキシキ	- 1/36 - 1/36	
38	30	115 SN150	2B-5C23	4 土壁	層	(15.7)	-	(2.85)	-	-	石・長・チャ	7.5YR8/4 浅黄	透丸 7.5YR8/6 浅黄	透丸 ロクロナデ	- 3/36 - 1/36	
38	30	116 SN150	2B-5C23	4 土壁	小便	A	(12.0)	-	(2.4)	-	石・長・チャ	10YR8/4 浅黄	透丸 10YR8/6 浅黄	透丸 ロクロナデ	- 3/36 - 1/36	
38	30	117 SN150	2B-6C3	4 土壁	小便	B	(13.8)	-	(1.3)	-	燒土・白駆	10YR8/3 C 浅黄	透丸 ロクロナデ カキ	ロクロナデ カキ	- 2/36 - 1/36	
38	30	118 SN190	2B-6C1	4 土壁	層	-	-	(9.85)	-	-	石・長・チャ・白駆	10YR8/4 浅黄	透丸 10YR8/6 浅黄	透丸 タキシキ	- あ見既	- 1/36
38	30	119 SN337	1B-8D25	3 亂形	無合せ	A III	(11.0)	-	(2.0)	-	チャ・白駆	小田 GY6/1 黒	透丸 5YR6/1 黑	透丸 ロクロナデ	ロクロナデ	- 5/36 - 3/36
38	30	120 SN337	1B-8D25	3 亂形	無合せ	B III	(11.0)	-	(2.0)	-	チャ・白駆	10YR7/1 黑	透丸 5YR7/1 黑	透丸 ロクロナデ	ロクロナデ	- 3/36 - 3/36
38	30	121 SN337	1B-8D25	3 亂形	無合せ	A	(11.0)	-	(3.0)	-	石・長・チャ	5YR7/2 C にかべ	透丸 5YR7/2 C にかべ	透丸 タキシキ	- あ見既	
38	30	122 SN337	1B-8D25	3 亂形	無合せ	B	(8.0)	-	(1.0)	-	石・白駆	10YR7/3 C にかべ・黒駆	透丸 10YR7/3 C にかべ・黒駆	透丸 タキシキ	- 3/36 - 3/36	
38	30	123 SN177	2B-4D22	3 上部側	層	(12.0)	-	(2.6)	-	-	白駆	10YR8/2 黒白	透丸 10YR8/6 黒白	透丸 ロクロナデ	透丸により不明瞭	- 1/36 - 1/36
38	30	125 SN177	2B-4D22	3 上部側	層	(5.2)	-	(1.05)	-	-	石・白駆	10YR8/3 C 浅黄	透丸 10YR8/6 黑白	透丸 ロクロナデ	透丸により不明瞭	- 1/36 - 1/36
38	30	126 PT75	2B-1113	1 土壁	層	E	(12.0)	-	(1.2)	-	石・チャ・白駆	7.5YR7/6 灰	透丸 7.5YR7/1 黑	透丸 ロクロナデ	ロクロナデ	- 9/36 - 2/36
38	30	127 Pt694	2B-1117	1 土壁	層	A IV	(13.0)	-	(2.0)	-	白駆	7.5YR7/1 黑	透丸 7.5YR7/1 黑	透丸 ロクロナデ	ロクロナデ	- 1/36 - 1/36
38	30	128 Pt695	2B-2H10	1 土壁	層	(11.0)	-	(2.7)	-	-	石・長・焼土・白駆	10YR8/6 浅黄	透丸 10YR8/6 浅黄	透丸 ロクロナデ	カキ	- 2/36 - 1/36
38	30	129 Pt699	1B-8D23	3 亂形	無合せ	(15.4)	-	(0.7)	-	-	石・白駆	5YR7/1 黑白	透丸 5YR7/1 黑白	透丸 ロクロナデ	ロクロナデ	- 1/38 - 1/36
38	30	130 乱形	1B-8D20	3 亂形	無合せ	III	(14.0)	-	(2.4)	-	石・チャ	10YR8/4 浅黄	透丸 10YR7/17/1	透丸 ロクロナデ	ロクロナデ	- 2/36 - 1/36
38	30	131 乱形	1B-8D25	3 亂形	無合せ	IV	(8.0)	-	(1.8)	-	白駆	5YR6/1 黑	透丸 5YR6/1 黑	透丸 ロクロナデ	ロクロナデ	- 8/36 - 3/36
38	30	132 乱形	1B-8D10	3 亂形	無合せ	(8.0)	-	(2.3)	-	-	石・長・チャ・白駆	10YR8/1 黑白	透丸 10YR8/1 黑白	透丸 ロクロナデ	ロクロナデ	- 6/36 - 1/36
38	30	133 乱形	1B-8D14	3 亂形	無合せ	A I	7.0	4.0	2.7	38.6	57.1 チャ・白駆	小田 10YR8/1 帽青灰	透丸 10YR8/1 帽青灰	透丸 ロクロナデ	ロクロナデ	- 7/36 - 1/36 - 6/36
38	30	134 乱形	1B-8D17	3 亂形	無合せ	A VI	(15.0)	-	(2.5)	-	白駆	小田 5Y/7 1 黑白	透丸 5Y/7 1 黑白	透丸 ロクロナデ ナチ	ロクロナデ ナチ	- 2/36 - 1/36
38	30	135 乱形	1B-8D17	3 亂形	無合せ	-	-	(9.5)	(0.9)	-	石・長・白駆	5Y/7 1 黑	透丸 5Y/7 1 黑	透丸 ロクロナデ	ロクロナデ	- 3/36 - 2/36
38	30	136 乱形	1B-8D21	3 亂形	無合せ	-	-	(7.0)	(1.1)	-	石・白駆	小田 5Y/7 1 黑	透丸 5Y/7 1 黑	透丸 ロクロナデ	ロクロナデ	- 13/36 - 10/36
38	30	137 乱形	1B-8D21	3 亂形	無合せ	-	-	(6.0)	(1.05)	-	石・焼土・白駆	7.5YR8/6 浅黄	透丸 7.5YR8/6 浅黄	透丸 ロクロナデ	ロクロナデ	- 7/36 - 1/36
38	30	138 乱形	1B-8D23	3 亂形	無合せ	-	-	(10.0)	(1.2)	-	白駆	5Y/6/1 黑	透丸 5Y/6/1 黑	透丸 ロクロナデ	ロクロナデ	- 2/36 -

回数 No.	写真 No.	通欄 No.	出土地点			測量 距離 cm	測量 高さ cm	測量 高さ 差	測量 角度 度数	地 上		地 下		手 法		測定 値	備考		
			横幅 グリッド	傾斜 度数	埋深 cm					含有物	産地	表面	内面	底面	口縁部 底面	底面 全体			
40	31	193	盆地	2B-SG12	N	上層部 無陶輪	-	(6.0) (2.2)	-	チャ	10YR8/3 浅黄橙	7.5YR7/6 暗	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラダ	-	8/36 2/36	
40	31	194	盆地	2B-SG13+15	N	上層部 無陶輪 骨灰	-	(7.7)	-	石・白駆	2.5YR7/1 白	N5/1 黑	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	-	-	1/36	
40	31	195	盆地	2B-SG13	N	上層部 小鐵	-	(6.2) (0.9)	-	白駆	7.5YR8/3 浅黄	7.5YR8/4 浅黄	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	新規	-	9/36 1/36	
40	31	196	盆地	2B-SG13	N	土層部 小鐵	-	6.0 (3.5)	-	石・瓦・チャ・白駆	GYYR6/4 に赤	7.5YR8/4 に赤	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	新規	-	36/36 6/36	
40	32	197	盆地	2B-SG14	N	上層部 無陶輪	III	(13.6) -	(3.0)	瓦・チャ	GYY7/6 細	GY7/6 細	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	7/36 -	-	2/36	
40	32	198	盆地	2B-SG14	N	上層部 無陶輪	I	(12.4) -	(3.0)	白駆	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	6/36 -	-	2/36	
40	32	199	盆地	2B-SG14	N	上層部 無陶輪	I	(12.0) -	(2.6)	石・白駆	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	2/36 -	-	1/36	
40	32	200	盆地	2B-SG14	N	上層部 無陶輪	-	(6.5) (2.9)	-	石・塵土粒・白駆	7.5YR7/6 有機物	7.5YR7/6 暗	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	新規	-	11/36 10/36	
40	32	201	盆地	2B-SG15	N	上層部 小鐵	-	7.1 (1.25)	-	白駆	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	新規	-	36/36 2/36	
40	32	202	盆地	2B-SG15	N	上層部 無陶輪	III	(4.0)	(2.0)	石・塵土粒・白駆	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	1/36 -	-	1/36	
40	32	203	盆地	2B-SG16	N	上層部 無陶輪	-	(5.8) (1.6)	-	瓦・チャ・白駆	7.5YR7/6 暗	GY7/6 暗	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラダ	-	9/36 2/36	
40	32	204	盆地	2B-SG19	N	底底部 無陶輪	IV-V	(14.0) -	(1.6)	白駆	GY6/1 黒	GY6/1 黒	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	深元	-	1/36 -	
40	32	205	盆地	2B-SG19+22	N	底底部 無陶輪	IV-V	(16.0) (1.6)	-	白駆	GY6/1 黒	GY6/1 黑	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	新規	-	5/36 3/36	
40	32	206	盆地	2B-SG23	N	底底部 無陶輪	II	(13.4) -	(1.4)	石・瓦	10YR7/1 黑	10YR7/1 黑	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	新規	-	3/36 1/36	
40	32	207	盆地	2B-SH11	N	底底部 無陶輪	II	(7.0) (1.6)	-	白駆	GY7/1 黑	GY7/1 黑	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラダ	-	7/36 5/36	
40	32	208	盆地	2B-SH11	N	底底部 無陶輪	III	(5.7) (1.1)	-	石・瓦・白駆	7.5YR7/6 暗	7.5YR7/6 暗	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	新規	-	11/36 3/36	
40	32	209	盆地	2B-SH22	N	底底部 無陶輪	III	(14.0) -	(3.2)	塵土粒・白駆	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	新規	-	1/36 -	
40	32	210	盆地	2B-SH22	N	底底部 無陶輪	IV	(5.8) (1.4)	-	石	10YR8/2 白	10YR7/3 に赤	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	新規	-	12/36 5/36	
40	32	211	盆地	2B-SH16	N	底底部 無陶輪	III	(12.0) -	(2.8)	白駆	GY7/1 黑	GY7/1 黑	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	2/36 -	-	1/36	
40	32	212	盆地	2B-SH17	N	底底部 無陶輪	V	(5.4) -	(3.2)	石・白駆	10YR7/3 に赤	10YR7/3 に赤	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	新規	-	30/36 20/36	
40	32	213	盆地	2B-SH17	N	上層部 無陶輪	-	(3.8) (1.3)	-	石・白駆	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラダ	-	10/36 2/36	
40	32	214	盆地	2B-SH22	N	上層部 無陶輪	-	(5.8) (2.3)	-	石・サナ・塵土粒・白駆	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラダ	-	23/36 15/36	
41	32	215	盆地	2B-SH10	N	上層部 無陶輪	-	(4.5) (1.25)	-	石・瓦・チャ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	新規	-	10/36 2/36	
41	32	216	盆地	2B-SH13	N	底底部 無陶輪	-	(5.9)	-	白駆	GY5/1 黑	GY5/1 黑	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	新規	-	1/36 1/36	
41	32	217	盆地	2B-SH20	N	底底部 無陶輪	II	(13.4) -	(1.0)	石・瓦	GY5/1 黑	GY5/1 黑	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	新規	-	3/36 1/36	
41	32	218	盆地	2B-SH21	N	底底部 無陶輪	III	(13.9) -	(2.15)	石・瓦・白駆	7.5YR7/6 暗	7.5YR7/6 暗	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	新規	-	1/36 1/36	
41	32	219	盆地	2B-SH22	N	底底部 無陶輪	IV	(40.0)	(2.3)	瓦・角	2.5YR8/2 白	2.5YR8/2 白	褐色	カキメ	カキメ	1/36 -	-	1/36	
41	32	220	盆地	2B-SH4	N	底底部 無陶輪	-	(6.5) (2.0)	-	チャ・白駆	GY8/7/6 暗	GY8/7/6 暗	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラダ	-	10/36 4/36	
41	32	221	盆地	2B-SH6	N	底底部 無陶輪	A-U	(11.0) -	(1.4)	石・白駆	GY7/1 黑	GY7/1 黑	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	新規	-	1/36 1/36	
41	32	222	盆地	2B-SH6	N	底底部 無陶輪	IV	-	(4.3) (1.3)	-	石・瓦・白駆	10YR8/2 白	10YR8/2 白	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	新規	-	9/36 3/36
41	32	223	盆地	2B-SH10	N	底底部 無陶輪	A-V	(12.0) -	(2.35)	石・白駆	GY6/1 黑	GY6/1 黑	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	2/36 -	-	1/36	
41	32	224	盆地	2B-SH12	N	底底部 無陶輪	IV	(4.0) (2.9)	-	石・瓦・白駆	10YR7/3 に赤	10YR7/3 に赤	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	-	-	7/36 3/36	
41	32	225	盆地	2B-SH12	N	上層部 無陶輪	-	(24.0) -	(5.0)	石・瓦・チャ・塵土粒	10YR7/3 に赤	10YR8/3 に赤	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ナガ	-	1/36 -	
41	32	226	盆地	2B-SH16	N	上層部 無陶輪	B	(16.0) -	(2.3)	石・瓦・チャ・白駆	2.5YR8/6 暗	10YR8/6 暗	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	2/36 -	-	1/36	
41	32	227	盆地	2B-SH16	N	上層部 無陶輪	C	(13.0) -	(4.6)	石・瓦・白駆	10YR7/3 に赤	10YR7/3 に赤	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	2/36 -	-	1/36	
41	32	228	盆地	2B-SH17	N	底底部 無陶輪	A-V	(13.0) -	(5.1)	石・白駆	GY5/2 水	GY5/2 水	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	4/36 -	-	2/36	
41	32	229	盆地	2B-SH17	N	底底部 無陶輪	IV	(4.5) (1.6)	-	石・白駆	10YR8/3 浅黄	10YR8/3 浅黄	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラダ	-	12/36 5/36	
41	32	230	盆地	2B-SH5	N	底底部 無陶輪	IV	(2.6) (1.5)	-	白駆	GY6/1 黑	GY6/1 黑	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	3/36 -	-	1/36	
41	32	231	盆地	2B-SH17	N	底底部 無陶輪	IV-V	(19.8)	-	白駆	GY7/1 黑	GY7/1 黑	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラダ	-	1/36 1/36	
41	32	232	盆地	2B-SH22	N	底底部 無陶輪	-	(5.6) (0.9)	-	白駆	GY7/1 黑	GY7/1 黑	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	-	-	1/36	
41	32	233	盆地	2B-SH22	N	底底部 無陶輪	-	(2.9) (0.9)	-	白駆	GY7/1 黑	GY7/1 黑	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	-	-	1/36	
41	32	234	盆地	2B-SH27	N	底底部 無陶輪	-	(6.5) (2.2)	-	白駆	GY6/1 黑	GY6/1 黑	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	-	-	1/36	
41	32	235	盆地	2B-SH17	N	底底部 無陶輪	-	(6.0) (2.6)	-	白駆	GY5/1 黑	GY5/1 黑	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ナゲ	-	2/36 1/36	
41	32	236	盆地	2B-SH8	N	上層部 無陶輪	-	(6.0) (2.6)	-	石・塵土粒・白駆	7.5YR8/4 浅黄	10YR8/4 浅黄	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	新規	-	10/36 5/36	
41	32	237	盆地	2B-SH23	N	底底部 無陶輪	IV	(11.0) (5.2)	-	石・瓦	GY5/1 黑	GY5/1 黑	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラダ	-	8/36 8/36	
41	32	238	盆地	1B-10117	N	底底部 無陶輪	-	(11.0) (4.0)	-	石・白駆	GY5/1 黑	GY5/1 黑	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	新規	-	15/36 10/36	
41	32	239	盆地	1C-SA6	N	底底部 無陶輪	大	-	(5.8)	-	石・白駆	GY5/1 黑	GY5/1 黑	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	アビ貝殻	-	1/36 1/36
41	32	240	盆地	1C-SA8	N	底底部 無陶輪	大	-	(3.4)	-	石	GY5/1 黑	GY5/1 黑	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	-	-	1/36
41	32	241	盆地	2B-1110	N	底底部 無陶輪	-	-	(2.7)	-	白駆	7.5YR7/7 明礫	7.5YR7/7 明礫	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	-	-	1/36
41	32	242	盆地	2B-1110	N	底底部 無陶輪	塵	-	(2.0)	-	石・塵土粒	7.5YR7/1 黑	7.5YR7/1 黑	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	アビ貝殻	-	1/36 1/36

別表4 石製品観察表

測定 No.	写真範囲 No.	報告 No.	目 標	出上位置		標識	種類	材質	法 庫 (mm) 長さ 厚さ	時代	備 考
				通規	グリッド 部位						
42	27+ 33	1	12寸木。2B-2G16. 斧頭	合合斧	2B-2G16	IV	斧頭	櫛石	43.2 28.5 15.9	29.80	古墳
42	33	2	12寸木。1C-8A25. V型	合合斧	1C-8A25	V	直刃	安山岩	129.0 78.5 55.0	782.34	古墳
42	33	3	12寸木。SD3. 1B-1039. 4脚	合合斧	1B-1039	4	直刃	麻粒岩	28.0 61.0 34.5	44.07	平安
42	33	4	12寸木。SD3. 1C-8A16. 2脚	SD3	1C-8A16	2	直刃	麻粒岩	104.4 24.8 68.5	436.44	平安
42	33	5	12寸木。SD3. 1C-9A1. 2脚	SD3	1C-9A1	3	直刃	花崗岩	94.9 93.3 35.3	203.74	平安
42	33	6	12寸木。SD3. 1B-9125. 3脚	SD3	1B-9125	3	直刃	麻粒岩	20.0 18.6 5.7	3.25	平安
42	33	7	12寸木。SD3. 1C-8A16. 2脚	SD3	1C-8A16	2	直刃	櫛石	72.8 74.4 52.5	114.94	平安
42	33	8	12寸木。SD2. 1C-9A16. 3脚	SD2	1C-9A16	3	直刃	チート	122.3 81.7 47.5	630.11	平安
43	33	9	12寸木。SD5. 1C-8A18. 3脚	SD5	1C-8A18	3	直刃	麻粒岩	47.9 27.0 26.8	33.93	平安
43	33	10	12寸木。SK36. 1C-BAT. 1脚	SK36	1C-BAT	1	直刃	花崗岩	71.0 42.3 21.5	116.81	平安
43	33	11	12寸木。SK7. 1C-8A20. 9脚	SK7	1C-8A20	9	直刃	櫛石	69.0 75.5 73.5	150.88	平安
43	33	12	12寸木。3C-8A16. IV型	合合斧	1C-8A16	IV	直刃	麻粒岩	94.9 68.5 22.0	149.53	平安
43	33	13	12寸木。1B-1017. カララン	瓜丸	1B-1017	-	直刃	櫛石	56.5 39.3 28.0	30.48	平安
43	33	14	12寸木。1B-1022. カララン	瓜丸	1B-1022	-	直刃	麻粒岩	30.5 29.5 1.2	3.87	平安
43	33	15	12寸木。1B-1013. 古墳	合合斧	1B-1013	IV	直刃	花崗岩	117.3 60.4 48.5	434.64	古墳
43	33	16	12寸木。1B-1H21. 斧頭	合合斧	1B-1H21	II	直刃	櫛石	45.5 42.7 26.5	14.08	平安
43	33	17	12寸木。2B-1H24. カララン	瓜丸	1B-1H24	-	直刃	色板灰	37.0 41.0 14.5	35.50	平安
45	33	18	12寸木。2B-1H1. 斧頭	合合斧	2B-1H1	III	直刃	砂岩	26.6 19.8 14.5	9.08	平安
45	33	19	12寸木。2B-1H2. IV型	合合斧	2B-1H2	IV	直刃	安山岩	101.3 99.7 96.0	748.74	平安
43	33	20	12寸木。2B-3G1. IV型	合合斧	2B-3G1	IV	直刃	ホタルイ ワニスル	122.5 56.8 22.4	228.96	平安
21	12寸木。SD2. 1C-8A22. 1脚	SD2	1C-8A22	1	直刃	櫛石	24.5 21.4 12.8	4.14	平安	直刃 (注釈のみ)	
22	12寸木。SD2. 1C-9A1. 4脚	SD2	1C-9A1	4	直刃	櫛石	28.7 19.4 13.5	4.81	平安	直刃 (注釈のみ)	
23	12寸木。2B-1H10	SD55	2B-1H10	3	直刃	櫛石	25.4 25.1 13.3	3.79	平安	直刃 (注釈のみ)	
24	12寸木	SD66	2B-1H9	3	直刃	櫛石	23.0 16.1 7.9	0.53	平安	直刃 (注釈のみ)	
25	12寸木	SD124	2B-5H12	2	直刃	櫛石	18.6 18.4 10.1	2.96	平安	直刃 (注釈のみ)	
26	12寸木。1C-9A5. IV型	合合斧	1C-9A5	IV	直刃	櫛石	15.0 9.8 7.4	0.34	平安	直刃 (注釈のみ)	
27	12寸木。1B-10H25	合合斧	1B-10H25	III	直刃	櫛石	9.1 5.1 6.2	1.07	平安	直刃 (注釈のみ)	
28	12寸木	合合斧	1B-10H25	III	直刃	櫛石	16.6 12.1 8.0	0.90	平安	直刃 (注釈のみ)	
29	12寸木	合合斧	2B-1G25	IV	直刃	櫛石	8.4 12.6 6.1	0.36	平安	直刃 (注釈のみ)	
30	12寸木。2B-3F22. IV型	合合斧	2B-3F22	IV	直刃	櫛石	35.0 30.3 16.1	4.79	平安	直刃 (注釈のみ)	

別表5 土製品観察表

測定 No.	写真範囲 No.	報告 No.	出上位置		標識	種類	法 庫 (cm) 長さ 幅 厚さ	前 上	各 面 内 面	手 法	造 作率 / 合体率 / 中体	備 考		
			通規	グリッド 部位										
44	34	1	SG7. 1B-8A25	3	上製品	円盤	長さ 1.23 幅 0.75 厚さ 0.25	石 - 直 - 白刷	2.5YR 1/4K	10YR 1/4K	造元 タキヨメで合体	1/36	直形形態部内に仮縫	
44	34	2	SN150. 2B-6C6	4	上製品	和用軋石	長 4.1 幅 2.5 厚 1.0	直 - 1.5 直 - 1.5 厚 1.0	石 - 直 - 白刷	10YR 1/4K	造元 タキヨメで合体	1/36	直形形態部内に仮縫(図版 38-112)	
44	34	3	SN150. 2B-6C7	4	上製品	和用軋石	長 5.5 幅 3.5 厚 1.5	直 - 1.5 直 - 1.5 厚 1.5	白 - 白刷	SY7/1K	造元 タキヨメで合体	1/36	直形形態部内に仮縫(図版 38-111)	
44	34	4	合合斧	2B-3H23	5	上製品	和用軋石	長 4.0 幅 3.4 厚 1.0	直 - 0.85 直 - 0.85 厚 1.0	白 - 白刷	SY7/1K	造元 タキヨメで合体	1/36	直形形態部内に仮縫(図版 39-179)
44	34	5	合合斧	1C-8A6	6	上製品	和用軋石	長 9.1 幅 6.5 厚 1.6	石 - 白刷	SY6/1K	造元 タキヨメで合体	1/36	直形形態部内に仮縫(図版 41-239)	

別表6 銅冶関連遺物観察表

測定 No.	写真範囲 No.	報告 No.	出上位置		標識	種類	法 庫 (cm) 長さ 幅 厚さ	前 上	色 调			備 考
			通規	グリッド 部位					前	面	内 面	
44	34	6	SD2	1B-10210	IV	土製品	和田	8.4 8.0 0.7	石 - 灰 白 - 白刷	2.5Y6/6K	10YR 1/4K	直化 斜面 6角形
44	34	7	合合斧	1C-9A16	IV	土製品	和田	3.4 7.6 - -	石 - 白刷 白色	2.5Y7/6K	10YR 1/4K	直化
44	34	8	合合斧	2B-2G5	IV	土製品	和田	4.1 6.0 3.0	白色	SY3/1	7.5YR 1/4K	直化 斜面内形
44	34	9	合合斧	2B-2G19	IV	土製品	和田	5.7 5.0 2.2	石 - 灰 白色	2.5Y6/2K	10YR 1/4K	直化 斜面内形
44	34	10	合合斧	2B-2H15	IV	土製品	和田	2.9 5.5 2.8	白色	SY5/4	7.5YR 1/6K	直化 斜面内形
44	34	11	合合斧	2B-2H18	IV	土製品	和田	4.5 6.8 - -	石 - 灰 - チ 白色	7.5Y8/1K	10YR 1/6K	直化 斜面 8角形
44	34	12	合合斧	2B-3H1	IV	土製品	和田	2.7 5.4 3.2	石 - 灰 - 白 白色	2.5Y6/2K	10YR 1/4K	直化 斜面内形
44	34	13	合合斧	2B-3H1	IV	土製品	和田	5.4 6.0 3.1	石 - 灰 - チ 白色	2.5Y6/1K	10YR 1/4K	直化 斜面内形

別表 7 古墳時代土器器種構成率

凡例 1. 古墳時代に所属する遺物には網掛けを行った。

遺物	器種	量				不明	合計
		個数	重さ(g)	面積	面積		
SK1	(口縁部)					0.97(100.0%)	0.97(100.0%)
	(口縁部)(点)					1(100.0%)	1(100.0%)
	(底部)	1(100.0%)				1(100.0%)	1(100.0%)
	(底部)			1(100.0%)		1(100.0%)	1(100.0%)
	(底部)	1(100.0%)				1(100.0%)	1(100.0%)
SD29	(口縁部)					2(100.0%)	2(100.0%)
	(口縁部)(点)					2(100.0%)	2(100.0%)
	(底部)	1(100.0%)				1(100.0%)	1(100.0%)
	(底部)			1(100.0%)		1(100.0%)	1(100.0%)
	(底部)	1(100.0%)				1(100.0%)	1(100.0%)
SD3	(口縁部)	0.03(100.0%)				0.03(100.0%)	0.03(100.0%)
	(口縁部)(点)			1(100.0%)		1(100.0%)	1(100.0%)
	(底部)	0.33(100.0%)				0.33(100.0%)	0.33(100.0%)
	(底部)			1(100.0%)		1(100.0%)	1(100.0%)
	(底部)	0.33(100.0%)				0.33(100.0%)	0.33(100.0%)
SD2	(口縁部)	44.3(89.3%)		19.6(30.7%)		63.9(100.0%)	63.9(100.0%)
	(口縁部)(点)			1(100.0%)		1(100.0%)	1(100.0%)
	(底部)	0.19(100.0%)				0.19(100.0%)	0.19(100.0%)
	(底部)			1(100.0%)		1(100.0%)	1(100.0%)
	(底部)	0.19(100.0%)				0.19(100.0%)	0.19(100.0%)
SD5	(口縁部)					1(100.0%)	1(100.0%)
	(口縁部)(点)					1(100.0%)	1(100.0%)
	(底部)					1(100.0%)	1(100.0%)
	(底部)	13(100.0%)				13(100.0%)	13(100.0%)
	(底部)	13(100.0%)				13(100.0%)	13(100.0%)
SD9	(口縁部)	96.6(75.8%)	30.8(24.2%)			127.3(100.0%)	127.3(100.0%)
	(口縁部)(点)					1(100.0%)	1(100.0%)
	(底部)					1(100.0%)	1(100.0%)
	(底部)	1(100.0%)				1(100.0%)	1(100.0%)
	(底部)	1(100.0%)				1(100.0%)	1(100.0%)
SD57	(口縁部)					1(100.0%)	1(100.0%)
	(口縁部)(点)					1(100.0%)	1(100.0%)
	(底部)					1(100.0%)	1(100.0%)
	(底部)	4(100.0%)				4(100.0%)	4(100.0%)
	(底部)					4(100.0%)	4(100.0%)
SK15	(口縁部)					27.5(100.0%)	27.5(100.0%)
	(口縁部)(点)					27.5(100.0%)	27.5(100.0%)
	(底部)					27.5(100.0%)	27.5(100.0%)
	(底部)	71(100.0%)				71(100.0%)	71(100.0%)
	(底部)					71(100.0%)	71(100.0%)
SK57	(口縁部)					20.7(100.0%)	20.7(100.0%)
	(口縁部)(点)					20.7(100.0%)	20.7(100.0%)
	(底部)					20.7(100.0%)	20.7(100.0%)
	(底部)	4(100.0%)				4(100.0%)	4(100.0%)
	(底部)					4(100.0%)	4(100.0%)
SKR2	(口縁部)					7.4(100.0%)	7.4(100.0%)
	(口縁部)(点)					7.4(100.0%)	7.4(100.0%)
	(底部)					7.4(100.0%)	7.4(100.0%)
	(底部)	1(100.0%)				1(100.0%)	1(100.0%)
	(底部)					1(100.0%)	1(100.0%)
SD18	(口縁部)					1(100.0%)	1(100.0%)
	(口縁部)(点)					1(100.0%)	1(100.0%)
	(底部)					1(100.0%)	1(100.0%)
	(底部)	3.9(100.0%)				3.9(100.0%)	3.9(100.0%)
	(底部)					3.9(100.0%)	3.9(100.0%)
SK83	(口縁部)					18.4(100.0%)	18.4(100.0%)
	(口縁部)(点)					18.4(100.0%)	18.4(100.0%)
	(底部)					18.4(100.0%)	18.4(100.0%)
	(底部)	2(100.0%)				2(100.0%)	2(100.0%)
	(底部)					2(100.0%)	2(100.0%)
Pd65	(口縁部)					2.6(100.0%)	2.6(100.0%)
	(口縁部)(点)					2.6(100.0%)	2.6(100.0%)
	(底部)					2.6(100.0%)	2.6(100.0%)
	(底部)	1(100.0%)				1(100.0%)	1(100.0%)
	(底部)					1(100.0%)	1(100.0%)
SK75	(口縁部)					28.5(100.0%)	28.5(100.0%)
	(口縁部)(点)					28.5(100.0%)	28.5(100.0%)
	(底部)					28.5(100.0%)	28.5(100.0%)
	(底部)	4(100.0%)				4(100.0%)	4(100.0%)
	(底部)					4(100.0%)	4(100.0%)
SD81	(口縁部)					1(100.0%)	1(100.0%)
	(口縁部)(点)					1(100.0%)	1(100.0%)
	(底部)					1(100.0%)	1(100.0%)
	(底部)	2(100.0%)				2(100.0%)	2(100.0%)
	(底部)					2(100.0%)	2(100.0%)

別表8 古代土器器種構成率

遺跡	土 壁 直				瓦 壁 直				瓦 壁 扇				瓦 壁 扇				合計		
	計数	百分比	割合	直	壁	直	壁	直	壁	扇	直	壁	扇	直	壁	扇			
SD3	11	100.0%			6	54.5%	1	9.1%			4	36.4%					11	100.0%	
	1	100.0%			6	54.5%	1	9.1%			156	65.5%					20	100.0%	
	1	100.0%			1	9.1%					1	3.4%					101	100.0%	
	1	100.0%			1	9.1%					1	3.4%					1	100.0%	
	31	26.0%		49	41.2%	29	16.8%	10	8.4%		41	3.4%	2	1.7%	1	0.8%	2	1.7%	
SD4	31	22.8%		49	35.6%	30	21.4%	11	7.9%		14	1.0%	2	1.4%	1	0.7%	2	1.4%	
	1	0.7%		1	0.7%	1	0.7%	1	0.7%		95.1	35.3%	174.3	26.3%	74.3	10.8%	16.3	2.4%	
	0.0%			0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	0.0%		
	1	16.7%		3	33.3%	11	33.3%				3	33.3%					61	100.0%	
	0.0%			0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	0.0%		
SD2	12	17.9%		38	56.7%	12	17.9%			2	3.0%	1	1.5%	2	3.0%			21	100.0%
	13	17.6%		40	54.0%	14	18.8%			4	6.4%	1	1.4%	2	2.7%			24	100.0%
	6.7	3.6%		114.1	46.7%	39.2	16.0%			8.0	3.3%	0.9	0.4%	7.5	30.1%			244.4	100.0%
	0.0%			0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	0.0%		
	0.0%			0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	0.0%		
SD13	9.3	100.0%															9.3	100.0%	
	2	100.0%															2	100.0%	
	1	50.0%															1	50.0%	
	1	50.0%															1	50.0%	
	17.5	74.5%		6.0	25.5%												23.6	100.0%	
SD5	0.0%									0.06	100.0%						0.06	100.0%	
	0.0%									1	100.0%						1	100.0%	
	0.0%									0.06	42.9%						0.06	100.0%	
	4	30.8%		5	38.5%	4	30.7%				1	50.0%					13	100.0%	
	5	31.3%		2	15.1%	5	31.3%				8.0	5.7%					16	100.0%	
SD9	82.7	60.0%		117.1	77.8%	36.0	22.8%			0.08	100.0%						0.08	100.0%	
	0.0%									1	100.0%						1	100.0%	
	0.0%									0.08	100.0%						0.08	100.0%	
	4	40.1%		5	50.0%	4	40.0%				1	100.0%					1	100.0%	
	6.0	16.5%		31.2	58.0%	0.6	1.1%	6.6	12.2%								33.6	100.0%	
SD29	0.0%									0.03	100.0%						0.03	100.0%	
	0.0%									1	100.0%						1	100.0%	
	0.0%									0.03	100.0%						0		
	1	100.0%								1	100.0%						1	100.0%	
	18.2	60.0%								18.2	60.0%						18.2	100.0%	
SD6	0.0%									0.03	100.0%						0.03	100.0%	
	1	100.0%								1	100.0%						1	100.0%	
	1	100.0%								0.03	100.0%						0.03	100.0%	
	1	100.0%								1	100.0%						1	100.0%	
	66.7	74.3%								0.9	25.7%						3.5	100.0%	
SD86	0.0%									0.03	100.0%						0.03	100.0%	
	0.0%									1	100.0%						1	100.0%	
	0.0%									0.03	100.0%						0.03	100.0%	
	0.0%									1	100.0%						1	100.0%	
	2.3	100.0%								2.3	100.0%						2.3	100.0%	
SD55	0.0%									0.08	100.0%						0.08	100.0%	
	0.0%									1	100.0%						1	100.0%	
	18	56.1%		1	3.8%	11	38.5%				1	3.8%					11	100.0%	
	19	64.8%		1	3.1%	11	34.4%				1	3.1%					32.1	100.0%	
	17.4	31.8%		4.3	7.8%	10.1	18.3%				23.4	42.4%					56.2	100.0%	
SD81	0.0%									0.03	100.0%						0.03	100.0%	
	0.0%									1	100.0%						1	100.0%	
	0.0%									0.03	100.0%						0.03	100.0%	
	0.0%									1	100.0%						1	100.0%	
	2.6	100.0%								2.6	100.0%						2.6	100.0%	

通称	品種	白			黑			白			黑			白			黑			合計	
		無白粉	有白粉	白	黑	無白粉	有白粉	白	黑	無白粉	有白粉	白	黑	無白粉	有白粉	白	黑	無白粉	有白粉		
SD508	計数(粒)							0.03	100.0%					0.03	100.0%			0.03	100.0%		
SD508	体形数(粒)	3	75.0%			1	25.0%			1	100.0%			1	100.0%			1	100.0%		
SD508	粒重数(粒)	5	60.0%			1	30.0%			1	100.0%			1	100.0%			1	100.0%		
SD508	粒重量(g)	1.3	23.6%			1.8	32.7%			2.4	43.7%			2.4	43.7%			2.4	43.7%		
SD149	計数(粒)																				
SD149	体形数(粒)	5	83.3%			1	16.7%													6	100.0%
SD149	粒重数(粒)	5	83.3%			1	16.7%													6	100.0%
SD149	粒重量(g)	4.0	85.1%			0.7	14.9%												4.7	100.0%	
SK4	計数(粒)																				
SK4	体形数(粒)							5	100.0%											5	100.0%
SK4	粒重数(粒)							5	100.0%										5	100.0%	
SK4	粒重量(g)							1.8	100.0%										1.8	100.0%	
SK36	計数(粒)																				
SK36	体形数(粒)							2	100.0%										2	100.0%	
SK36	粒重数(粒)							2	100.0%									2	100.0%		
SK36	粒重量(g)							2.6	100.0%									2.6	100.0%		
SK15	計数(粒)																				
SK15	体形数(粒)							2	100.0%									0.03	100.0%		
SK15	粒重数(粒)							2	100.0%									1	100.0%		
SK15	粒重量(g)							3.2	98.1%									3.2	98.1%		
SK17	計数(粒)																				
SK17	体形数(粒)							1	100.0%										1	100.0%	
SK17	粒重数(粒)							1	100.0%									1	100.0%		
SK17	粒重量(g)							1.3	100.0%									1.3	100.0%		
SK8	計数(粒)																				
SK8	体形数(粒)																				
SK8	粒重数(粒)																				
SK8	粒重量(g)																				
SK7	計数(粒)																				
SK7	体形数(粒)							0.06	100.0%									0.06	100.0%		
SK7	粒重数(粒)							1	100.0%									1	100.0%		
SK7	粒重量(g)																	0.50	100.0%		
SK7	体形数(粒)	2	11.8%			15	88.2%											2	100.0%		
SK7	粒重数(粒)	2	11.8%			15	88.2%											17	100.0%		
SK7	粒重量(g)	1.0	10.0%			1.0	10.0%											10	100.0%		
SK7	体形数(粒)	19	2.2%			71.6	83.1%										12.7	4.7%	89.2	100.0%	
SK16	計数(粒)																				
SK16	体形数(粒)																				
SK16	粒重数(粒)																				
SK16	粒重量(g)																				
SK57	計数(粒)																				
SK57	体形数(粒)																				
SK57	粒重数(粒)																				
SK57	粒重量(g)																				
SK84	計数(粒)																				
SK84	体形数(粒)																				
SK84	粒重数(粒)																				
SK84	粒重量(g)																				
SK84	体形数(粒)	3	100.0%															3	100.0%		
SK84	粒重数(粒)	3	100.0%															3	100.0%		
SK84	粒重量(g)	6.5	100.0%															6.5	100.0%		

通称	品種	白高麗			白 金 蘿			黑 色 白 蘿			白 高 麗			白 金 蘿			白 蘿 蘿			合計	
		株数(△)	葉面積	莖 葉 率	株数(△)	葉面積	莖 葉 率	株数(△)	葉面積	莖 葉 率	株数(△)	葉面積	莖 葉 率	株数(△)	葉面積	莖 葉 率	株数(△)	葉面積	莖 葉 率		
SK198	高麗蘿																				
	株数(△)																				
	葉面積(g)																				
	莖葉率(%)																				
	根量(g)																				
	茎葉量(g)																				
	葉率(%)																				
SN130	高麗蘿																				
	株数(△)																				
	葉面積(g)																				
	莖葉率(%)																				
	根量(g)																				
	茎葉量(g)																				
	葉率(%)																				
SD133	高麗蘿																				
	株数(△)																				
	葉面積(g)																				
	莖葉率(%)																				
	根量(g)																				
	茎葉量(g)																				
	葉率(%)																				
SD135	高麗蘿																				
	株数(△)																				
	葉面積(g)																				
	莖葉率(%)																				
	根量(g)																				
	茎葉量(g)																				
	葉率(%)																				
SD156	高麗蘿																				
	株数(△)																				
	葉面積(g)																				
	莖葉率(%)																				
	根量(g)																				
	茎葉量(g)																				
	葉率(%)																				
SD159	高麗蘿																				
	株数(△)																				
	葉面積(g)																				
	莖葉率(%)																				
	根量(g)																				
	茎葉量(g)																				
	葉率(%)																				
SD160	高麗蘿																				
	株数(△)																				
	葉面積(g)																				
	莖葉率(%)																				
	根量(g)																				
	茎葉量(g)																				
	葉率(%)																				
SD141	高麗蘿																				
	株数(△)																				
	葉面積(g)																				
	莖葉率(%)																				
	根量(g)																				
	茎葉量(g)																				
	葉率(%)																				
SD144	高麗蘿																				
	株数(△)																				
	葉面積(g)																				
	莖葉率(%)																				
	根量(g)																				
	茎葉量(g)																				
	葉率(%)																				
SD145	高麗蘿																				
	株数(△)																				
	葉面積(g)																				
	莖葉率(%)																				
	根量(g)																				
	茎葉量(g)																				
	葉率(%)																				
SD205	高麗蘿																				
	株数(△)																				
	葉面積(g)																				
	莖葉率(%)																				
	根量(g)																				
	莖葉量(g)																				
	葉率(%)																				

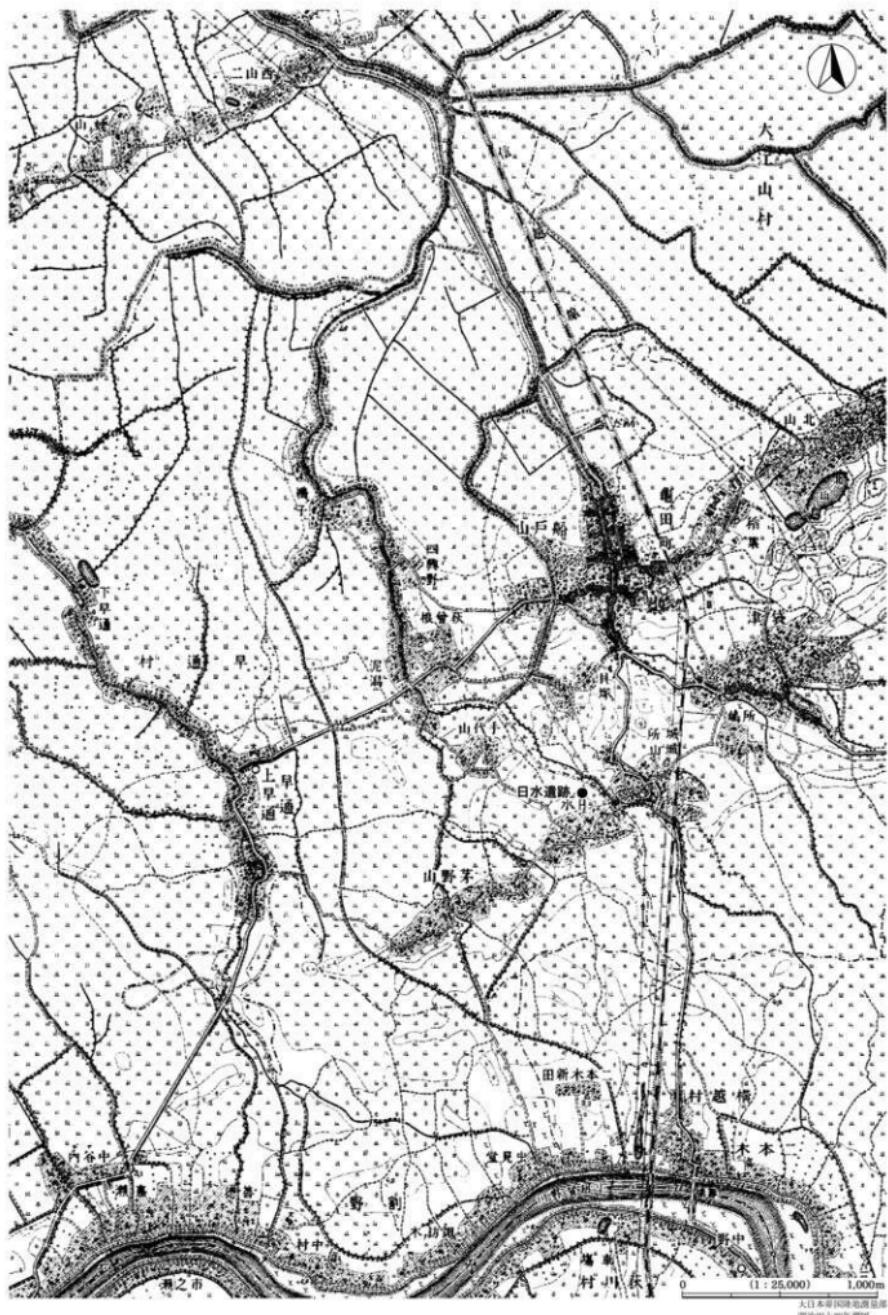
检测	指标	黑 植 小 蜡 路			黑 植 有白蜡 路			黑 植 有白蜡 路			黑 植 云锦路			黑 植 稲 道 补 盖 道 面			合 计		
		细白蜡	粗白蜡	总 蜡	细白蜡	粗白蜡	总蜡	细白蜡	粗白蜡	总蜡	细白蜡	粗白蜡	总蜡	细白蜡	粗白蜡	总蜡			
SD128	体虫数(头)																		
	体虫数(头)	5	80.0%																
	体虫数(头)	6	80.0%																
	体虫数(头)	6	80.0%																
SD150	体虫数(头)																		
	体虫数(头)	4	28.6%	14	71.4%	41	28.5%	21	14.3%	62	31.4%							14	99.0%
	体虫数(头)	6	37.4%	14	62.6%	41	30.0%	21	12.5%	62	38.8%							16	100.0%
	体虫数(头)	13	5.6%	240	101.1%	140	61.5%	91	50.5%	284	39.6%							288	100.1%
SD151	体虫数(头)																	0.00	100.0%
	体虫数(头)																	1	100.0%
	体虫数(头)																	1	100.0%
	体虫数(头)																	16.0	100.0%
SD153	体虫数(头)																	2	100.0%
	体虫数(头)																	2	100.0%
	体虫数(头)																	4.3	100.0%
	体虫数(头)																	0.03	100.0%
SD156	体虫数(头)																	1	100.0%
	体虫数(头)																	1	100.0%
	体虫数(头)																	17	100.0%
SD157	体虫数(头)																	2	100.0%
	体虫数(头)																	2	100.0%
	体虫数(头)																	21.8	100.0%
	体虫数(头)																	0.03	100.0%
SD158	体虫数(头)																	1	100.0%
	体虫数(头)																	1	100.0%
	体虫数(头)																	1.4	100.0%
SD163	体虫数(头)																	2	100.0%
	体虫数(头)																	31	100.0%
	体虫数(头)																	29.7	100.0%
	体虫数(头)																	0.03	100.0%
SX327	体虫数(头)																	1	100.0%
	体虫数(头)																	1	100.0%
	体虫数(头)																	2	100.0%
	体虫数(头)																	2	100.0%
SX107	体虫数(头)																	7	100.0%
	体虫数(头)																	1	100.0%
	体虫数(头)																	7.7	100.0%

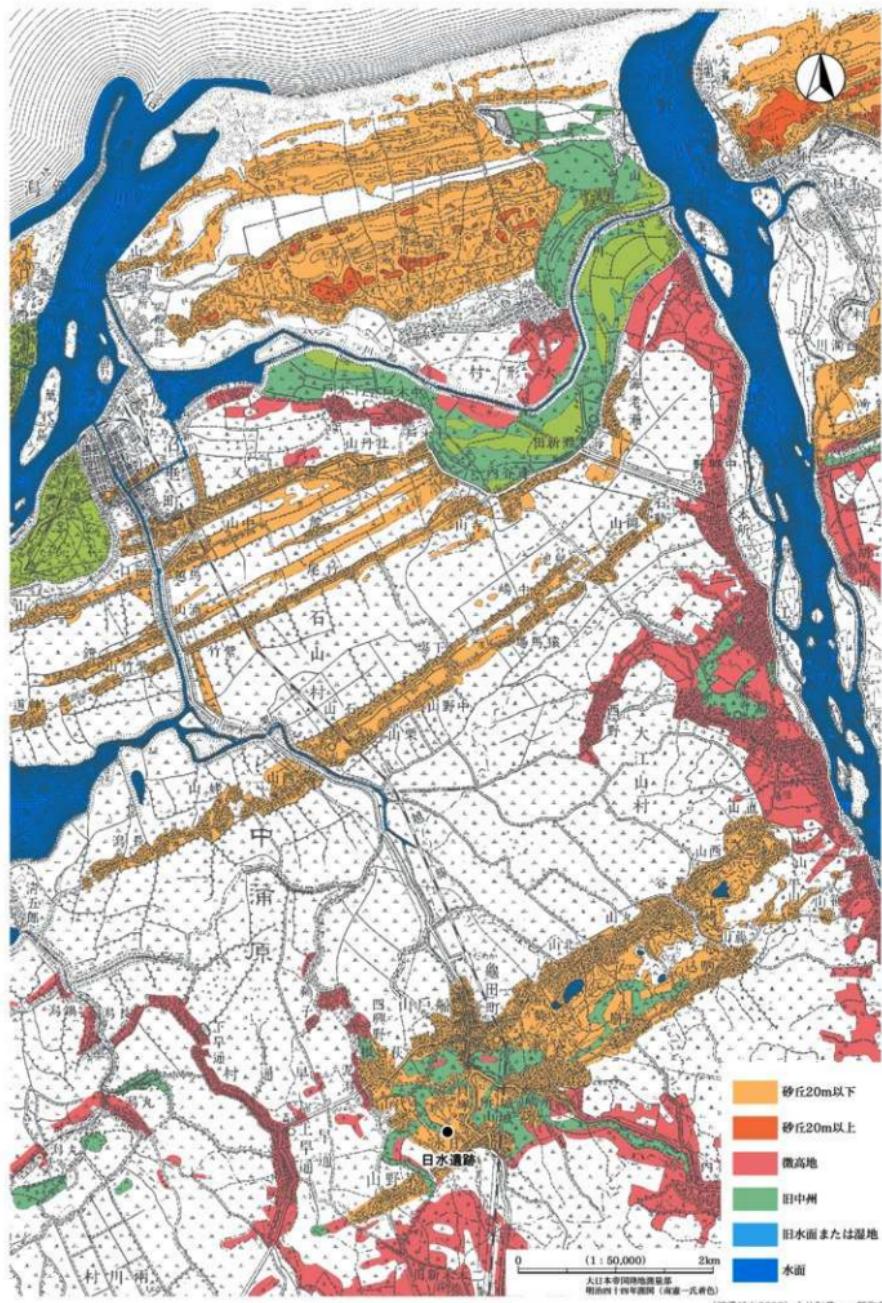
通称	規格	白石			黒色石			天神石			御影石			御庭石			合計
		無白粉	有白粉	無白粉	有白粉	無白粉	有白粉	無白粉	有白粉	無白粉	有白粉	無白粉	有白粉	無白粉	有白粉		
Pt105	底面數(枚)																
	体積数(枚)			11	100.0%												11 100.0%
	底面数(枚)			11	100.0%												11 100.0%
	總重量(g)			6.1	100.0%												6.1 100.0%
Pt109	底面數(枚)					0.08	100.0%										0.08 100.0%
	体積数(枚)					1	100.0%										1 100.0%
	底面数(枚)					1	100.0%										1 100.0%
	總重量(g)					0.08	100.0%										0.08 100.0%
Pt109	底面數(枚)																
	体積数(枚)																
	底面数(枚)																
	總重量(g)							11	100.0%								11 100.0%
Pt114	底面數(枚)																
	体積数(枚)																
	底面数(枚)																
	總重量(g)							30.0	100.0%								30.0 100.0%
Pt1184	底面數(枚)																
	体積数(枚)																
	底面数(枚)																
	總重量(g)					0.4	100.0%										0.4 100.0%
Pt1182	底面數(枚)																
	体積数(枚)																
	底面数(枚)																
	總重量(g)					1.1	100.0%										1.1 100.0%
Pt1182	底面數(枚)																
	体積数(枚)																
	底面数(枚)																
	總重量(g)					2.0	100.0%										2.0 100.0%

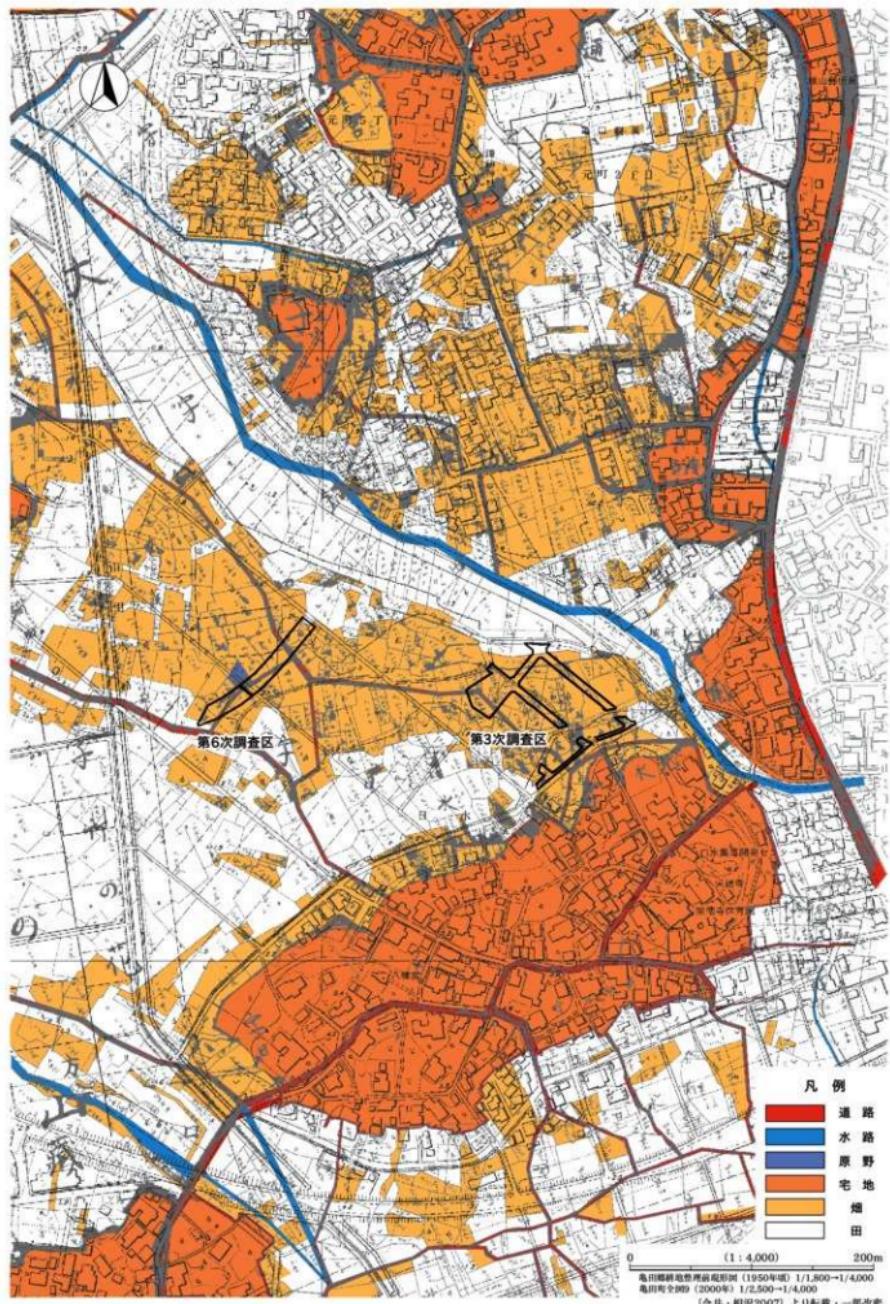
別表9 造構別石製品・礫集計表

通称	種別	石			瓦			鐵			鉄石製品			銅			合計
		無 白 粉	有 白 粉														
SD3	底面數(枚)	1	9.0%	31	9.0%	21	18.0%	11	9.0%	6	55.0%	131	100.0%	1	9.0%	131 100.0%	
	体積数(枚)	1	9.0%	31	9.0%	21	18.0%	11	9.0%	6	55.0%	131	100.0%	1	9.0%	131 100.0%	
	底面数(枚)	44.1	3.0%	436.5	35.0%	207.0	17.0%	114.9	9.0%	447.2	36.0%	1249	71.000%	1	9.0%	1249 71.000%	
	總重量(g)																
SD5	底面數(枚)	1	17.0%	1	17.0%	2	33.0%	1	17.0%	1	50.0%	6	100.0%	1	17.0%	6 100.0%	
	体積数(枚)	1	17.0%	1	17.0%	2	33.0%	1	17.0%	1	50.0%	6	100.0%	1	17.0%	6 100.0%	
	底面数(枚)	630.1	73.0%			9.0	1.0%			224.7	26.0%	863.8	100.0%	1	17.0%	863.8 100.0%	
	總重量(g)																
SD5	底面數(枚)	1	34.0%	1	34.0%	2	33.0%	1	33.0%	1	33.0%	3	100.0%	1	34.0%	3 100.0%	
	体積数(枚)	1	34.0%	1	34.0%	2	33.0%	1	33.0%	1	33.0%	3	100.0%	1	34.0%	3 100.0%	
	底面数(枚)	33.9	15.0%			198.1	82.0%	6.6	3.0%	222.6	100.0%			1	34.0%	222.6 100.0%	
	總重量(g)																
SD6	底面數(枚)																
	体積数(枚)																
	底面数(枚)																
	總重量(g)																
SD55	底面數(枚)																
	体積数(枚)																
	底面数(枚)																
	總重量(g)																
SK36	底面數(枚)																
	体積数(枚)																
	底面数(枚)																
	總重量(g)					116.8	100.0%										116.8 100.0%
SK7	底面數(枚)																
	体積数(枚)																
	底面数(枚)																
	總重量(g)					190.9	100.0%			129.7	45.0%	274.6	100.0%	1	100.0%	274.6 100.0%	
SD124	底面數(枚)																
	体積数(枚)																
	底面数(枚)																
	總重量(g)					30.1	100.0%										30.1 100.0%
全体	底面數(枚)	2	7.4%	0	0.0%	4	14.8%	1	3.7%	0	0.0%	1	3.7%	12	44.4%	133.8 100.0%	
	体積数(枚)	2	7.4%	0	0.0%	1387.1	47.5%	3.3	0.1%	282.1	9.7%	0	0.0%	183	6.3%	984.8	33.8% 2918.3 100.0%

図 版

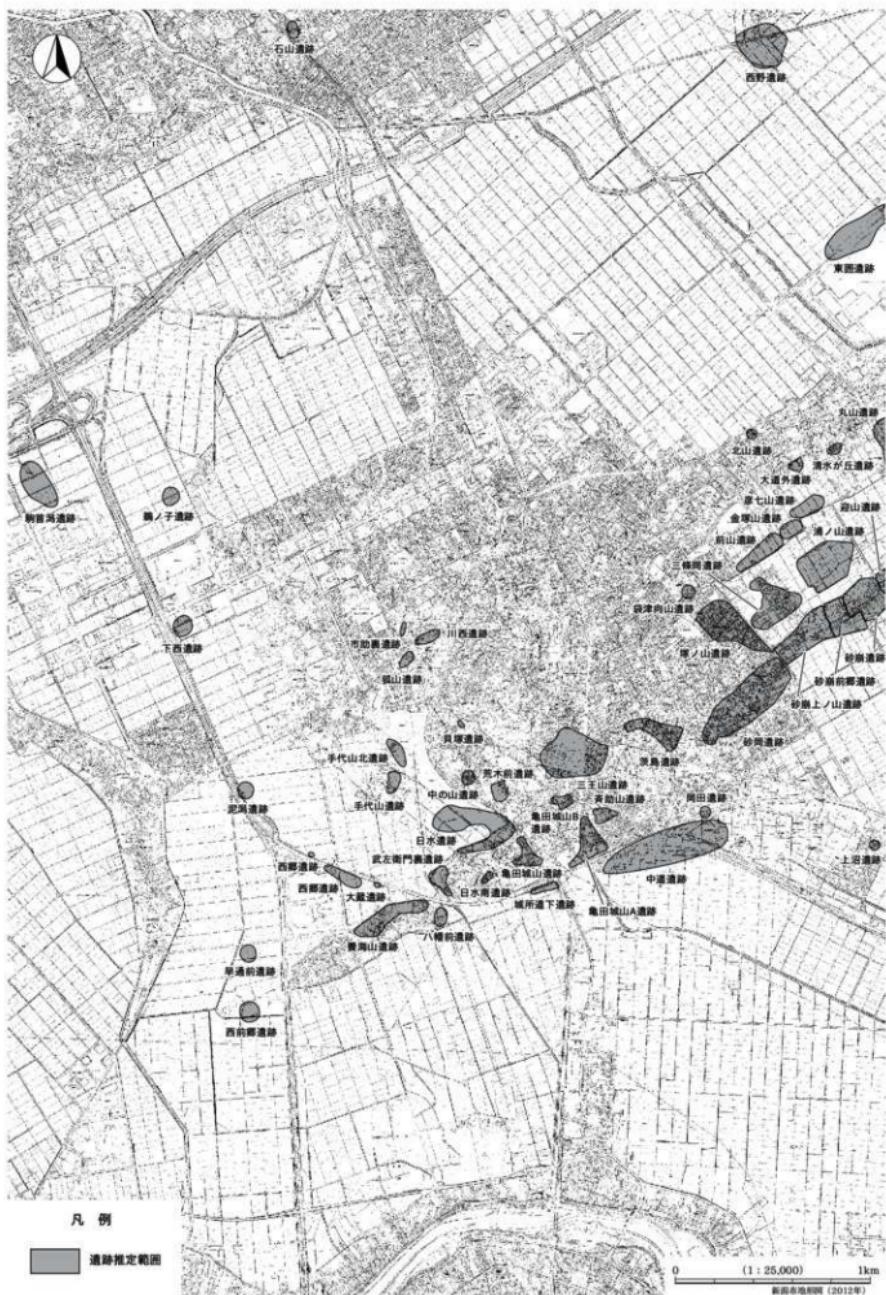


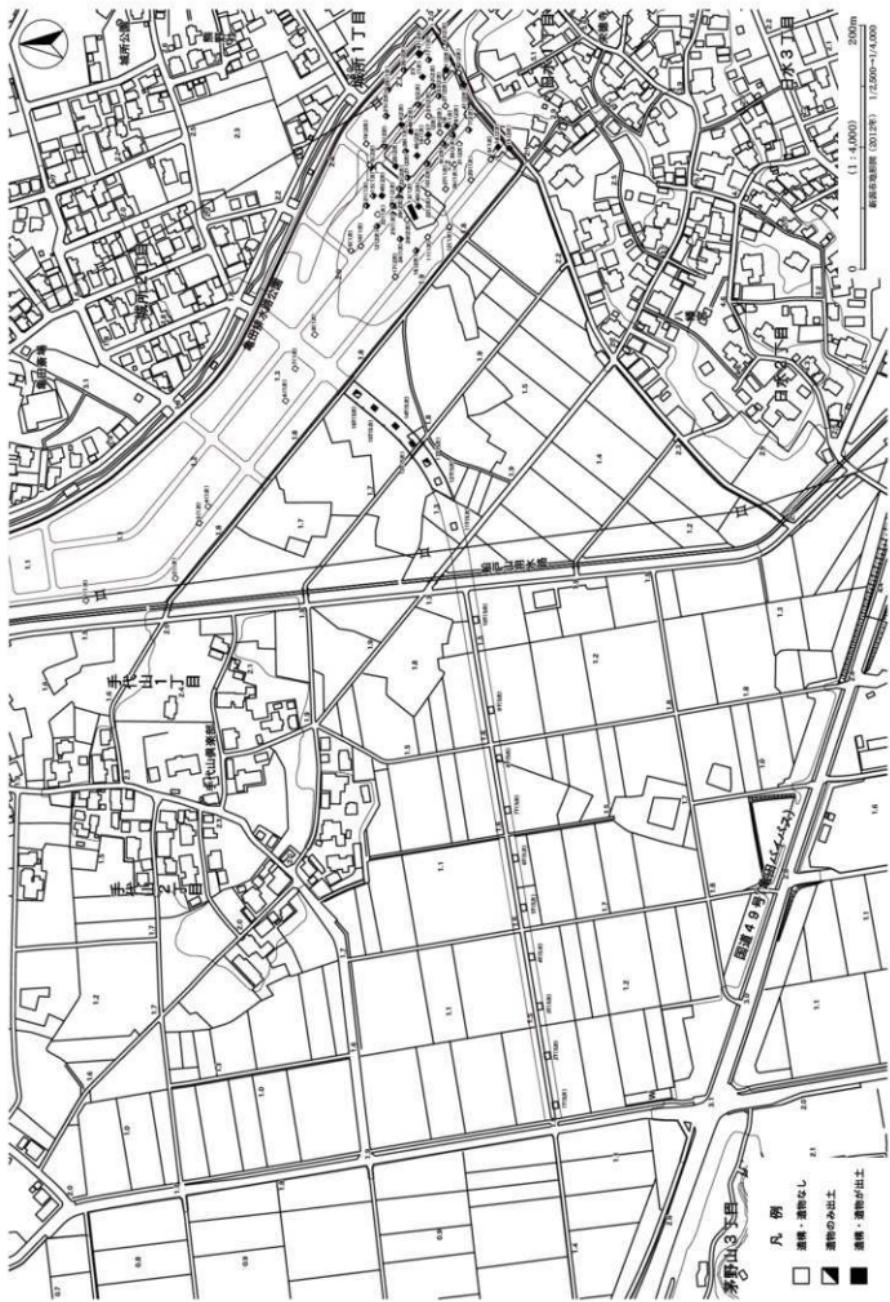




図版 4

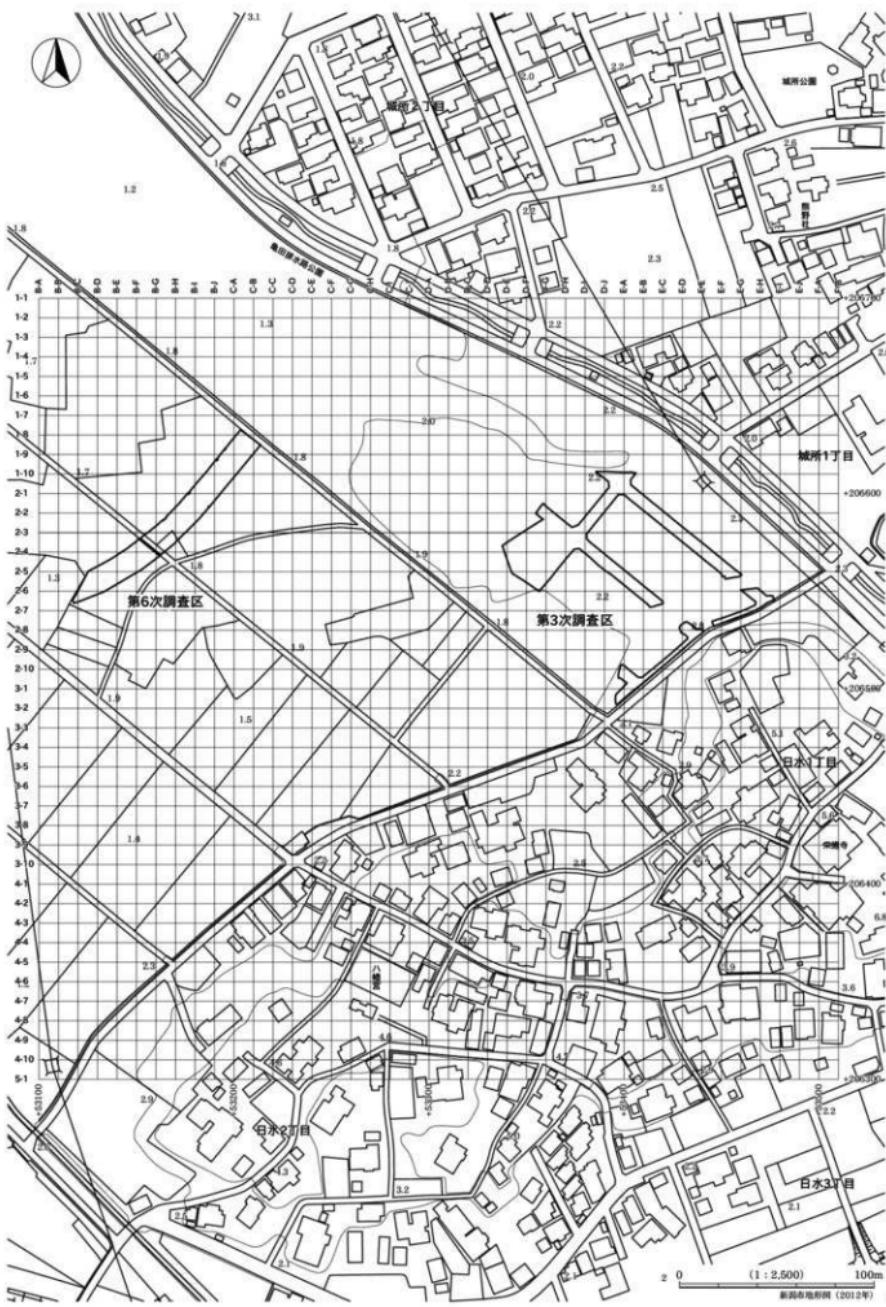
周辺の遺跡 (1/25,000)

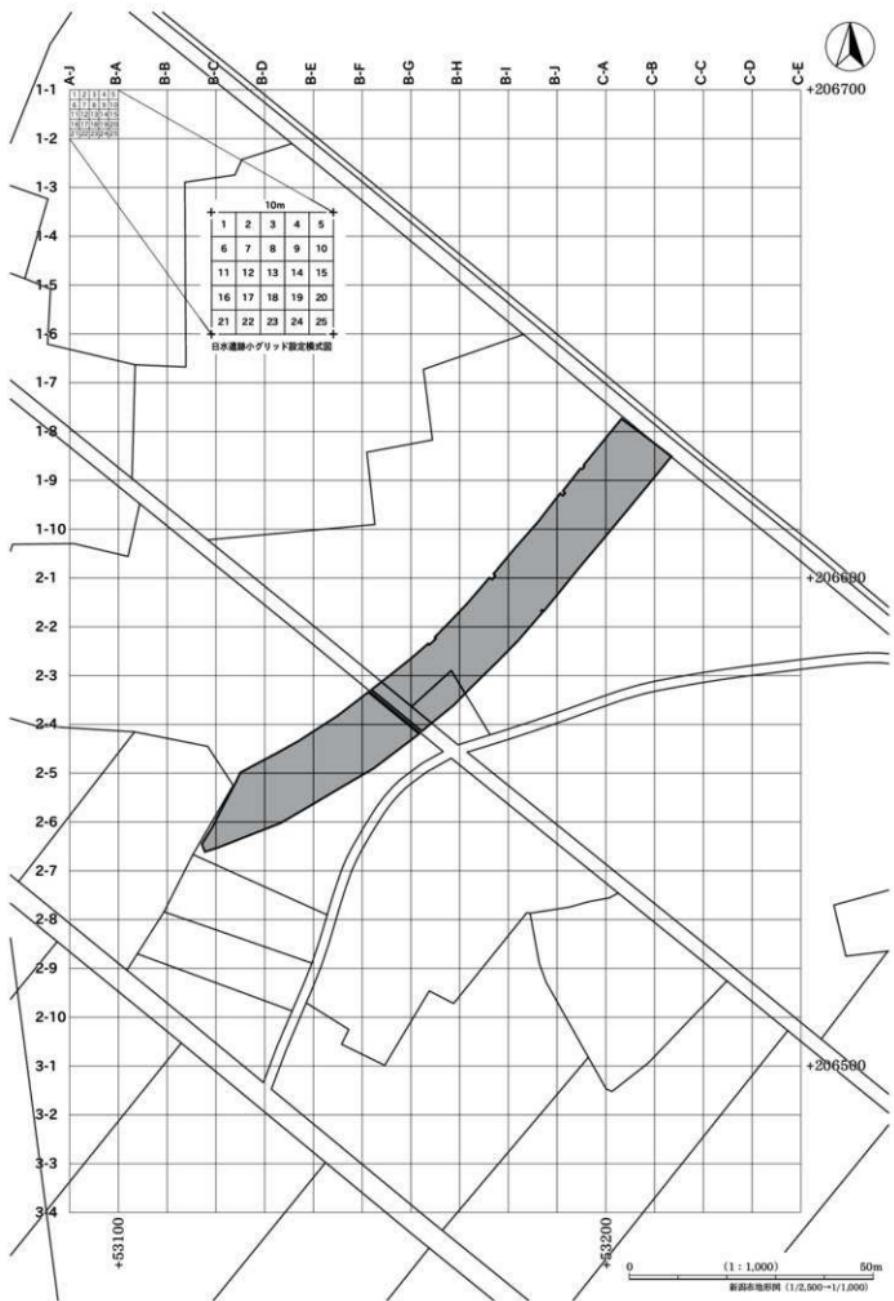


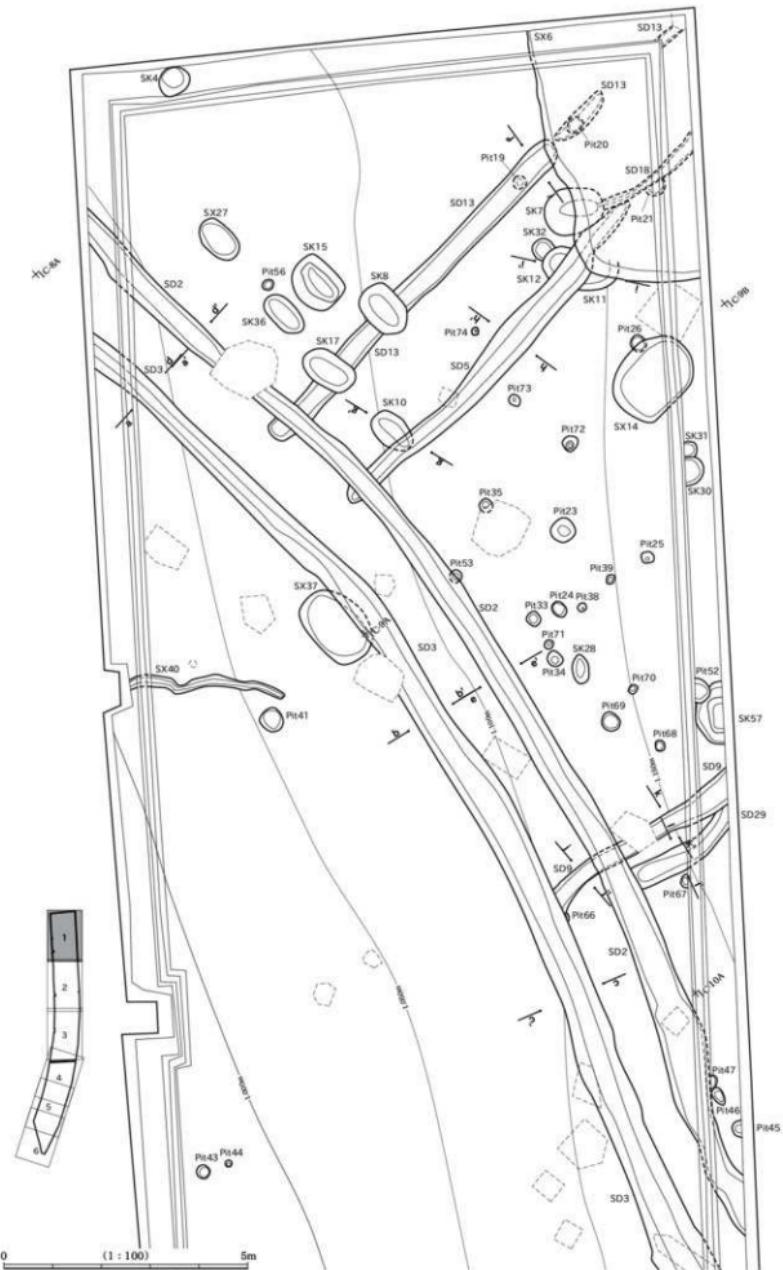


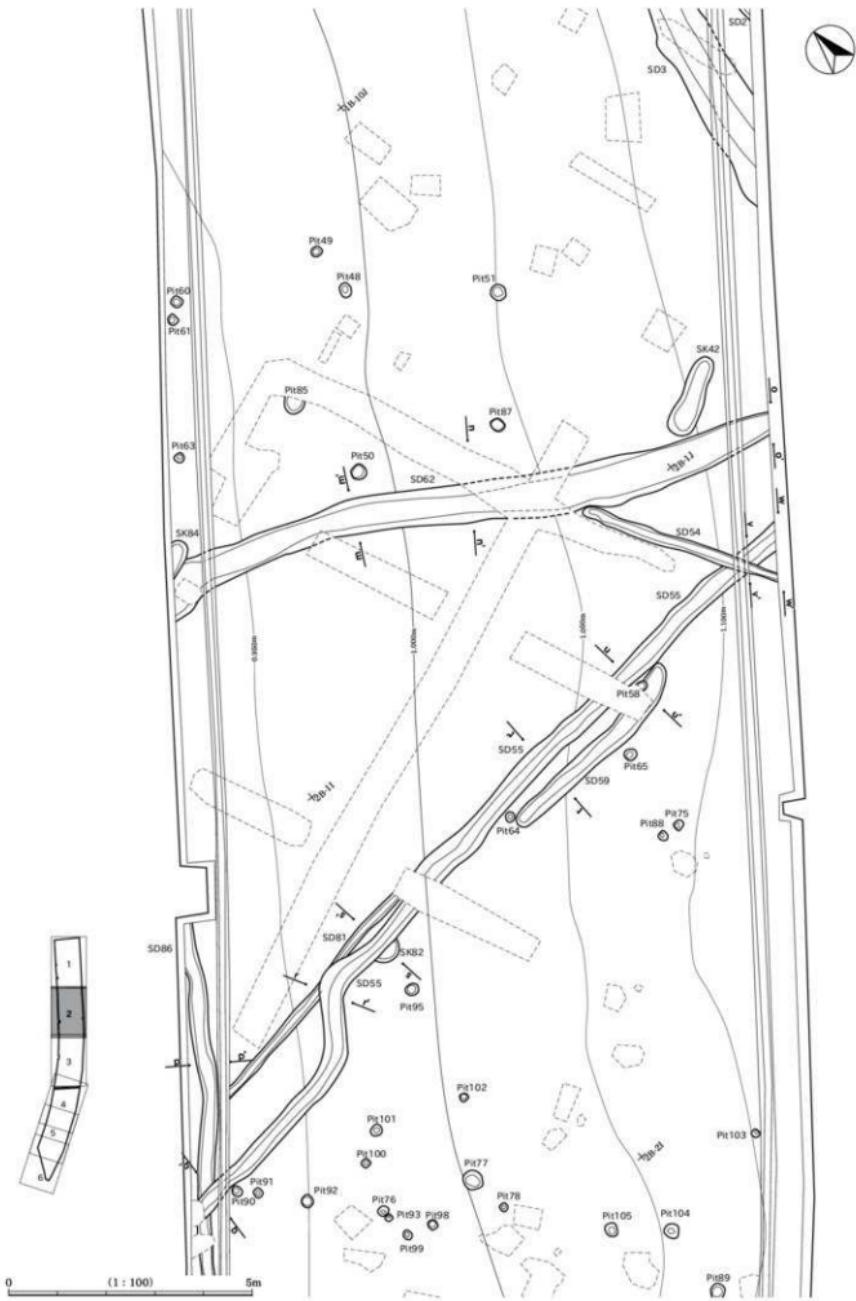
図版 6

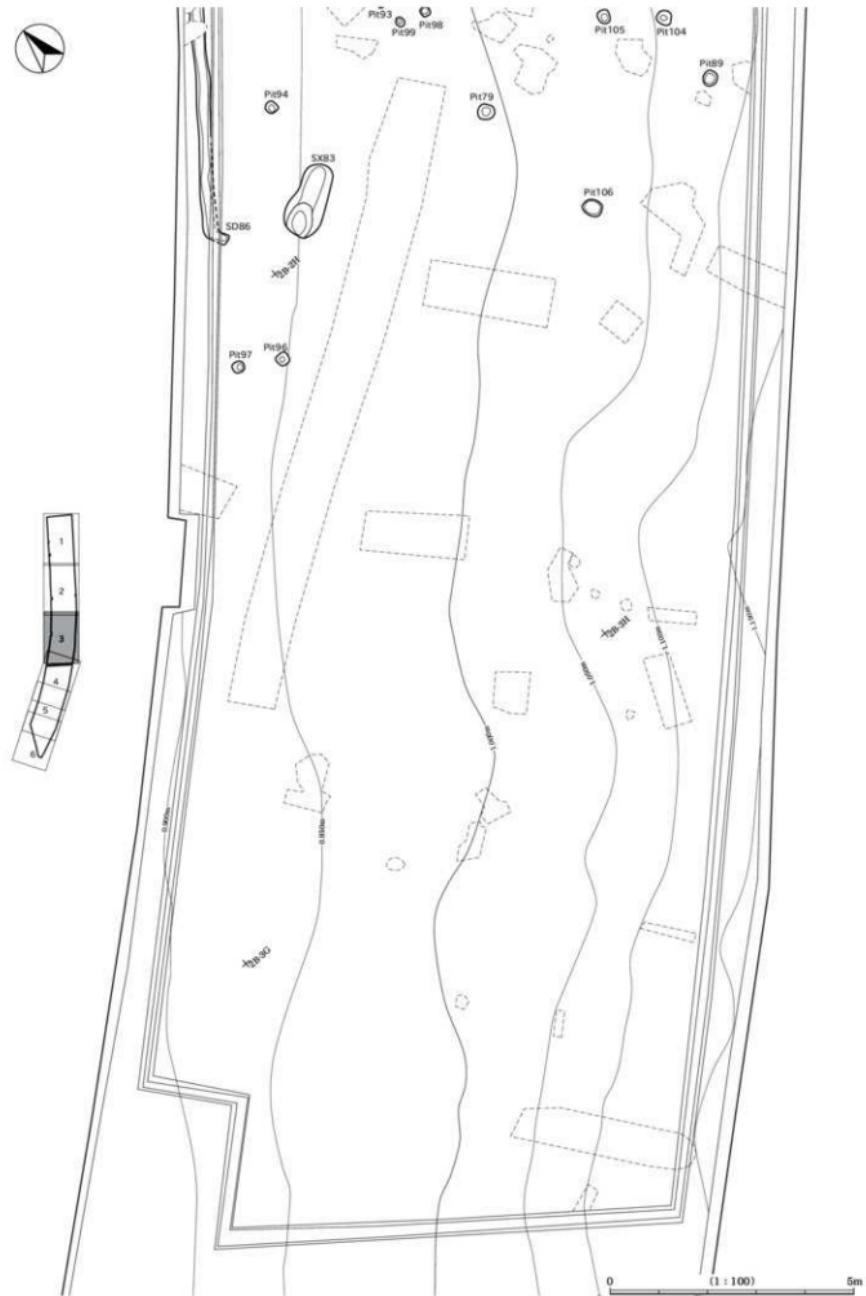
グリッド設定図① (1/2,500)

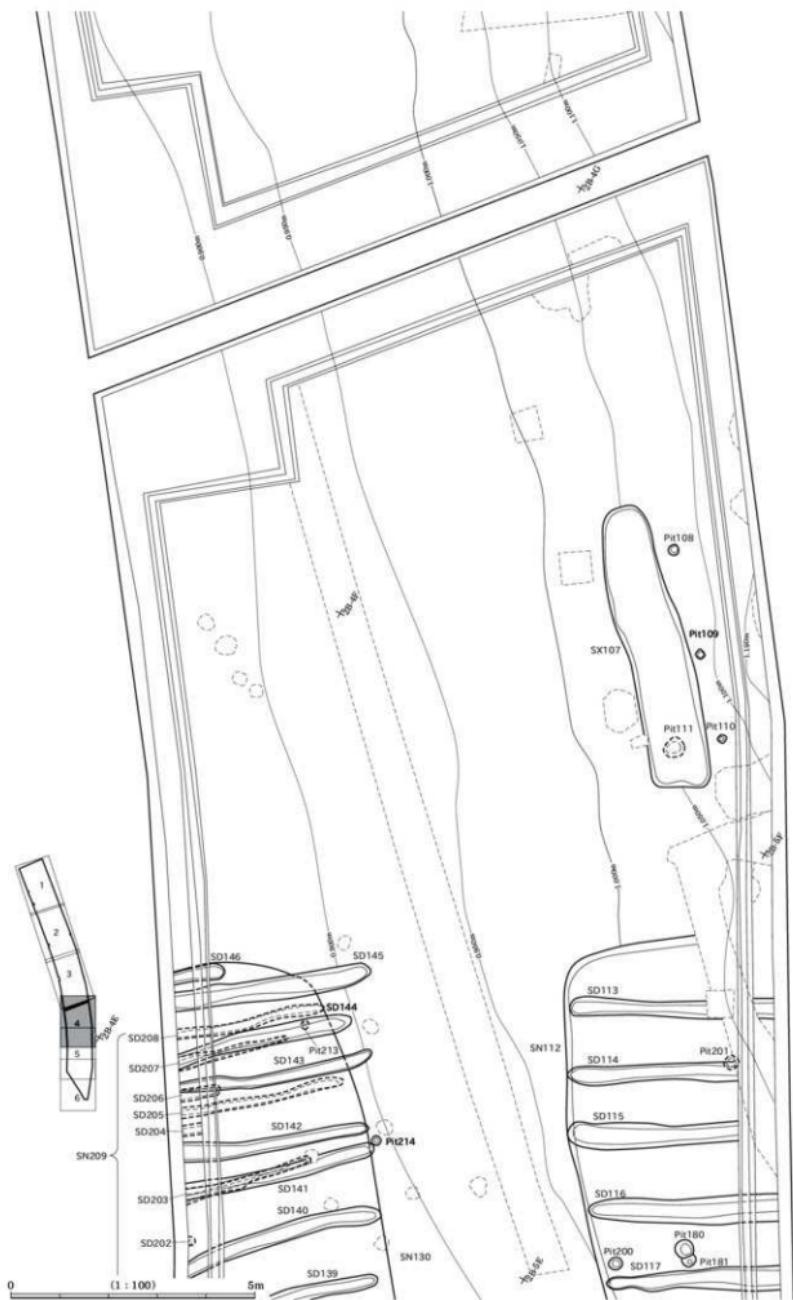


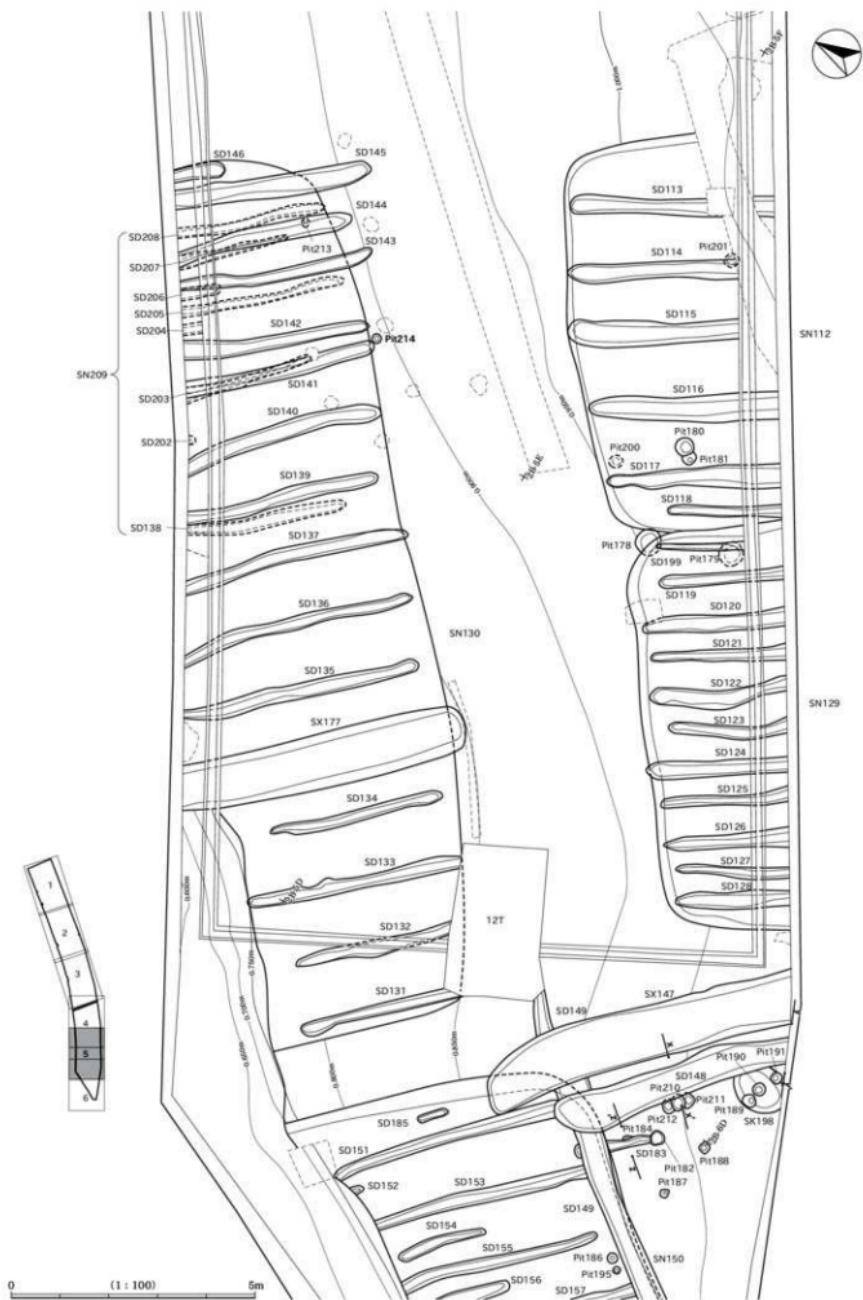


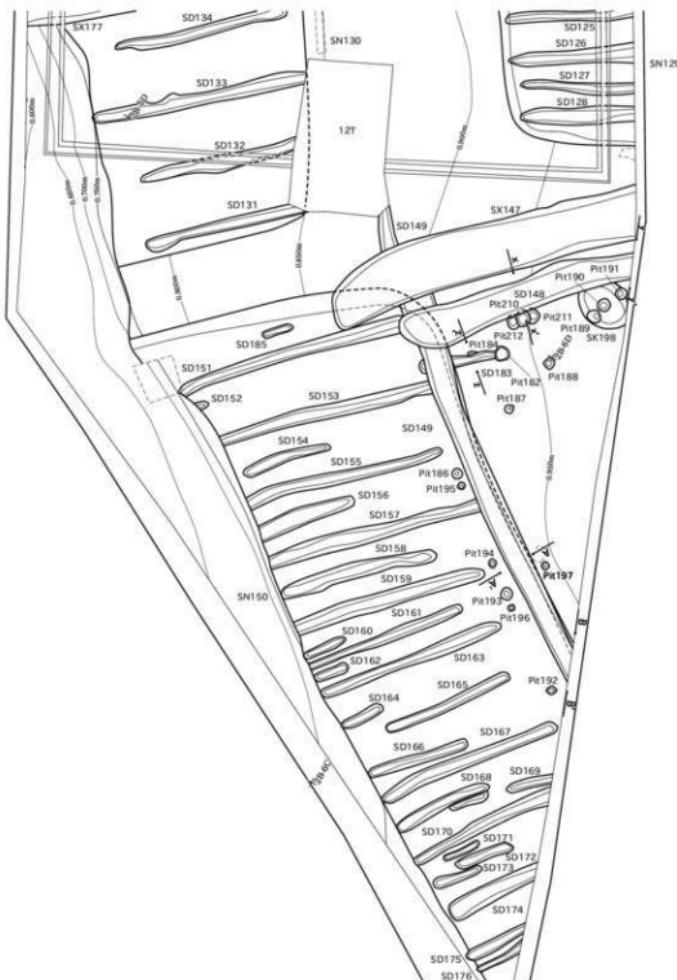






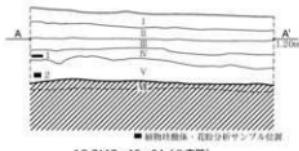




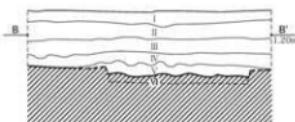


100-00

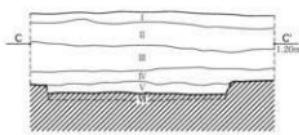
0 (1 : 100) 5m



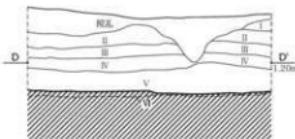
1C-7A17・18・24 (北東壁)



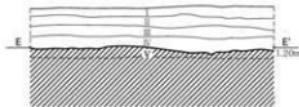
1C-8A25, 9A4・5 (南東壁)



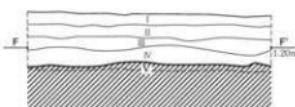
1B-10J5, 1C-9A21, 10A1 (南東壁)



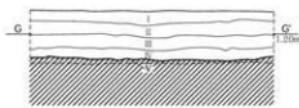
2B-2・12・6・7 (南東壁)



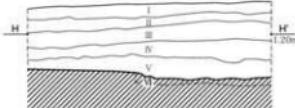
2B-4F10・14・15, 4G6 (南東壁)



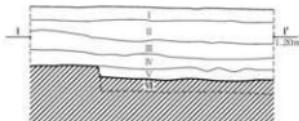
2B-6D1・2 (南東壁)



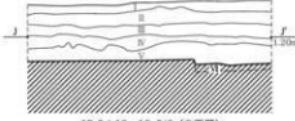
2B-3E15・19・20 (北西壁)



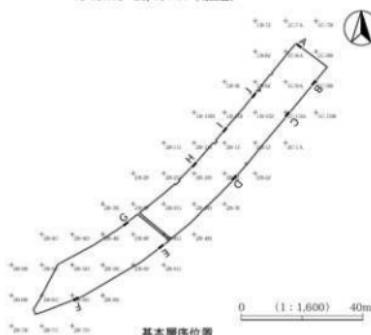
2B-1G20・25, 2H11・16 (北西壁)



1B-10H15・20, 10・11 (北西壁)



1B-9・10・15, 9J6 (北西壁)

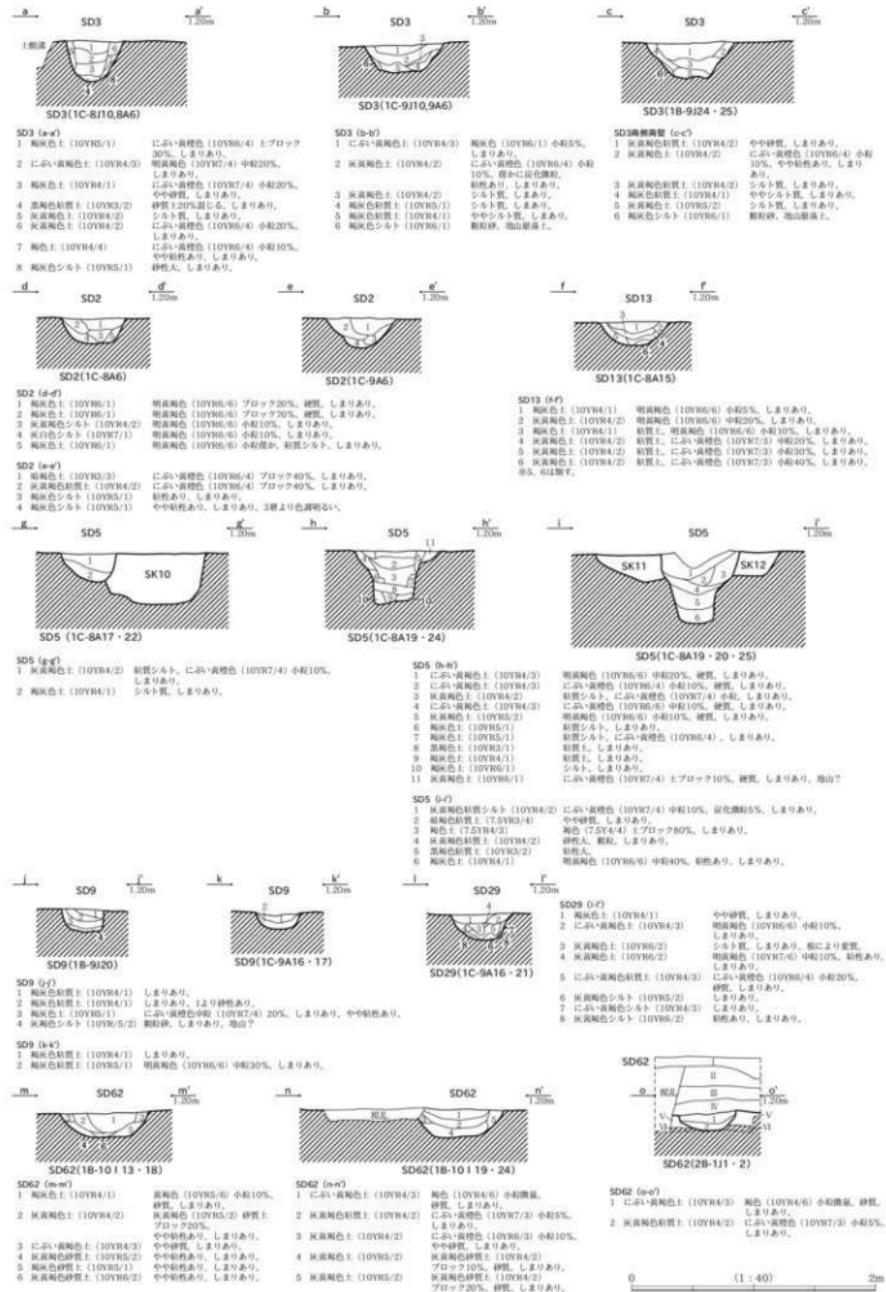


基本層序
I 植物付岩土 (1OYH4/2)
II 黄褐色土 (1OYH4/4)
III 植物付岩土 (1OYH3/3)
IV 植物付岩土 (1OYH5/3)
V 植物付岩土 (1OYH6/2)
VI 植物付岩土 (2DYS/1)

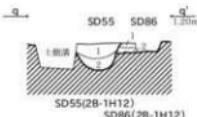
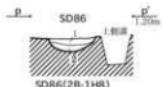
0 (1:40) 2m

図版 17

遺構実測図 1 (1/40)



SD62 (aa') 1: にぶつ・黄褐色土: (10YR4/3) 極端 (10YR4/6) 小粒5%、砂質。しまりあり。
2: 黄褐色土質土: (10YR4/2) にぶつ・黄褐色土: (10YR7/3) 小粒20%、細粒5%、中粒10%、中や粘性あり。



SD86 (p'-q'-q')
1 にぶい・黄褐色土 (IOYR4/3) 黏性あり、しまりあり。
2 黄褐色砂質土 (IOYR4/2) 黏性あり、しまりあり。

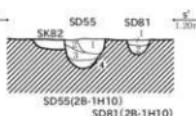
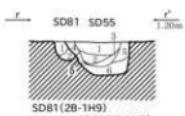
SD55 (q-q')
1 黄褐色砂質土 (IOYR4/2) 黏性あり、しまりあり。
2 壱灰色砂質土 (IOYR4/1) 黏性あり、しまりあり。
3 壱灰色土 (IOYR4/1) 明黄色 (IOYR6/6) 小粒10%、しまりあり。
4 壱灰色土 (IOYR6/1) 砂質、しまりあり。
5 壱灰色土 (IOYR6/1) 砂質、しまりあり。

SD55 (r-r')
1 黄褐色砂質土 (IOYR4/2) 黏性あり、しまりあり。
2 壱灰色砂質土 (IOYR4/1) 黏性あり、しまりあり。
3 壱灰色土 (IOYR4/1) 明黄色 (IOYR6/6) 小粒10%、しまりあり。
4 壱灰色土 (IOYR6/1) 砂質、しまりあり。
5 壱灰色土 (IOYR6/1) 砂質、しまりあり。

SD55 (s-s')
1 黄褐色砂質土 (IOYR4/2) 黏性あり、しまりあり。
2 壱灰色砂質土 (IOYR6/1) 明黄色 (IOYR6/6) 小粒混在、粘性あり、しまりあり。
3 壱灰色土 (IOYR6/1) 砂質、しまりあり。

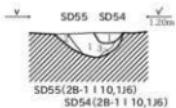
SD81 (s-s')
1 黄褐色砂質土 (IOYR4/2) 黄褐色 (IOYR6/2) 土ブロック40%、しまりあり。
2 壱灰色土 (IOYR6/1) 砂質、しまりあり。

SD81 (s-s')
1 黄褐色土 (IOYR4/2) 黄やや黄褐色 (IOYR6/3) ブロック30%、粘性あり、しまりあり。
2 壱灰色土 (IOYR6/1) 黄やや黄褐色 (IOYR6/3) ブロック30%、粘性あり、しまりあり。



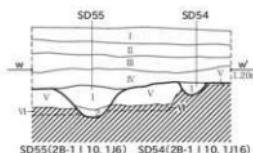
SD55 (t-t')
1 壱灰色土 (IOYR4/1) 黏性あり、しまりあり。
2 壱灰色土 (IOYR4/2) 黏性あり、しまりあり。
3 壱灰色土 (IOYR4/1) 黏性あり、しまりあり、砂質、粘性あり、しまりあり。
4 壱灰色土 (IOYR6/1) 砂質、粘性あり、しまりあり。

SD55 (t-t')
1 にぶい・黄褐色土 (IOYR4/3) にぶい・黃褐色 (IOYR6/4) 小粒混在、しまりあり。
2 壱灰色土 (IOYR4/1) 砂質、しまりあり。
3 壱灰色土 (IOYR4/1) 砂質、しまりあり。



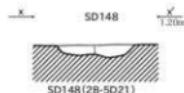
SD55 (v-v')
1 にぶい・黄褐色砂質土 (IOYR4/3) 黄褐色 (IOYR5/2) 小粒混在、しまりあり。

SD55 (v-v')
1 黄褐色砂質土 (IOYR4/2) やや砂質、粘性あり、しまりあり。
2 壱灰色砂質土 (IOYR4/1) 粘性あり。
3 にぶい・黄褐色土 (IOYR5/3) ややシルト質、粘性あり。

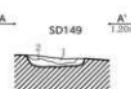
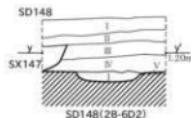


SD55 (w-w')
1 黄褐色砂質土 (IOYR4/3) 黄褐色 (IOYR5/2) 小粒混在、しまりあり。
2 壱灰色砂質土 (IOYR4/1) 砂質、しまりあり。

SD55 (w-w')
1 黄褐色土 (IOYR4/2) やや砂質、粘性あり、しまりあり。
2 壱灰色土 (IOYR4/1) やや砂質、粘性あり、しまりあり。

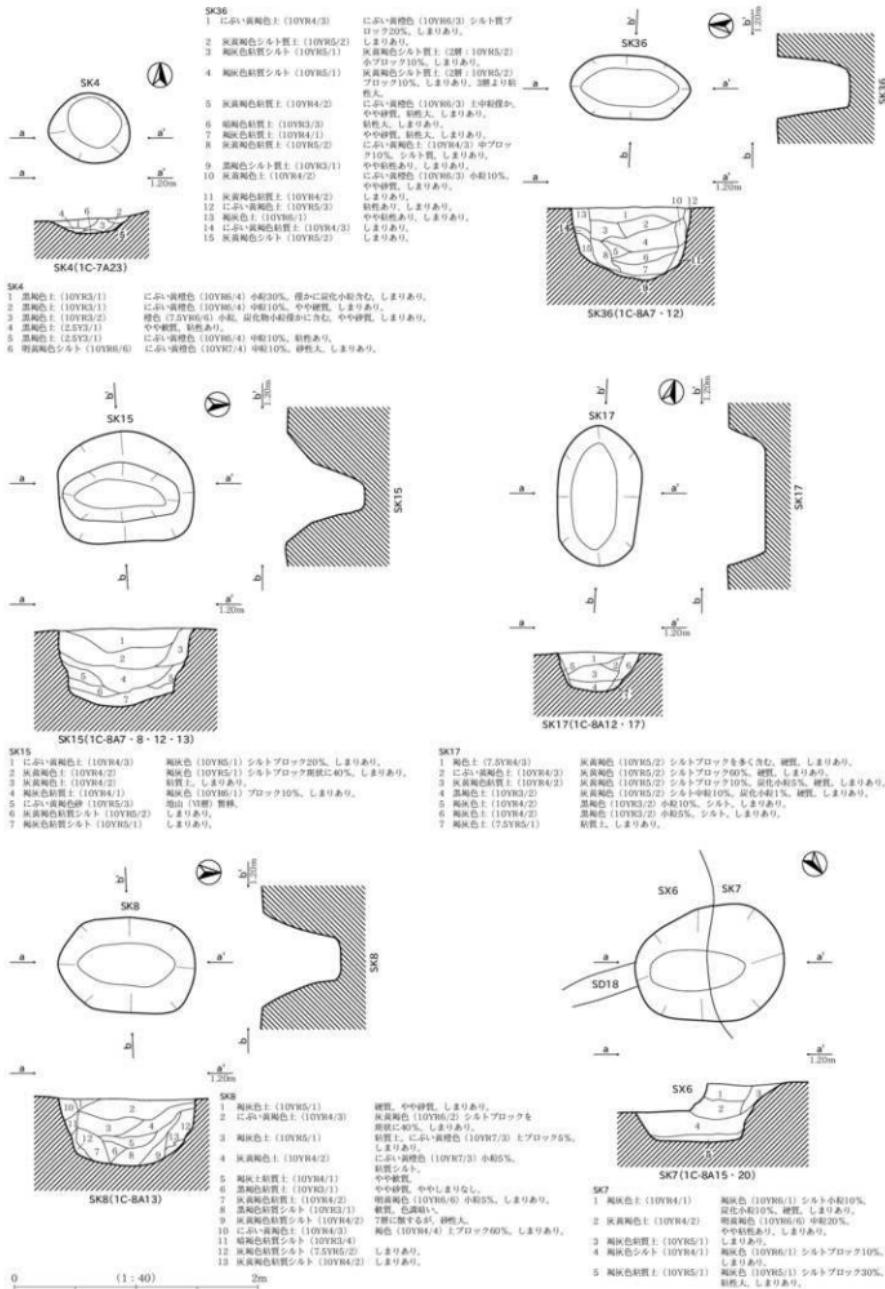


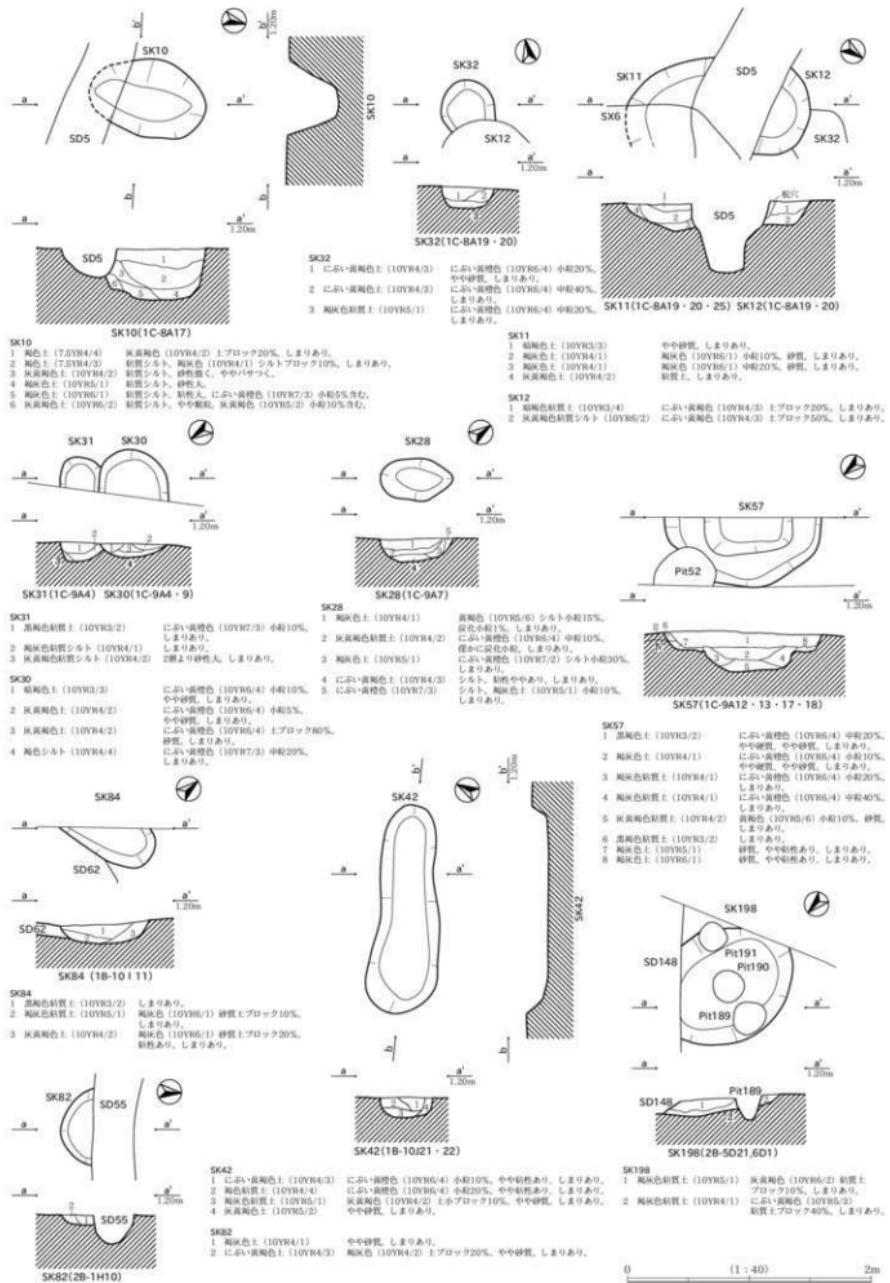
SD148 (x-x')
1 壱灰色シルト (IOYR4/4) 黏性あり、しまりあり。V層とV'層間に盛り合う。

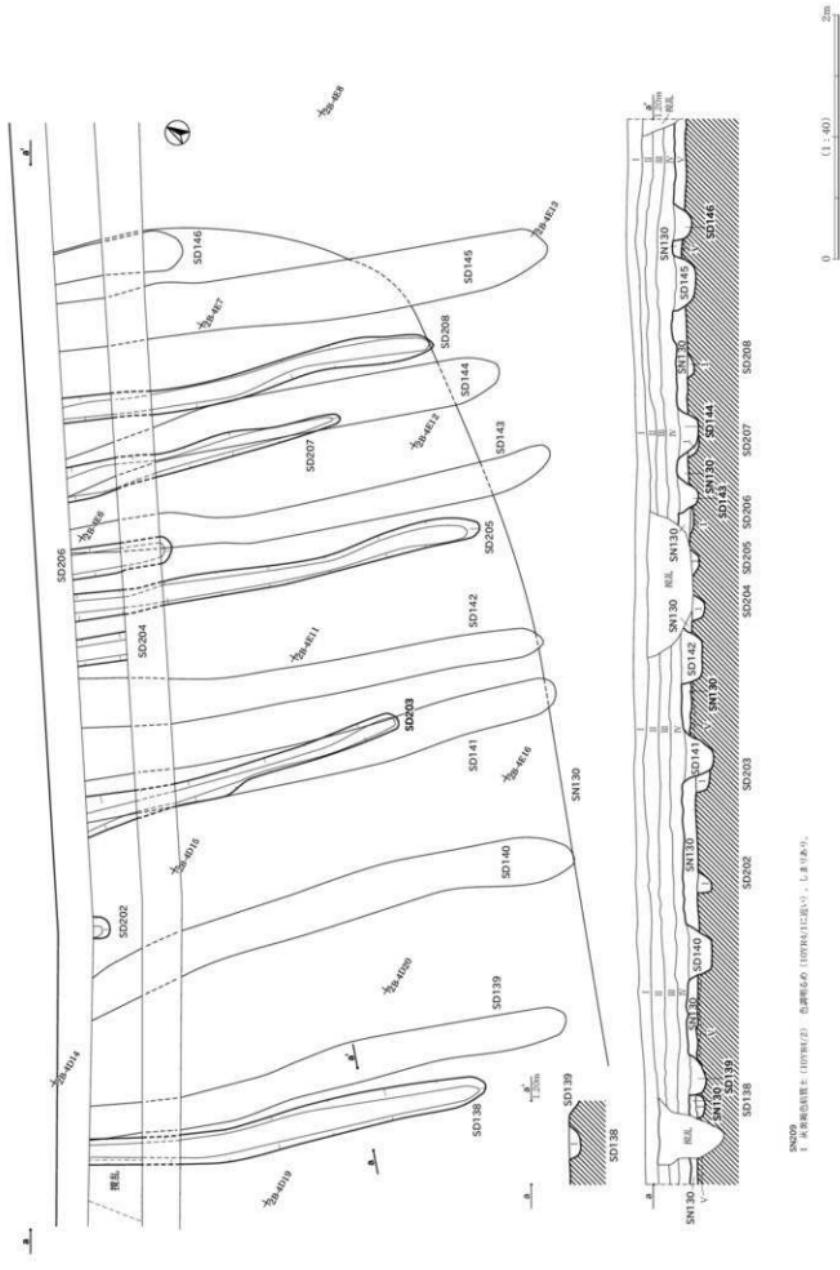


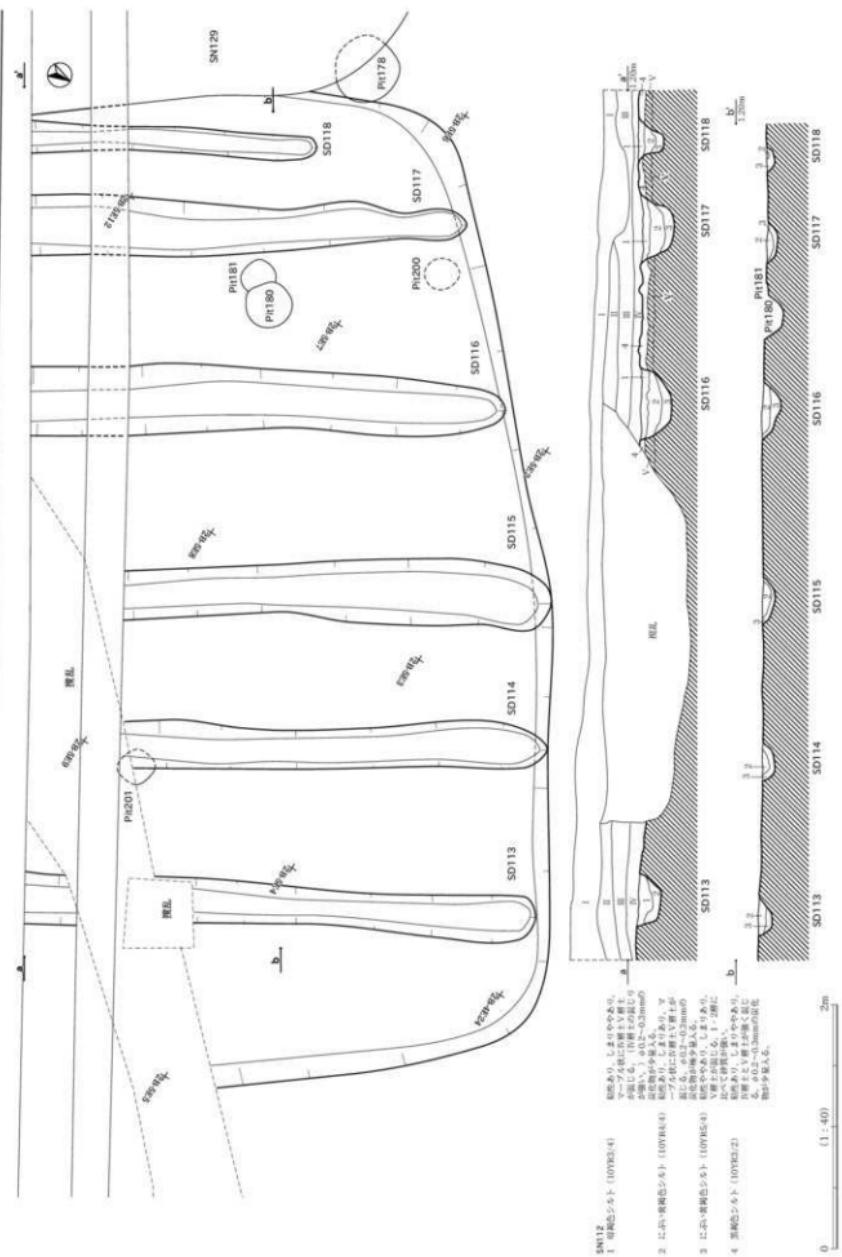
SD183 (z-z')
1 黄褐色土 (IOYR4/1) にぶい・黄褐色 (IOYR6/4) 小粒10%、しまりあり。
2 壱灰色砂質土 (IOYR4/1) 黄褐色 (IOYR6/2) 小粒混在、しまりあり。

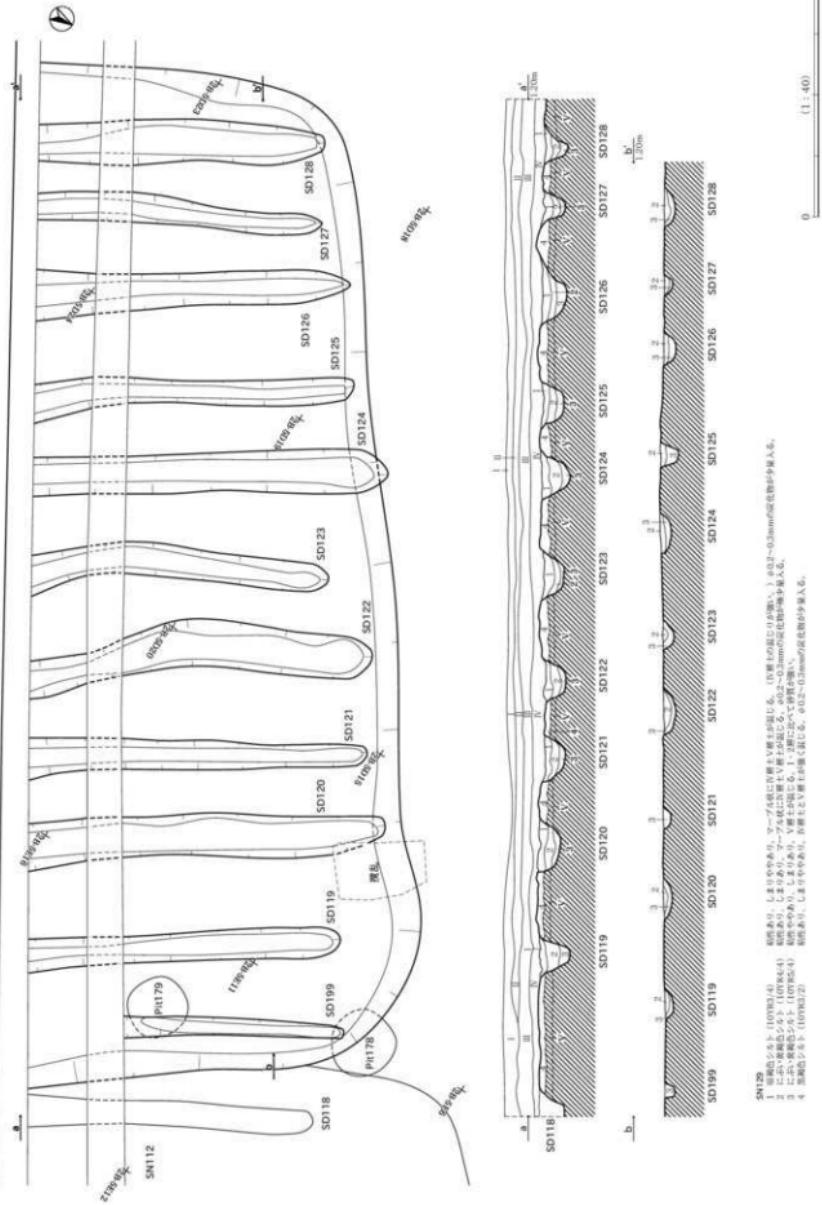
SD149 (A-A';B-B')
1 黄褐色シルト (IOYR4/3) 黏性あり、しまりあり。φ0.5mmの炭化物が極少量入る。
2 にぶい・黄褐色シルト (IOYR4/3) 黏性ややあり、しまりあり。V層上に入り込む。φ0.5mmの炭化物が極少量入る。

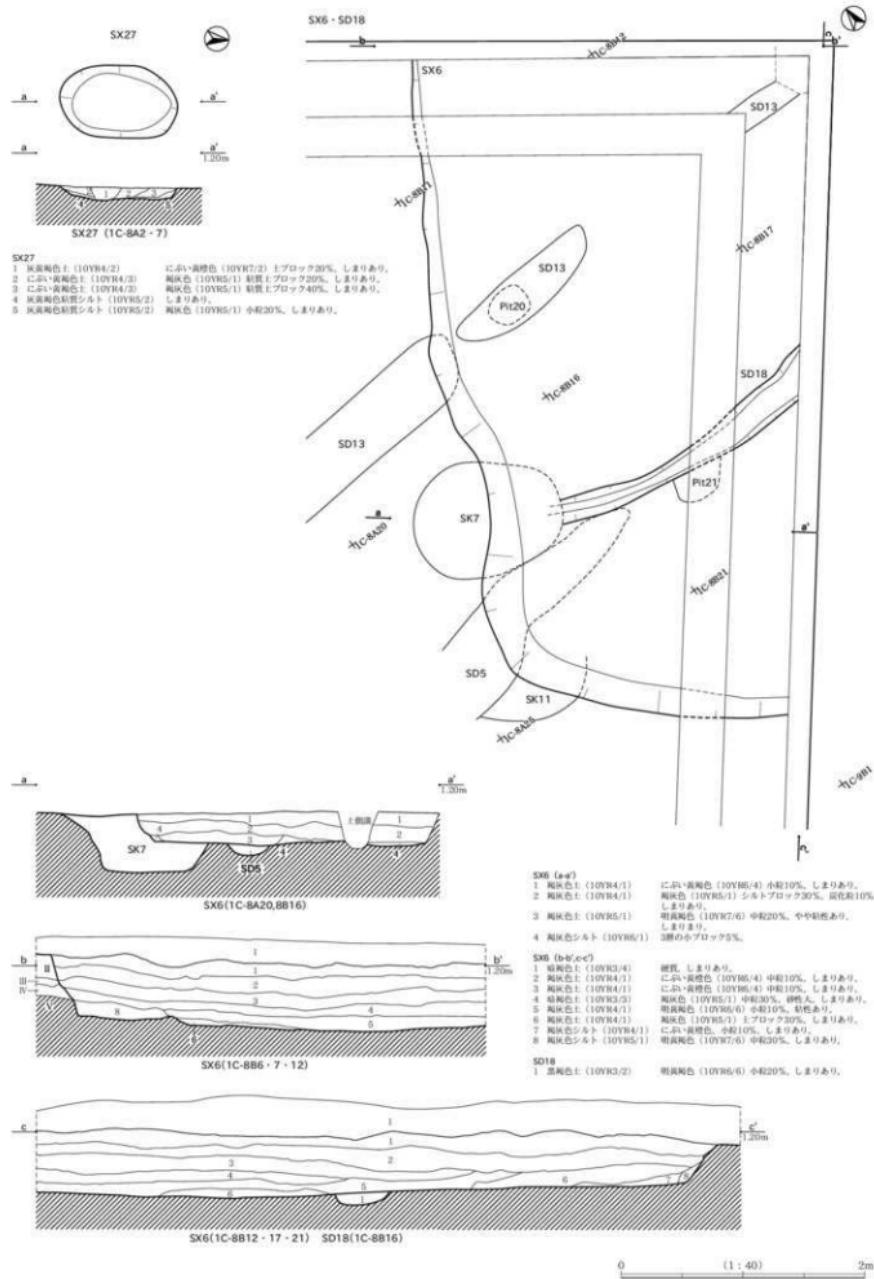


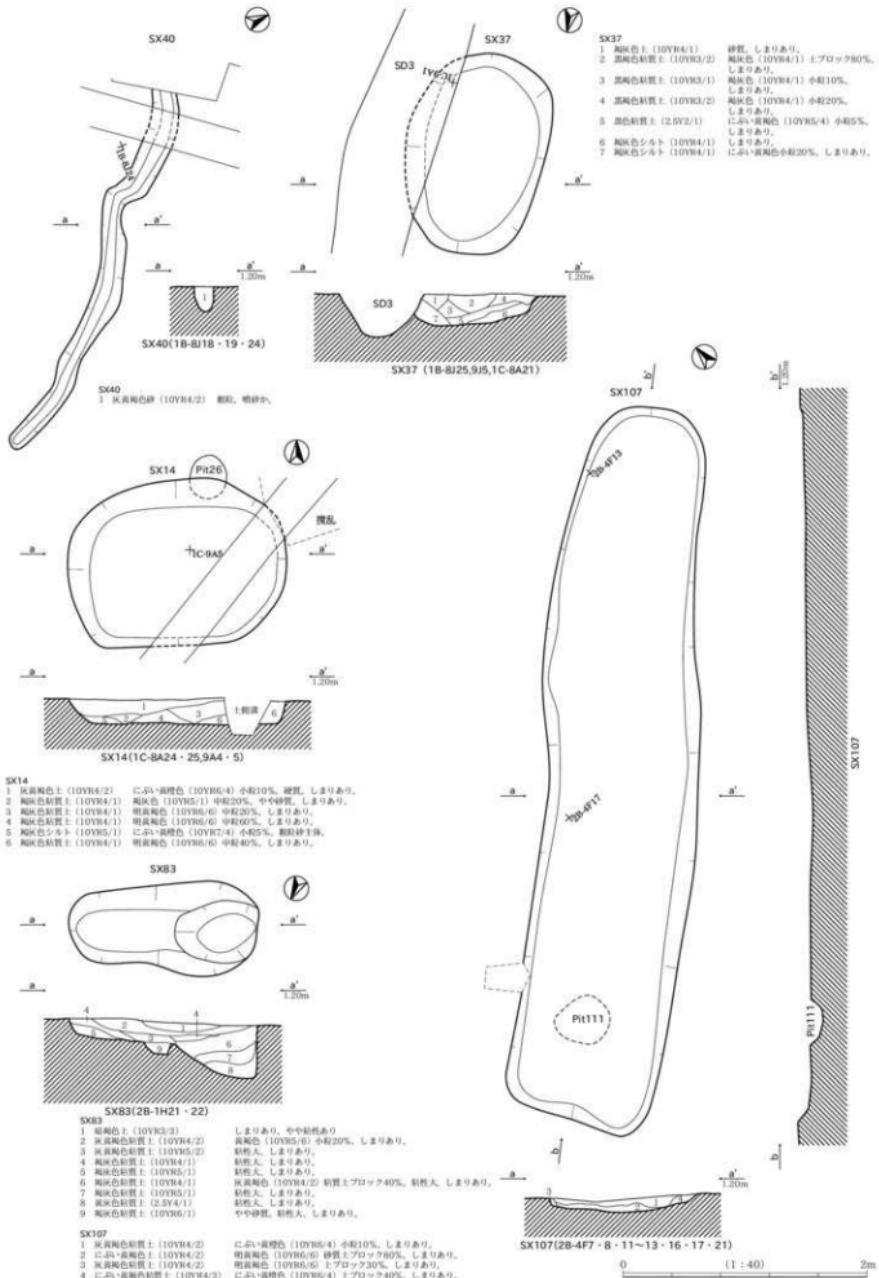


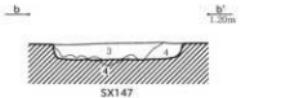
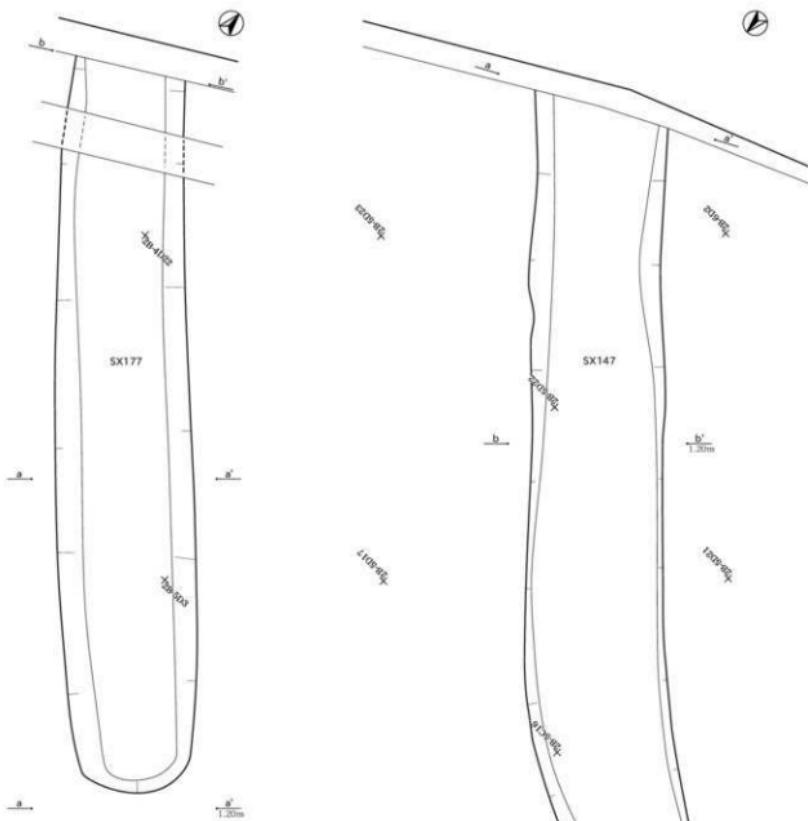






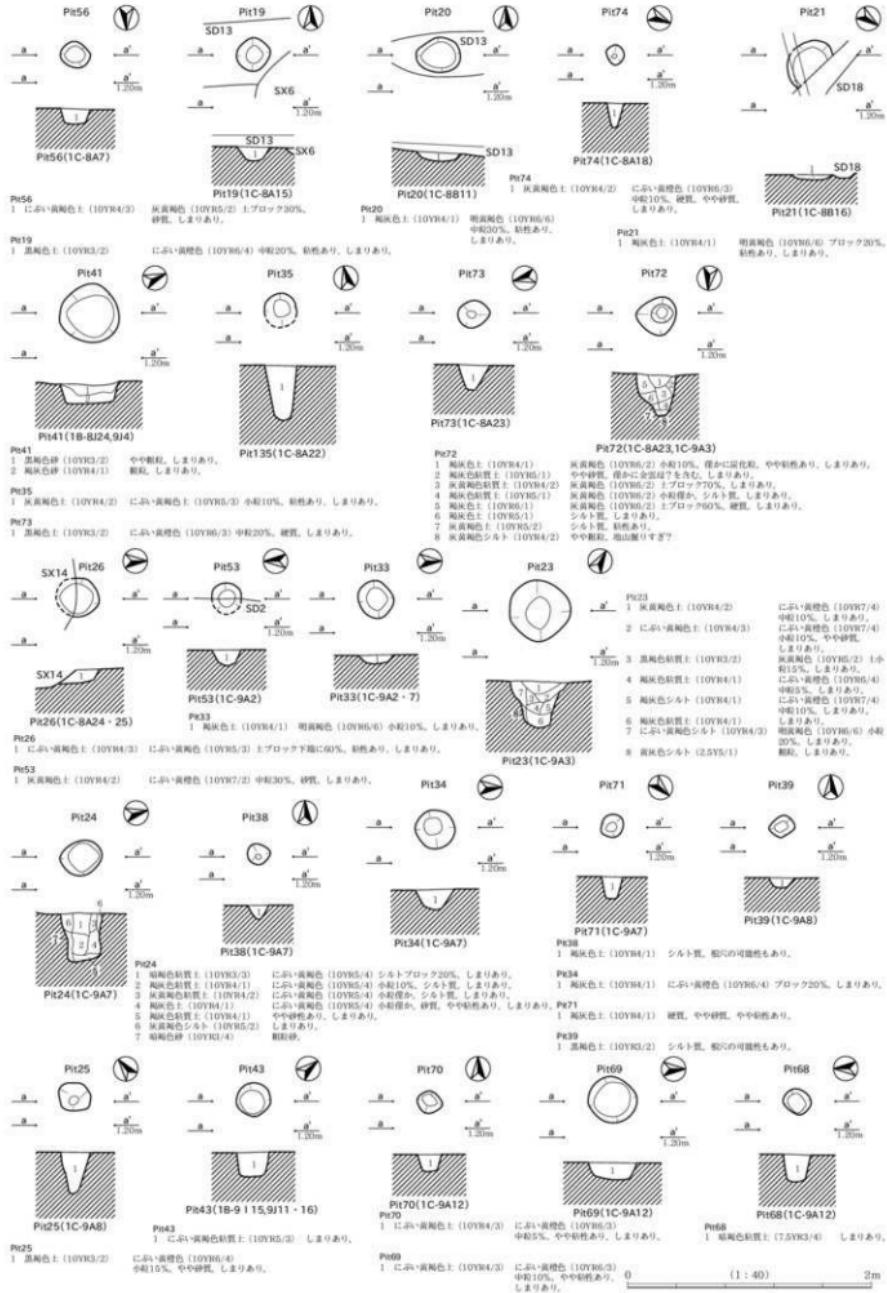


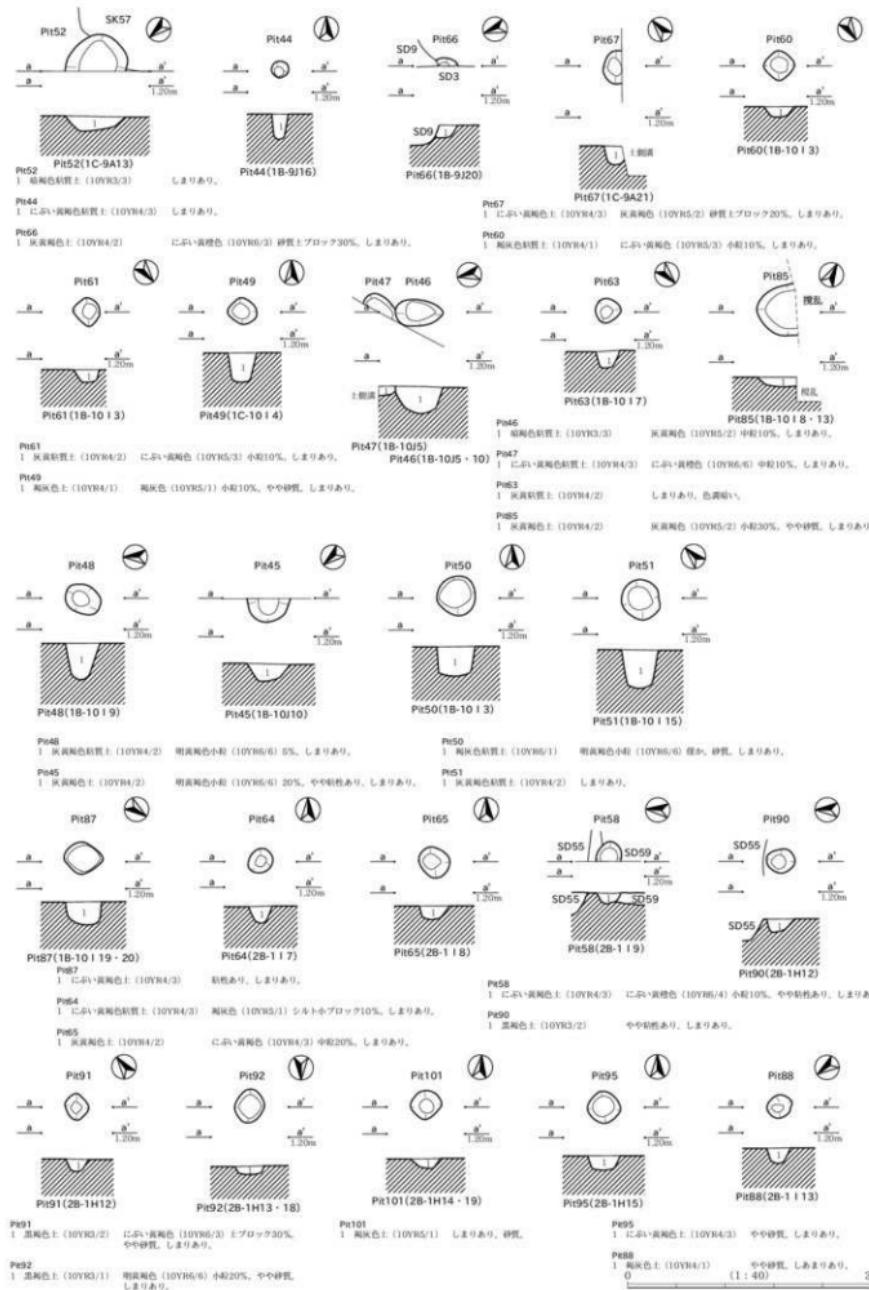


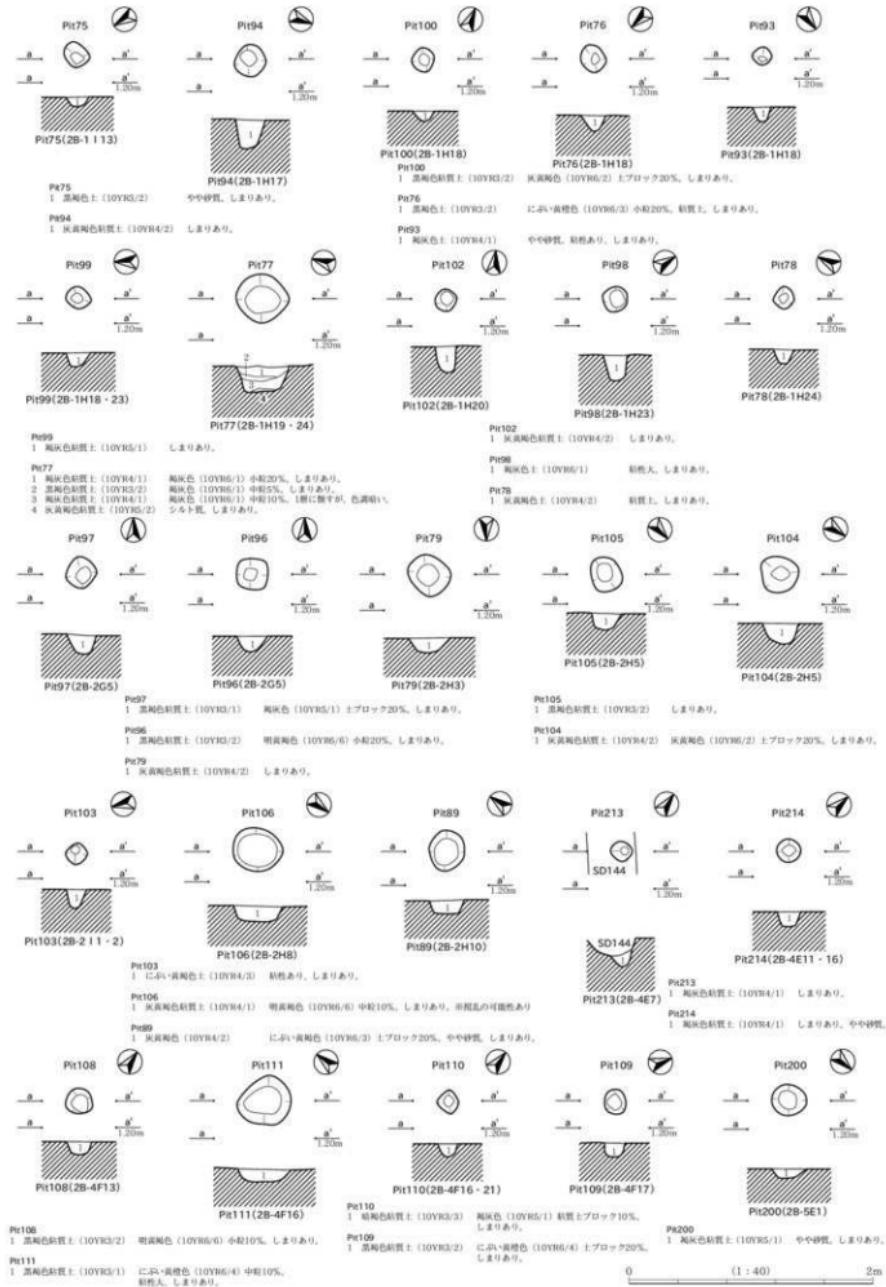


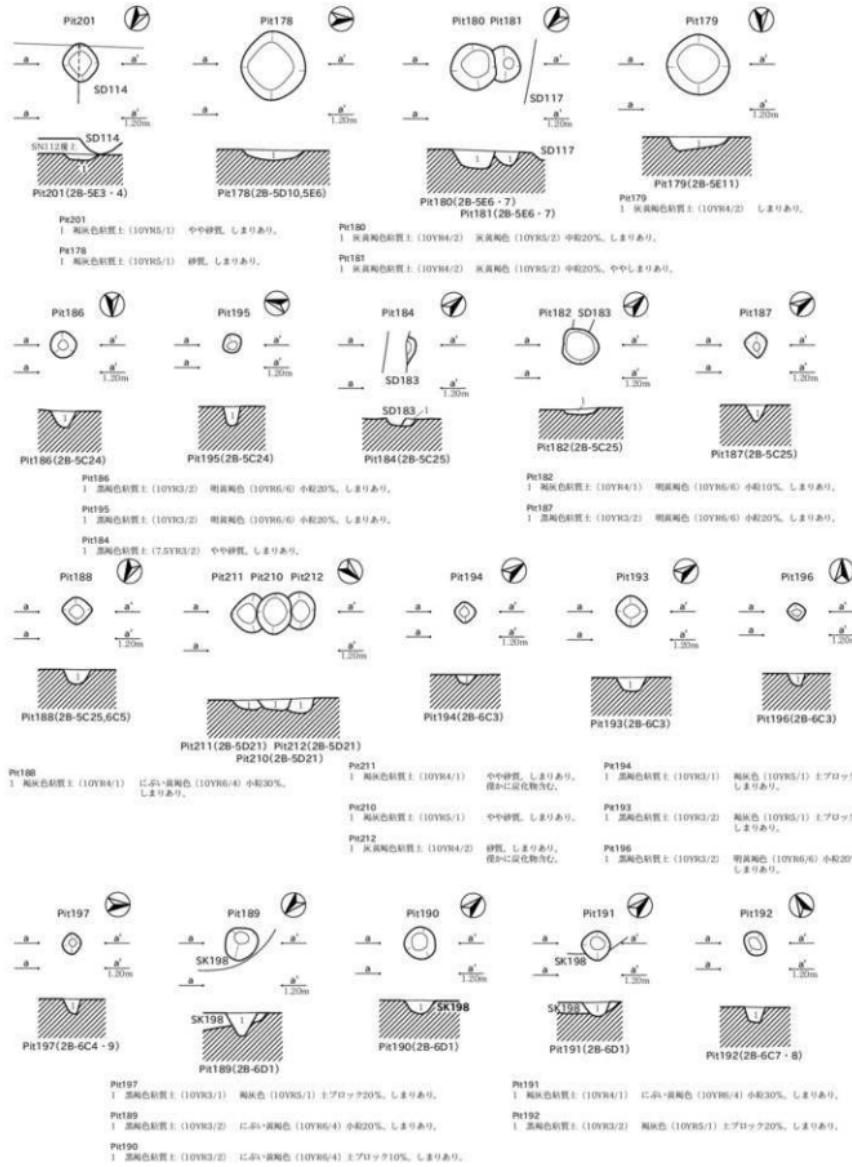
圖版 29

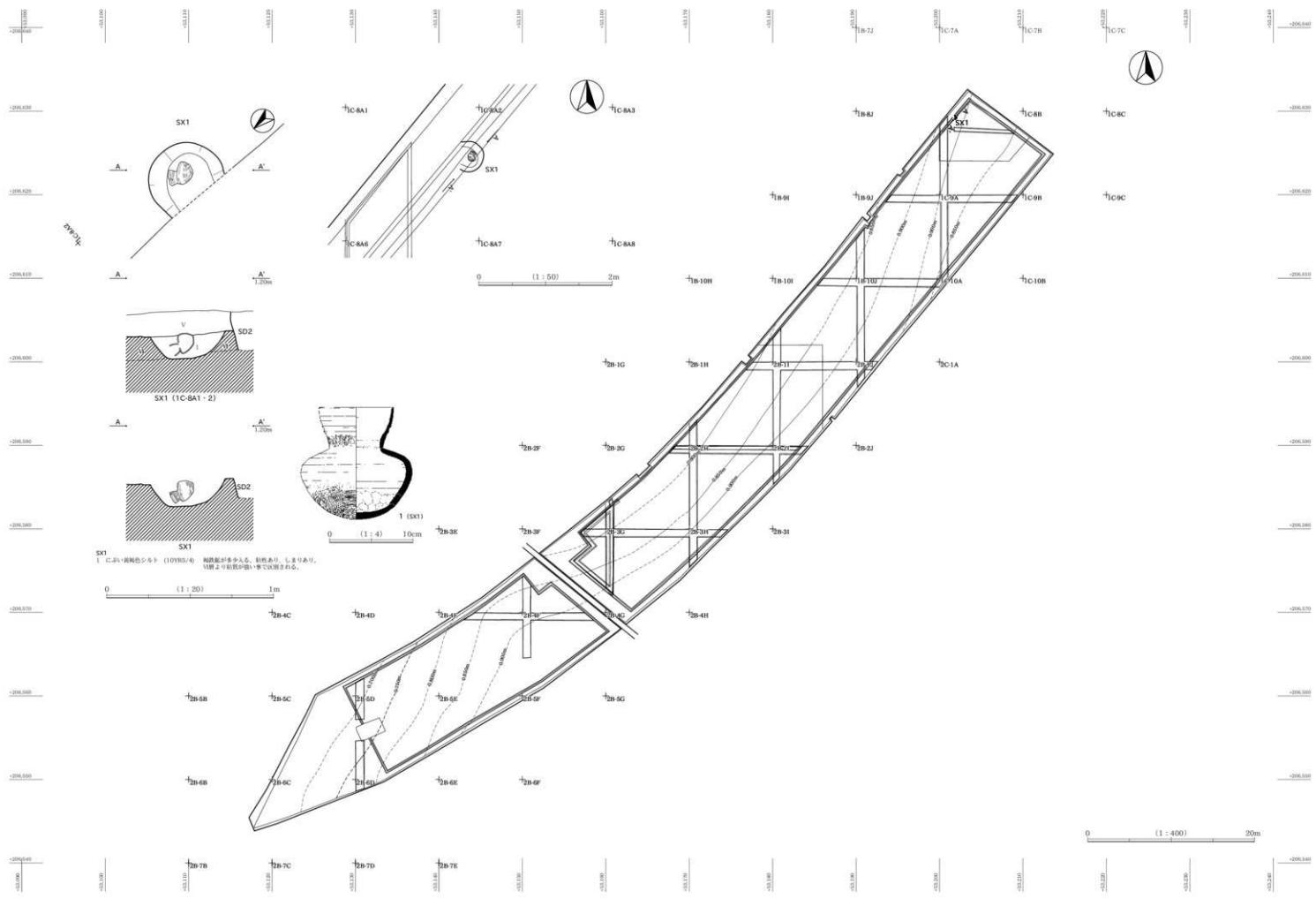
遺構実測図 13 (1/40)



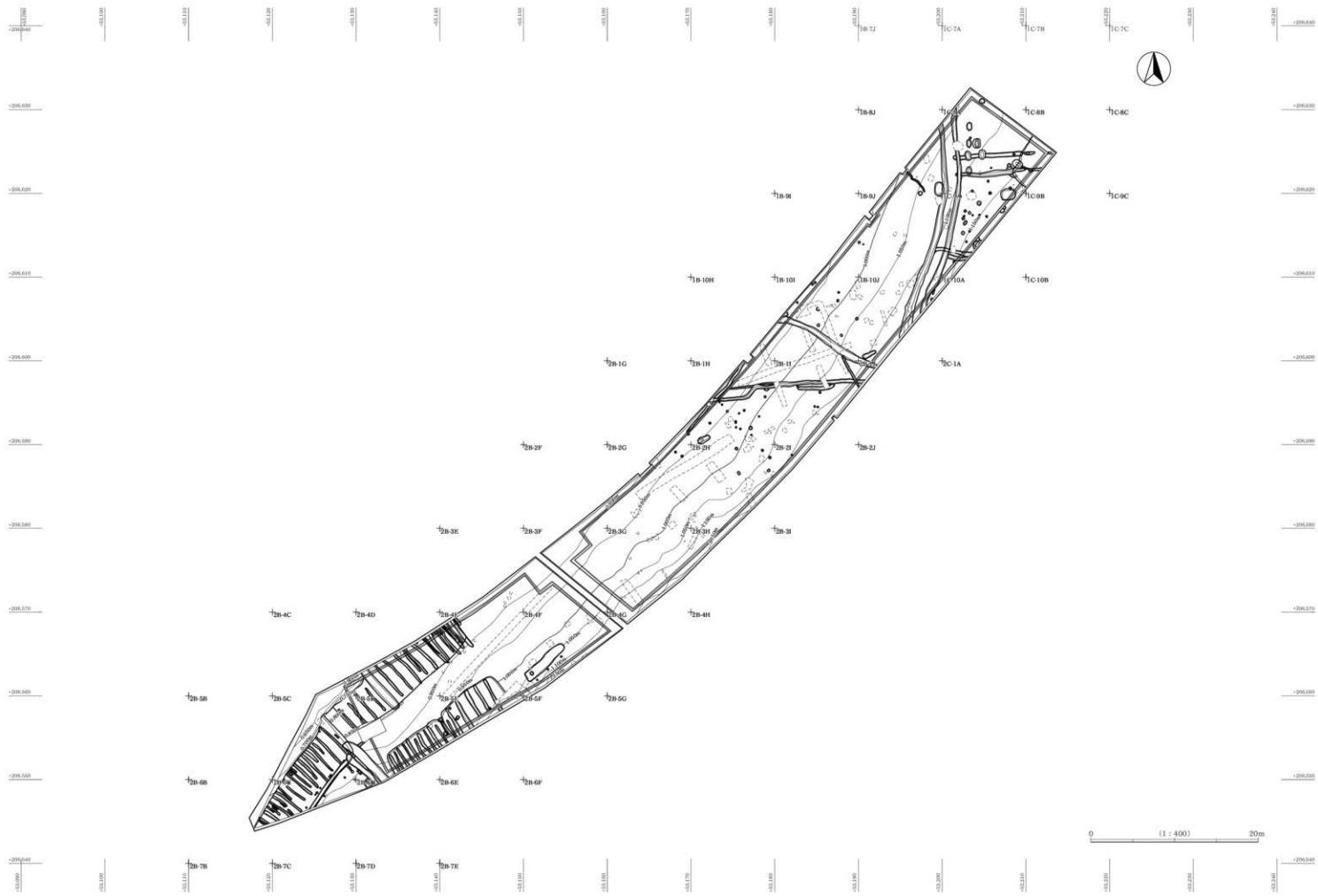


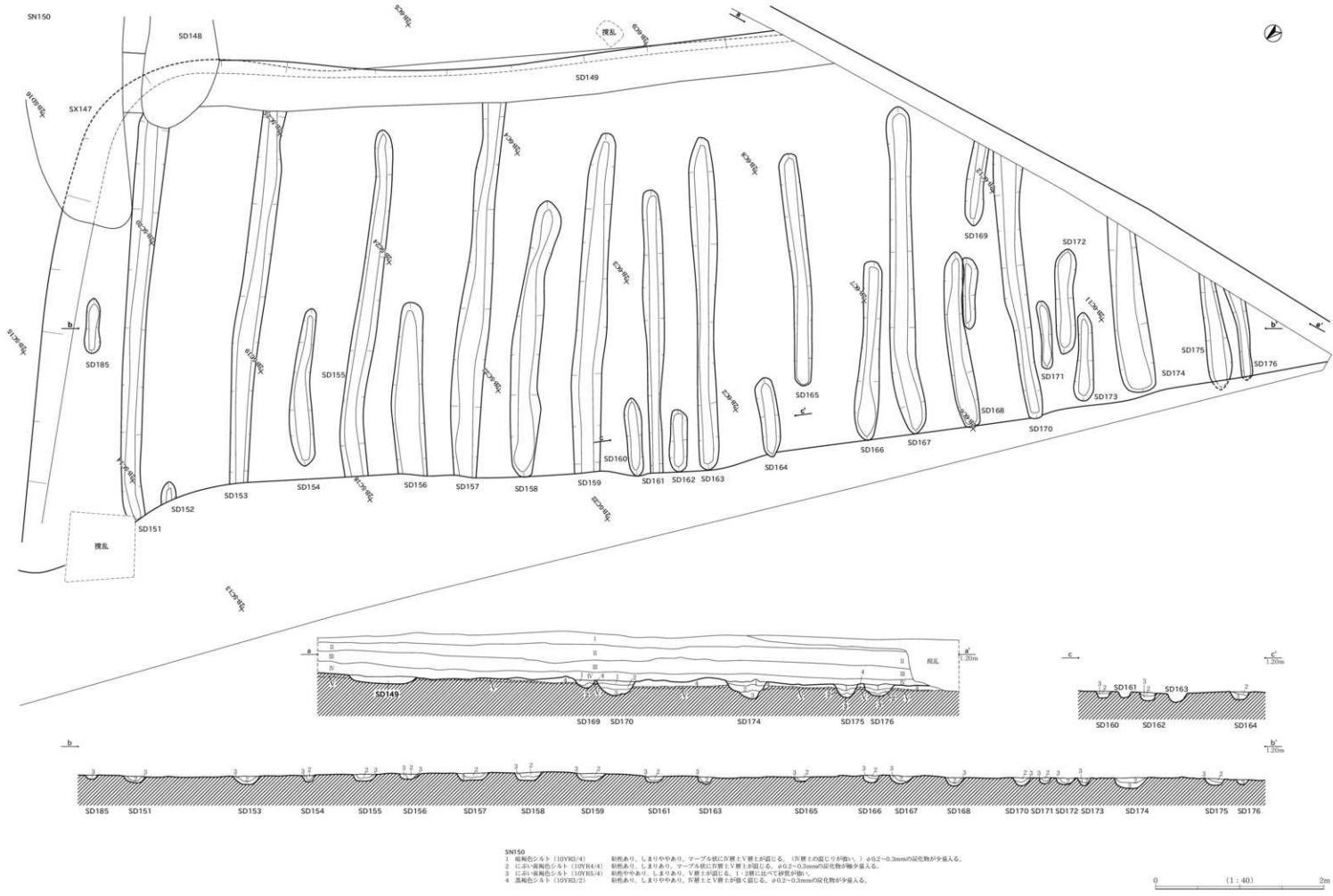


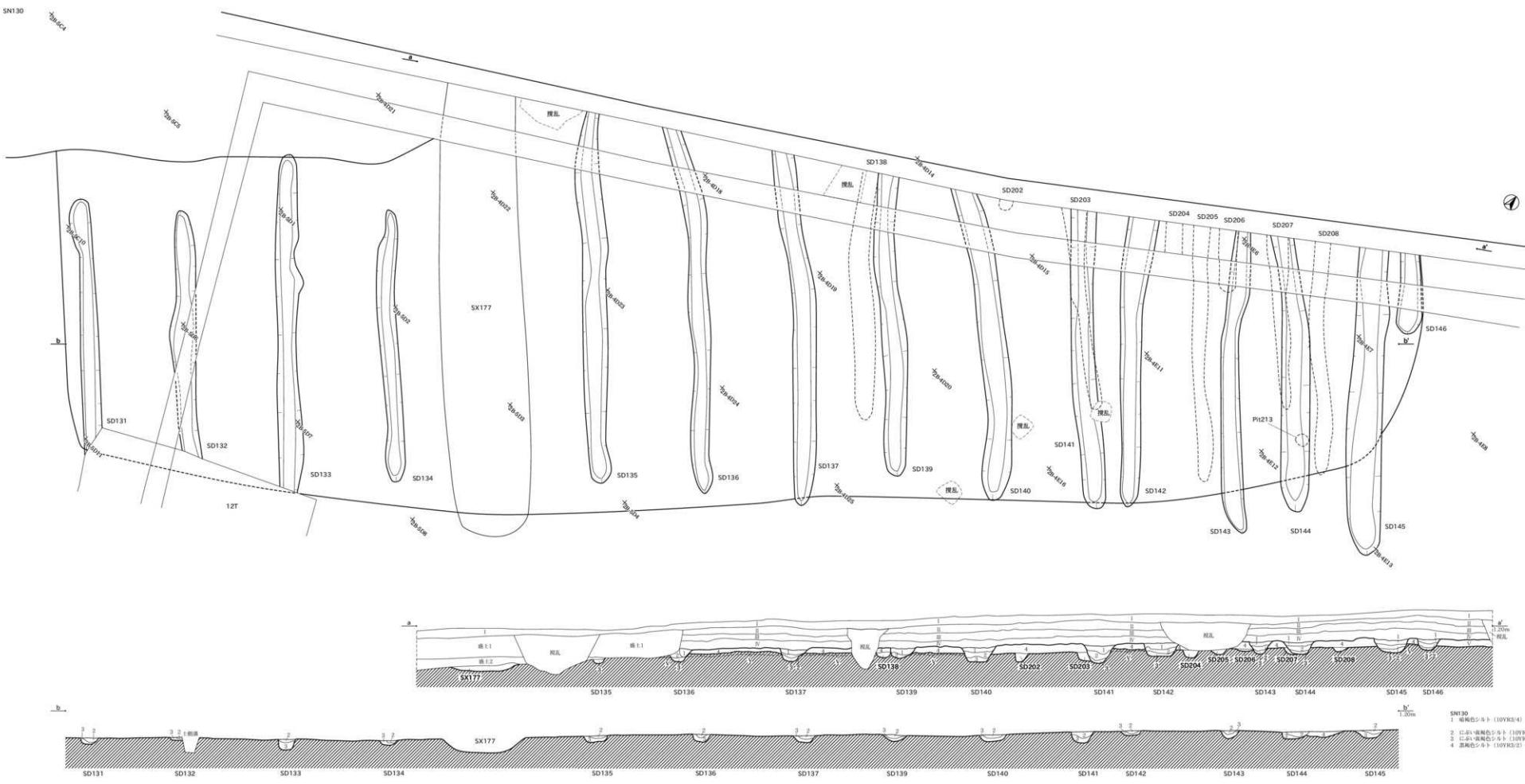




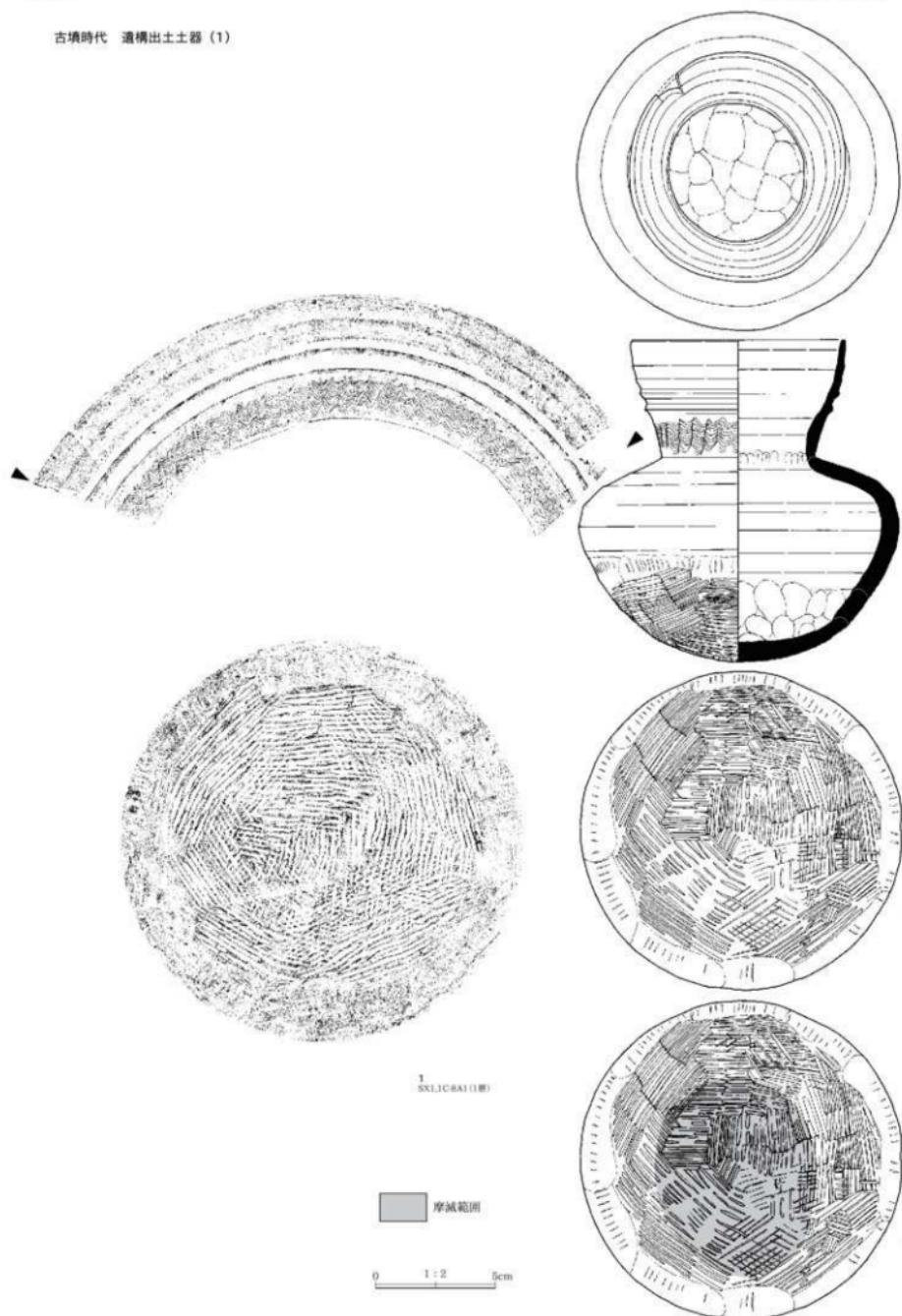
古代以降全体图（上层）(1/400)



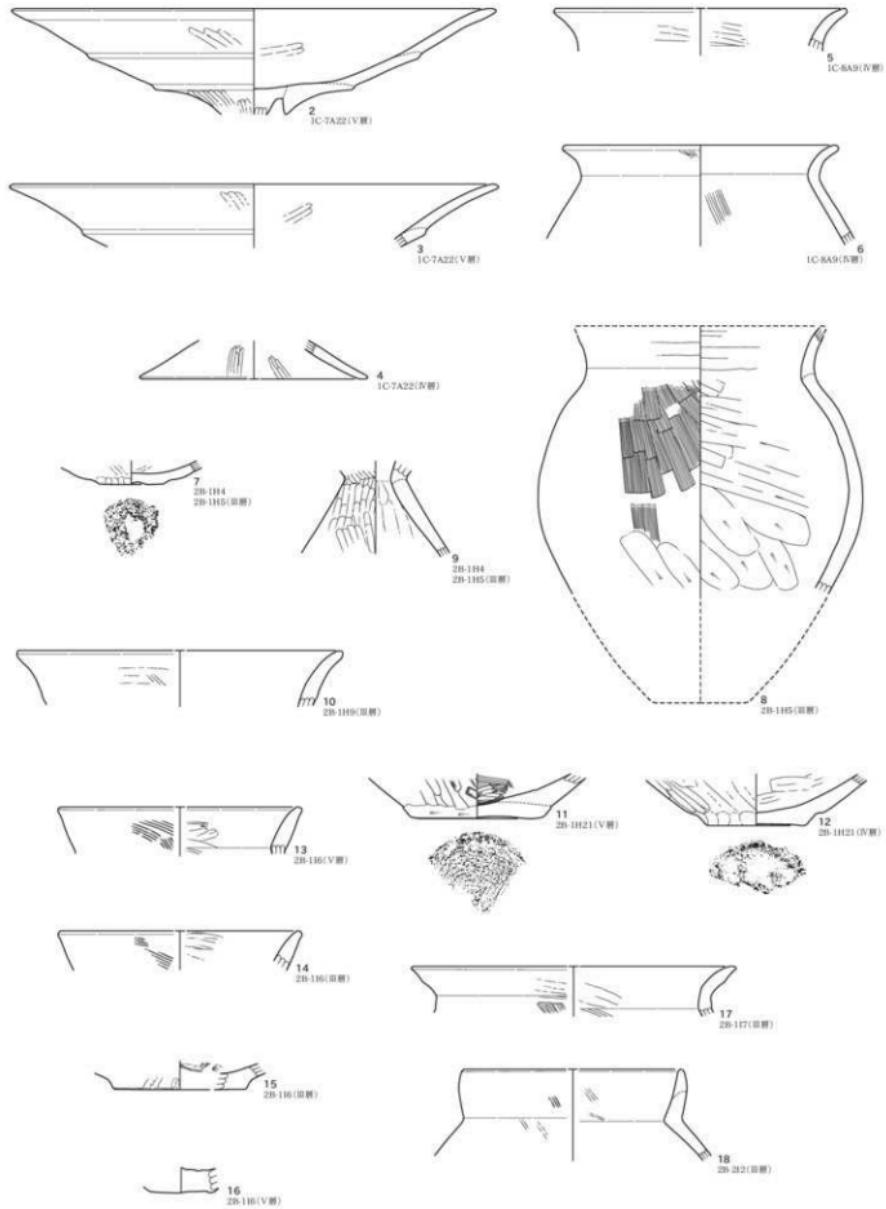




古墳時代 遺構出土土器（1）

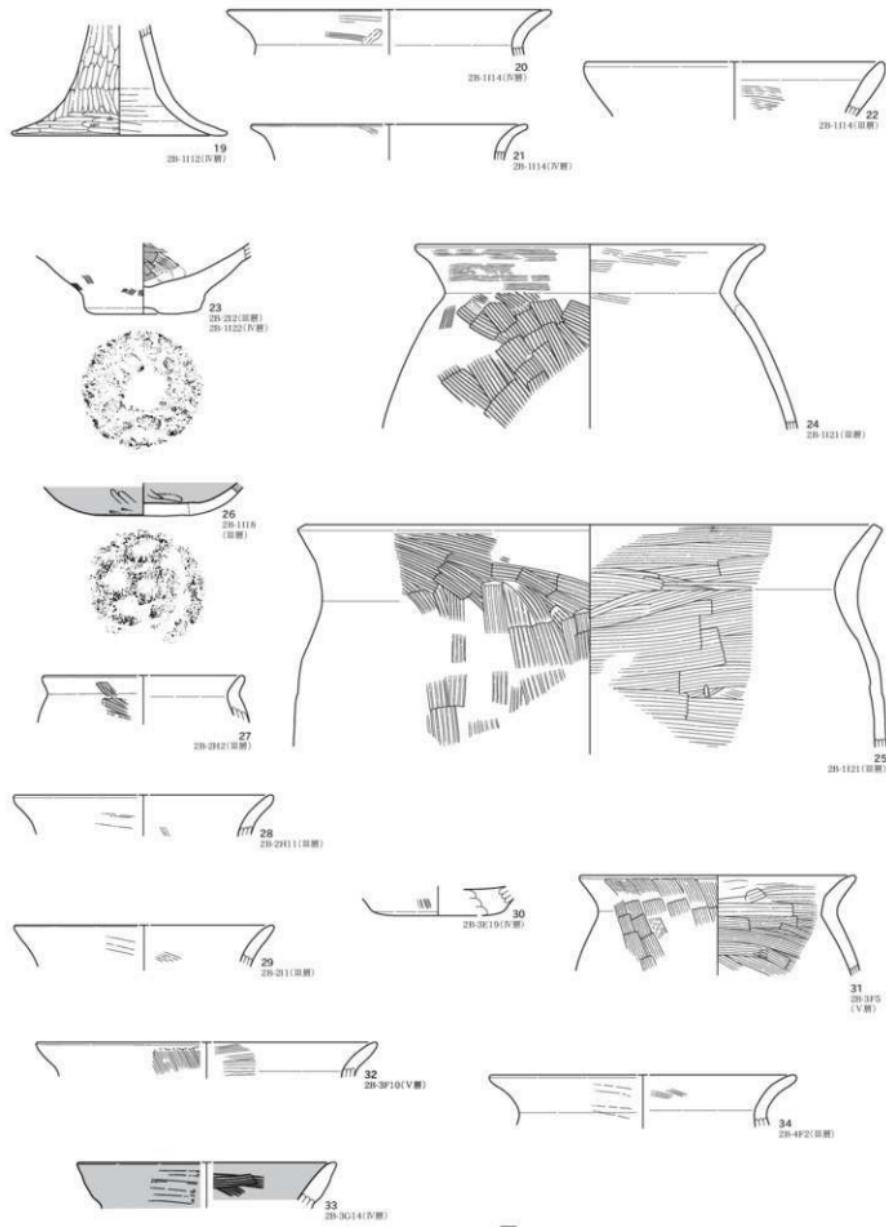


古墳時代 包含層出土土器（2～18）



0 (1 : 3) 10cm

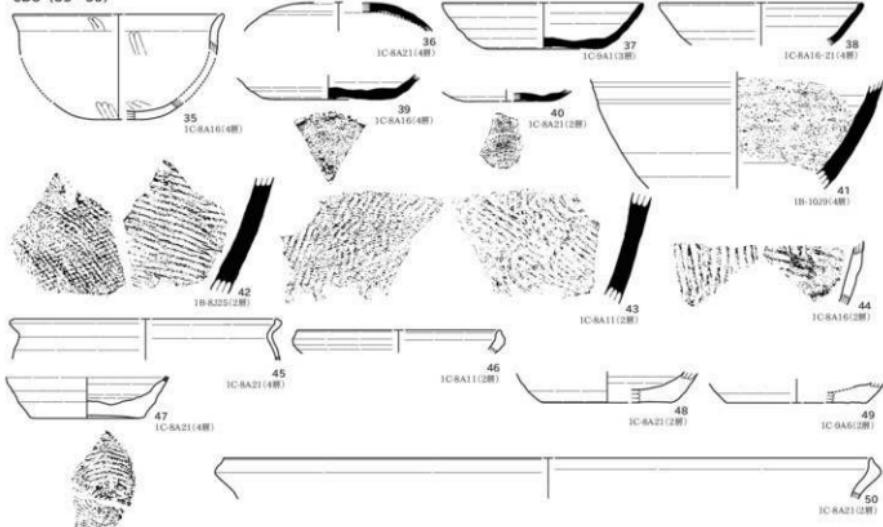
古墳時代 包含層出土土器 (19~34)



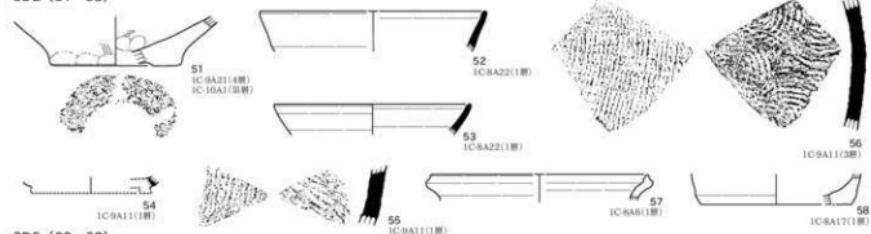
■ 赤絞

0 (1 : 3) 10cm

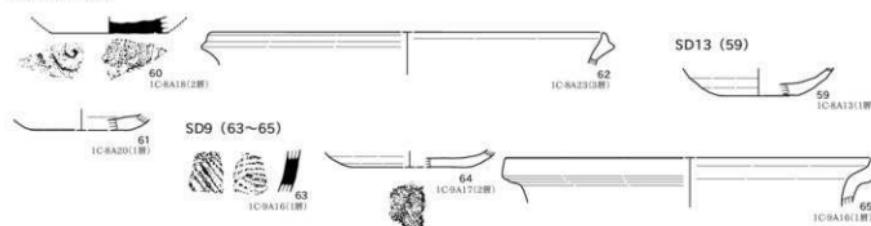
SD3 (35~50)



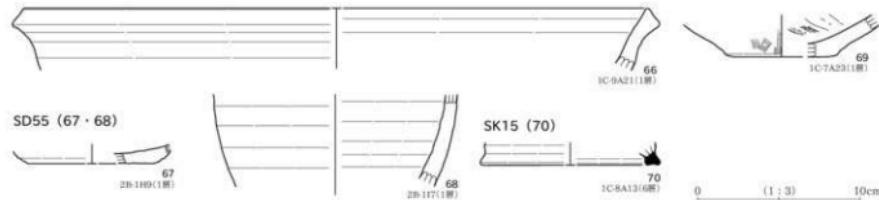
SD2 (51~58)



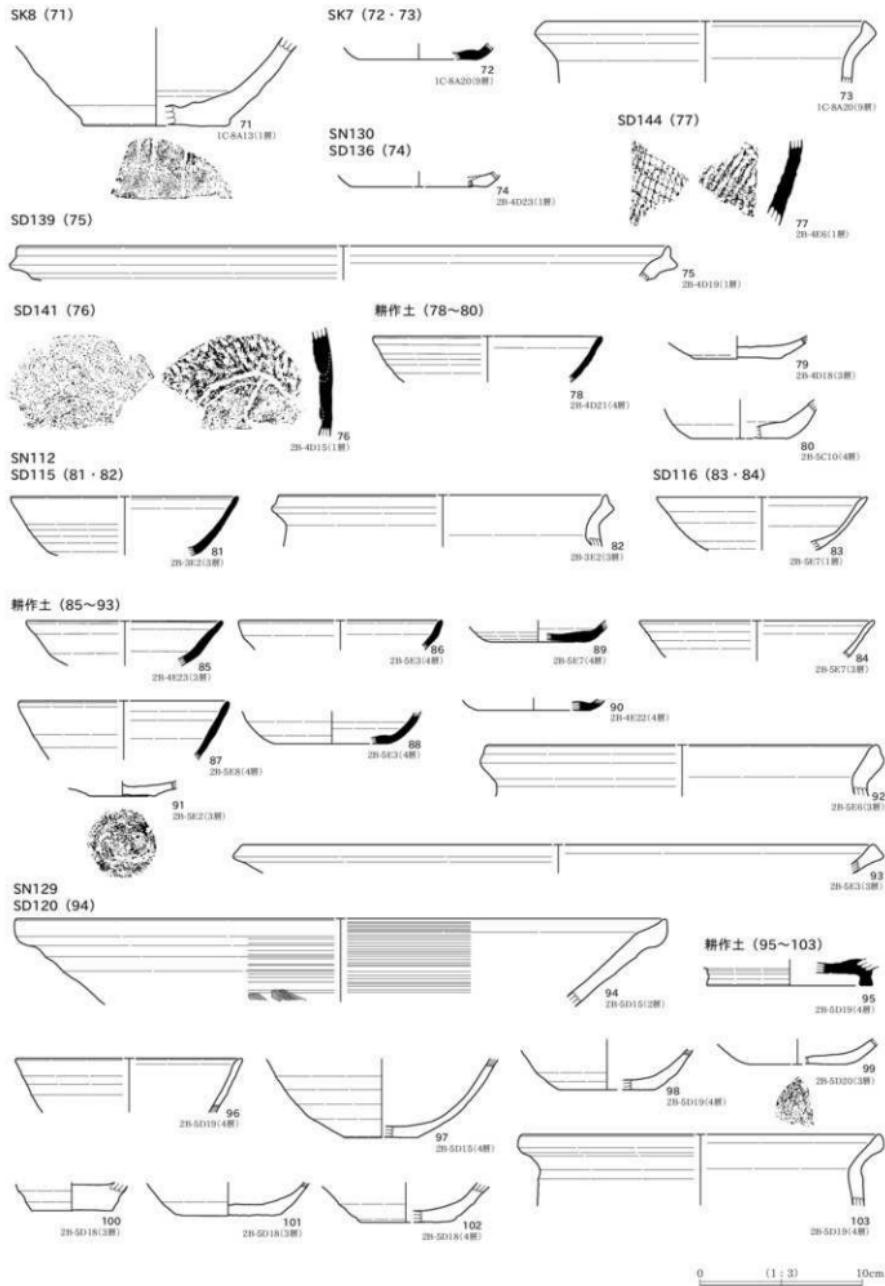
SD5 (60~62)



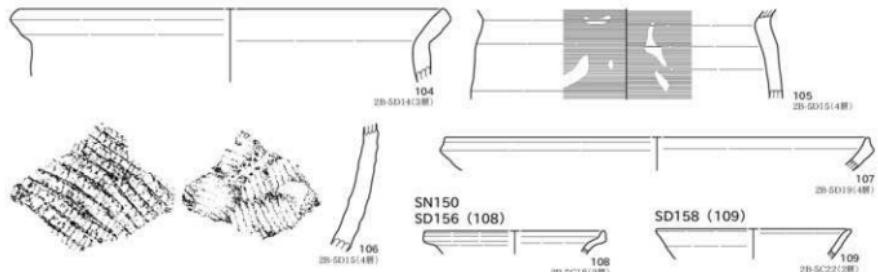
SD29 (66)



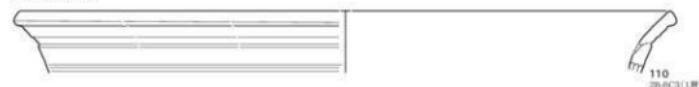
0 (1 : 3) 10cm



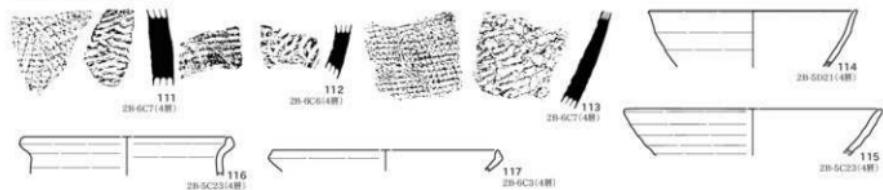
SN129耕作土 (104~107)



SD163 (110)



耕作土 (111~118)



SX83 (123)



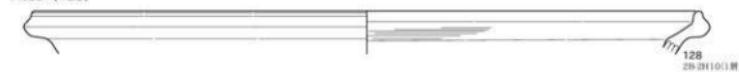
Pit5 (126)



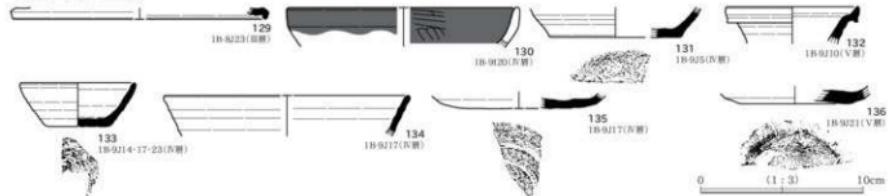
Pit94 (127)



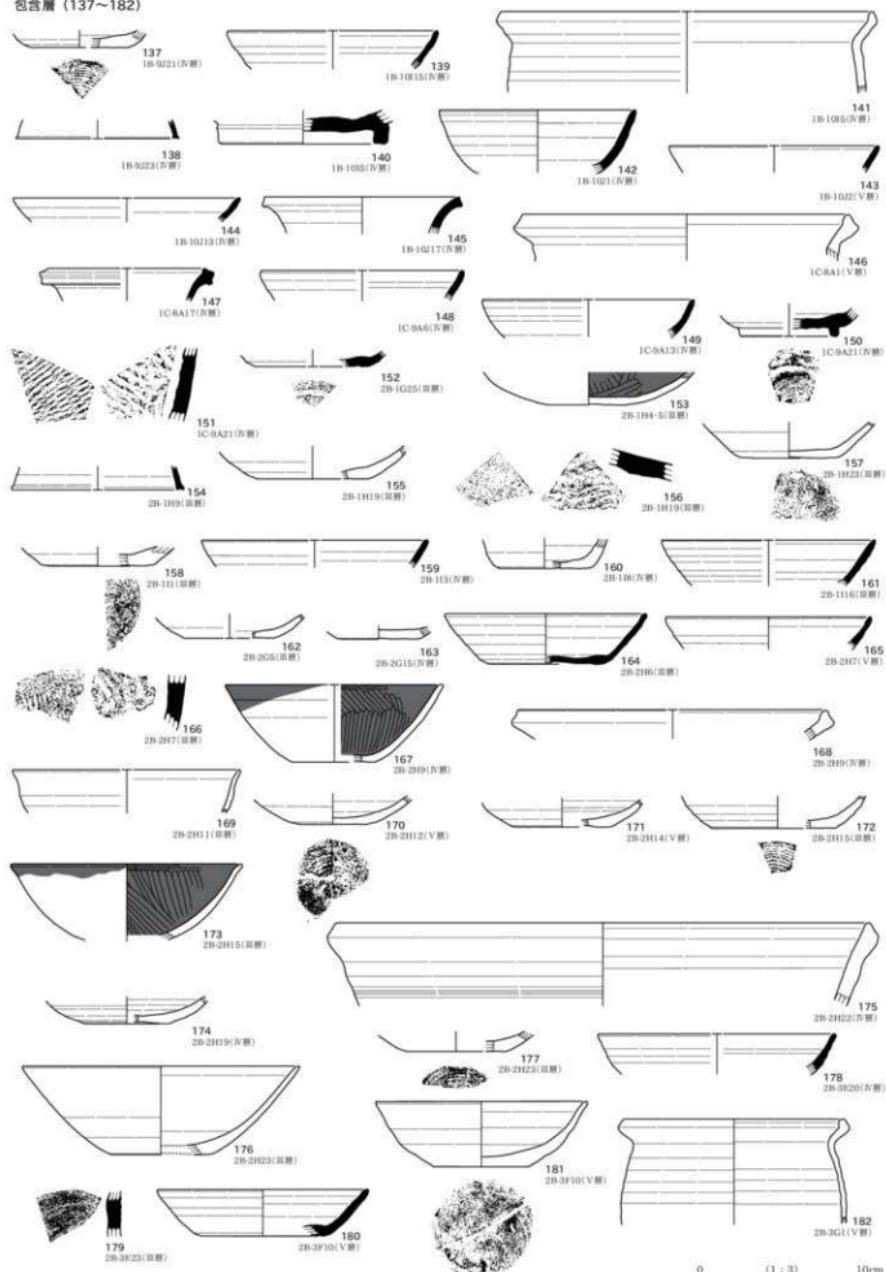
Pit89 (128)



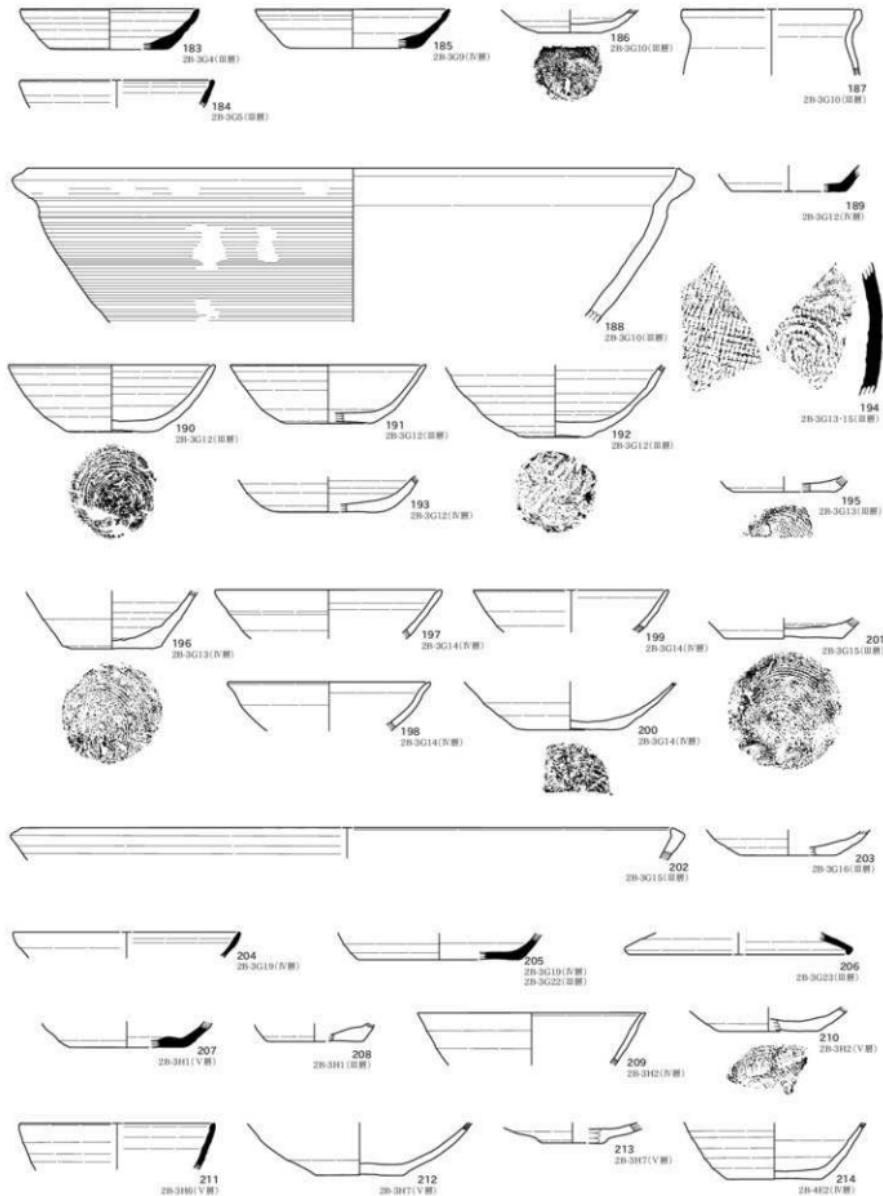
包含層 (129~136)



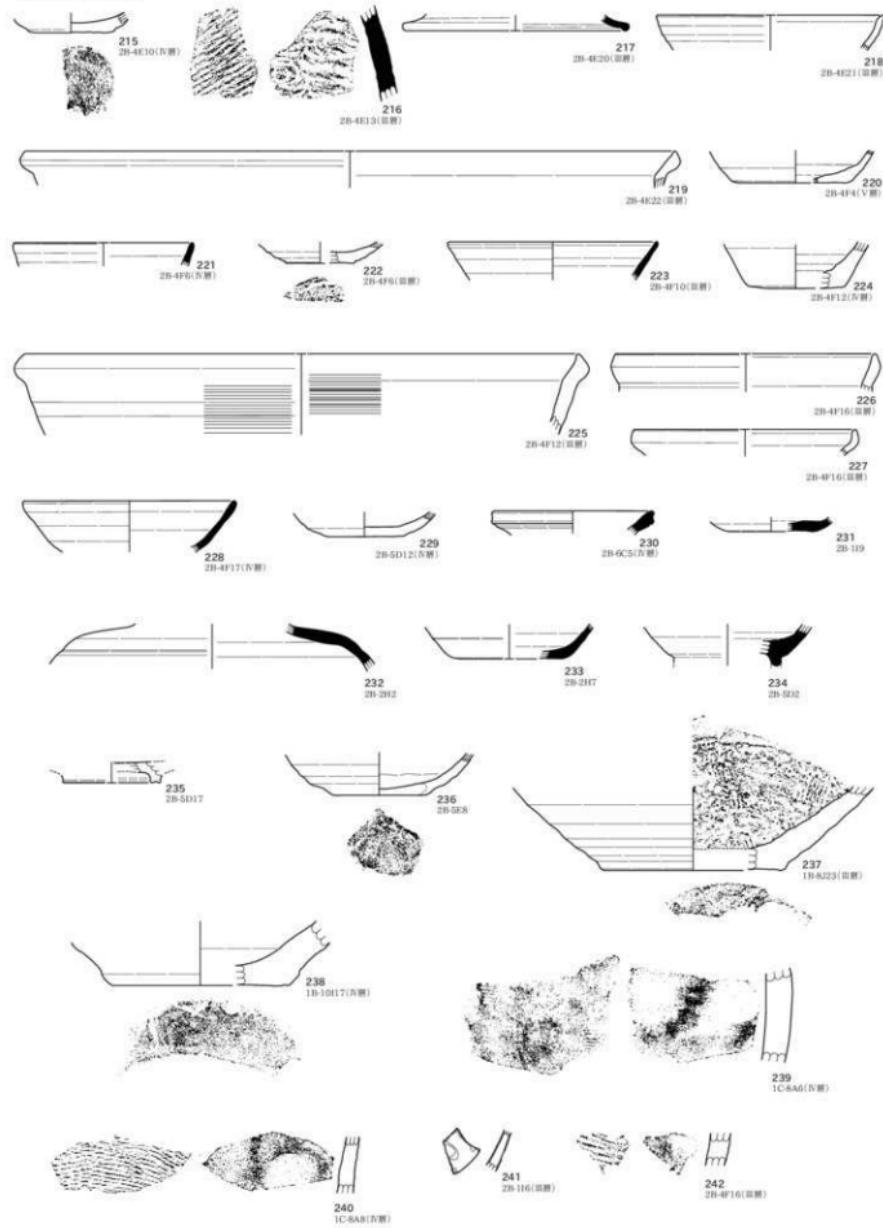
包含层 (137~182)



包含層 (183~214)

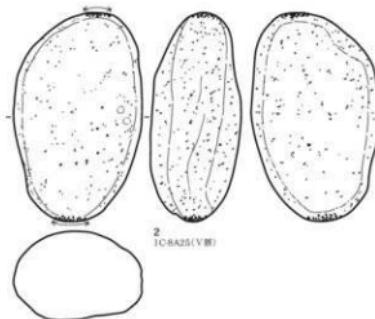
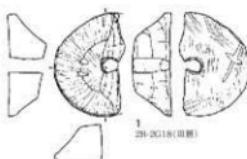


包含层 (215~242)

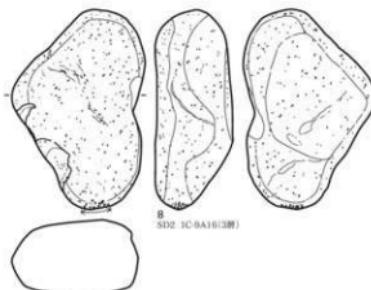
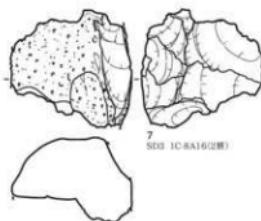
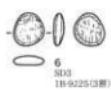
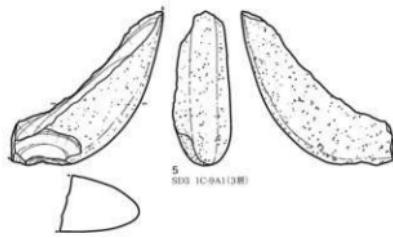
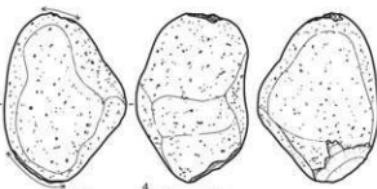
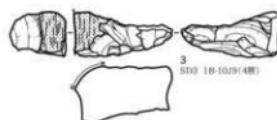


0 (1 : 3) 10cm

古墳時代石製品（1・2）



古代石製品（3～8）



底面



(1)

0

(1:2)

5cm

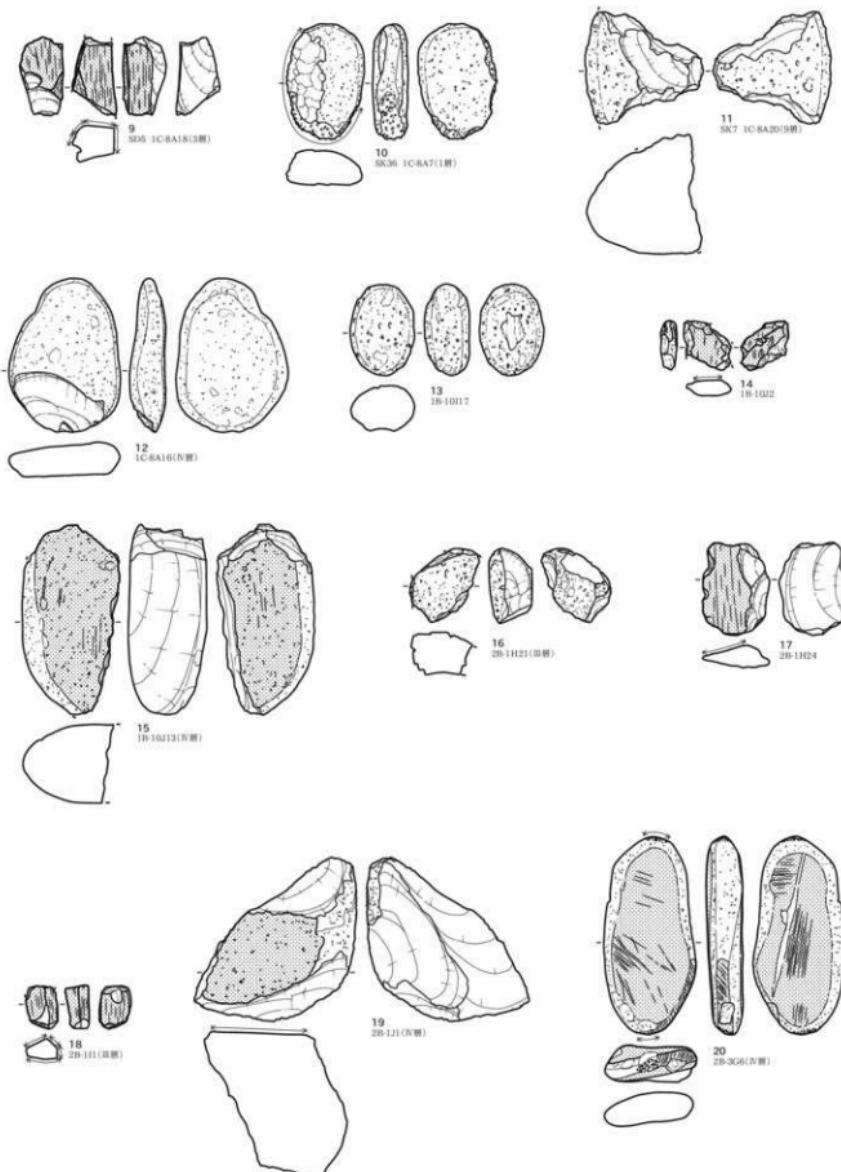
(2~8)

0

(1:3)

10cm

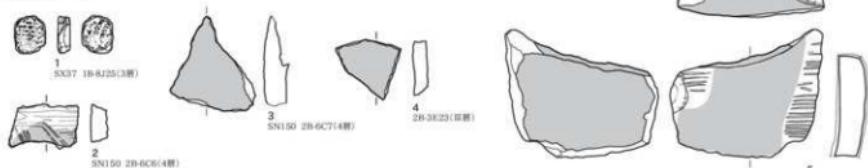
古代石製品 (9~20)



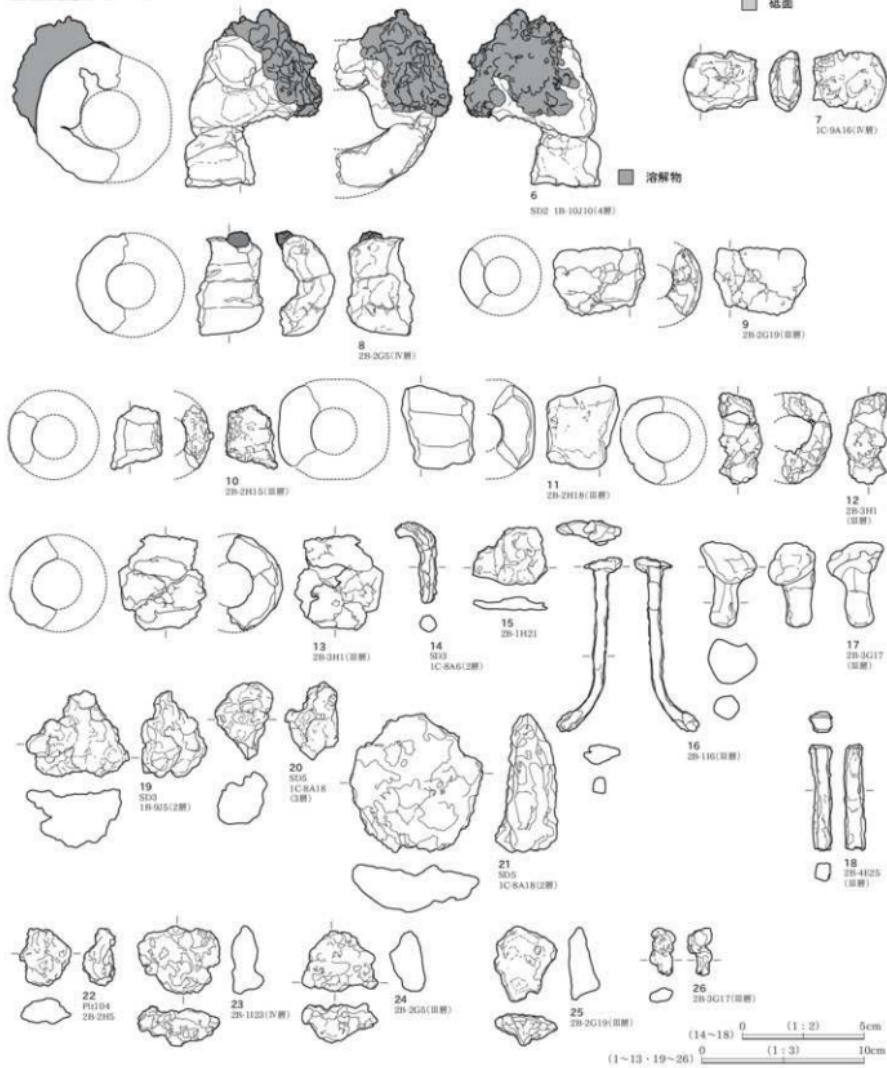
■ 基面・磨面

0 (1 : 3) 10cm

土製品（1~5）



鋳治関連遺物（6~26）





日水遺跡周辺空中写真（1）

米軍撮影 1948年9月



日水遺跡周辺空中写真 2（南東から）



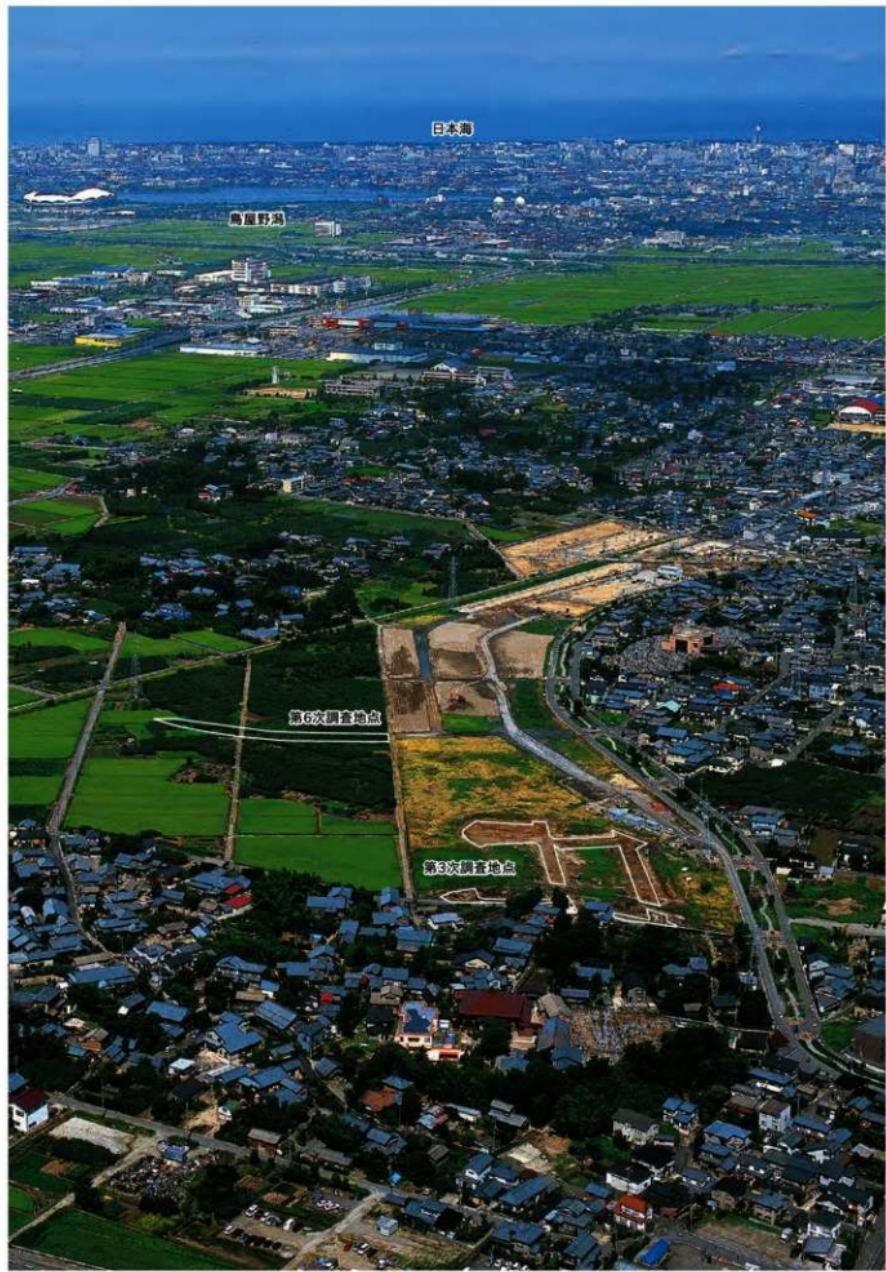
日水遺跡周辺空中写真 3（北西から）



日水遺跡周辺空中写真 4（南東から）



日水遺跡周辺空中写真 5（北東から）



日本水遺跡周辺空中写真 6（南から） 2005年撮影【今井・相沢 2007】に一部加筆



日水遺跡全景空中写真 1（上が北東）



日水遺跡全景空中写真 2（南東から）



日水遺跡全景空中写真 3（南東から）



日水遺跡全景空中写真 4（南東から）



日水遺跡全景空中写真 5（南東から）



基本層序 A (南西から)



基本層序 B (北西から)



基本層序 C (北西から)



基本層序 D (北西から)



基本層序 E (北西から)



基本層序 F (北西から)



基本層序 H (北東から)



基本層序 I (南東から)



調査前現況 1（北東から）



調査前現況 2（北東から）



調査前現況 3（南西から）



調査前現況 4（南西から）



SX1 土層断面（北西から）



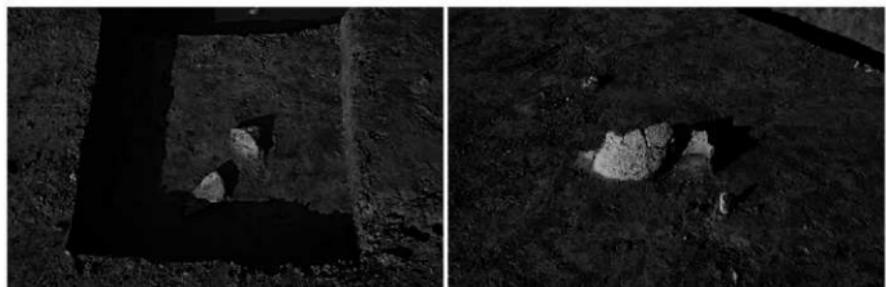
SX1 検出状況（北西から）



SX1 遺物出土状況（北西から）

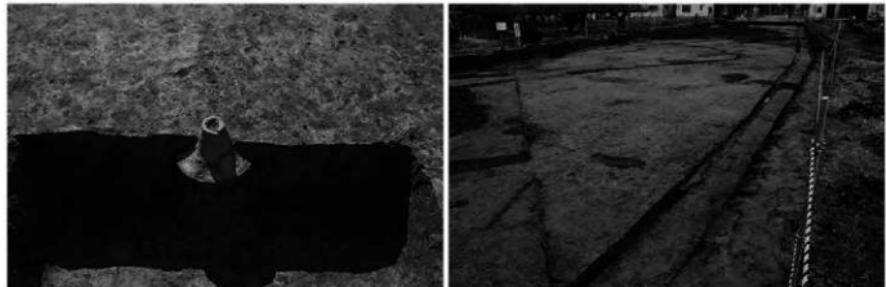


SX1 完掘（北西から）



1C-8A3 周辺下層完掘（南東から）

1C-8A3 他 深掘りトレンチ（西から）



2B-1H12 遺物出土状況（北から）

2B-1・2H, I 周辺下層完掘（南から）



2B-3F5 遺物出土状況（南から）

2B-3F5・10 周辺下層完掘（南から）



SD3 土層断面 1 (南から)



SD3 土層断面 2 (北から)



SD3 土層断面 3 (南から)



SD2 土層断面 1 (南から)



SD2 土層断面 2 (南から)



SD3 (左)・SD2 (右) 完掘 (北から)



SD13 土層断面 (東から)



SD5 土層断面 (東から)



SD5（中）、SK11（左）+ 12（右） 土層断面（東から）



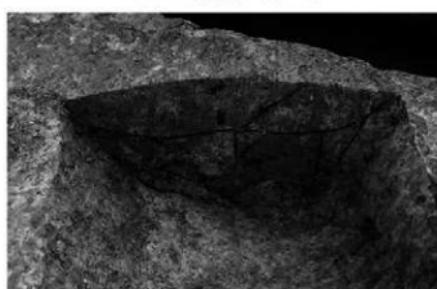
SD13（左）・5（右） 完掘（西から）



SD9 土層断面 1（西から）



SD9 土層断面 2（西から）



SD29 土層断面（西から）



SD9（左）・29（右） 完掘（西から）



SD62 土層断面 2（北西から）



SD62 完掘（北西から）



SD86 土層断面 (南西から)



SD55 (左)・86 (右) 土層断面 (東から)



SD86 完掘 (北東から)



SD55 (右)・81 (左) 土層断面 (西から)



SD55 (中)・81 (右)、SK82 (左) 土層断面 (東から)



SD55 (左)・54 (右) 土層断面 (北西から)



SD55 (左)・81 (右) 完掘 (西から)



SD54 完掘 (北から)



SD55 (右)・59 (左) 土層断面 (東から)



SD59 完掘 (東から)



SD148 (右), SX147 (左) 土層断面 (北西から)



SD148 (左), SX147 (右) 完掘 (南東から)



SD183 土層断面 (南東から)



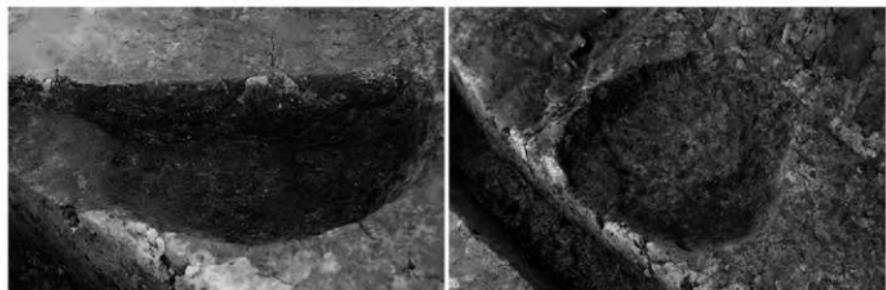
SD149 土層断面 1 (北から)



SD149 土層断面 2 (北西から)

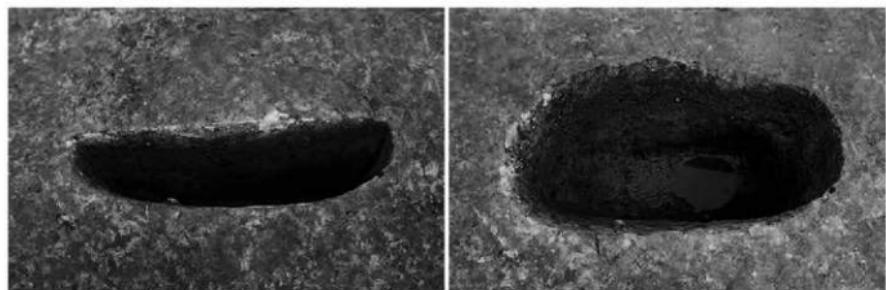


SD149 完掘 (南西から)



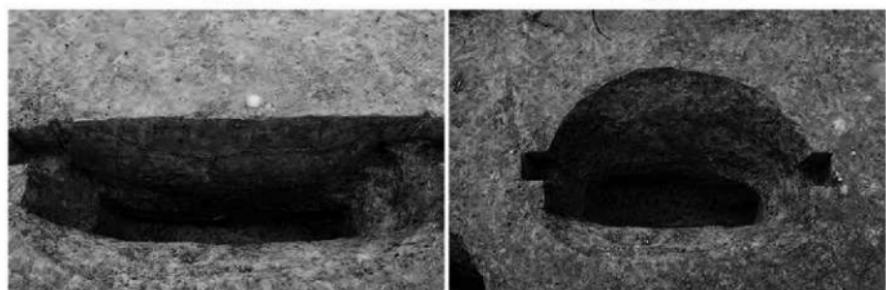
SK4 土層断面（南から）

SK4 完掘（南から）



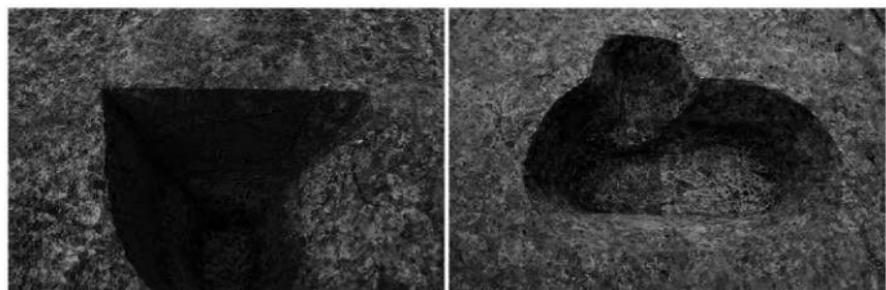
SK36 土層断面（西から）

SK36 完掘（西から）



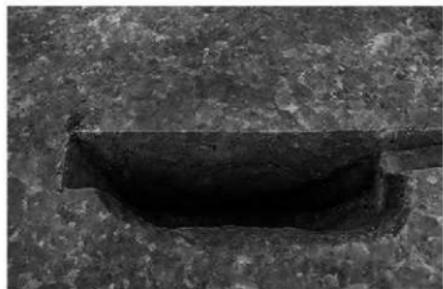
SK15 土層断面（東から）

SK15 完掘（東から）



SK17 土層断面（南から）

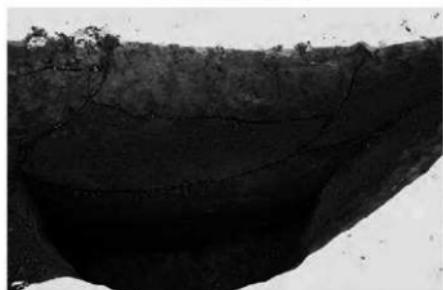
SK17 完掘（東から）



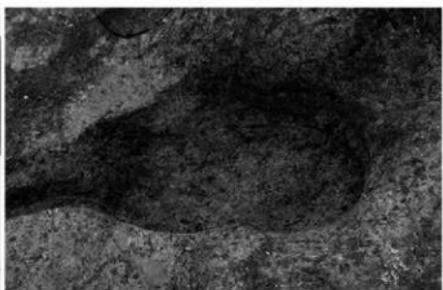
SK8 土層断面（東から）



SK8 完掘（東から）



SX6・SK7 土層断面（北東から）



SK7 完掘（北東から）



1C-8A12 グリッド周辺 SK 群（東から）



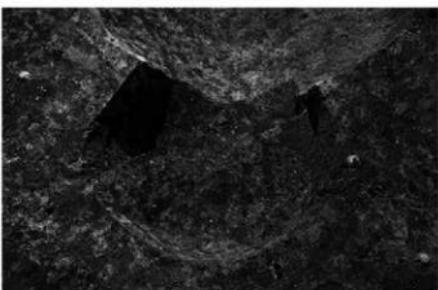
SK10 土層断面（東から）



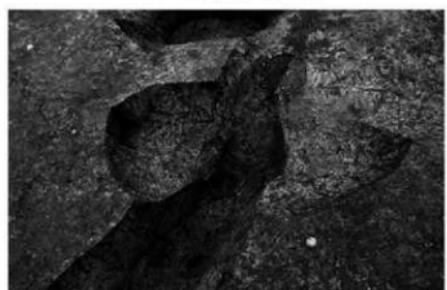
SK10 完掘（北東から）



SK32 土層断面（南から）



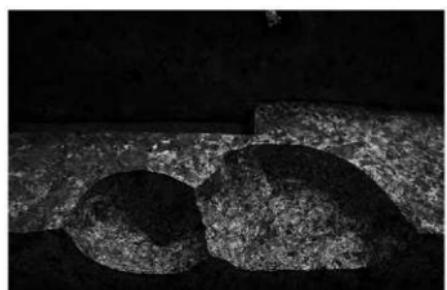
SK32 完掘（北から）



SK11 (右)・12 (左) 完掘（西から）



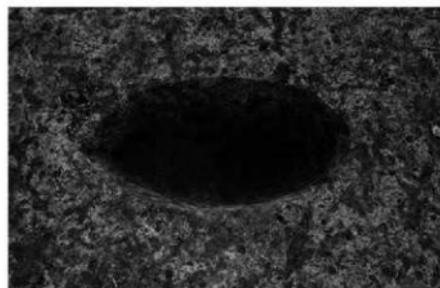
SK30 (右)・31 (左) 土層断面（西から）



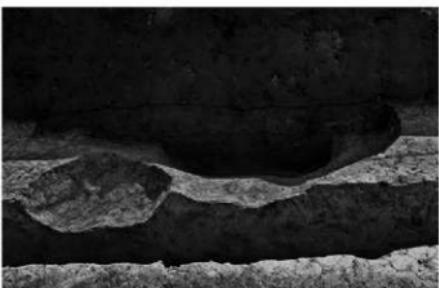
SK30 (右)・31 (左) 完掘（北西から）



SK28 土層断面（南東から）



SK28 完掘（北西から）



SK57 土層断面（北西から）



SK84 土層断面（南東から）



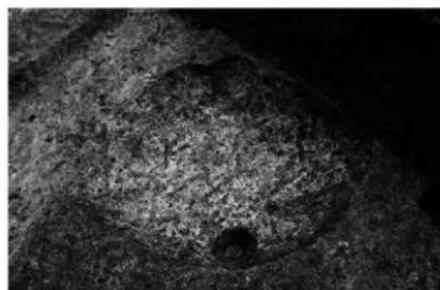
SK42 土層断面（南西から）



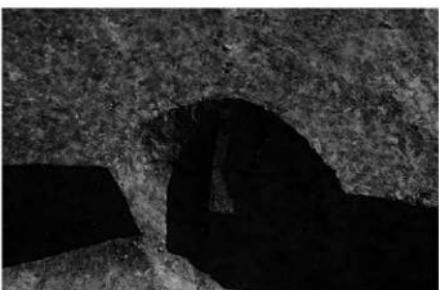
SK42 完掘（北西から）



SK198 土層断面（北西から）



SK198 完掘（北西から）



SK82 完掘（北西から）



SN130 (SD135 ~ 137・139) 検出状況（南東から）



SN130 SD133・134 土層断面（南東から）



SN130 SD135 ~ 137 土層断面（南東から）



SN130 SD135 ~ 137 土層断面（南東から）



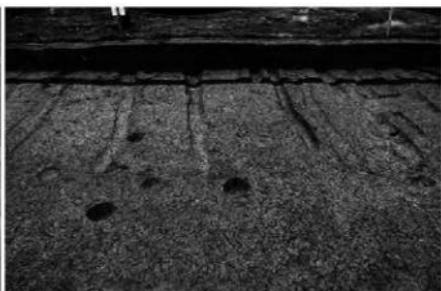
SN130 SD140 ~ 142 土層断面（南東から）



SN130 SD143 ~ 146 土層断面（南東から）



SN130 完掘（南東から）



SN209 完掘（南東から）



SN112 SD113 ~ 115 土層断面（北西から）



SN112 SD115 土層断面（北西から）



SN112 SD113 ~ 115 完掘（北西から）



SN112 SD116 ~ 118 検出状況（北西から）



SN112 SD116 ~ 118 土層断面（北西から）



SN112 SD116 土層断面（北西から）



SN112 SD116 ~ 118 完掘（北西から）



SN112 完掘（南東から）



SN129 (SD119 ~ 123) 検出状況（北西から）



SN129 SD120 ~ 122 土削断面（北西から）



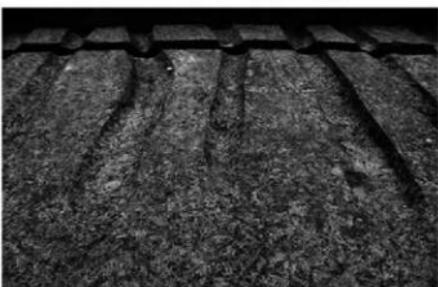
SN129 SD123 ~ 125 土削断面（北西から）



SN129 SD126 ~ 128 土削断面（北西から）



SN129 SD119 ~ 121 完掘（北西から）



SN129 SD122 ~ 124 完掘（北西から）



SN129 SD125 ~ 128 完掘（北西から）



SN129 完掘（南東から）



SN150 (SD169・170・172・174～176) 検出状況(北東から)



SN150 SD154～159 土層断面(北西から)



SN150 SD160～165 土層断面(北西から)



SN150 SD167・169・170 土層断面(北西から)



SN150 SD174～176 土層断面(北西から)



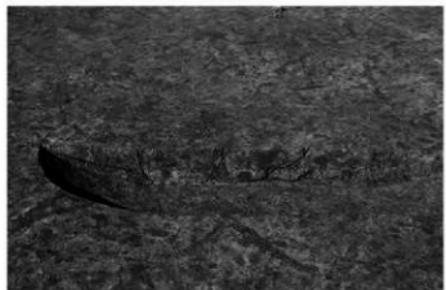
SN150 SD167～174 土層断面(北西から)



SN150 SD160・162 土層断面(南東から)



SN150 完掘(北東から)



SX27 土層断面（東から）



SX27 完掘（西から）



SX6 土層断面 1（南西から）



SX6 土層断面 2（北西から）



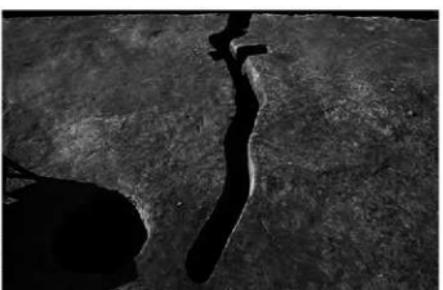
SX6・SD18 完掘（北東から）



SX6 完掘（北西から）



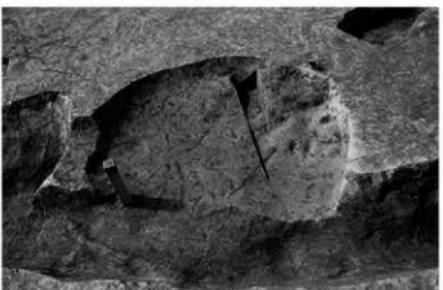
SX40 土層断面（東から）



SX40 完掘（南東から）



SX37 土層断面（北から）



SX37 完掘（東から）



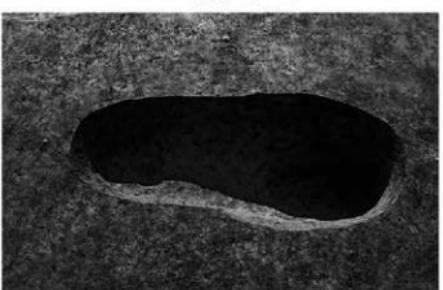
SX14 土層断面（南から）



SX14 完掘（東から）



SX83 土層断面（北から）



SX83 完掘（北から）



SX107 土層断面（南西から）



SX107 完掘（北から）



SX177 土層断面（南西から）



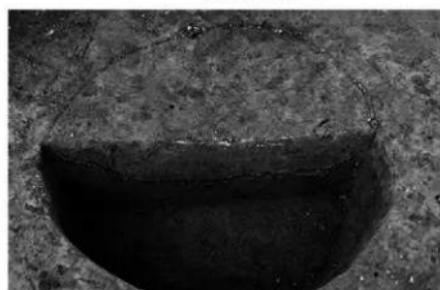
SX177 完掘（南東から）



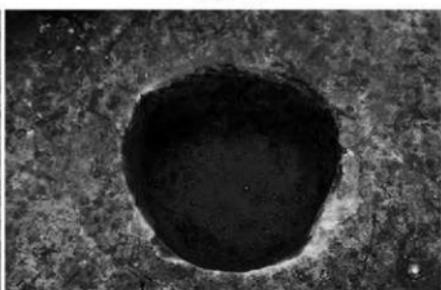
SX147 土層断面（北西から）



SX147 完掘（南東から）



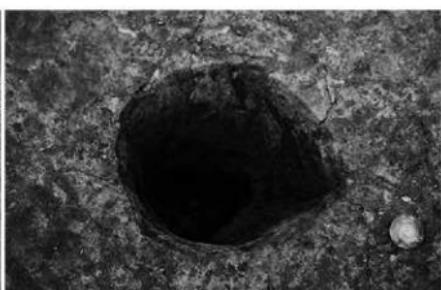
Pit41 土層断面（南東から）



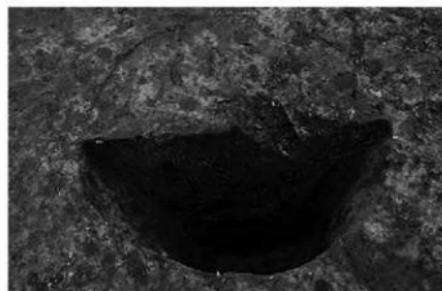
Pit41 完掘（南東から）



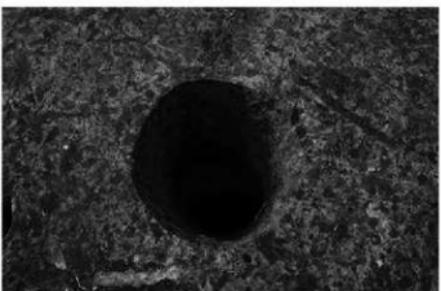
Pit72 土層断面（北から）



Pit72 完掘（南から）



Pit23 土層断面（南から）



Pit23 完掘（南から）



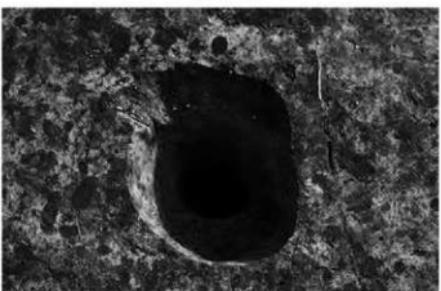
Pit24 土層断面（東から）



Pit24 完掘（東から）



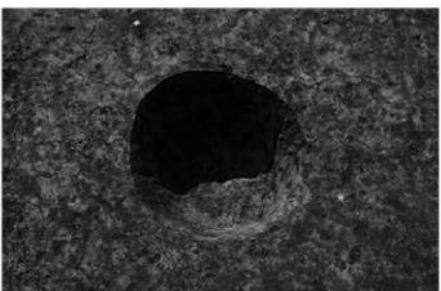
Pit25 土層断面（南西から）



Pit25 完掘（北から）



Pit77 土層断面（南西から）



Pit77 完掘（北から）



1 (SX1)

古墳時代須恵器直口壺



(SX1)

古墳時代須恵器直口壺（拡大部分）



1 (SX1)

古墳時代須恵器直口壺（底部）



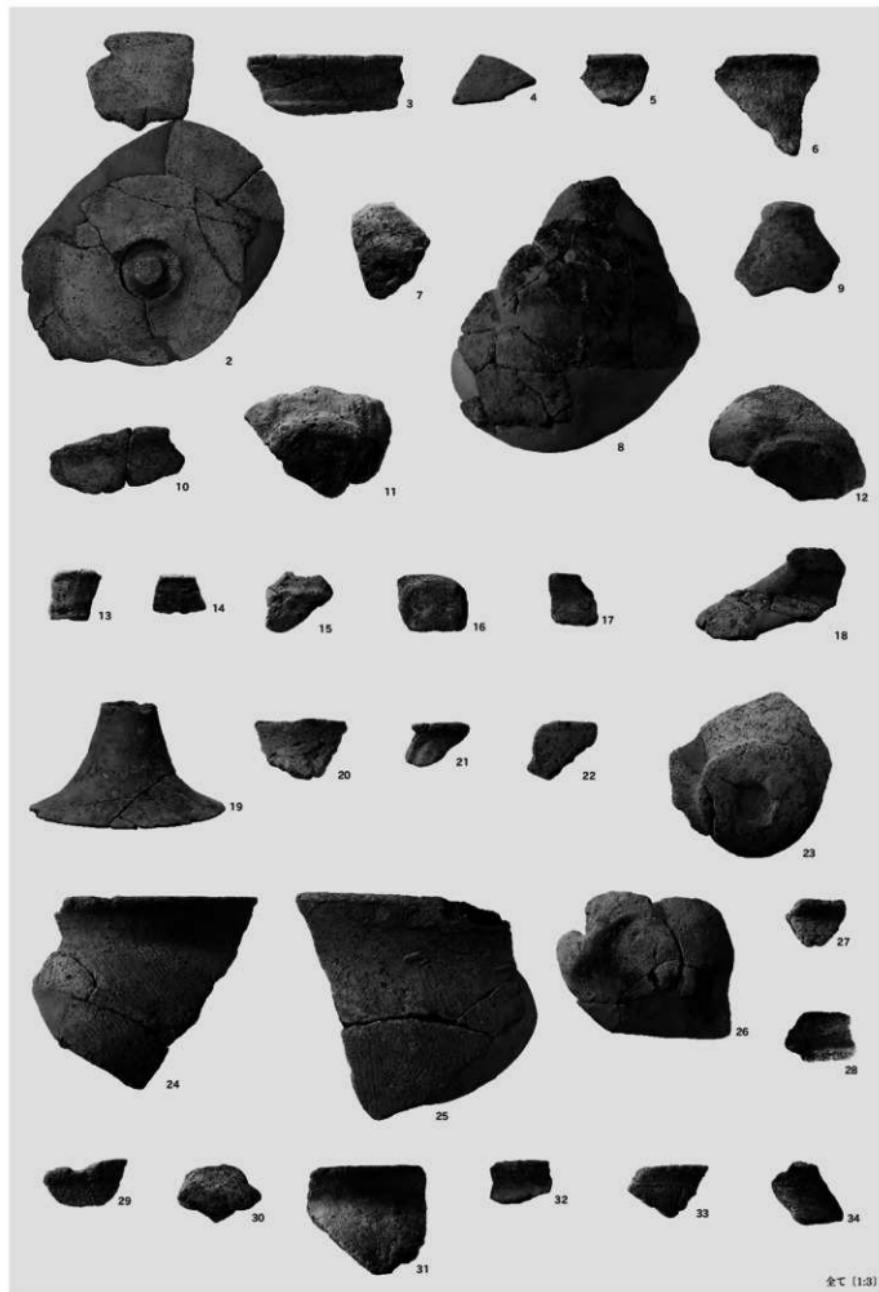
1 (SX1)

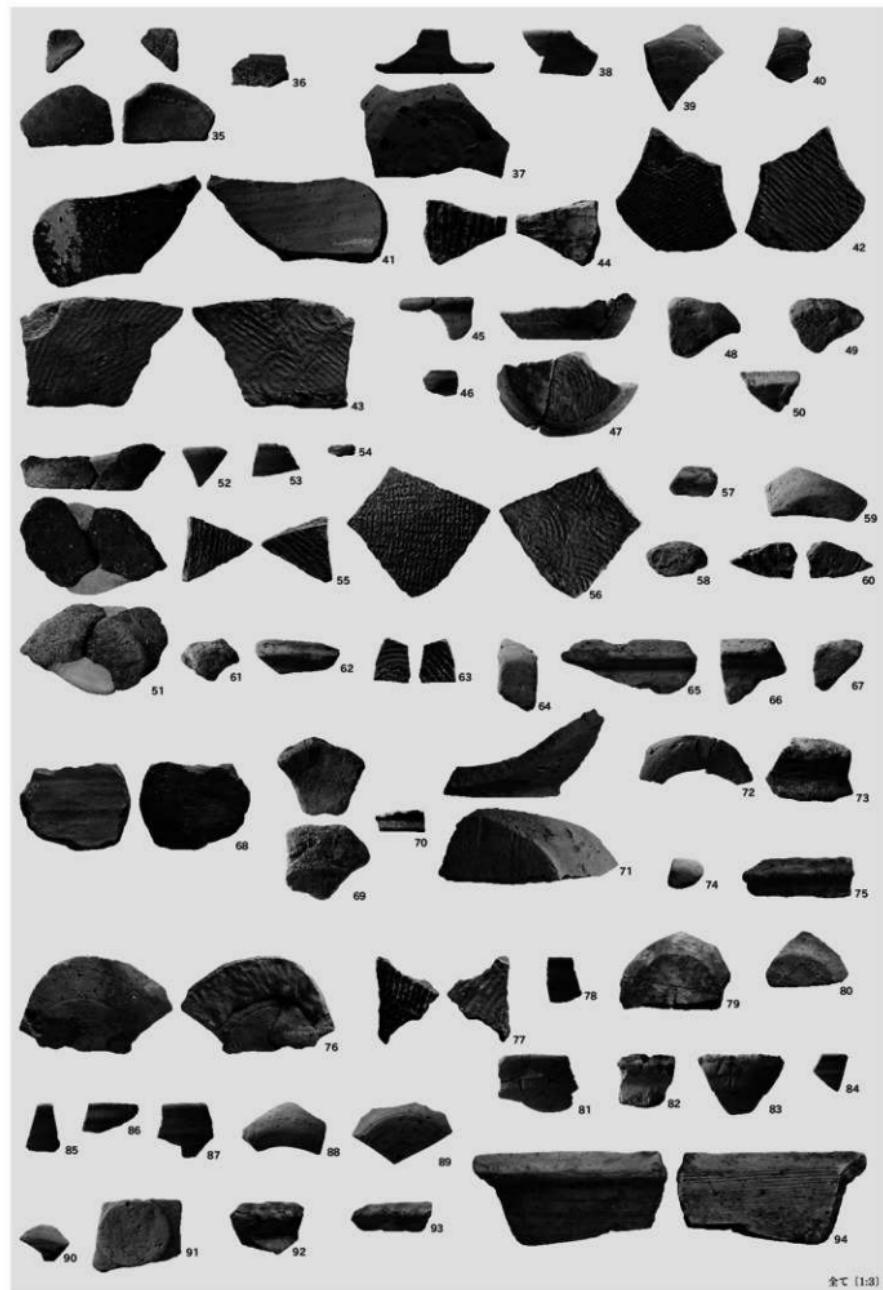
古墳時代須恵器直口壺（内面）

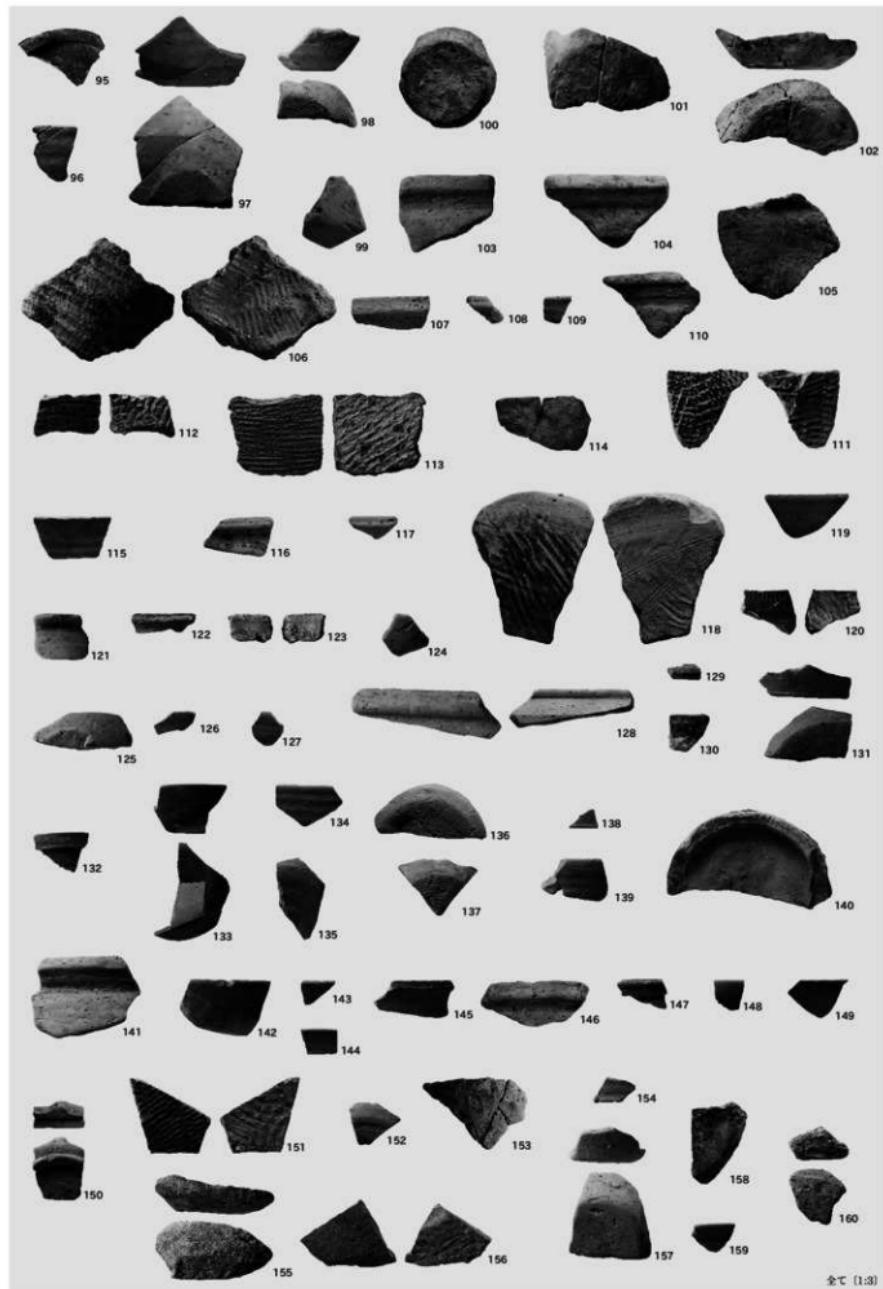


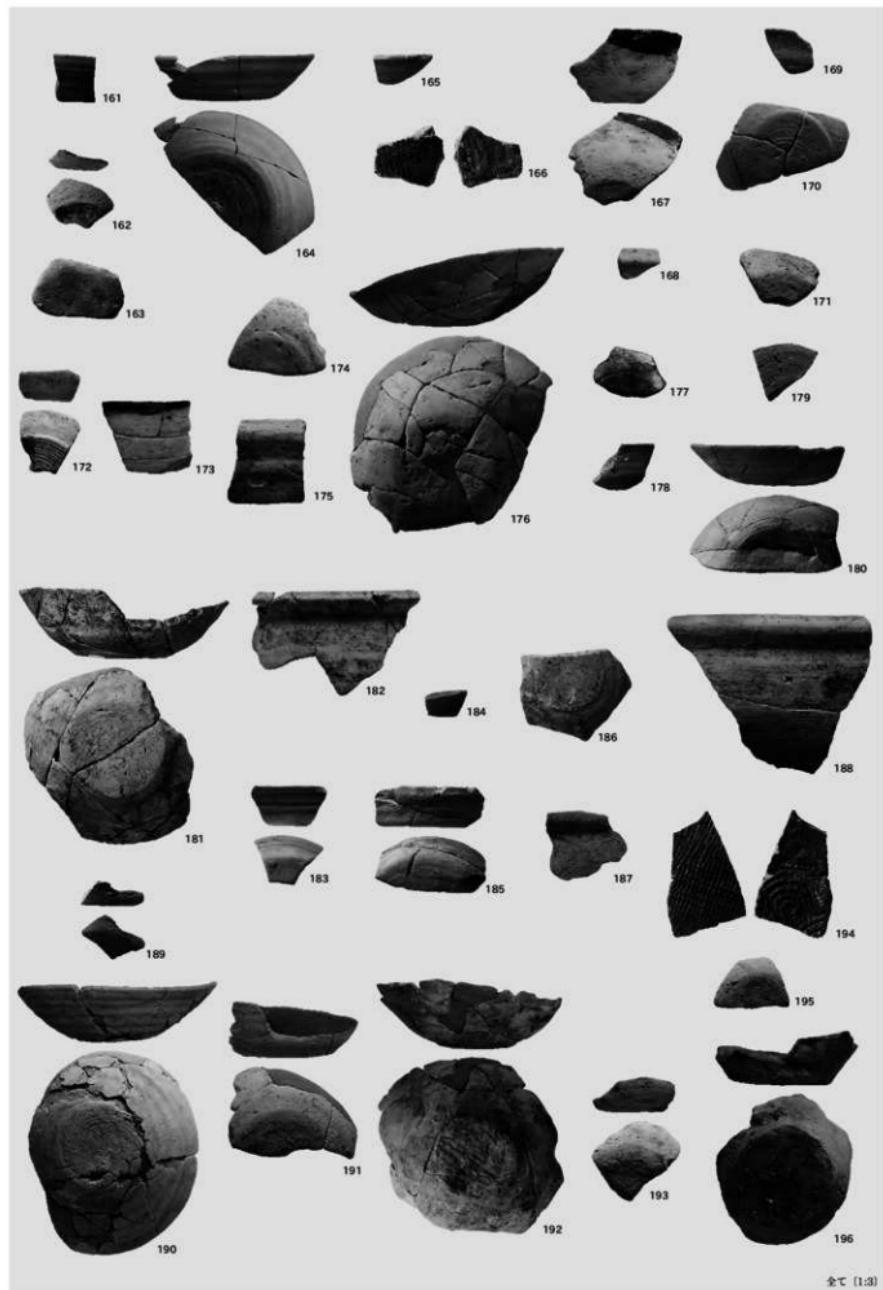
1 (2B-2G18, 半面)

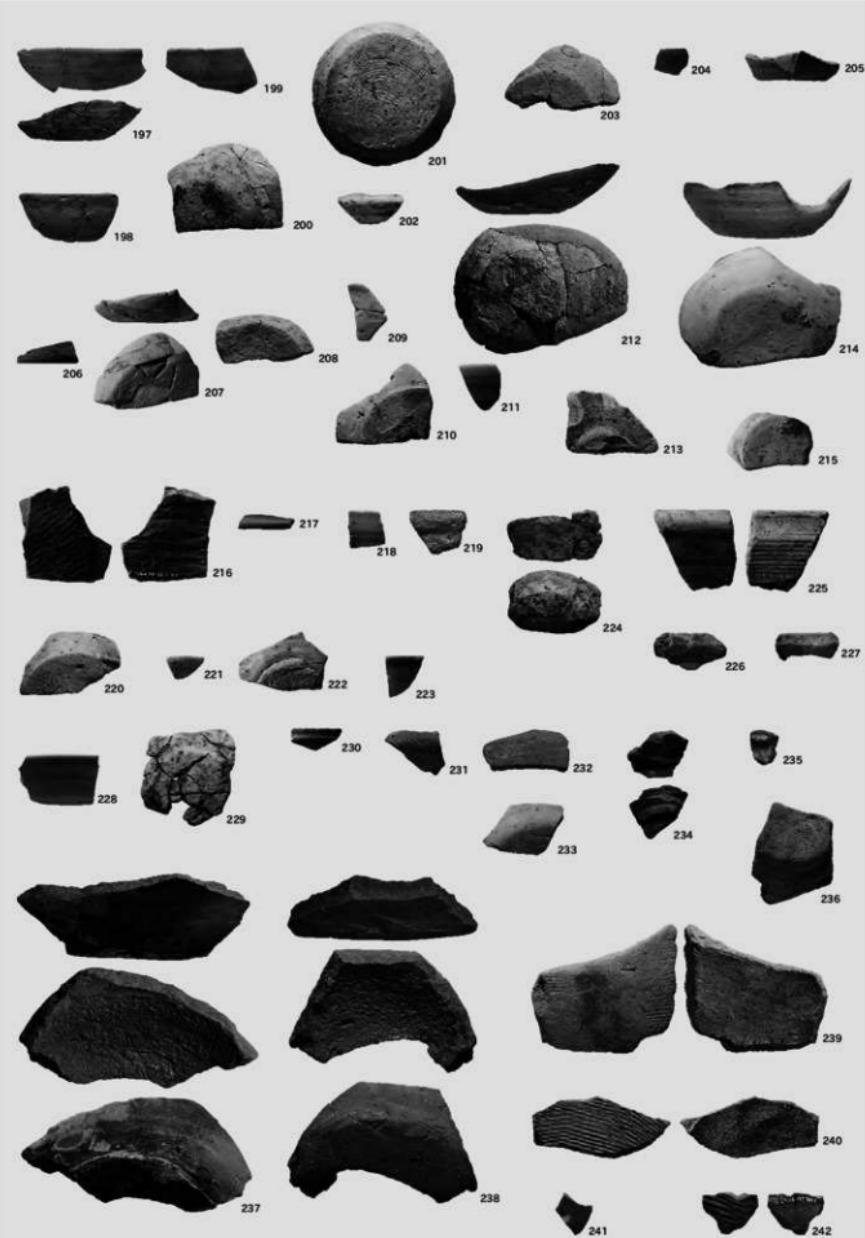
古墳時代石製紡錘車

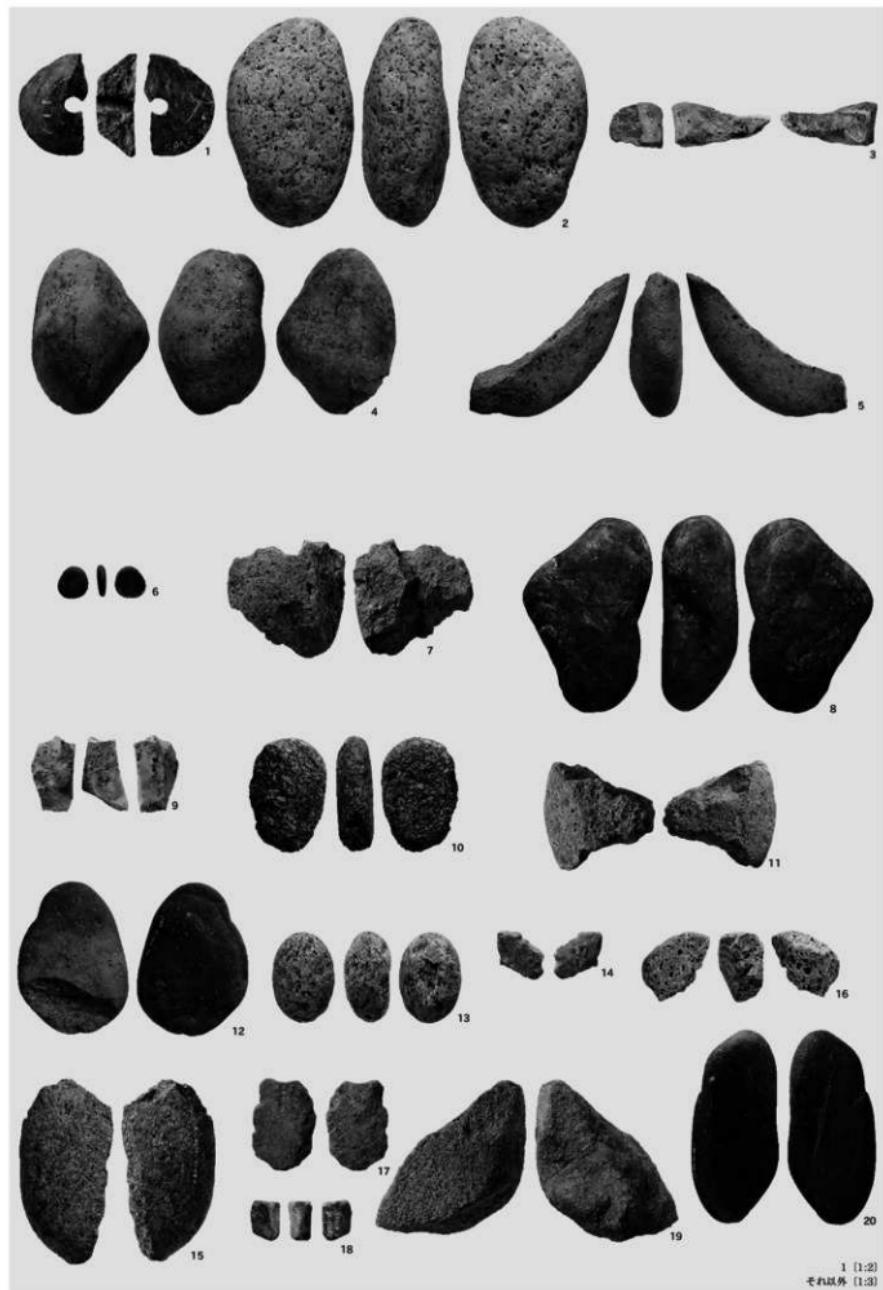












1 (1:2)
それ以外 (1:3)



1,14~18 [1:2]
それ以外 [1:3]

報告書抄録

ふりがな	ひみズいせきに だいろくじちょうさ						
書名	日本遺跡II 第6次調査						
副書名	市道亀田300号線道路改良工事に伴う日本遺跡第2次発掘調査報告書						
シリーズ名	新潟市埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ番号							
編著者名	立木宏明・細野高伯・株式会社火山灰考古学研究所						
編集機関	新潟市文化観光・スポーツ部新潟市文化財センター						
所在地	〒950-1122 新潟県新潟市西区木場2748番地1 TEL 025-378-0480						
発行年月日	2013年6月28日						
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 m ²	発掘原因
日本遺跡	新潟県新潟市中央区 南区大学茅野山 字日本浦 2696 番地ほか	15104	398 37° 51' 37" 69765	139° 06' 16" 60551	20120821 20121220	1510	市道亀田300号 線道路改良工事
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
日本遺跡	集落遺跡	古墳時代 平安時代 室町時代	溝・土坑・烟跡 性格不明遺構など	土師器・須恵器・珠洲 焼・青磁・鍛治関連遺 物・石製品	5世紀中葉の古墳時代 須恵器直口壺出土。		
要約	<p>日本遺跡は三方を信濃川・阿賀野川・小阿賀野川に囲まれ、日本海が形成した砂丘（新砂丘1）の南斜面および周辺の小河川の形成した自然堤防に所在する。現標高は1.5m前後である。本発掘調査の結果、古墳時代中期の遺構および平安時代（9世紀後半～10世紀初頭）の遺構が確認された。古墳時代中期の遺構は、性格不明遺構が1基確認され、覆土中からTK208型式併行期（5世紀中葉）前後の須恵器直口壺がほぼ完形の状態で検出された。TK208型式併行期の資料は新潟県内でも類例が少なく、遠隔地から搬入されたと推定される。</p> <p>平安時代の遺構には、溝・土坑・性格不明遺構・烟跡の一部が確認された。明確な集落は確認されなかつたが、道路の可能性がある遺構も検出された。烟跡では花粉分析の結果、ソバ属が確認されており、栽培されていた可能性がある。同時性は不明な部分もあるが、住居域と生業域が明瞭に分離している。当時の農耕集落の一端が明らかとなつた。</p>						

日本遺跡II 第6次調査

- 市道亀田300号線道路改良工事に伴う日本遺跡第2次発掘調査報告書 -

2013年6月27日印刷

2013年6月28日発行

編集 新潟市文化財センター

〒950-1122 新潟市西区木場2748番地1
TEL 025(378)0480

発行 新潟市教育委員会

〒951-8550 新潟市中央区学校町通一番町602番地1
TEL 025(228)1000

印刷・製本 株式会社ハイキングラフ
〒950-2022 新潟市西区小針1丁目11番8号
TEL 025(233)0321